

# 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査 報告書

平成 24 年(2012 年)10 月

滋 賀 県



# 目 次

<b>I 調査計画</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査期間 .....	1
(3) 調査対象 .....	1
(4) 調査方法 .....	1
(5) 調査項目(概要) .....	1
(6) 回収状況 .....	2
2. 集計結果の表記について .....	2
<b>II 調査結果の概要</b> .....	<b>5</b>
<b>III 調査結果</b> .....	<b>15</b>
1. 回答者の属性について .....	15
(1) 性別 .....	15
(2) 年齢階層 .....	15
(3) 居住地域 .....	16
(4) 職業別 .....	16
(5) 家族構成 .....	17
(6) 居住経歴 .....	17
(7) 転入後の居住年数 .....	17
2. 滋賀県の医療について .....	18
(1) 地域の医療施設の状況 .....	18
(2) 無くて困っている診療科 .....	21
(3) 医師不足の実感 .....	24
(4) 軽症時の受診行動 .....	26
(5) かかりつけ医の有無 .....	29
(6) 「コンビニ受診」への考え方 .....	32
(7) 診療所と病院の役割分担についての考え方 .....	34
(8) 今後充実してほしい医療分野 .....	36
3. 在宅医療・終末期医療について .....	39
(1) 在宅医療の認知度 .....	39
(2) 在宅医療の各サービスの認知度 .....	41
(3) ターミナルケアについての考え方 .....	44
(4) 自宅で最期まで療養できるか .....	47
(5) 自宅療養が実現困難な理由 .....	49
(6) 人生の最期を迎えたい場所 .....	52
(7) 延命医療の希望 .....	55
(8) 身近な人の死の体験 .....	57
(9) エンディングノートの認知度 .....	59

(10) エンディングノート作成の経験や作成意向.....	62
(11) エンディングノート作成のきっかけ.....	64
4. 介護について .....	65
(1) 高齢期の生活の不安.....	65
(2) 高齢期の生活の不安の内容.....	67
(3) 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所.....	70
(4) 介護保険サービスで力を入れるべきこと.....	74
5. 介護予防について .....	77
(1) 望んでいる「介護予防」のイメージ.....	77
(2) 市町等で実施している介護予防事業の認知度.....	80
(3) 参加している地域活動等.....	84
(4) 地域とのつながりの強さについて.....	87
6. 健康づくりについて .....	91
(1) 適正体重の維持を心がけているか.....	91
(2) 適正体重の維持を心がけている理由.....	93
(3) 適切な食事内容や量を知っているか.....	95
(4) 徒歩 10 分圏内への移手段.....	97
(5) 日常生活での運動の継続について.....	100
(6) 継続的に行っている運動について.....	102
(7) 過去 1 ヶ月の不満・悩み・ストレス等について.....	104
(8) 睡眠で休養が十分とれているか.....	106
(9) 飲酒の頻度 .....	108
(10) 1 日の平均飲酒量.....	110
(11) 喫煙経験 .....	112
(12) 1 日の平均喫煙本数.....	114
(13) 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況.....	116
(14) 今後の喫煙についての考え方.....	118
(15) 食育についての関心.....	119
(16) 噛み方などの食べ方についての関心.....	122
(17) 歯科検診の定期的な受診について.....	125
(18) 歯の本数 .....	128
(19) メタボリックシンドロームの認知度.....	130
(20) COPDの認知度.....	133
(21) ロコモティブシンドロームの認知度.....	135
(22) たばこが健康に与える影響の認識について.....	137
(23) がんについてのイメージ.....	140
(24) インフォームド・コンセントについて.....	142
(25) がん治療の「セカンド・オピニオン」について.....	144
(26) 「セカンド・オピニオン」の必要性について.....	147
(27) 「緩和ケア」の認知度.....	149

7. 健診等について .....	152
(1) 健診等の受診希望について.....	152
(2) 現在加入している医療保険.....	155
(3) 昨年の健診等の受診状況.....	157
(4) 健診を受診した理由.....	160
(5) 健診を受診しなかった理由.....	164
(6) 健診を受けやすくするために必要なこと.....	168
<b>IV 資料 .....</b>	<b>173</b>



# *I* 調査計画



# I 調査計画

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

県民の医療福祉や在宅での介護や看取り等に関する幅広い分野の意識や意向を把握することにより、今後の医療福祉行政推進の基礎資料として活用することを目的とします。

### (2) 調査期間

平成 24 年 7 月 25 日（水）～8 月 13 日（月）

ただし、締め切り後に回収された調査票も、8 月 21 日到着分までは有効として集計しました。

### (3) 調査対象

調査地域	滋賀県全域
調査対象	県内在住の 20 歳以上の男女（外国籍住民を含む）
標本数	3,000 人
抽出方法	県内の 20 歳以上の住民基本台帳人口および外国人登録者数に基づき 3,000 人を全市町に配分し、市町別に無作為抽出
抽出台帳	選挙人名簿および外国人登録原票

### (4) 調査方法

郵送留置き法による自記式アンケート調査（無記名方式）、ハガキによる再依頼 1 回。

なお、外国人対象者に対しては、日本語の調査票と翻訳調査票（ポルトガル語・ハングル・中国語）を送付しました。

### (5) 調査項目(概要)

- 滋賀県の医療について
- 在宅医療・終末期医療について
- 介護に関することについて
- 介護予防について
- 健康づくりに関することについて
- 健診等に関することについて
- 回答者属性

## (6) 回収状況

湖西地域は、抽出率を他の地域の2倍に設定して抽出を行い、集計時に他の地域を2倍して集計するという補正処理をしました。

(地域別回収状況)

	配布数	有効回収数	有効回収率	補正後集計母数
大津地域	697 (7)	403	57.8%	806
湖南地域	640 (8)	389	60.8%	778
甲賀地域	304 (8)	170	55.9%	340
東近江地域	407 (8)	237	58.2%	474
湖東地域	228 (3)	127	55.7%	254
湖北地域	337 (6)	211	62.6%	422
湖西地域	224 (2)	141	62.9%	141
東近江地域 (郡部)	73 (0)	51	69.9%	102
湖東地域 (郡部)	90 (1)	44	48.9%	88
合計	3,000 (43)	1,775	59.2%	3,405

注) 括弧内は、外国人の配布数。

(対象地域)

地域名	対象市町
大津地域	大津市
湖南地域	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀地域	湖南市、甲賀市
東近江地域	近江八幡市、東近江市
湖東地域	彦根市
湖北地域	長浜市、米原市
湖西地域	高島市
東近江地域 (郡部)	日野町、竜王町
湖東地域 (郡部)	愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町

## 2. 集計結果の表記について

- 比率は全てパーセントで表しました。なお、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100%にならないこともあります。
- 複数回答が可能な質問では、構成比の母数は回答者数とし、その項目を選択した人が全体の何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率を合計しても100%とはならない場合もあります。
- 本報告書の表の見出しおよび文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化している場合があります。
- 報告書中のグラフにおいて、値の小さい項目は表記が省略されている場合があります。

## *II 調査結果の概要*



## Ⅱ 調査結果の概要

### 1. 回答者の属性について

回答者の性別では、「女性」が52.1%、「男性」が47.3%、年齢階層では、50歳代以上で6割超の回答となっています。居住地域では、大津地域や湖南地域が多く、職業は、「勤め人（臨時・パート・アルバイト等も含む）」が半数程度となっています。家族構成は、「二世帯世帯（親と未婚の子ども）」が最も多く、居住経歴では、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が半数以上を占めています。転入後の居住年数をたずねたところ、「10年以上」が8割以上となっています。

### 2. 滋賀県の医療について

#### （1）地域の医療施設の状況

地域の医療施設の状況では、「医療施設はたくさんあるので十分」が16.4%、「医療施設はかなりあるので特に不便はない」が60.2%と合わせて8割近くを占めていますが、一方で、「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くて不便」や「医療施設が少なくて（無くて）困っている」と不便を感じている人も2割程度となっています。

地域別にみると、「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くて不便」は、湖西地域が30.5%と最も多く、甲賀地域と東近江地域も2割以上と他地域に比べ多くなっています。

#### （2）無くて困っている診療科

無くて困っている診療科では、「皮膚科」「眼科」「耳鼻咽喉科」の3つの診療科目が3割以上で、次いで「産婦人科」「精神科・神経科・心療内科」「脳神経外科」「アレルギー科」と続いています。

年齢別にみると、50歳代以上で「精神科・神経科・心療内科」「心臓血管外科」「脳神経外科」が多くなっています。

#### （3）医師不足の実感

医師不足の実感では、「ない」が「ある」を上回っています。地域別にみると、「ある」は湖西地域が39.0%と最も多く、甲賀地域や東近江地域、湖東地域、湖北地域で多くなっています。

#### （4）軽症時の受診行動

軽症時の受診行動では、「まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く」が86.6%と、「はじめから大きな病院に行く」の12.5%を上回っていますが、性別では、男性の方が女性に比べて「はじめから大きな病院に行く」が多く、年齢別では、高齢者ほどははじめから大きな病院に行く傾向がみられます。

#### （5）かかりつけ医の有無

かかりつけ医の有無では、「決めている」が76.4%で、かかりつけ医を決めている人が多い結果となっています。

#### （6）「コンビニ受診」への考え方

いわゆる「コンビニ受診」についての考え方については、「問題だと思うし、行わないように心

がけている」が80.8%と大半の人は、問題だと考えています。

「問題だと思うが、やむを得ないと思う」「問題だとは思わない」と回答した人の具体的な理由については、「自己判断は、危険だから」「子どもや高齢者の場合不安だから」「休日、夜間は診療所で診てもらえないから」という意見が多くを占めています。

#### (7) 診療所と病院の役割分担についての考え方

診療所と病院の役割分担についての考え方では、「どちらかといえば賛成」が55.4%、「大いに賛成」が31.1%で合わせて86.2%となり、役割分担を支持する人が大半となっています。

性別にみると、大きな差異はみられませんが、男性の方が「大いに賛成」が多くなっています。

年齢別にみると、「どちらかといえば反対」は20歳代から40歳代で多くなっています。また、「大いに賛成」は30歳代の24.1%が最も少なく、それ以降の年代では徐々に増加していきます。

#### (8) 今後充実してほしい医療分野

今後充実を望んでいる医療分野では、「がん対策」や「救急医療」「認知症対策」「在宅医療」「小児救急を含む小児医療」が多くなっています。

### 3. 在宅医療・終末期医療について

#### (1) 在宅医療の認知度

在宅医療の認知度では、「知っていた」が79.1%となっており、性別では、女性の方が「知っていた」が多くなっています。

#### (2) 在宅医療の各サービスの認知度

在宅医療の各サービスについての認知度では、「実際に利用したことがある」は数パーセント以下の状況で、実際の利用はごく少数にとどまっています。

「利用したことはないが、内容は知っている」サービスでは、「訪問介護（ヘルパーの訪問）」や「訪問診療（往診）」「訪問看護（看護師の訪問）」が多くなっています。

一方、「全く知らない」が多いサービスは、「歯科衛生士の訪問指導」や「薬剤師の訪問指導」「管理栄養士の訪問指導」「訪問歯科診療」があります。

#### (3) ターミナルケアについての考え方

ターミナルケア（終末期医療）では、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい」が31.3%と最も多く、次いで「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」「なるべく早く緩和ケア病棟に入院したい」となっています。

#### (4) 自宅で最期まで療養できるか

自宅で最期まで療養できるかでは、「実現困難である」が55.7%、「実現可能である」が8.5%となっています。

#### (5) 自宅療養が実現困難な理由

実現困難な理由では、「介護してくれる家族に負担がかかる」78.6%や「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」60.7%が多くなっています。

#### (6) 人生の最期を迎えたい場所

人生の最期を迎えたい場所では、「自宅」が48.0%と最も多く、次いで「病院」22.6%となっています。また、「わからない」という回答も2割程度あり、性別では、男性は「自宅」が54.1%と多くなっています。

#### (7) 延命医療の希望

延命医療の希望では、「延命医療は望まない」と「どちらかという延命医療は望まない」で8割以上を占めています。

#### (8) 身近な人の死の体験

身近な人の死にあったことがあるかどうかでは、「ある」が8割程度となっており、年齢別にみると、50歳代以上で増加しています。

#### (9) エンディングノートの認知度

エンディングノートの認知度では、「知らない」が35.5%となっており、「よく知っている」「なんとなく知っている」が合わせて43.7%となっています。

#### (10) エンディングノート作成の経験や作成意向

エンディングノート作成の経験や作成意向では、「いずれ書くつもりである」が49.0%で最も多く、次いで「考えていない」が34.2%となっています。また、「すでに書いている」は3.6%となっています。

#### (11) エンディングノート作成のきっかけ

作成のきっかけをたずねたところ、「家族の死去や病気、それに伴う相続」「書籍や雑誌、テレビなどで存在を知って」が多くなっています。

### 4. 介護について

#### (1) 高齢期の生活の不安

自分の高齢期（概ね65歳以上）の生活に不安を感じているかどうかでは、「多少感じている」と「おおいに感じている」を合わせると8割近くとなっています。

#### (2) 高齢期の生活の不安の内容

不安の内容では、「年金・介護・医療など社会保障」や「自分の健康」が多く、次いで「税金や社会保険料の負担」「家族の健康」となっており、年金などの社会制度と健康への不安感が強くなっています。

### (3) 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所

将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所では、「自宅で介護してほしい（訪問介護等各種在宅サービスを活用）」が35.5%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」「病院などの医療機関に入院したい」となっています。

### (4) 介護保険サービスで力を入れるべきこと

介護保険サービスで力を入れるべきことでは、「自宅での生活を継続できるように、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」が35.4%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を充実すべき」が25.3%となっており、在宅サービスや施設サービスの充実を望む意見が上位を占めています。

また、「介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき」という介護予防に力を入れるべきとの回答も多くなっています。

## 5. 介護予防について

### (1) 望んでいる「介護予防」のイメージ

望んでいる「介護予防」のイメージでは、「趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する」が34.4%と最も多く、次いで「地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する」が上位を占めています。

### (2) 市町等で実施している介護予防事業の認知度

市町等で実施している介護予防事業の認知度では、「閉じこもりを防ぐための、集まる場所や教室づくり」36.0%や「足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操」34.5%がよく知られていますが、「自宅内で生活できるようにするための練習」や「口の中や入れ歯の手入れ方法や、むせ防止のためのお口の運動」は低い認知度となっています。

### (3) 参加している地域活動等

参加している地域活動等では、「自治会・町内会」や「祭り・行事」が多くなっています。また、「参加していない」が3割程度となっています。

年齢別にみると、20歳代の半数以上が地域活動等に参加していないと回答しています。地域別にみると、「参加していない」は大津地域や湖西地域で多くなっています。

### (4) 地域とのつながりの強さについて

地域とのつながりの強さについてでは、「どちらかといえば強いほうだと思う」と「強いほうだと思う」を加えると3割超の人がつながりが強いと回答しています。

一方、「弱いほうだと思う」と「どちらかといえば弱いほうだと思う」を加えると地域とのつながりが弱いと回答した人は5割以上となっています。

地域別にみると、「強いほうだと思う」と「どちらかといえば強いほうだと思う」を合わせたつながりが強いと考えている人は東近江地域や湖北地域で多くなっています。

一方、つながりが弱いと考えている人は、大津地域や湖南地域、湖西地域で多くなっています。

## 6. 健康づくりに関することについて

### (1) 適正体重の維持を心がけているか

適正体重の維持を心がけているかどうかでは、「はい」が7割以上で、性別にみると、女性のほうが男性に比べて「はい」が多く、より適正体重を心がけています。

### (2) 適正体重の維持を心がけている理由

心がけている理由をたずねたところ、「健康のため」が最も多く、次いで「体重が変化してきたから」「きれいで（かっこよく）ありたいから」となっており、年齢別にみると、20歳代や30歳代では「きれいで（かっこよく）ありたいから」が多くなり、40歳代以上では「健康のため」が半数以上となっています。

### (3) 適切な食事内容や量を知っているか

適切な食事内容や量を知っているかどうかでは、「知っている」と「知らない」が拮抗した状況となっており、職業別にみると、「知っている」は学生が他の職業に比べて低くなっています。

### (4) 徒歩10分圏内への移動手段

徒歩10分圏内への移動手段では、「徒歩」が36.2%、「自動車やバイク（バスやタクシーを含む）」が32.6%、「自転車」が29.6%と意見がほぼ3つに分かれた結果となっています。

年齢別にみると、50歳代までの世代では「自動車やバイク（バスやタクシーを含む）」が最も多く、60歳代や70歳以上では「徒歩」が最も多くなっています。

地域別にみると、「徒歩」が多いのは大津地域が最も多くなっています。「自動車やバイク（バスやタクシーを含む）」が多い地域は、甲賀地域や湖西地域、東近江地域となっています。

### (5) 日常生活での運動の継続について

日常生活での運動の継続については、「継続して実行している」が25.3%、「時々している」36.0%となっています。

### (6) 継続的に行っている運動について

継続的に行っている運動では、「ない」が58.2%で、「ある」が23.9%となっています。

### (7) 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について

過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等の有無については、「多少ある」が46.5%と最も多く、「大いにある」の22.4%と合わせて68.9%となっています。

職業別にみると、「大いにある」は勤め人や学生で多くなっています。

### (8) 睡眠で休養が十分とれているか

普段の睡眠で休養が十分とれているかでは、「まあまあとれている」が半数以上となっています。

### (9) 飲酒の頻度

飲酒の頻度では、「飲まない」が37.2%で最も多く、次いで「時々飲む」の23.0%、「毎日飲む」

の 18.1%となっています。

性別にみると、男性は「毎日飲む」が多く、年齢別にみると、「毎日飲む」は40歳代以上の世代で多くなっています。

#### (10) 1日の平均飲酒量

1日あたりの平均飲酒量では、大半の人は2合以下の飲酒量となっていますが、年齢別にみると、70歳以上を除くと概ね年齢とともに飲酒量が増加していく傾向がみられます。

#### (11) 喫煙経験

喫煙の経験では、「まったく吸ったことがない」が57.2%、「合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている（吸っていた）」が28.8%、「吸っている（吸ったことがある）」が、合計100本未満で6ヶ月未満である」が10.1%となっています。

#### (12) 1日の平均喫煙本数

1日の平均喫煙本数では、「20～29本」が34.2%、「10～19本」が30.6%、「30本以上」が21.4%となっています。年齢別では、1日の喫煙本数が年齢とともに増加していく傾向がみられ、「10本未満」は20歳代で28.4%と他の年代に比べ多く、それ以上の年代では、「20～29本」や「30本以上」が増加していき、60歳代や70歳以上では「30本以上」が3割以上と多くなっています。

#### (13) 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況

喫煙経験で「吸っている（吸ったことがある）」が、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した人について、喫煙状況をたずねたところ、「今は（この1ヶ月間）吸っていない」が68.2%、「毎日吸う」が16.9%となっています。

#### (14) 今後の喫煙についての考え方

「毎日吸う」「ときどき吸う」と回答した人について、今後の喫煙についての考え方をたずねたところ、「やめたい」が39.5%、「本数を減らしたい」が32.6%、「特に考えていない」が25.6%と禁煙したい人や本数を減らしたいという人が多くなっています。

#### (15) 食育についての関心

食育についての関心では、「どちらかといえば関心がある」「関心がある」を加えると6割近くの人は関心があると回答しており、性別にみると、女性は男性に比べて「関心がある」「どちらかといえば関心がある」が多く、男性は「わからない（食育という言葉を知らない）」が多くなっています。

#### (16) 噛み方などの食べ方についての関心

噛み方などの食べ方についての関心では、「どちらかといえば関心がある」「関心がある」を加えると半数以上の人は関心があると回答しています。

#### (17) 歯科検診の定期的な受診について

歯科検診の定期的な受診では、「受けていない」が42.6%で、「受けたり受けなかったりする」が30.2%、「受けている」が24.1%となっており、職業別では、「受けている」は学生が他の職業に比べて低くなっています。

#### (18) 歯の本数

歯の本数では、「28～32本」が33.0%、「20～27本」が25.9%などとなっています。

#### (19) メタボリックシンドロームの認知度

メタボリックシンドロームの認知度では、「内容を知っている」が64.1%、「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」が29.0%となっています。

#### (20) COPDの認知度

COPDの認知度では、「知らない」が68.0%、「名前はきいたことがある」が22.4%で、「どんな病気かよく知っている」は6.7%にとどまっています。

#### (21) ロコモティブシンドロームの認知度

ロコモティブシンドロームの認知度では、「知らない」が82.1%で、「言葉は聞いたことがある」が12.1%、「どんな状態をあらわすかよく知っている」は2.5%となっています。

#### (22) たばこが健康に与える影響の認識について

たばこが健康に与える影響の認識については、「たばこを吸うとかかりやすくなる」が「肺がん」では81.3%、「喉頭がん」では61.1%となっています。

#### (23) がんについてのイメージ

がんについてのイメージでは、「遺伝する」が最も多く、次いで「予防できない」、「治らない」が多くなっています。

#### (24) インフォームド・コンセントについて

インフォームド・コンセントについてこれまでに受けた医療機関の対応では、「本人または家族に対して十分な説明を受けた」が39.2%と最も多く、次いで「わからない、覚えていない」の16.8%、「特に説明を受けたことがない」の16.4%、「本人または家族への説明がやや不十分であった」の15.1%などとなっています。性別では、男性は女性に比べて「特に説明を受けたことがない」や「わからない、覚えていない」が多く、年齢別では、「本人または家族に対して十分な説明を受けた」は50歳代が最も多く、次いで60歳代、40歳代と中高年で多くなっています。「わからない、覚えていない」は20歳代や30歳代で多くみられます。

#### (25) がん治療の「セカンド・オピニオン」について

がん治療の「セカンド・オピニオン」の認知度では、「言葉だけはよく知っている」が35.5%で最も多く、次いで「よく知っている」の28.8%、「知らない」の26.2%となっています。

## (26) 「セカンド・オピニオン」の必要性について

自分自身ががんと診断され治療を行う場合の「セカンド・オピニオン」の必要性では、「必要と思う」と「どちらかといえば、必要と思う」を加えると8割以上の人が必要と思っています。

## (27) 「緩和ケア」の認知度

「緩和ケア」の認知度では、「終末期の患者だけを対象とと思っていた」が最も多く、次いで「病院・緩和ケア病棟などの限られた場所でしか行われないうちで思っていた」、「痛みなどの身体症状のみを対象とと思っていた」となっています。

また、「よく知らないが聞いたことはある」は20.7%、「知らなかった」は15.7%と知らない人も多くなっています。

## 7. 健診等に関することについて

### (1) 健診等の受診希望について

健診等の受診希望では、「はい」が77.8%で「いいえ」の6.3%を大きく上回っています。年齢別にみると、「はい」は30歳代が最も多く、40歳代から60歳代では8割以上となっていますが、20歳代や70歳以上では減少しています。また、職業別にみると、「はい」は学生やその他、無職で低くなっています。

### (2) 現在加入している医療保険

現在加入している医療保険では、「国民健康保険」の37.1%や「健康保険組合」の36.3%が多くなっています。

### (3) 昨年の健診等の受診状況

昨年の健診等の受診状況では、「はい」が68.9%と「いいえ」の27.6%を大きく上回っています。

### (4) 健診を受診した理由

受診した理由では、「自らの健康管理のため」が53.1%、「職場で受けるように言われたから」が45.0%、「毎年、受診しているから」が43.5%と多くなっています。

### (5) 健診を受診しなかった理由

受診しなかった理由では、「必要な時はいつでも病院や診療所を受診できるから」が38.4%、「時間がとれなかったから」が27.7%、「費用がかかり経済的に負担だから」が23.1%となっています。

### (6) 健診を受けやすくするために必要なこと

健診を受けやすくするために必要なことでは、「健診にかかる費用の助成」や「夜間や休日等の実施時間の工夫」、「短時間で受けられるなど実施方法の工夫」、「健診を受けることの必要性（メリット）についての広報・啓発」が多くなっています。

年齢別にみると、60歳代以上では、「健診項目の充実」や「検診の結果によって、生活習慣病予防等の指導や相談が受けられることの啓発」があげられています。

### **Ⅲ 調查結果**

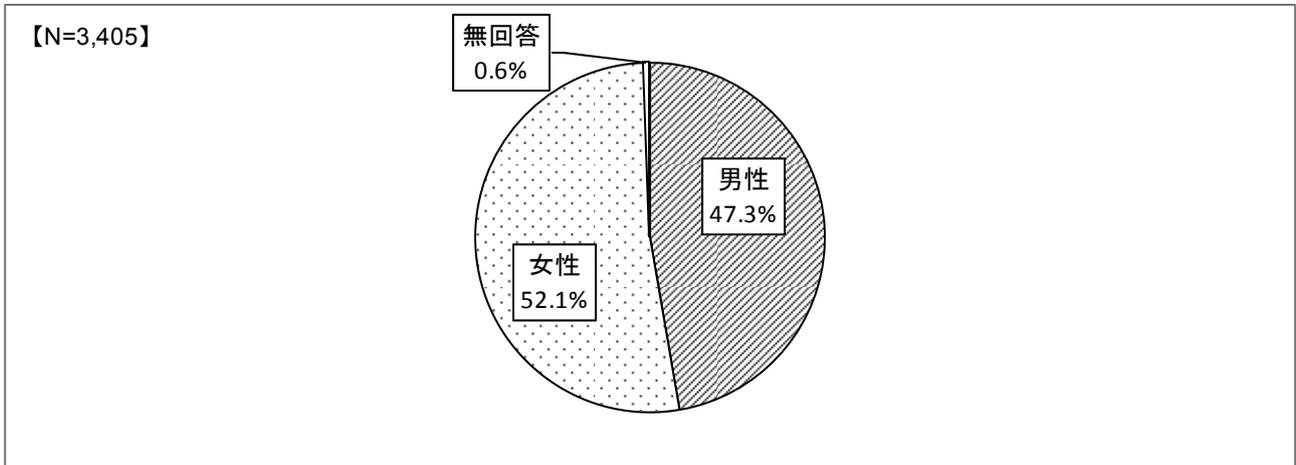


### Ⅲ 調査結果

#### 1. 回答者の属性について

##### (1) 性別

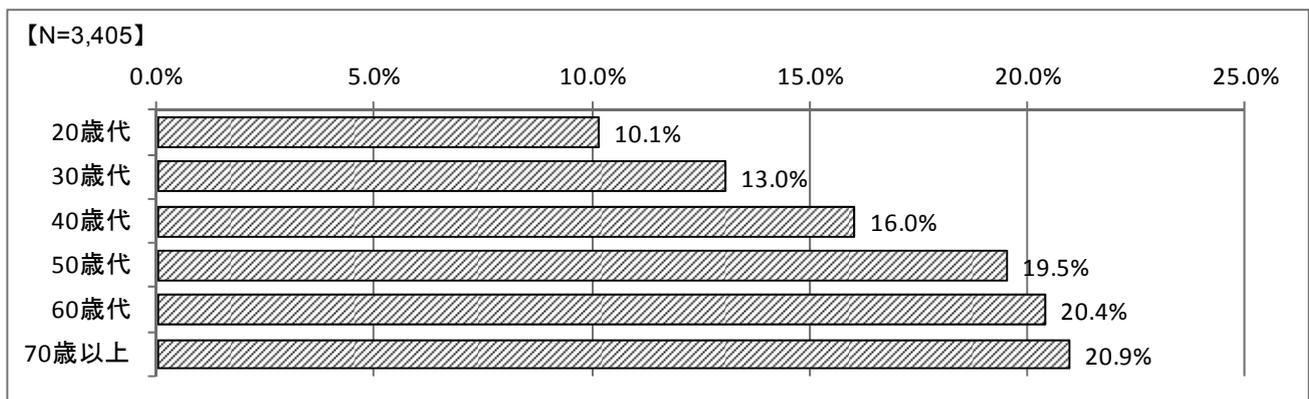
図 性別



回答者の性別では、「女性」が 52.1%、「男性」が 47.3%となっています。

##### (2) 年齢階層

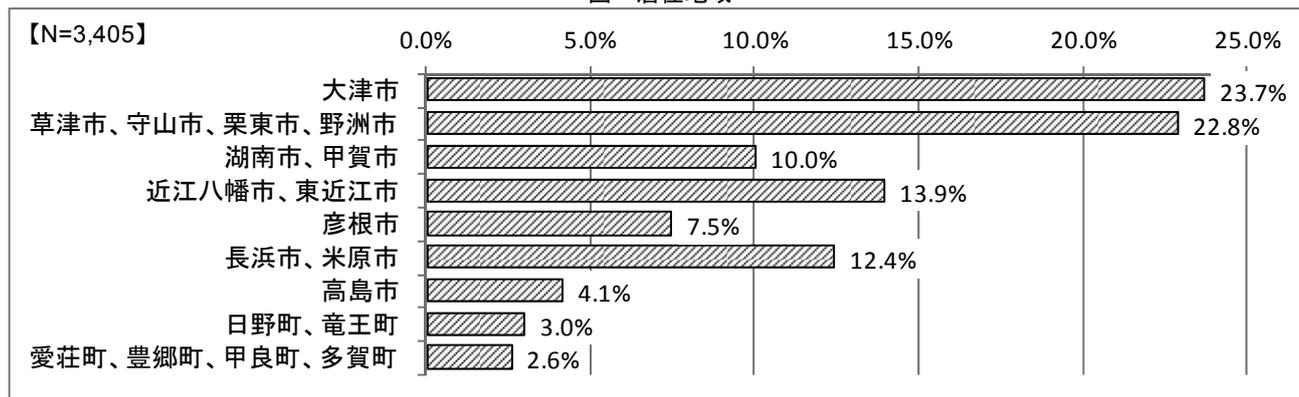
図 年齢階層



回答者の年齢階層では、「70歳以上」が、20.9%、「60歳代」が 20.4%、「50歳代」が 19.5%などとなっています。

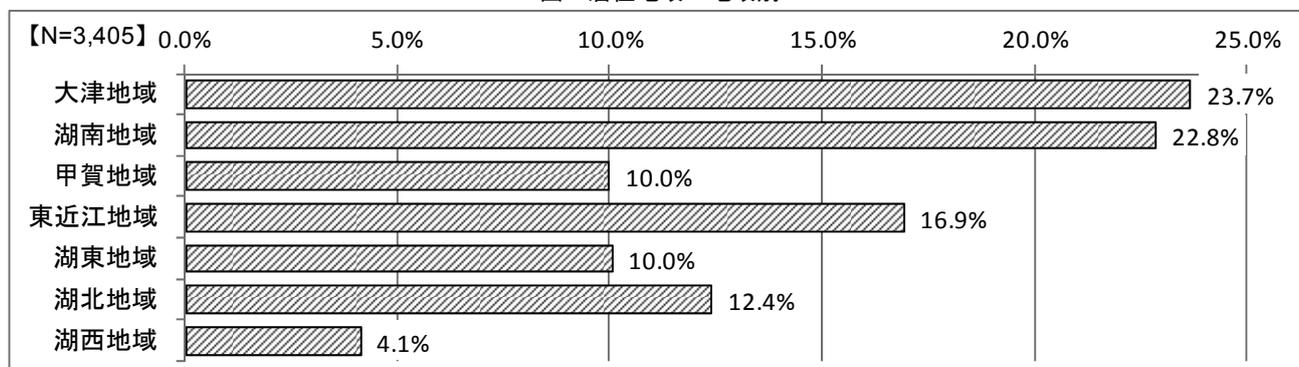
### (3) 居住地域

図 居住地域



居住地域では、「大津市」が 23.7%、「草津市、守山市、栗東市、野洲市」が 22.8%、「近江八幡市、東近江市」が 13.9%などとなっています。

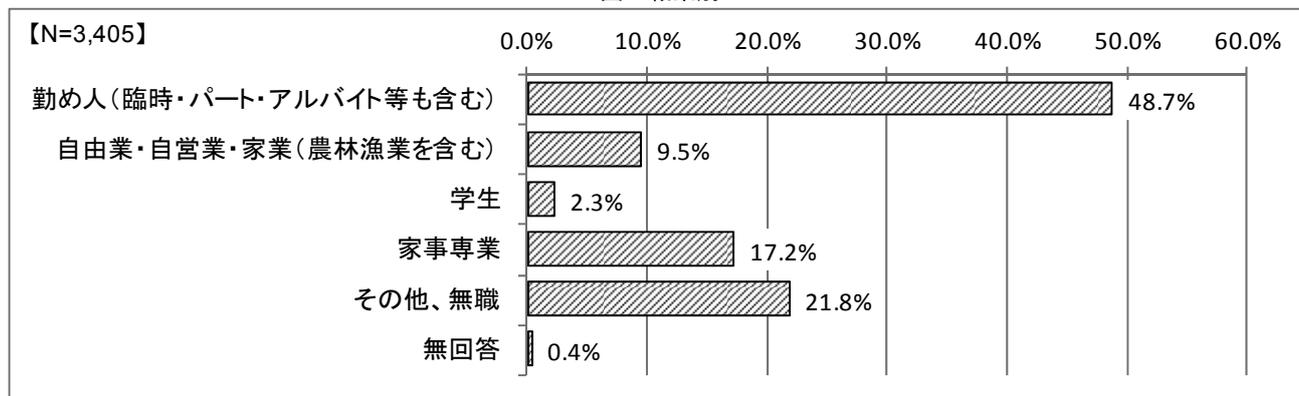
図 居住地域—地域別



地域別に再集計すると上記の図のようになり、今後の分析においては、この地域別を利用します。

### (4) 職業別

図 職業別



回答者の職業は、「勤め人（臨時・パート・アルバイト等も含む）」が 48.7%、「その他、無職」が 21.8%、「家事専業」が 17.2%などとなっています。

## (5) 家族構成

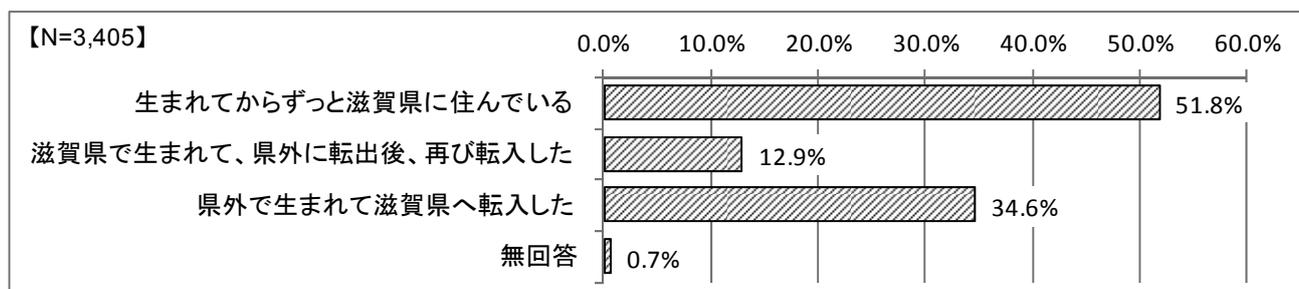
図 家族構成



家族構成は、「二世代会世帯(親と未婚の子ども)」が37.2%、「一世代世帯(夫婦だけ)」が24.1%、「三世代会世帯(祖父母と親と子ども)」が17.0%などとなっています。

## (6) 居住経歴

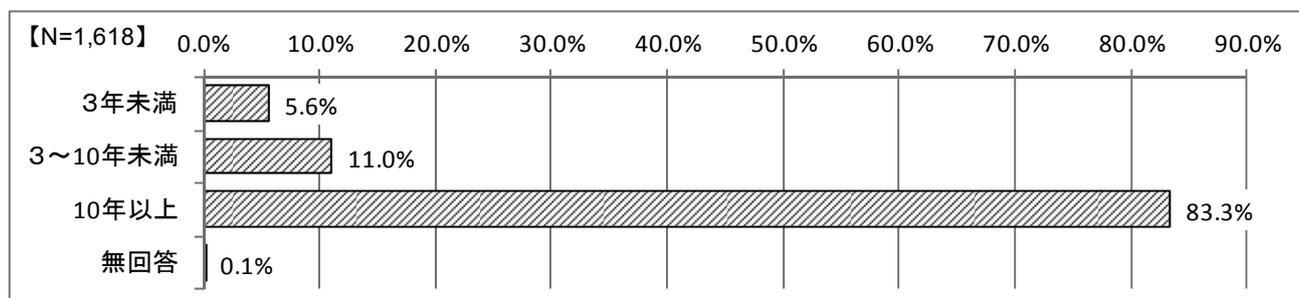
図 居住経歴



居住経歴では、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が51.8%、「県外で生まれて滋賀県へ転入した」が34.6%、「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」が12.9%となっています。

## (7) 転入後の居住年数

図 転入後の居住年数



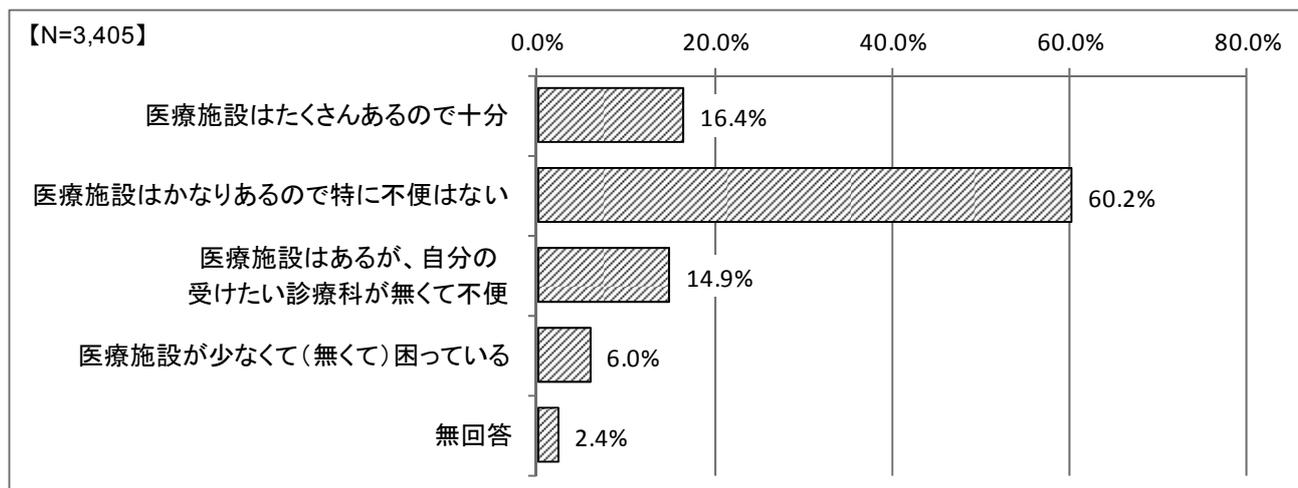
「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」、「県外で生まれて滋賀県へ転入した」と回答した人について、転入後の居住年数をたずねたところ、「10年以上」が83.3%、「3～10年」が11.0%、「3年未満」が5.6%となっています。

## 2. 滋賀県の医療について

### (1) 地域の医療施設の状況

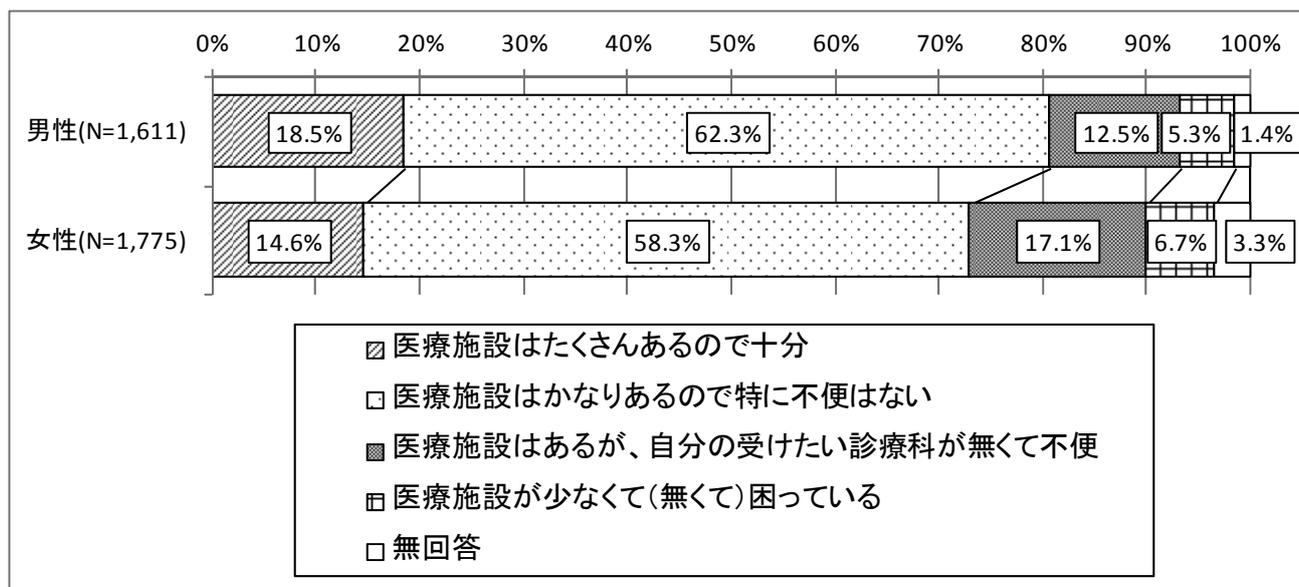
問7 あなたが住んでいる地域の医療施設（病院・診療所）について、どのように感じていますか。  
あてはまるもの 1つに○をつけてください。

図 地域の医療施設の状況



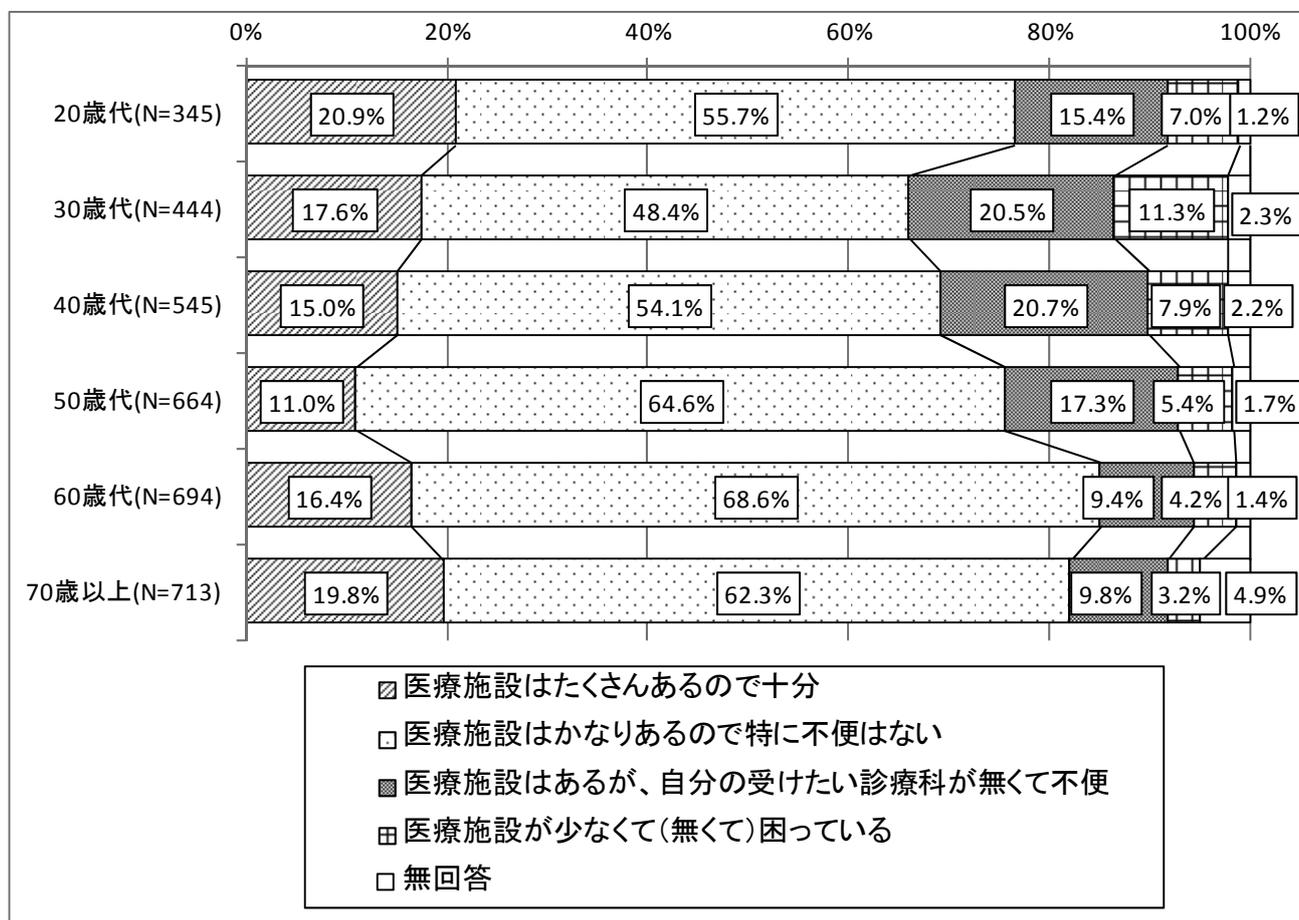
地域の医療施設の状況では、「医療施設はたくさんあるので十分」が16.4%、「医療施設はかなりあるので特に不便はない」が60.2%と合わせて8割近くを占めていますが、「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科がなくて不便」が14.9%、「医療施設が少なくて(無くて)困っている」が6.0%と不便を感じている人も2割程度いる状況となっています。

図 地域の医療施設の状況－性別



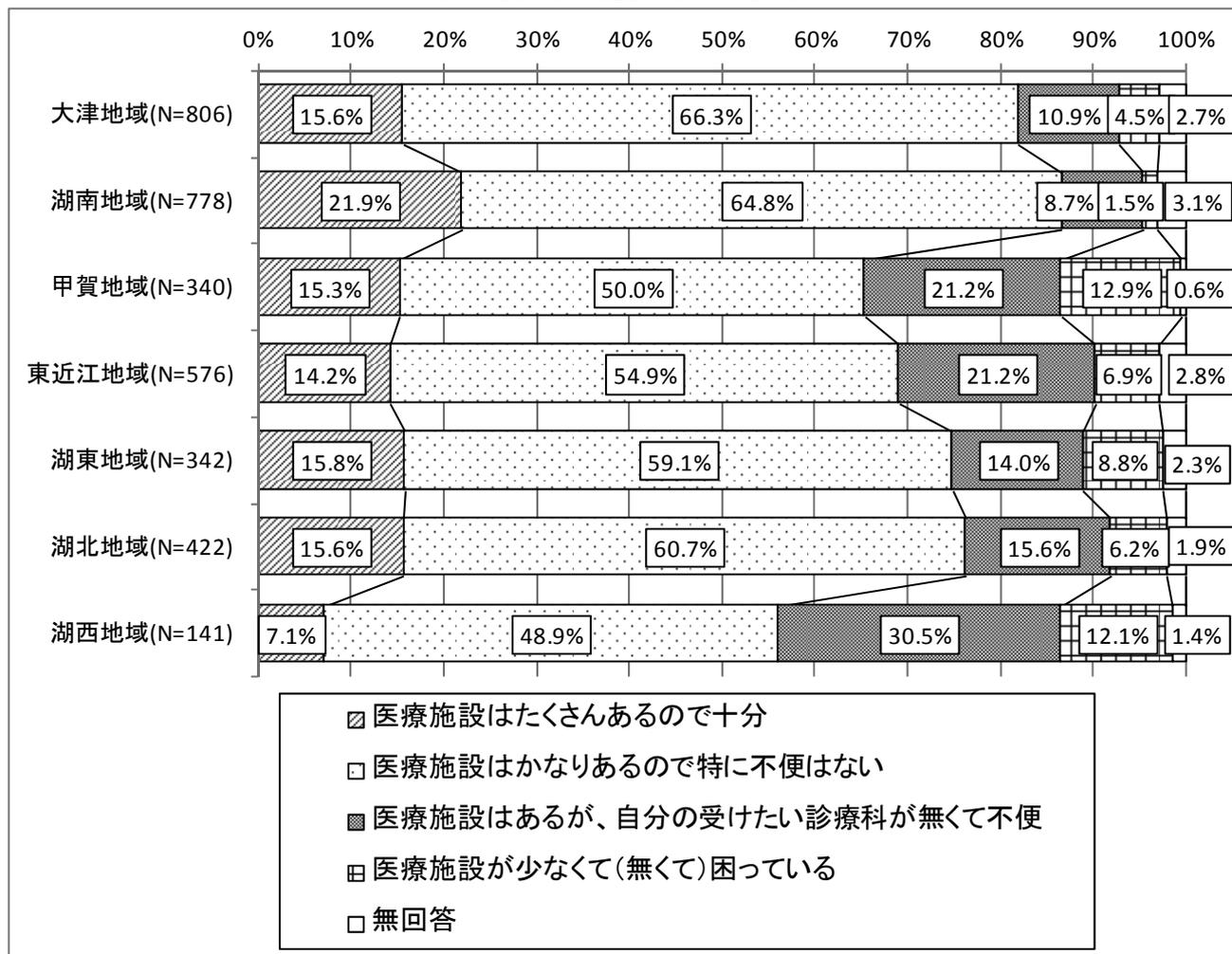
性別にみると、男性は、女性に比べて「医療機関はたくさんあるので十分」「医療施設はかなりあるので特に不便はない」との回答が多く、女性は「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くて不便」「医療施設が少なくて(無くて)困っている」が多くなっており、女性の方が不便を感じています。

図 地域の医療施設の状況－年齢別



年齢別にみると、30歳代や40歳代で「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科がなくて不便」が2割超と他の年代に比べて多くなっています。また、50歳代は「医療機関はたくさんあるので十分」が11.0%と最も少なくなっており、30歳代から50歳代で、不便を感じているとの回答が多くなっています。

図 地域の医療施設の状況—地域別



地域別にみると、「医療機関はたくさんあるので十分」は湖南地域が21.9%で最も多くなっています。

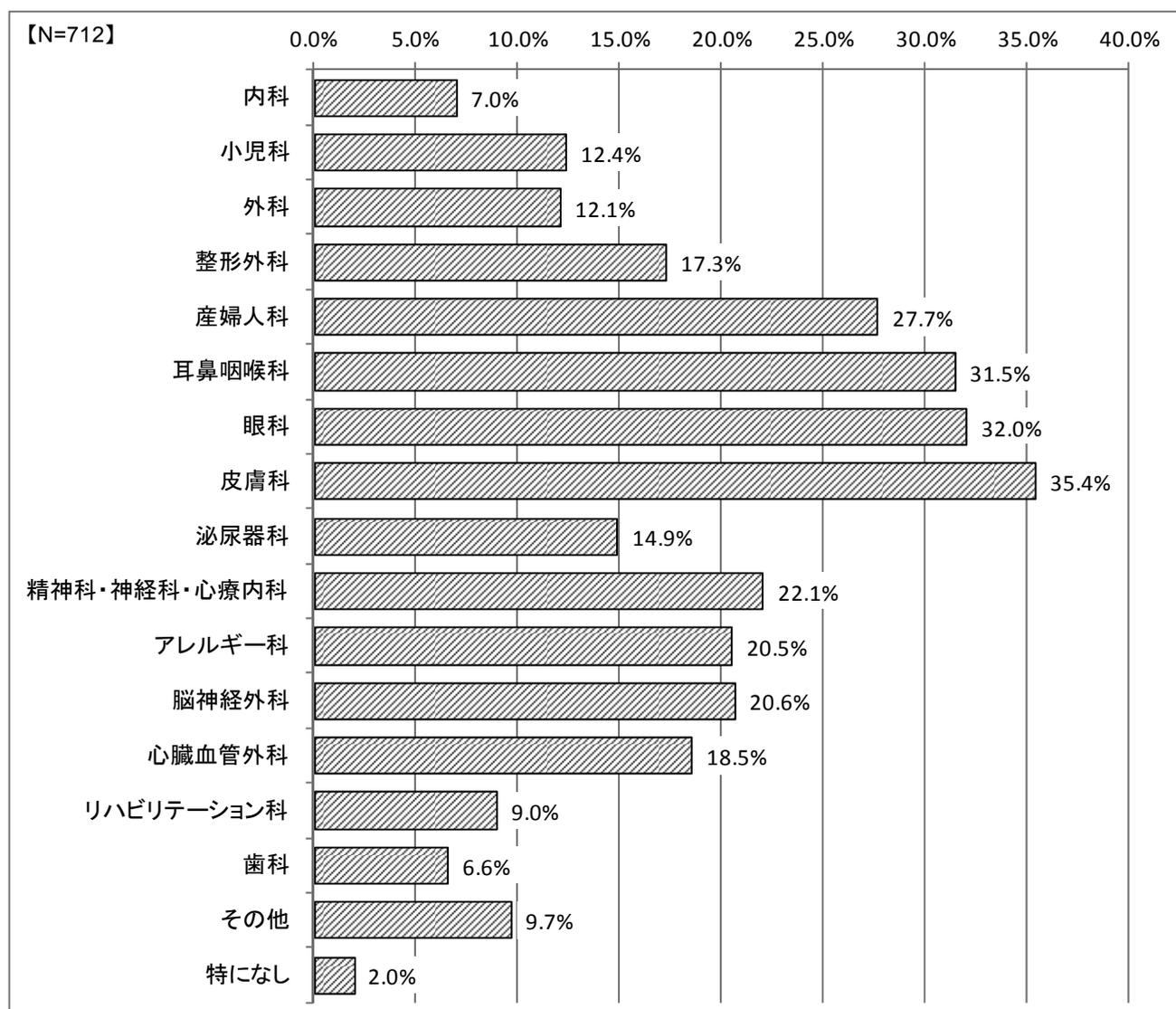
「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科がなくて不便」は、湖西地域の30.5%が最も多く、甲賀地域と東近江地域は2割以上となっています。

また、「医療施設が少なくて(無くて)困っている」は、甲賀地域で12.9%、湖西地域で12.1%と多くなっています。

## (2) 無くて困っている診療科

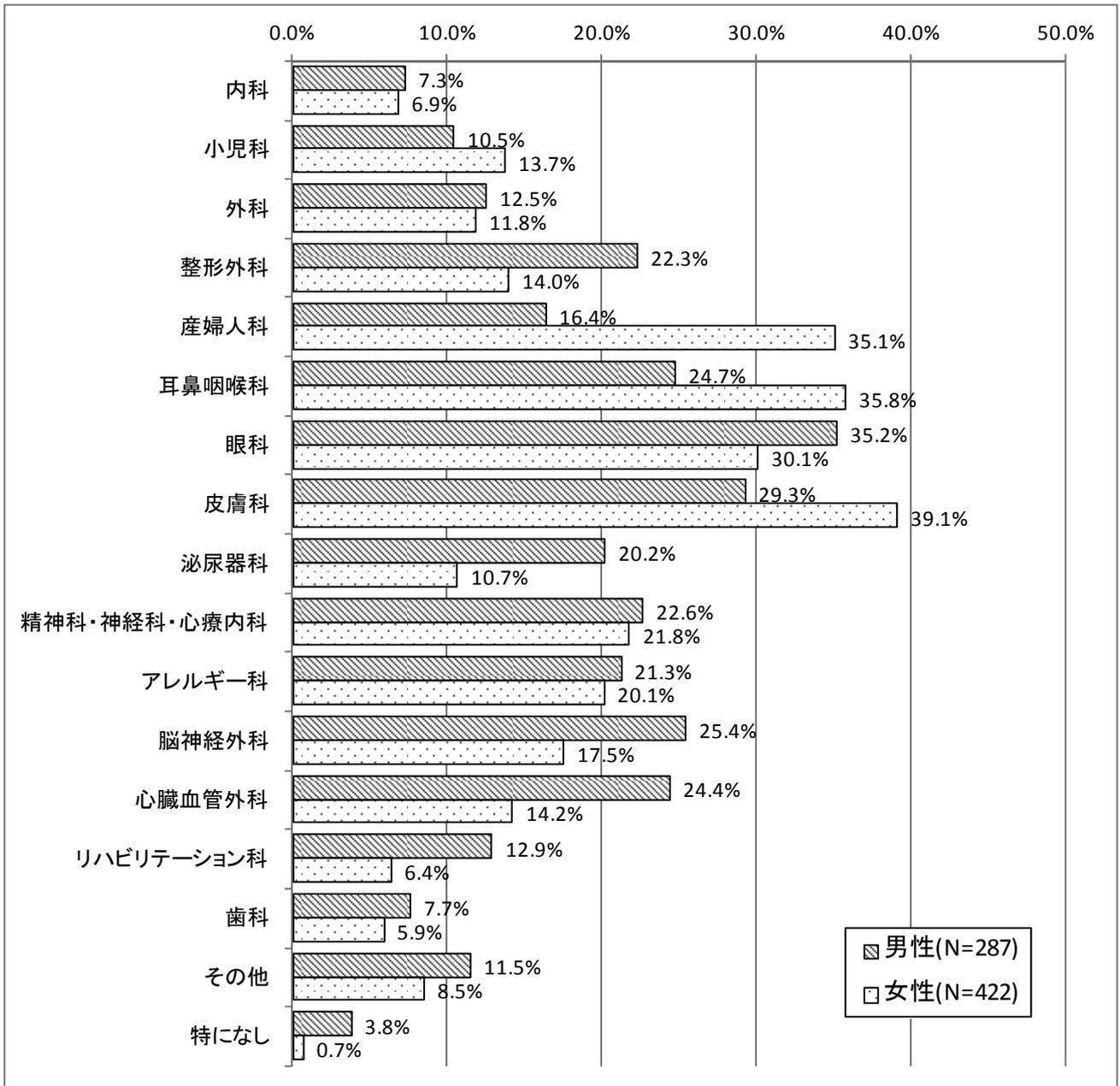
問 7-1 問7で「3. 医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くて不便」または、「4. 医療施設が少なくて（無くて）困っている」とお答えの方におたずねします。あなたが住んでいる地域に、「無くて困っている診療科」はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 無くて困っている診療科



「医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くて不便」、「医療施設が少なくて（無くて）困っている」と回答した人に無くて困っている診療科をたずねたところ、「皮膚科」が35.4%、「眼科」が32.0%、「耳鼻咽喉科」が31.5%とこの3つの診療科目が3割以上で、次いで「産婦人科」の27.7%、「精神科・神経科・心療内科」の22.1%、「脳神経外科」の20.6%、「アレルギー科」の20.5%と続いており、幅広い診療科目があがっています。

図 無くて困っている診療科—性別



性別にみると、不足しているという診療科目は、男性は、「整形外科」や「眼科」「泌尿器科」「脳神経外科」「心臓血管外科」が多く、女性は「小児科」や「産婦人科」「耳鼻咽喉科」などで多くなっています。

表 無くて困っている診療科一年齢別

	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	皮膚科 57.1%	眼科 49.4%	耳鼻咽喉科 32.5%	産婦人科 28.6%	アレルギー科 27.3%
30歳代	皮膚科 47.5%	産婦人科 37.6%	耳鼻咽喉科 33.3%	アレルギー科 27.0%	小児科 24.1%
40歳代	皮膚科 34.0%	眼科 32.1%	産婦人科 31.4%	耳鼻咽喉科 27.6%	精神科・神経科・心療内科 25.0%
50歳代	耳鼻咽喉科 37.1%	皮膚科 35.1%	眼科 34.4%	産婦人科 31.8%	精神科・神経科・心療内科 28.5%
60歳代	眼科 36.2%	脳神経外科 30.9%	耳鼻咽喉科 27.7%	精神科・神経科・心療内科 22.3%	心臓血管外科 19.1%
70歳以上	眼科 30.1%	耳鼻咽喉科 29.0%	泌尿器科 26.9%	心臓血管外科 26.9%	脳神経外科 23.7%

年齢別にみると、いずれの年代においても「皮膚科」や「眼科」「耳鼻咽喉科」などは上位にきていますが、50歳代以上となると「精神科・神経科・心療内科」や「心臓血管外科」「脳神経外科」などが上位にあげられています。

表 無くて困っている診療科―地域別

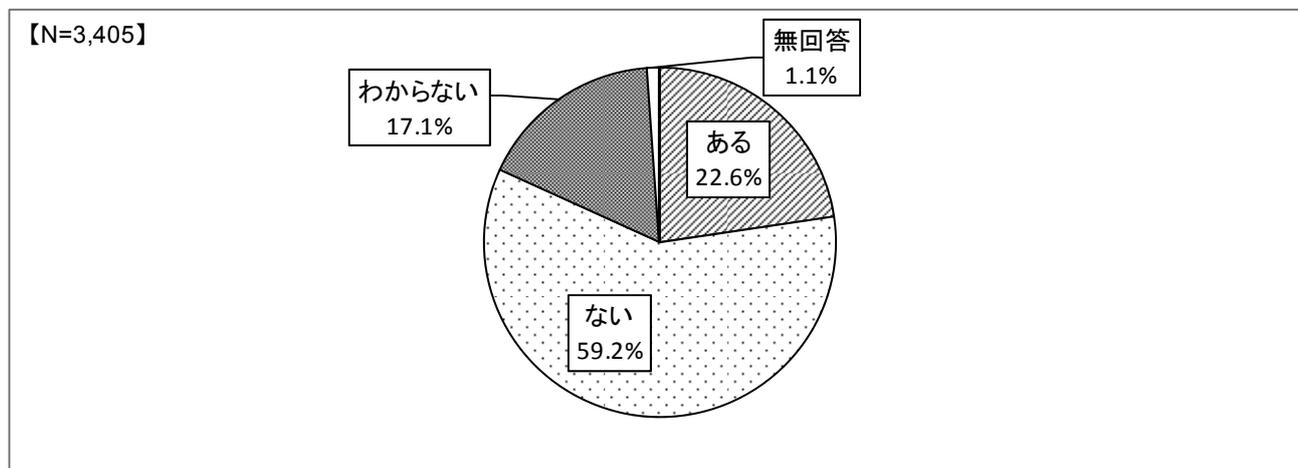
	1位	2位	3位	4位	5位
大津地域	皮膚科 46.8%	眼科 35.5%	耳鼻咽喉科 33.9%	産婦人科 30.6%	精神科・神経科・心療内科 21.0%
湖南地域	耳鼻咽喉科 32.5%	眼科 22.5%	精神科・神経科・心療内科 22.5%	脳神経外科 22.5%	心臓血管外科 20.0%
甲賀地域	皮膚科 46.6%	耳鼻咽喉科 39.7%	眼科 37.9%	アレルギー科 31.0%	脳神経外科 23.5%
東近江地域	産婦人科 34.6%	耳鼻咽喉科 34.6%	皮膚科 34.6%	眼科 25.9%	脳神経外科 心臓血管外科 23.5%
湖東地域	産婦人科 38.5%	眼科 30.8%	耳鼻咽喉科 25.6%	皮膚科 25.6%	アレルギー科 25.6%
湖北地域	眼科 34.8%	皮膚科 34.8%	産婦人科 32.6%	整形外科 30.4%	精神科・神経科・心療内科 26.1%
湖西地域	眼科 40.0%	皮膚科 30.0%	アレルギー科 26.7%	産婦人科 25.0%	脳神経外科 25.0%

地域別にみると、「産婦人科」や「耳鼻咽喉科」「眼科」「皮膚科」は概ねいずれの地域においても不足しているとの回答が多くなっています。「精神科・神経科・心療内科」は、大津地域や湖南地域、湖北地域で上位にあがっています。同様に「アレルギー科」は、甲賀地域や湖東地域、湖西地域で、「脳神経外科」は湖南地域や甲賀地域、東近江地域で、「心臓血管外科」は湖南地域や東近江地域でそれぞれ無くて困っている診療科として上位にあがっています。

### (3) 医師不足の実感

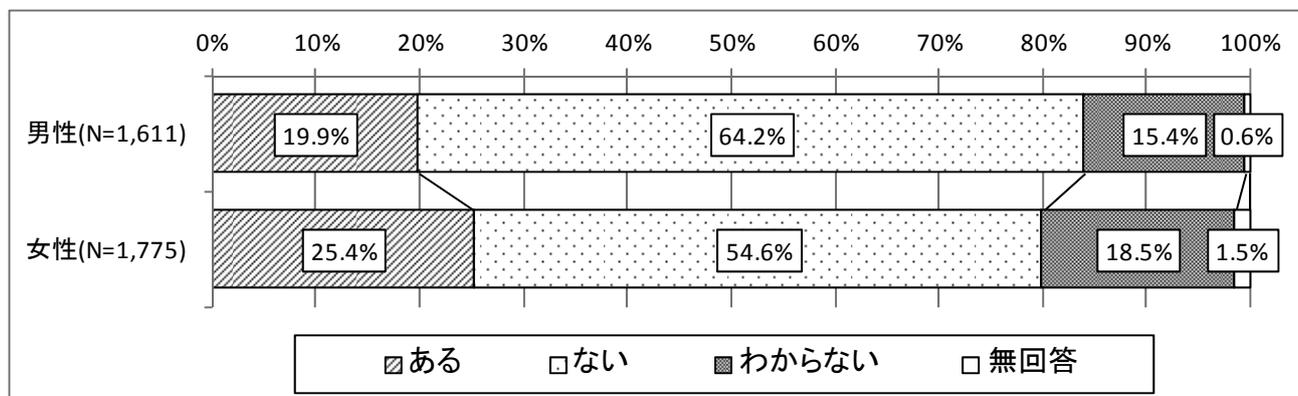
問8 あなたは日常生活の中で、医師不足と感じたことがありますか。

図 医師不足の実感



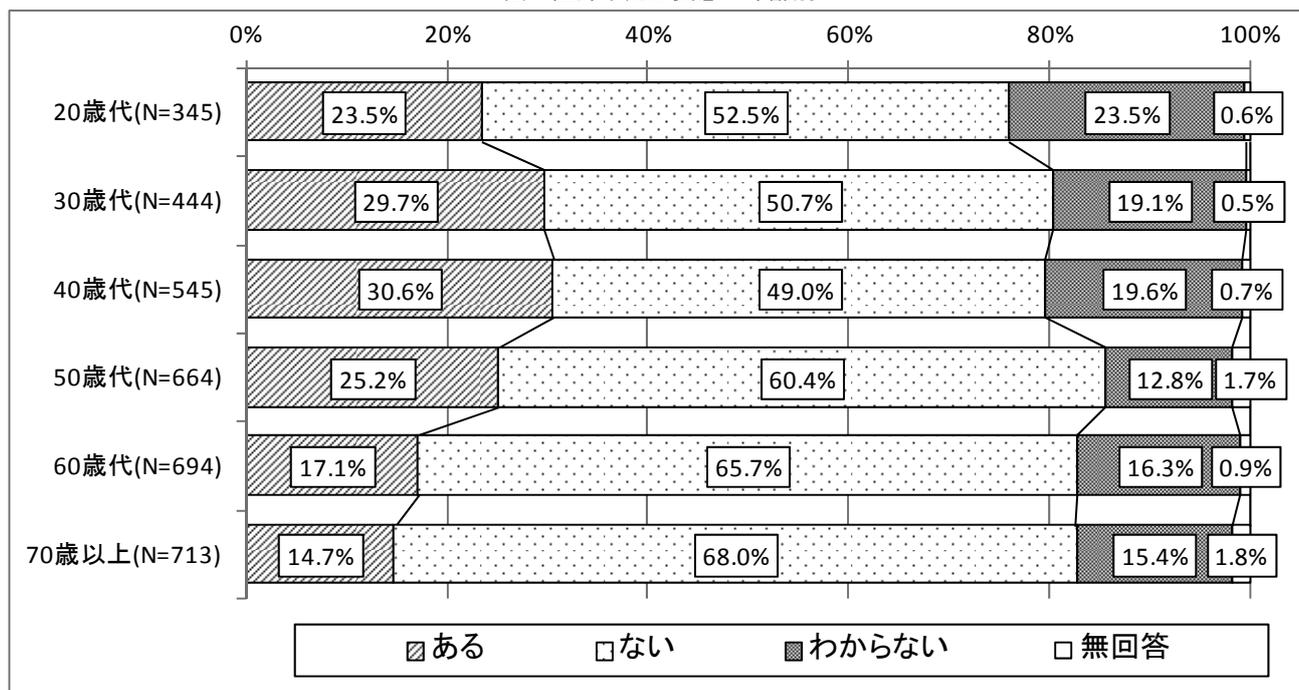
医師不足の実感では、「ない」が59.2%で、「ある」の22.6%を上回っています。

図 医師不足の実感－性別



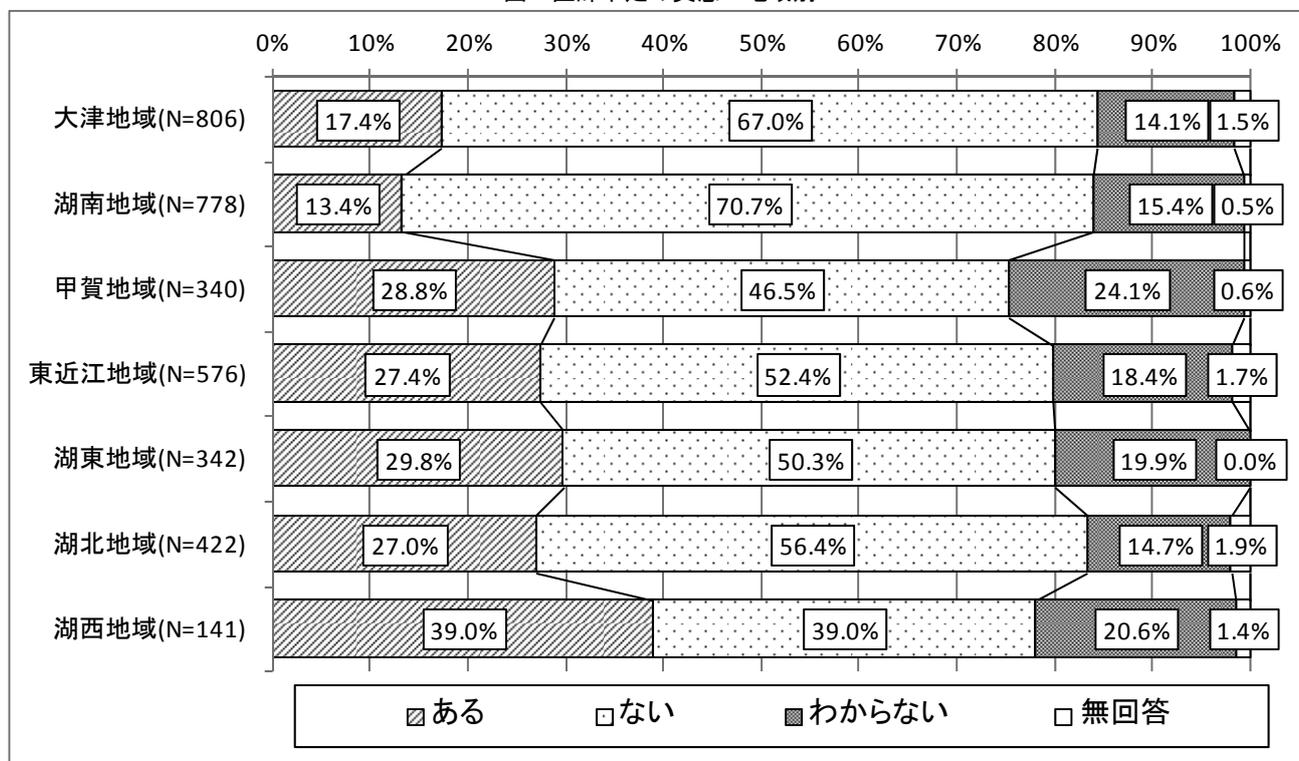
医師不足について性別にみると、男性は「ない」が多く、女性は「ある」が多くなっており、女性の方が医師不足との認識が強くなっています。

図 医師不足の実感—年齢別



医師不足の実感について年齢別にみると、「ある」は30歳代や40歳代で多くなり、それ以上の年代になると「ある」は徐々に減少していき、変わって「ない」が増加していきます。

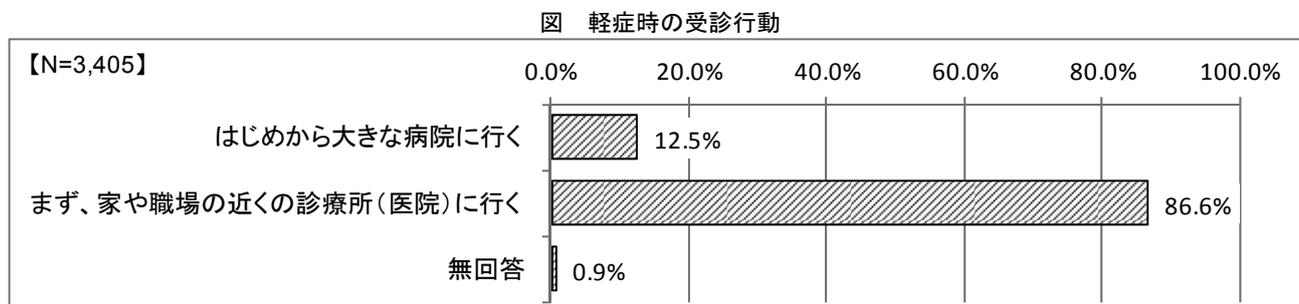
図 医師不足の実感—地域別



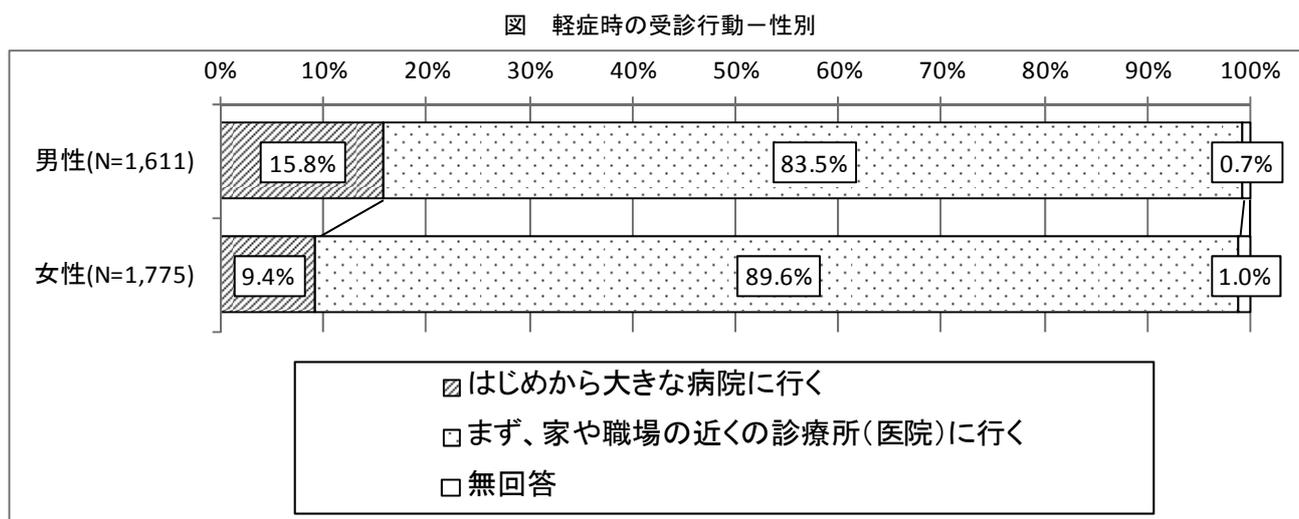
地域別にみると、「ある」は湖西地域が39.0%と最も多く、甲賀地域や東近江地域、湖東地域、湖北地域で2割以上と多くなっています。「ない」は、大津地域と湖南地域が多く、7割前後となっています。

#### (4) 軽症時の受診行動

問9 あなたは、例えば、“熱が出たり”、“お腹が痛かったりするとき” 医者にかかるとしたらどのようにしますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

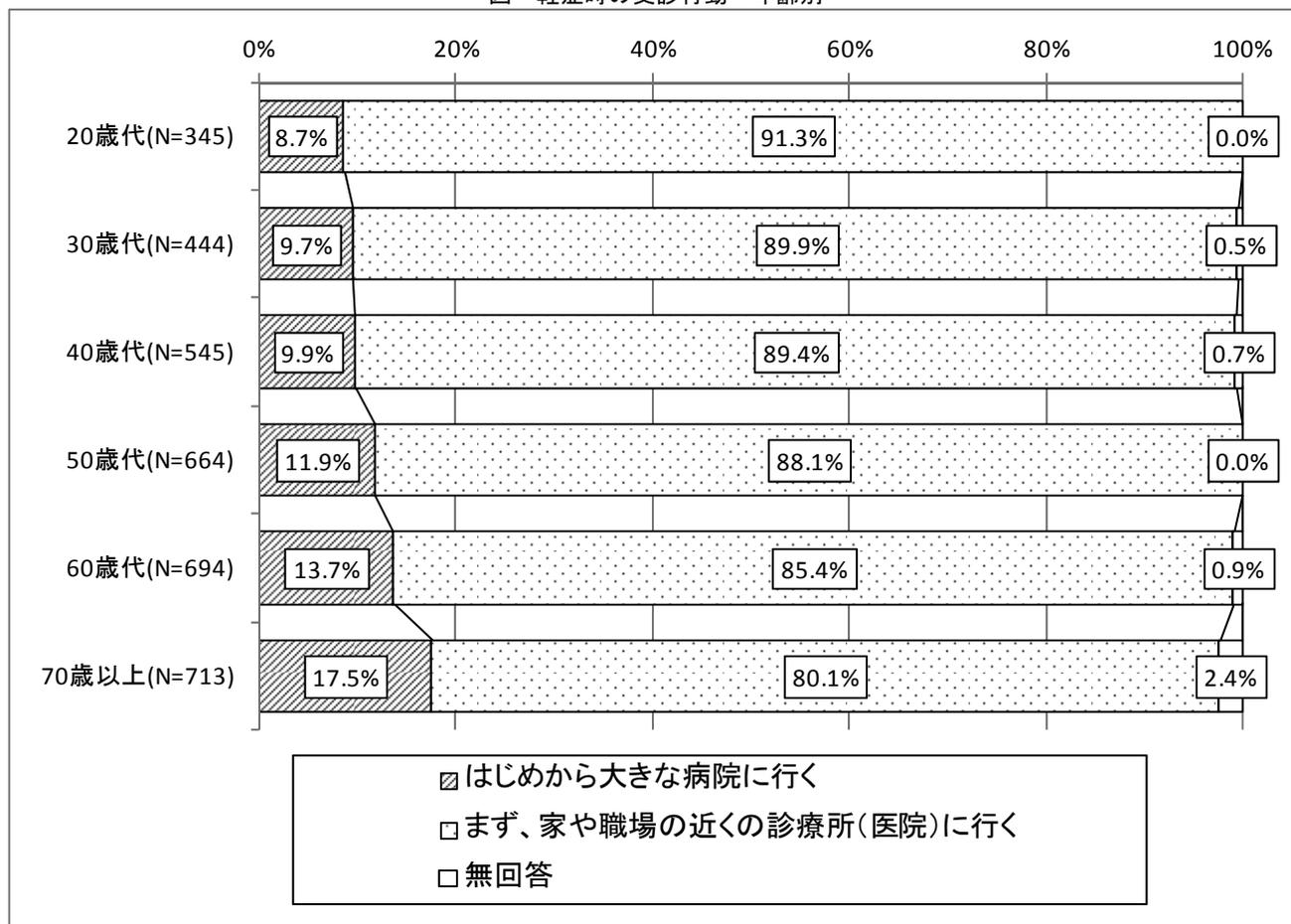


軽症時の受診行動では、「まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く」が86.6%で、「はじめから大きな病院に行く」の12.5%を上回っています。



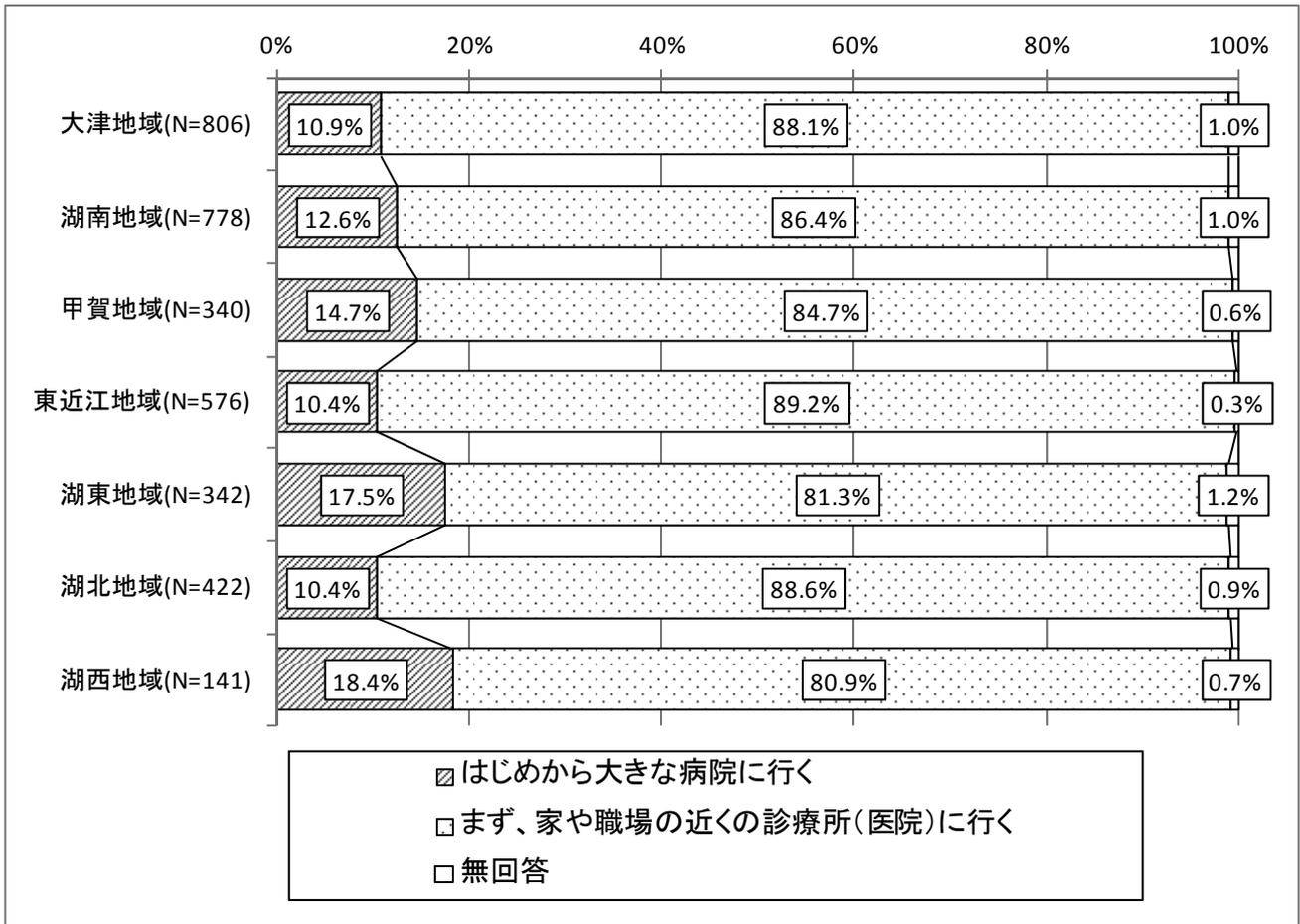
性別にみると、男性の方が女性に比べて「はじめから大きな病院に行く」が多くなっています。

図 軽症時の受診行動一年齢別



年齢別にみると、「はじめから大きな病院に行く」は、年齢とともに増加していき、高齢者ほど始めから大きな病院に行く傾向がみられ、20歳代で8.7%だったものが70歳以上では17.5%と2倍以上となっています。

図 軽症時の受診行動—地域別

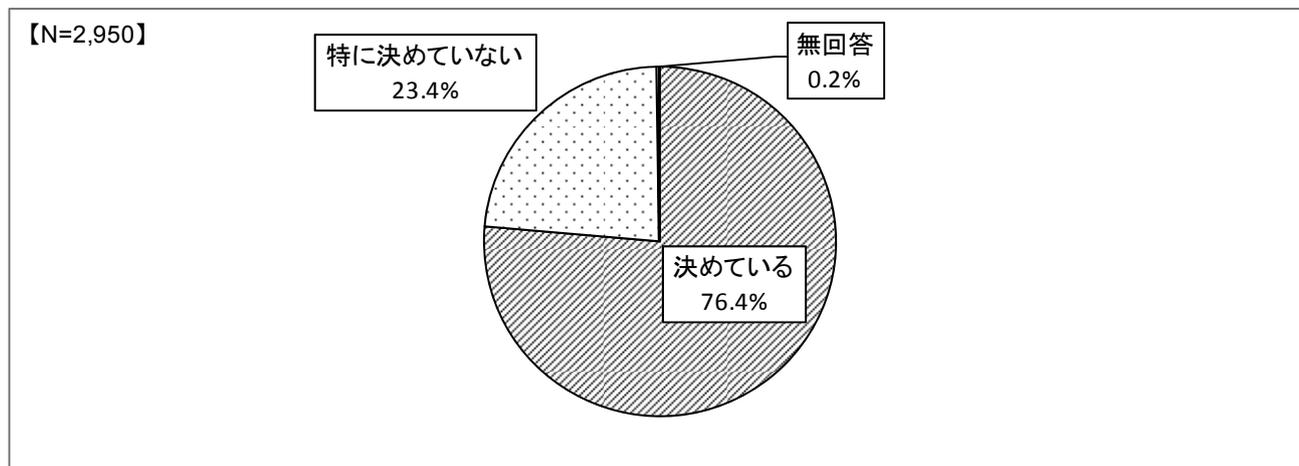


地域別にみると、地域による大きな差異はみられませんが、「はじめから大きな病院に行く」は湖東地域や湖西地域でそれぞれ17.5%、18.4%と他の地域に比べて少し多くなっています。

## (5) かかりつけ医の有無

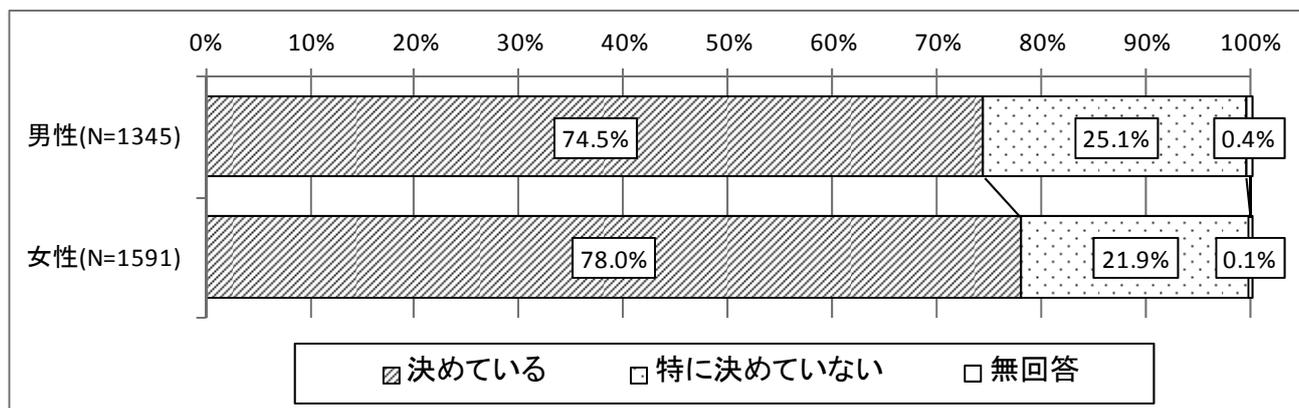
問9-1 問9で「2. まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く」とお答えの方にお尋ねします。  
このような場合、かかる診療所（医院）を決めていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 かかりつけ医の有無



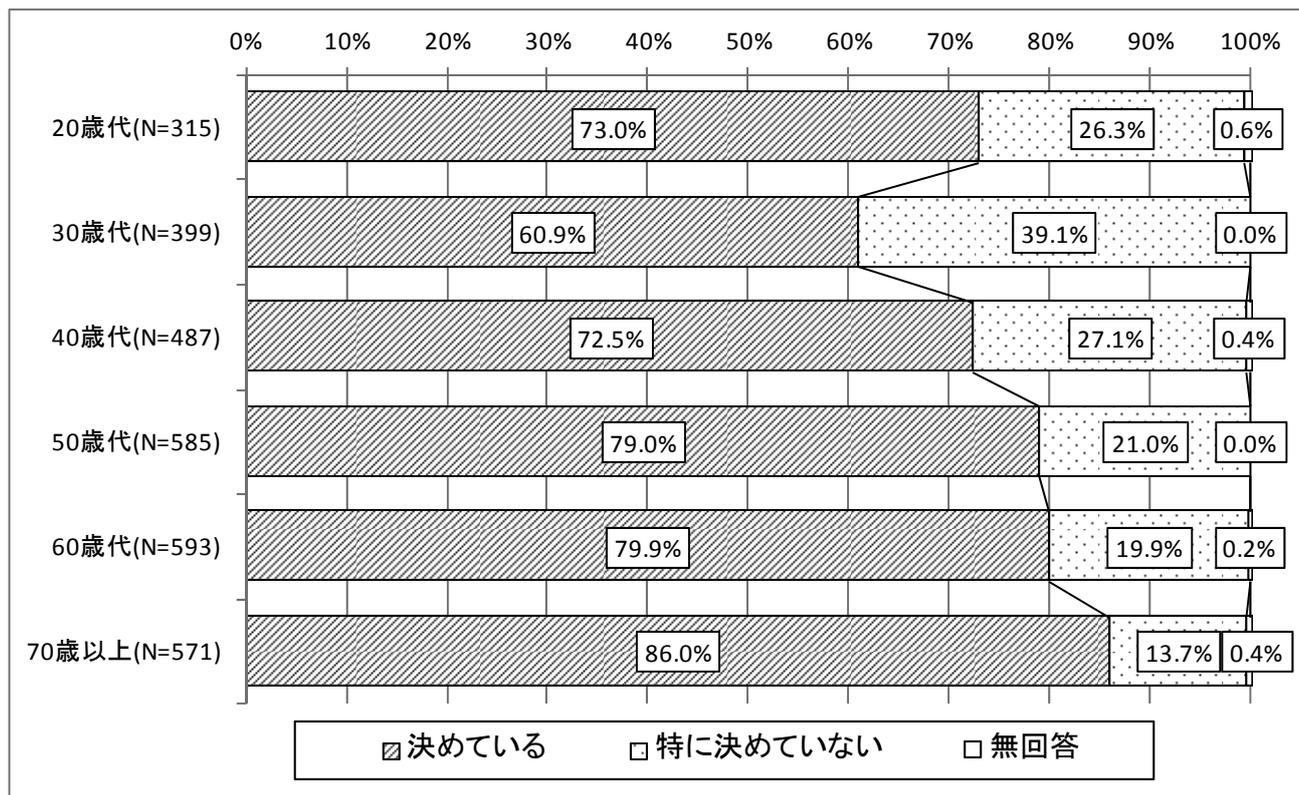
「まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く」と回答した人について、かかりつけ医の有無をたずねたところ、「決めている」が76.4%で、「特に決めていない」の23.4%を大きく上回っており、かかりつけ医を決めている人が多い結果となっています。

図 かかりつけ医の有無－性別



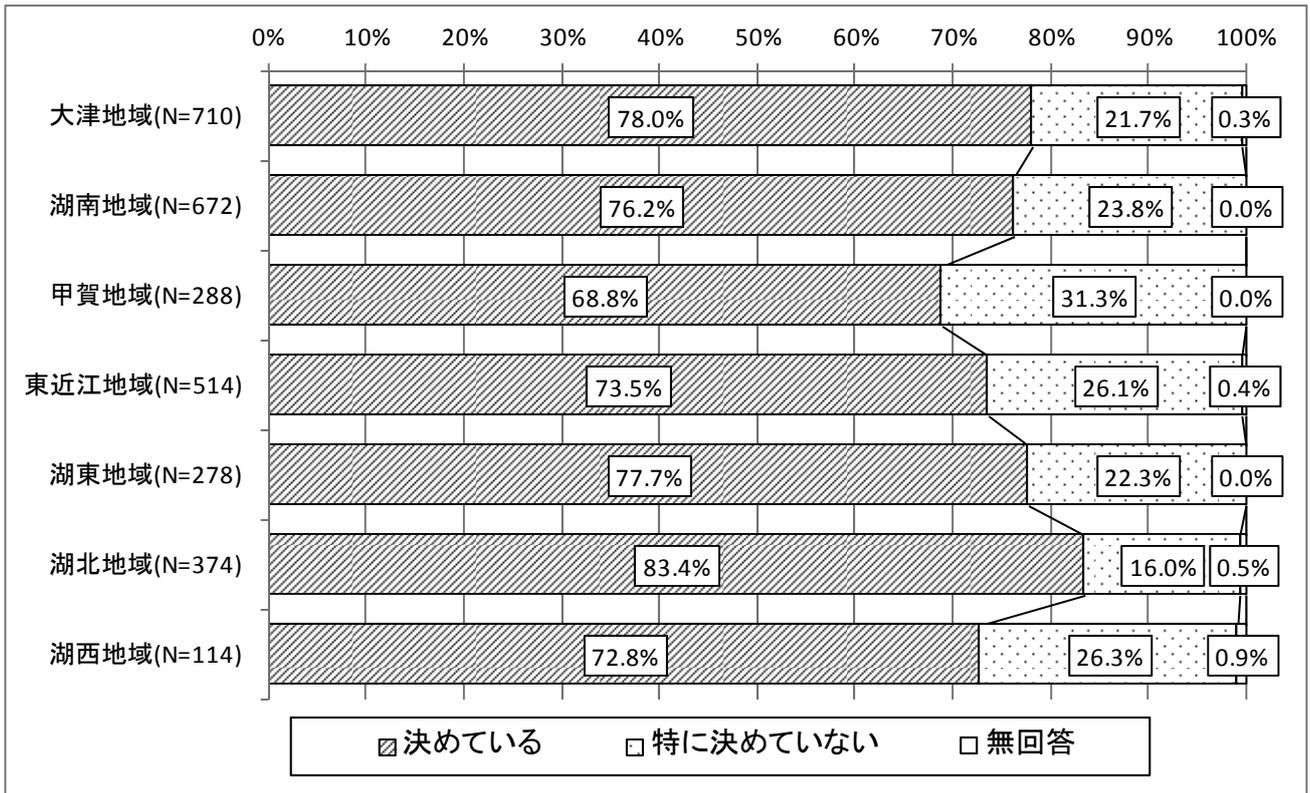
性別にみると、女性の方が男性に比べて「決めている」との回答が多くなっています。

図 かかりつけ医の有無一年齢別



年齢別にみると、30歳代で「決めている」が60.9%と最も少なくなっています。40歳代以上になると「決めている」が増加していきます。

図 かかりつけ医の有無—地域別

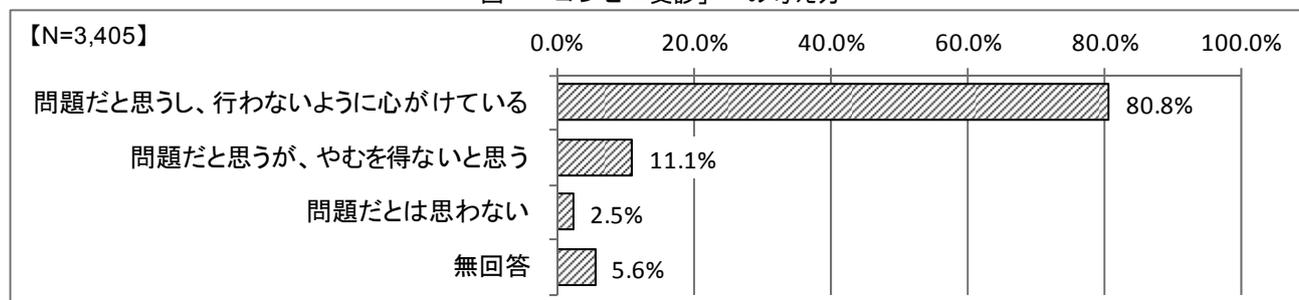


地域別にみると、大きな差異はみられず、いずれの地域でも「決めている」が7～8割前後となっていますが、その中で、甲賀地域は、68.8%とやや低くなっています。

## (6) 「コンビニ受診」への考え方

問 10 軽度な病気でも救急医療を利用するなどの、いわゆる「コンビニ受診」と言われる受診行動について、どのようにお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 「コンビニ受診」への考え方



いわゆる「コンビニ受診」についての考え方については、「問題だと思うし、行わないように心がけている」が80.8%と大半の人は、問題だと考えています。

「問題だと思うが、やむを得ないと思う」と回答した人の具体的な理由については、以下のような回答がありました。

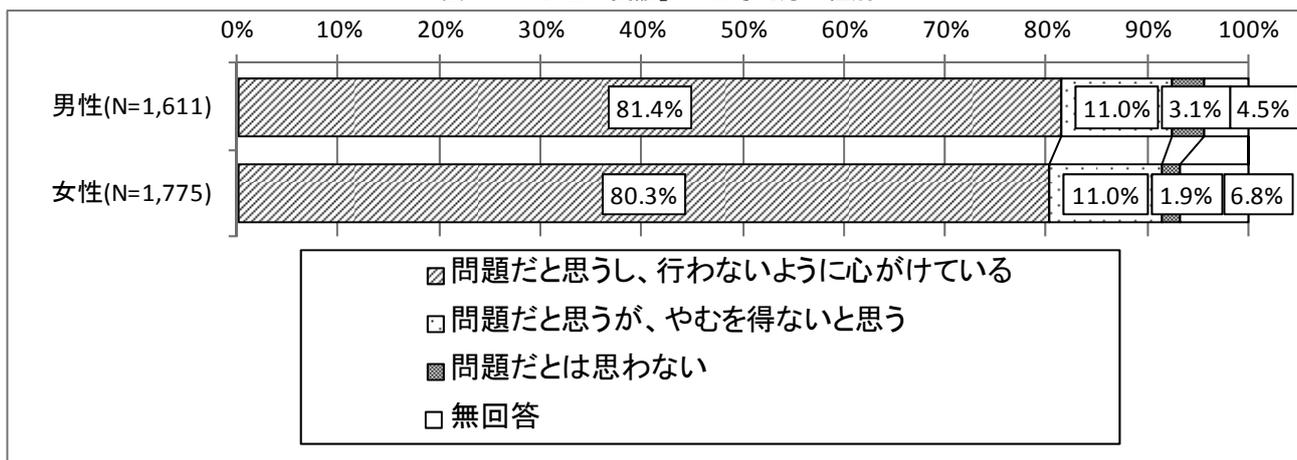
- ・病気が軽度かどうか、自分で素人判断することは危険だから
- ・子どもや高齢者の場合、少しの熱などでも不安だから
- ・土日や休日、夜間などは、近くの診療所で診てもらえないから
- ・軽度かどうかは、診察後にわかることなので、一刻も早く診てもらいたいから

また、「問題だとは思わない」と回答した人の具体的な理由については、以下のような回答がありました。

- ・ひどくなってからでは、手遅れとなるから
- ・すぐに見てもらいたいから
- ・かかりつけ医がないから
- ・どのような症状でも、心配なので大きな病院で診てもらいたいから
- ・自己判断は、危険だから

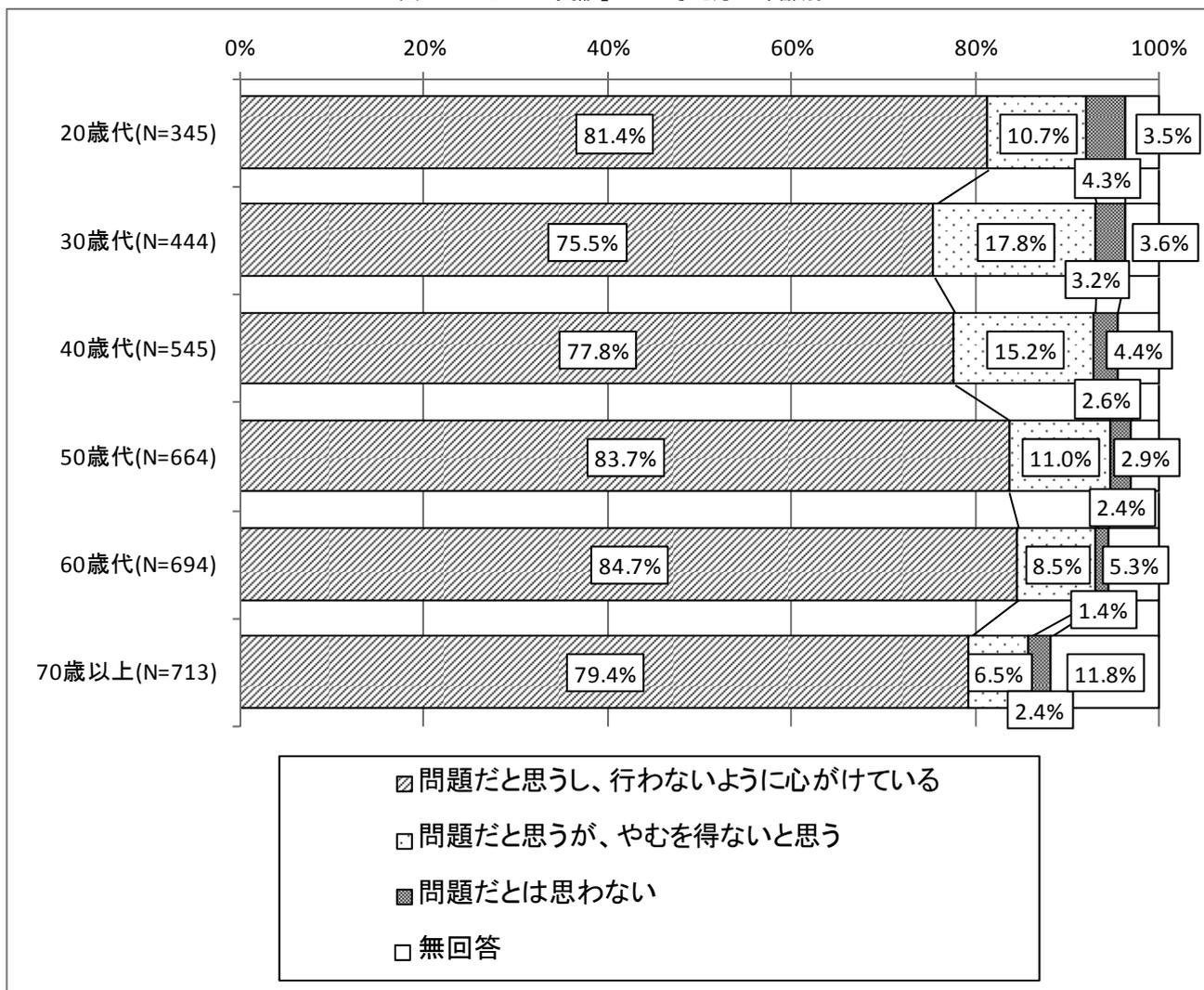
このように、「問題だと思うが、やむを得ないと思う」や「問題だとは思わない」と回答した人の具体的な理由としては、自己判断をすることは危険だからや休日や夜間での急患、子どもや高齢者の場合は不安だからといった理由で、救急を利用したいと考えています。

図 「コンビニ受診」への考え方—性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 「コンビニ受診」への考え方—年齢別

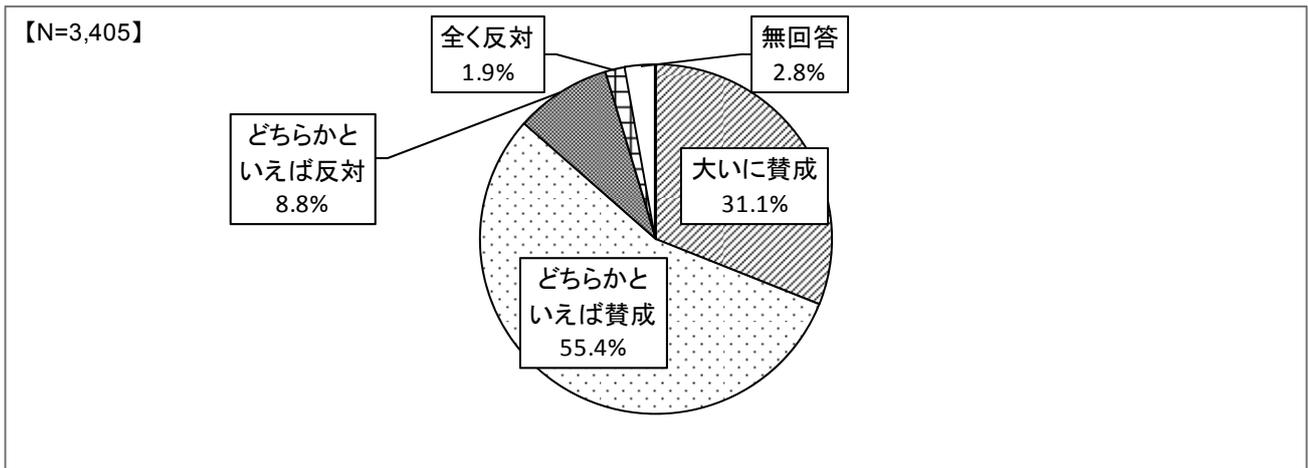


年齢別にみると、大きな差異はみられず、いずれの年代でも「問題だと思うし、行わないように心がけている」が8割前後となっています。

## (7) 診療所と病院の役割分担についての考え方

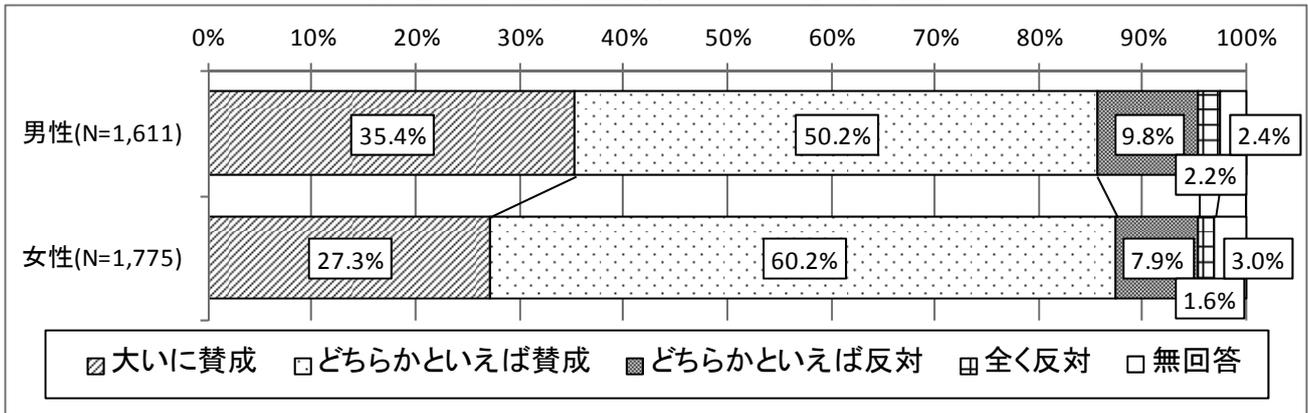
問 11 あなたは、「比較的軽い病気やけがは、患者の近くの診療所・医院が治療を受け持ち、比較的大きな病院は、病状が進んだ患者の治療や難しい病気の治療に専念すべきである」という考え方についてどう思われますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 診療所と病院の役割分担についての考え方



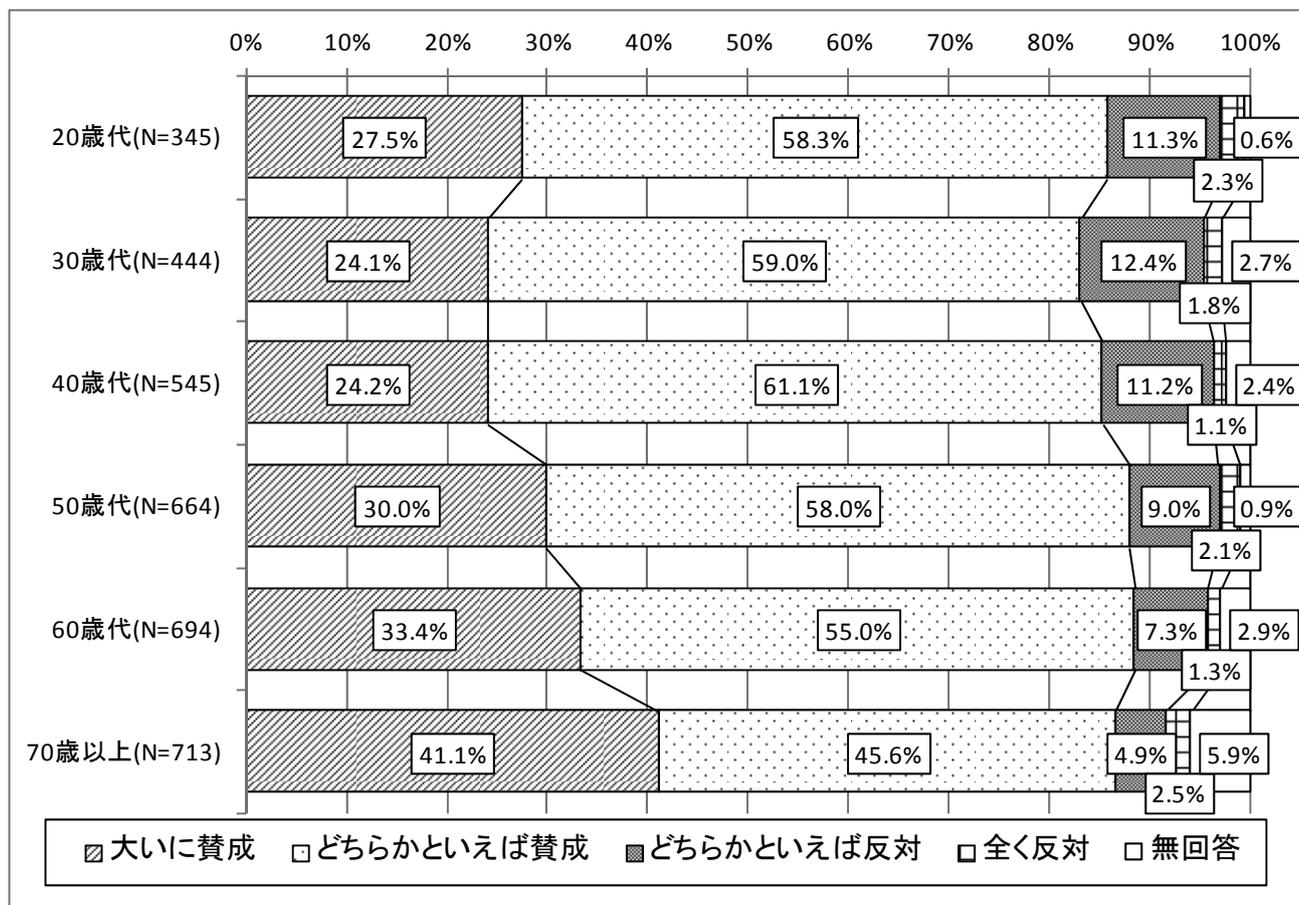
診療所と病院の役割分担についての考え方では、「どちらかといえば賛成」が 55.4%、「大いに賛成」が 31.1%で合わせて 86.2%となり、役割分担を支持する人が大半となっています。

図 診療所と病院の役割分担についての考え方—性別



性別にみると、大きな差異はみられませんが、男性の方が「大いに賛成」が多くなっています。

図 診療所と病院の役割分担についての考え方一年齢別

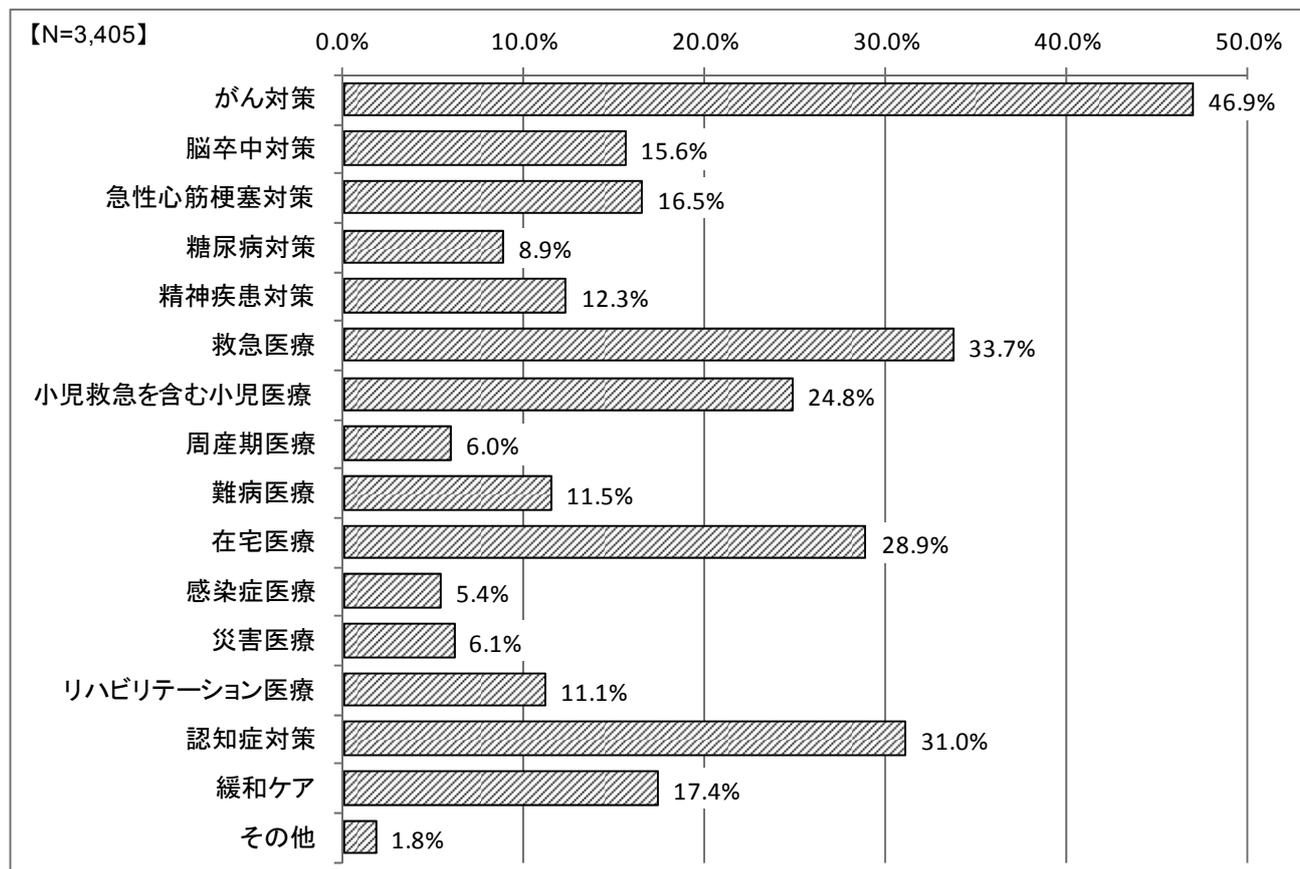


年齢別にみると、「大いに賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると8割以上となっていますが、「どちらかといえば反対」が20歳代から40歳代で多くなっています。また、「大いに賛成」は30歳代の24.1%が最も少なく、それ以降の年代では徐々に増加していきます。

## (8) 今後充実してほしい医療分野

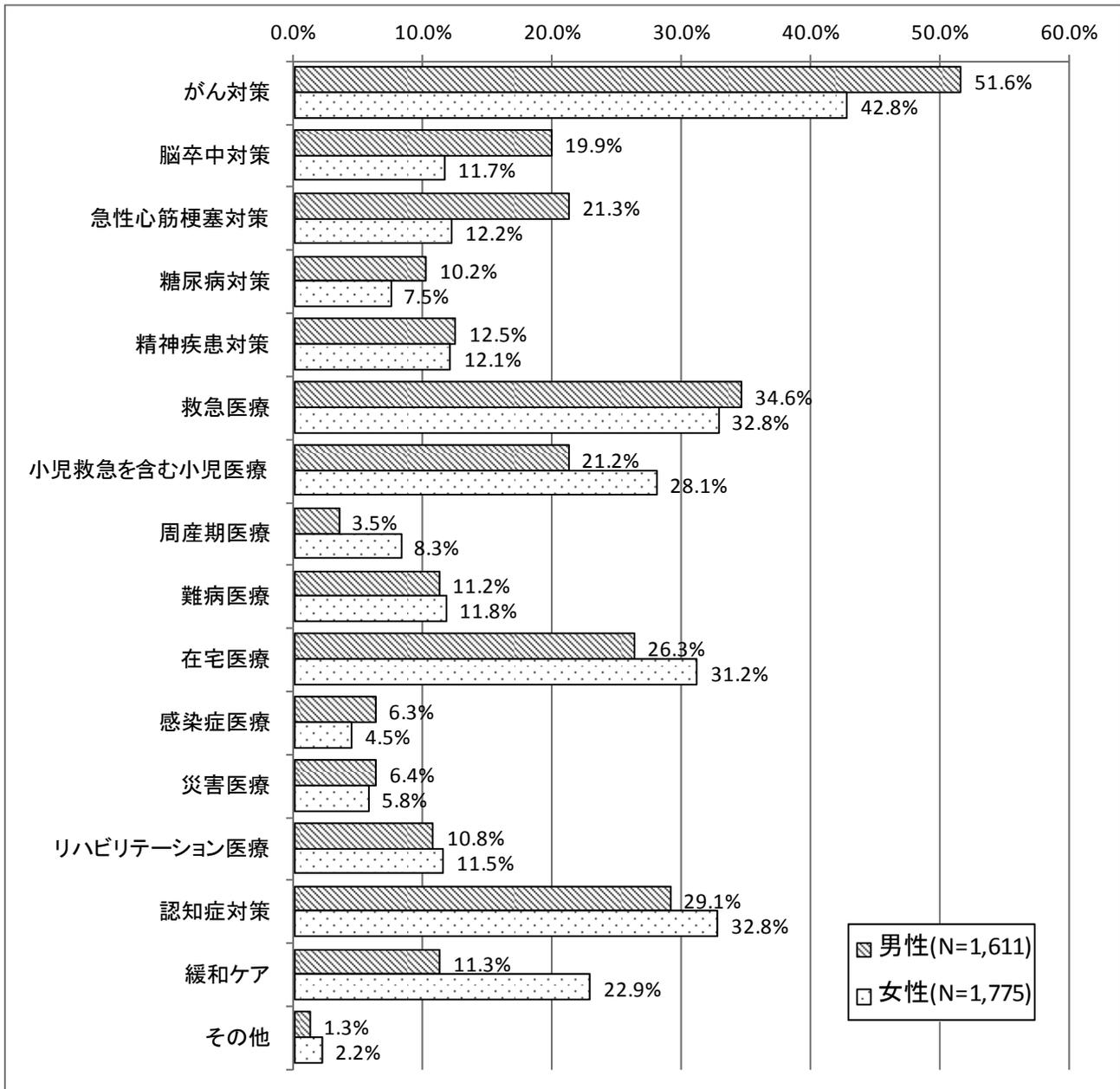
問 12 あなたが今後充実して欲しいと思う医療分野は何ですか。あてはまるもの3つに〇をしてください。

図 今後充実してほしい医療分野



今後充実を望んでいる医療分野では、「がん対策」が46.9%、「救急医療」が33.7%、「認知症対策」が31.0%、「在宅医療」が28.9%、「小児救急を含む小児医療」が24.8%などとなっています。

図 今後充実してほしい医療分野—性別



性別にみると、男性は女性に比べて「がん対策」や「脳卒中对策」「急性心筋梗塞対策」「糖尿病対策」などが多く、女性は男性に比べて「小児救急を含む小児医療」や「緩和ケア」「在宅医療」などが多くなっています。

表 今後充実してほしい医療分野一年齢別

	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	がん対策 49.6%	救急医療 43.2%	小児救急を含む 小児医療 39.1%	精神疾患対策 22.0%	認知症対策 20.9%
30歳代	小児救急を含む 小児医療 58.1%	がん対策 46.2%	救急医療 41.3%	在宅医療 21.8%	認知症対策 20.0%
40歳代	がん対策 47.2%	救急医療 41.3%	認知症対策 31.0%	小児救急を含む 小児医療 28.3%	在宅医療 27.3%
50歳代	がん対策 45.0%	在宅医療 36.6%	認知症対策 36.4%	救急医療 34.9%	小児救急を含む 小児医療 20.3%
60歳代	がん対策 49.3%	在宅医療 34.7%	認知症対策 32.9%	救急医療 29.0%	急性心筋梗塞対策 19.7%
70歳以上	がん対策 45.3%	認知症対策 36.0%	在宅医療 26.8%	急性心筋梗塞対策 26.1%	脳卒中対策 22.6%

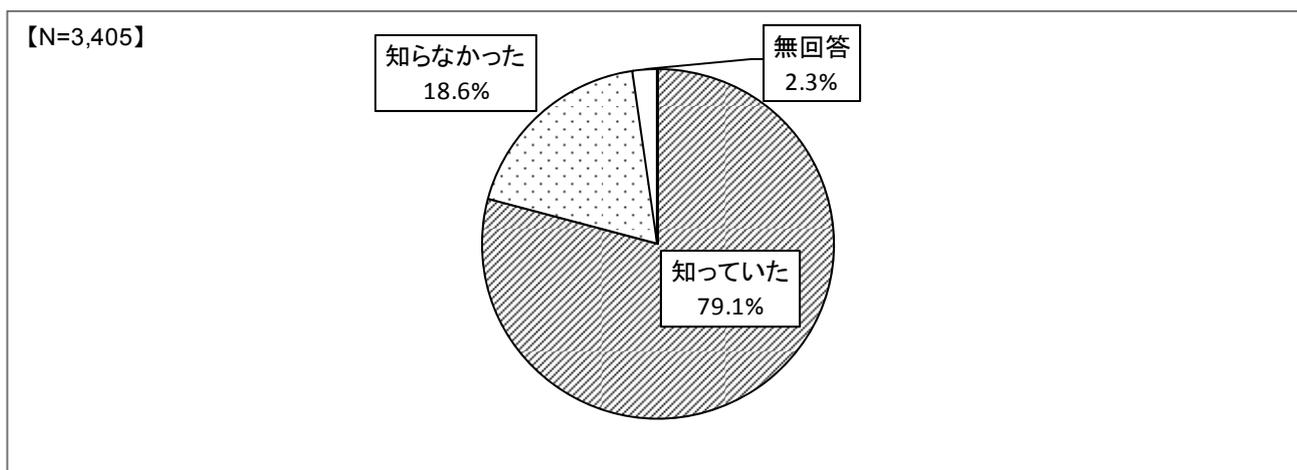
年齢別にみると、「がん対策」を始め「救急医療」や「認知症対策」「在宅医療」はいずれの年代でも上位にきています。20歳代から50歳代では「小児救急を含む小児医療」が、60歳代や70歳以上では「急性心筋梗塞対策」や「脳卒中対策」が上位となっています。

### 3. 在宅医療・終末期医療について

#### (1) 在宅医療の認知度

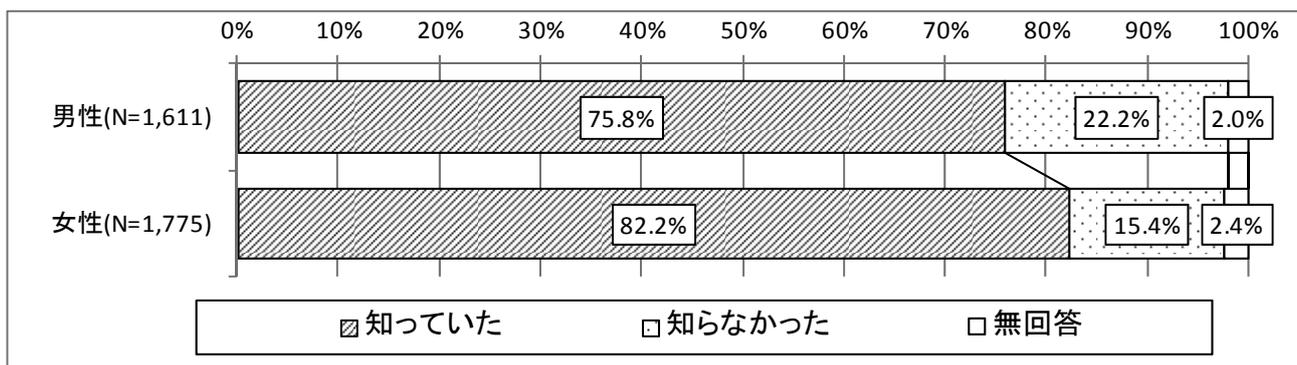
問 13 通院できなくなった場合などに、医師や看護師などの訪問を受けながら自宅で治療・療養する医療のあり方を「在宅医療」といいます。あなたは、このような「在宅医療」という方法があることを知っていましたか。

図 在宅医療の認知度



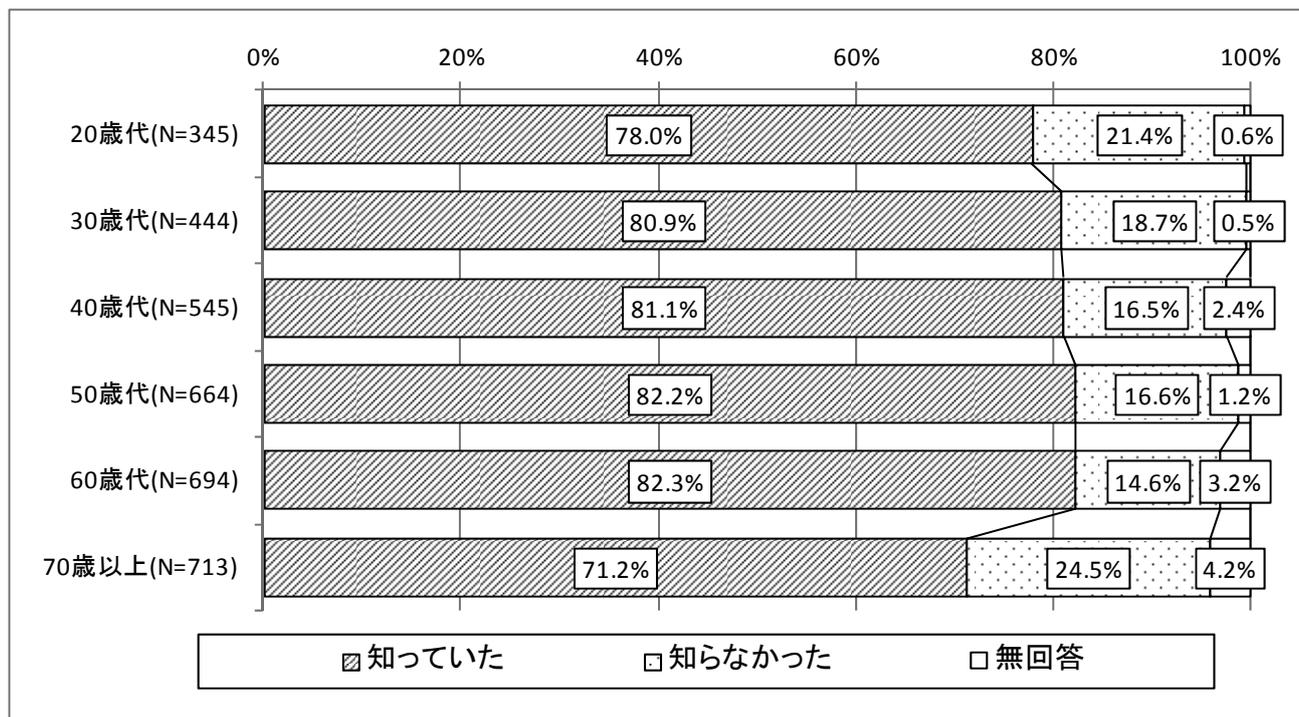
在宅医療の認知度では、「知っていた」が 79.1%で、「知らなかった」の 18.6%を上回っています。

図 在宅医療の認知度－性別



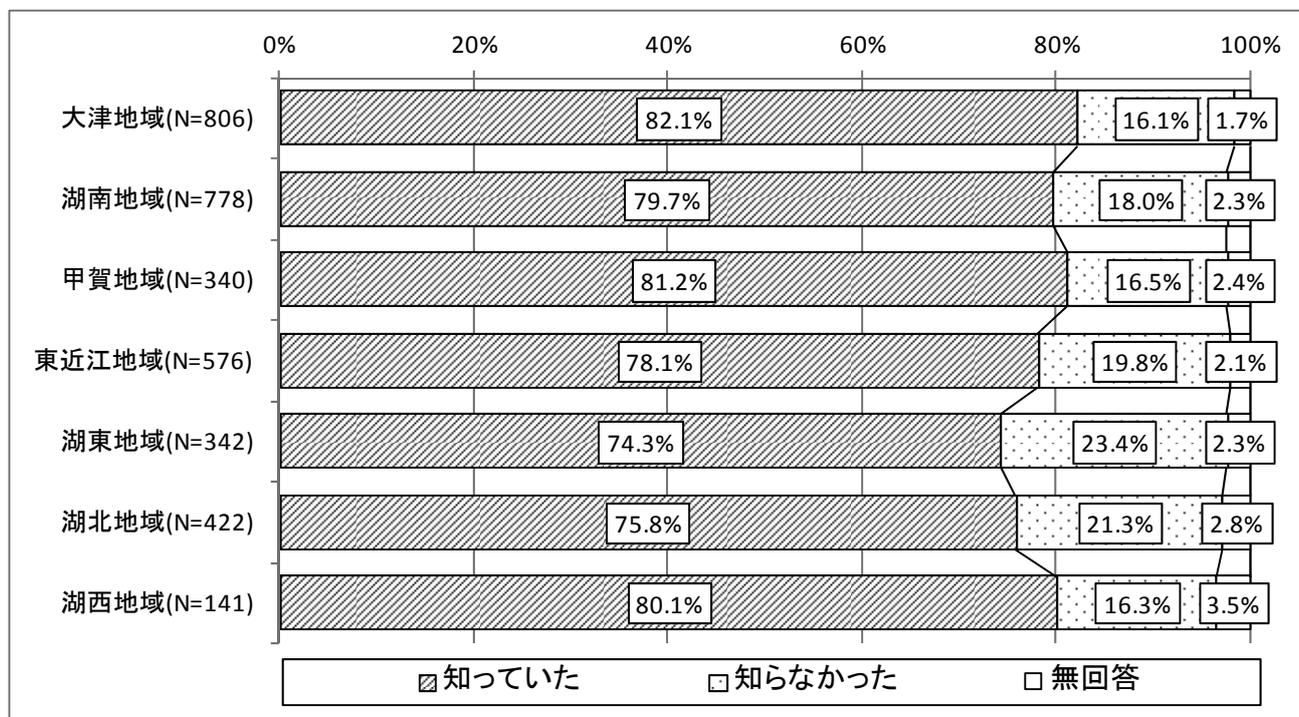
在宅医療の認知度を性別にみると、女性の方が「知っていた」が多くなっています。

図 在宅医療の認知度—年齢別



年齢別にみると、「知っていた」は70歳以上の71.2%が最も少なく、20歳代から60歳代の年代では概ね8割前後の認知度となっています。

図 在宅医療の認知度—地域別



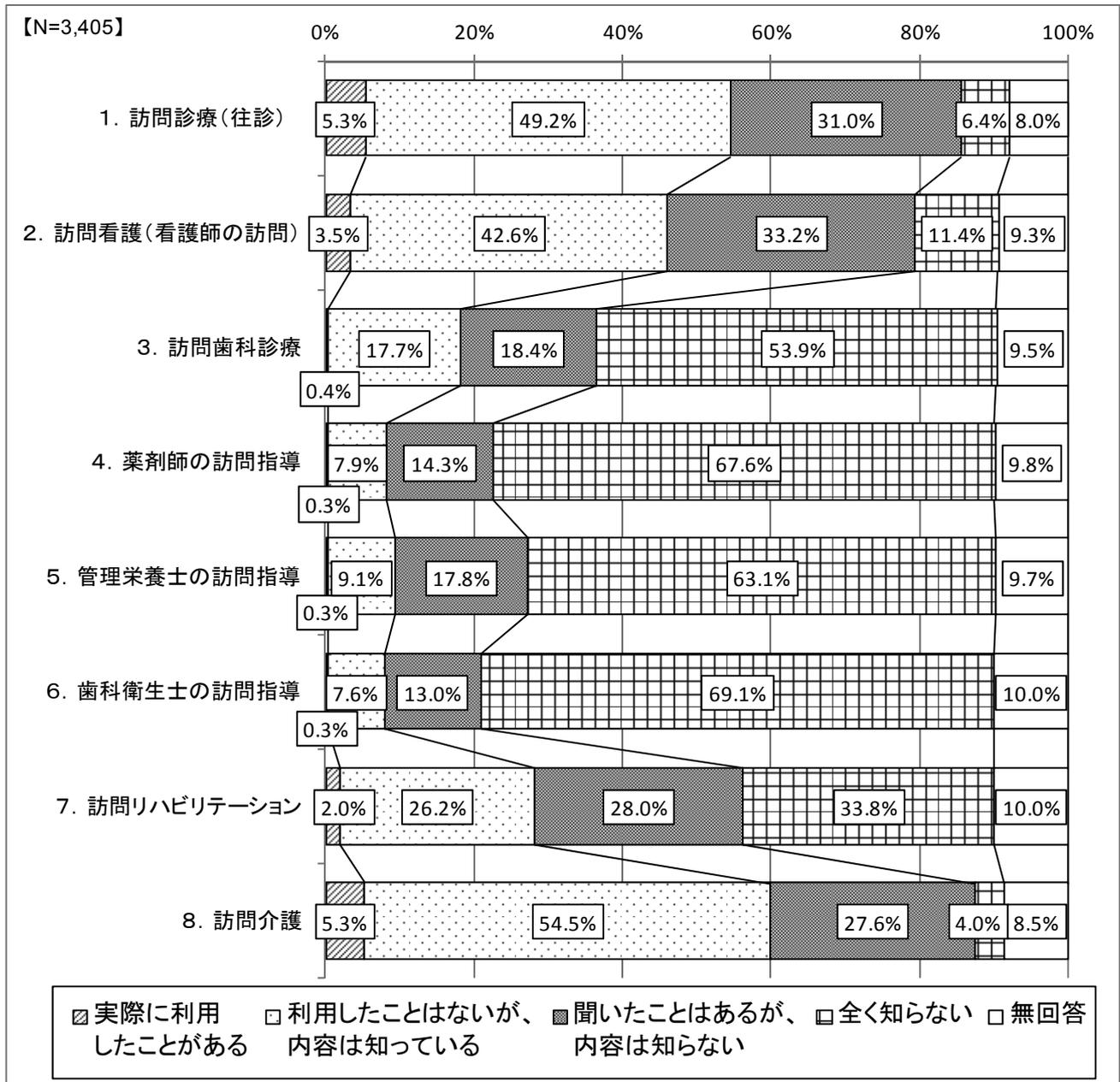
地域別にみると、大きな差異はみられません。

(2) 在宅医療の各サービスの認知度

問 14 (すべての方におたずねします。) 在宅医療を支える仕組みの中で、あなたは下記のようなサービスがあることを知っていますか。それぞれのサービスについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 訪問診療 (往診)
2. 訪問看護 (看護師の訪問)
3. 訪問歯科診療
4. 薬剤師の訪問指導
5. 管理栄養士の訪問指導
6. 歯科衛生士の訪問指導
7. 訪問リハビリテーション (リハビリスタッフの訪問)
8. 訪問介護 (ヘルパーの訪問)

図 在宅医療の各サービスの認知度

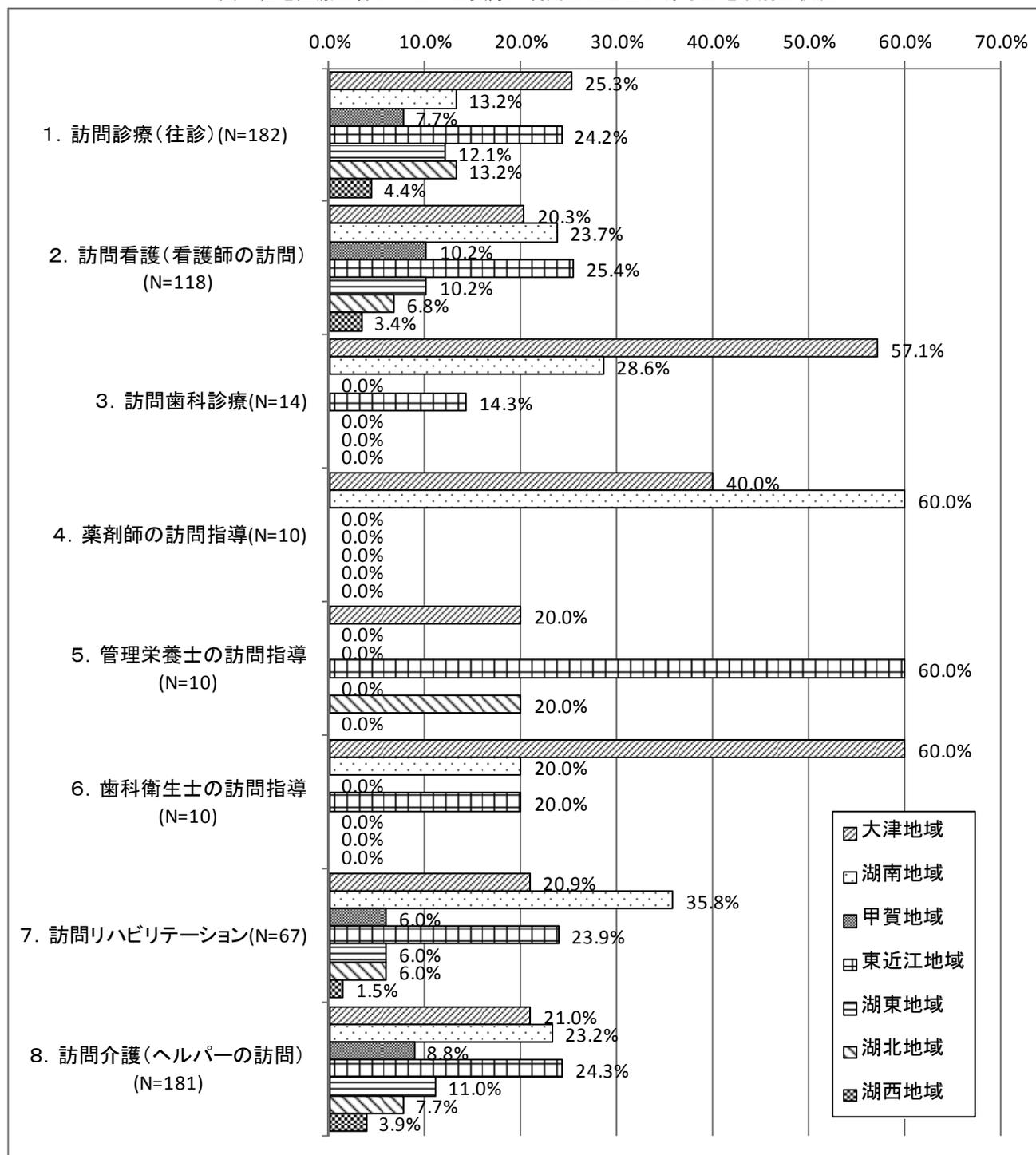


在宅医療の各サービスについての認知度では、「実際に利用したことがある」が多いサービスでは、「訪問診療（往診）」と「訪問介護（ヘルパーの訪問）」のそれぞれ5.3%で、それ以外のサービスについては数パーセント以下の状況です。中でも、「訪問歯科診療」や「薬剤師の訪問指導」「管理栄養士の訪問指導」「歯科衛生士の訪問指導」は、いずれも1%以下の利用となっていて、ほとんど利用されていません。

「利用したことはないが、内容は知っている」サービスでは、「訪問介護（ヘルパーの訪問）」の54.5%が最も多く、次いで「訪問診療（往診）」の49.2%、「訪問看護（看護師の訪問）」の42.6%となっています。

一方、「全く知らない」が多いサービスでは、「歯科衛生士の訪問指導」の69.1%や「薬剤師の訪問指導」の67.6%、「管理栄養士の訪問指導」の63.1%、「訪問歯科診療」の53.9%があり、これらのサービスの認知度は低いといえます。

図 在宅医療の各サービスの実際に利用したことがあるの地域別の状況

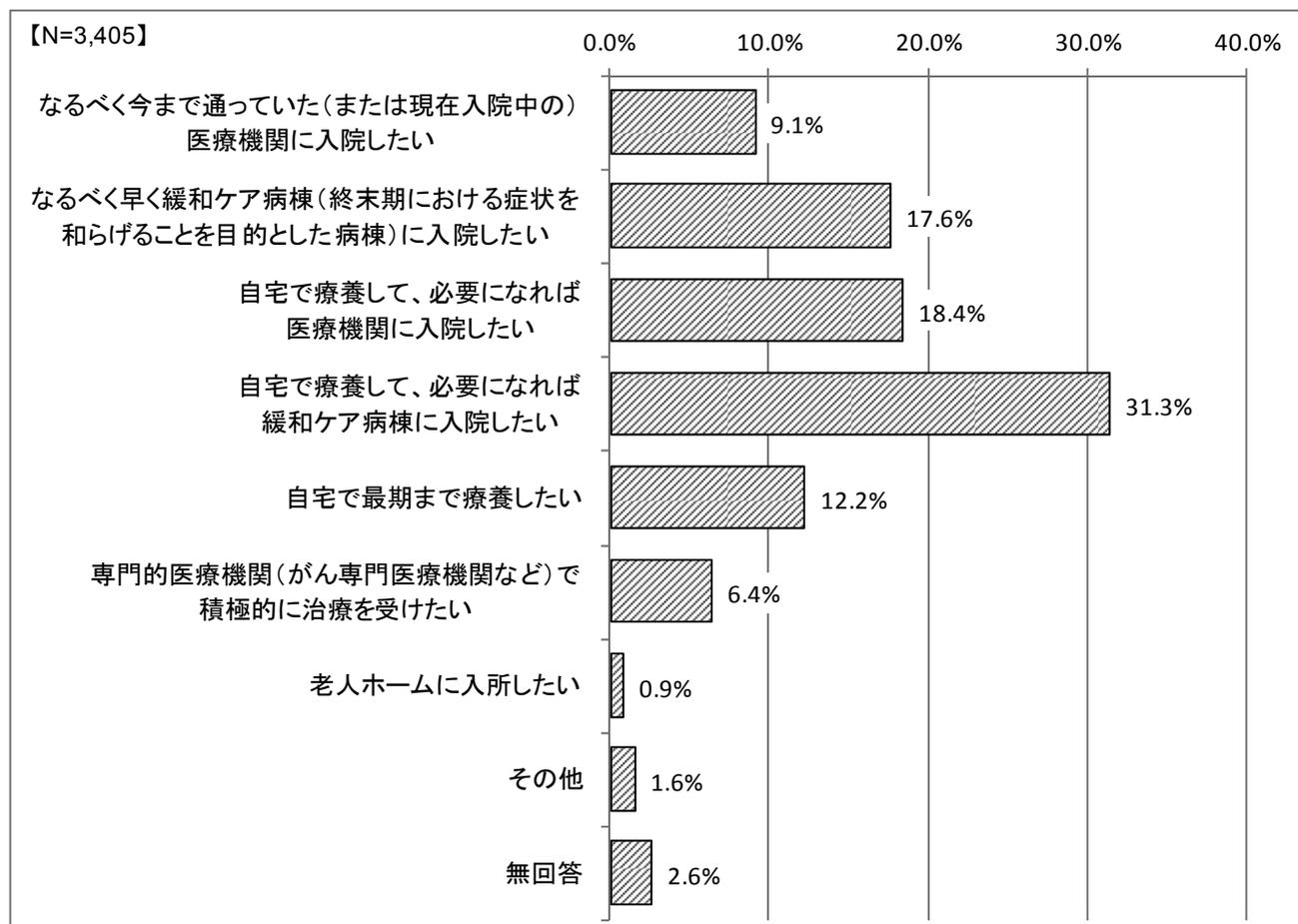


在宅医療の各サービスの認知度について実際に利用したことがあるとの回答の地域別の状況を見ると、比較的利用したとの回答が多い「訪問診療（往診）」では、大津地域や東近江地域での利用は多くなっていますが、甲賀地域や湖西地域での利用が少なくなっています。「訪問看護（看護師の訪問）」は、東近江地域や湖南地域での利用が多く見られます。「訪問歯科診療」や「薬剤師の訪問指導」「管理栄養士の訪問指導」「歯科衛生士の訪問指導」は、実際に利用したことがあるとの回答がごく少数ですが、地域的には偏りが大きくなっています。「訪問リハビリテーション」は湖南地域や東近江地域、大津地域での利用が多くみられます。

### (3) ターミナルケアについての考え方

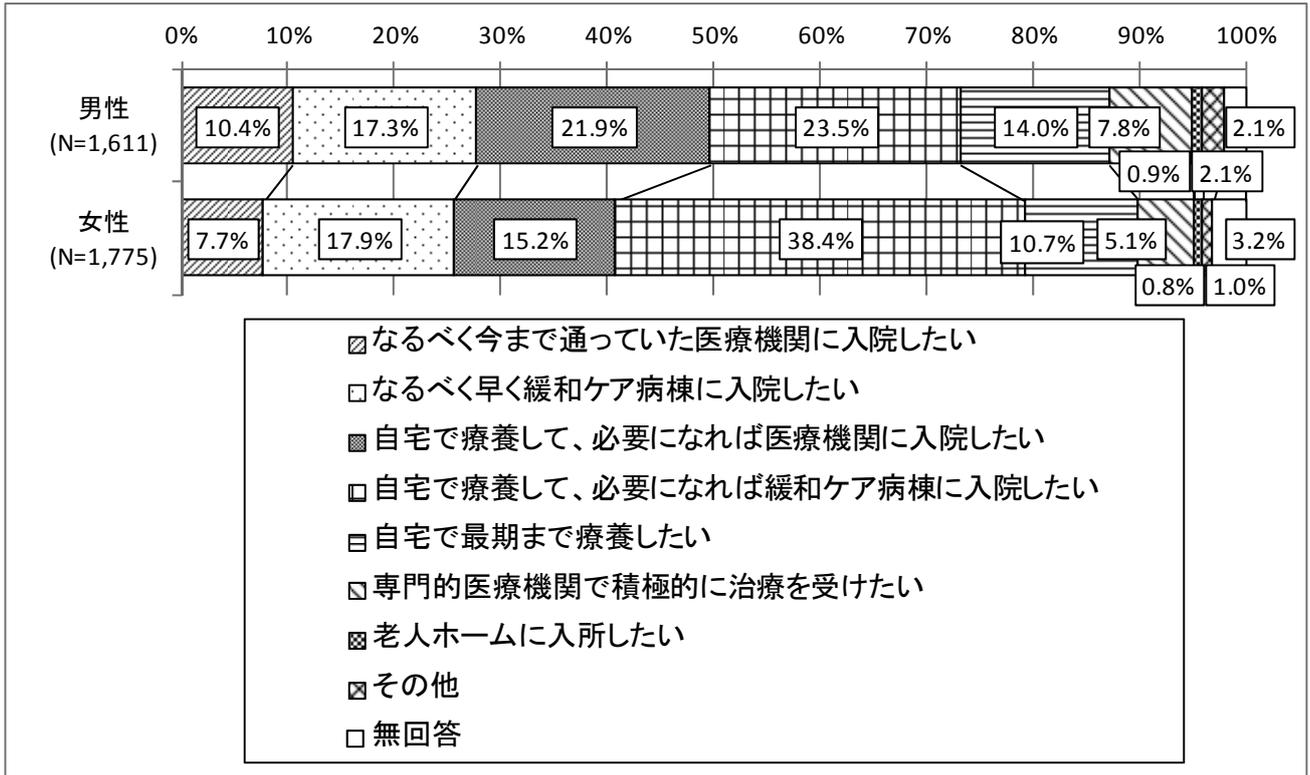
問 15 仮に、あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく6ヶ月以内に死期が迫っている状態だとした場合、どのようにしたいと思われますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 ターミナルケアについての考え方



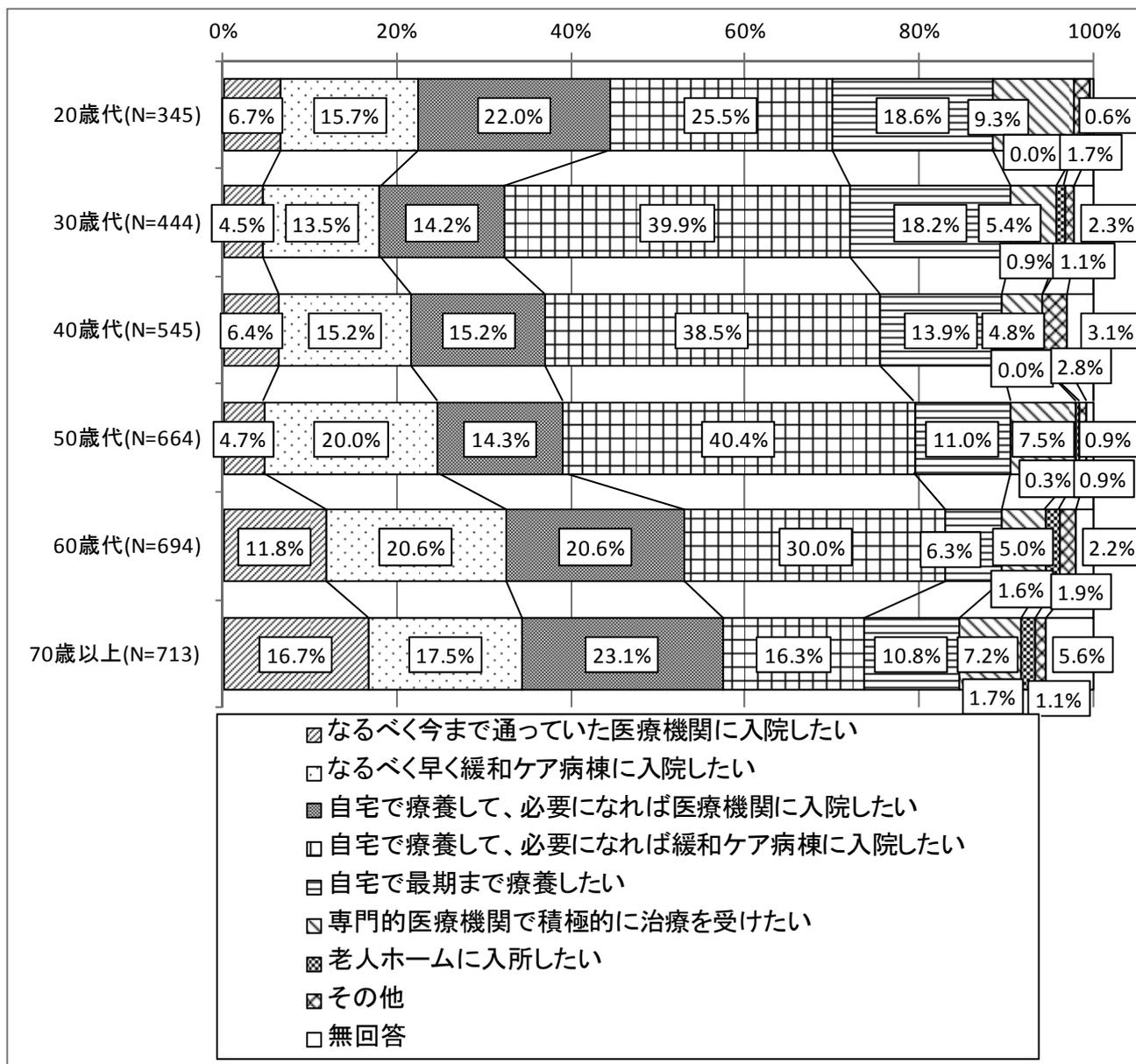
ターミナルケア(終末期医療)では、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が31.3%と最も多く、次いで「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」の18.4%、「なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)に入院したい」の17.6%、「自宅で最期まで療養したい」の6.4%となっています。

図 ターミナルケアについての考え方—性別



性別にみると、女性は男性に比べて「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が多くなっており、男性は「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」が多くなっています。

図 ターミナルケアについての考え方一年齢別

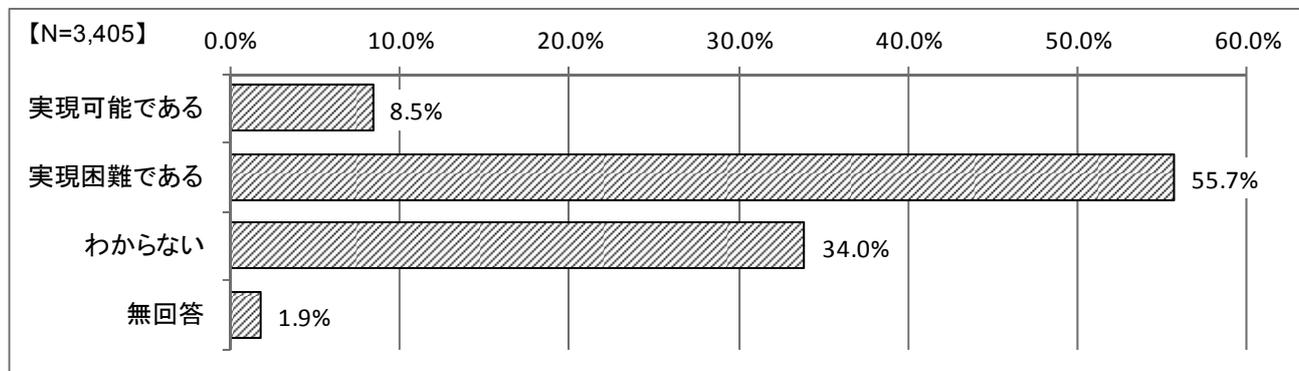


年齢別にみると、60歳代や70歳以上では「なるべく今まで通っていた医療機関に入院したい」や「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」と在宅での治療やなじみのある医療機関を選ぶ傾向がみられる。また、30歳代から50歳代では「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が4割前後と多くなっています。

#### (4) 自宅で最期まで療養できるか

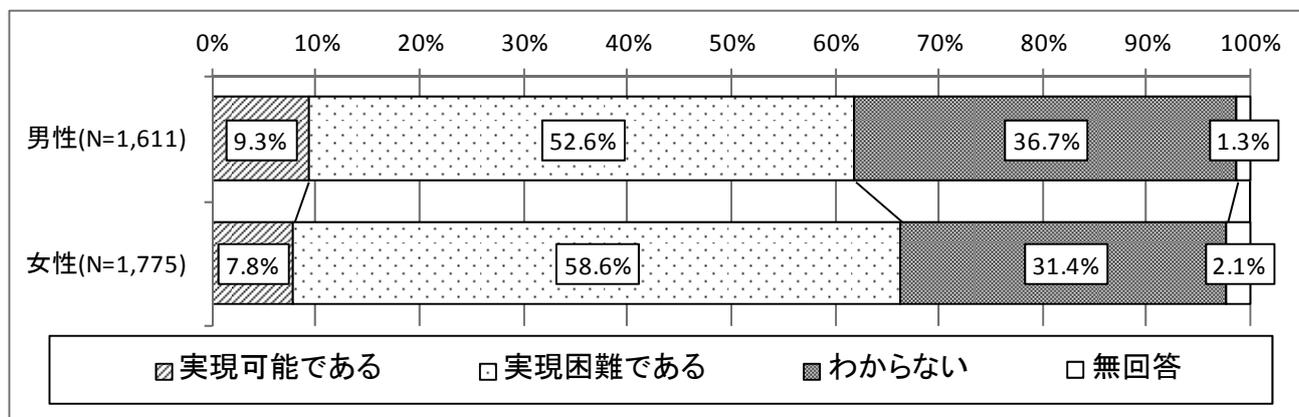
問 16 あなたは自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 自宅で最期まで療養できるか



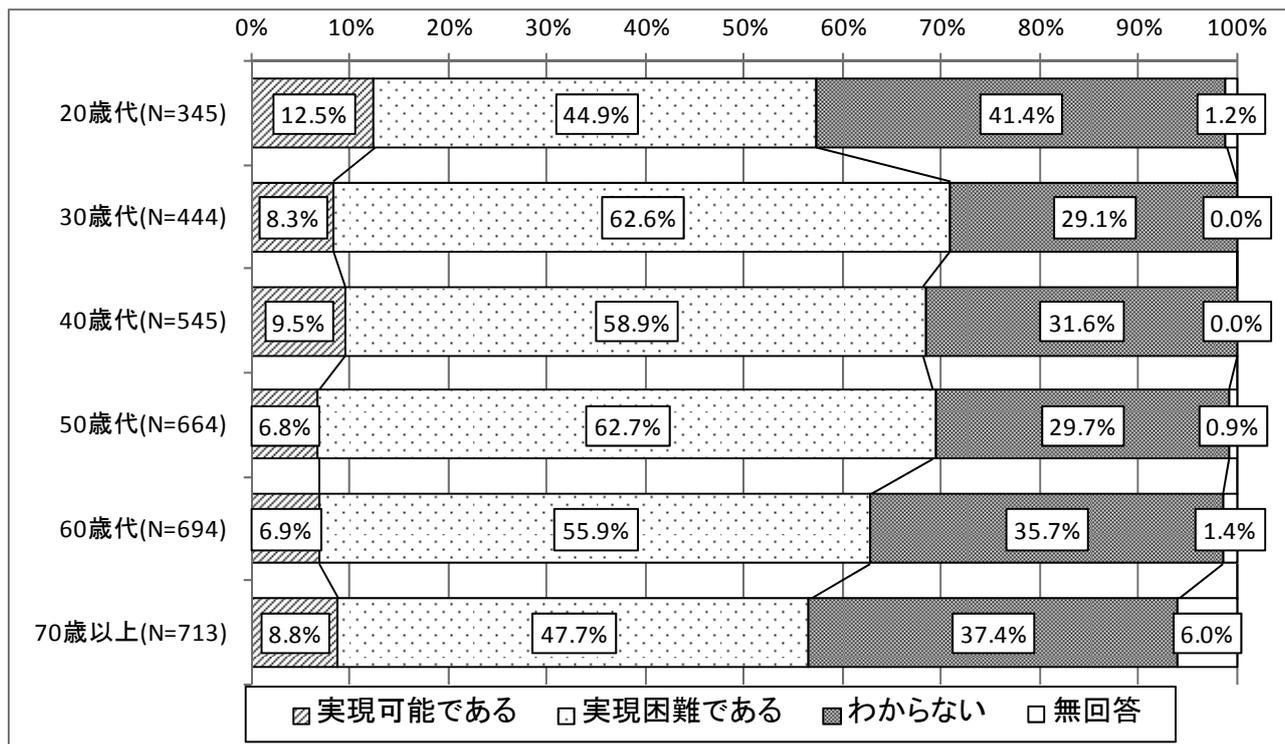
自宅で最期まで療養できるかでは、「実現困難である」が55.7%で、「実現可能である」の8.5%を大きく上回っています。

図 自宅で最期まで療養できるかー性別



性別にみると、大きな差異はみられずいずれも「実現困難である」が多くなっています。

図 自宅で最期まで療養できるか一年齢別

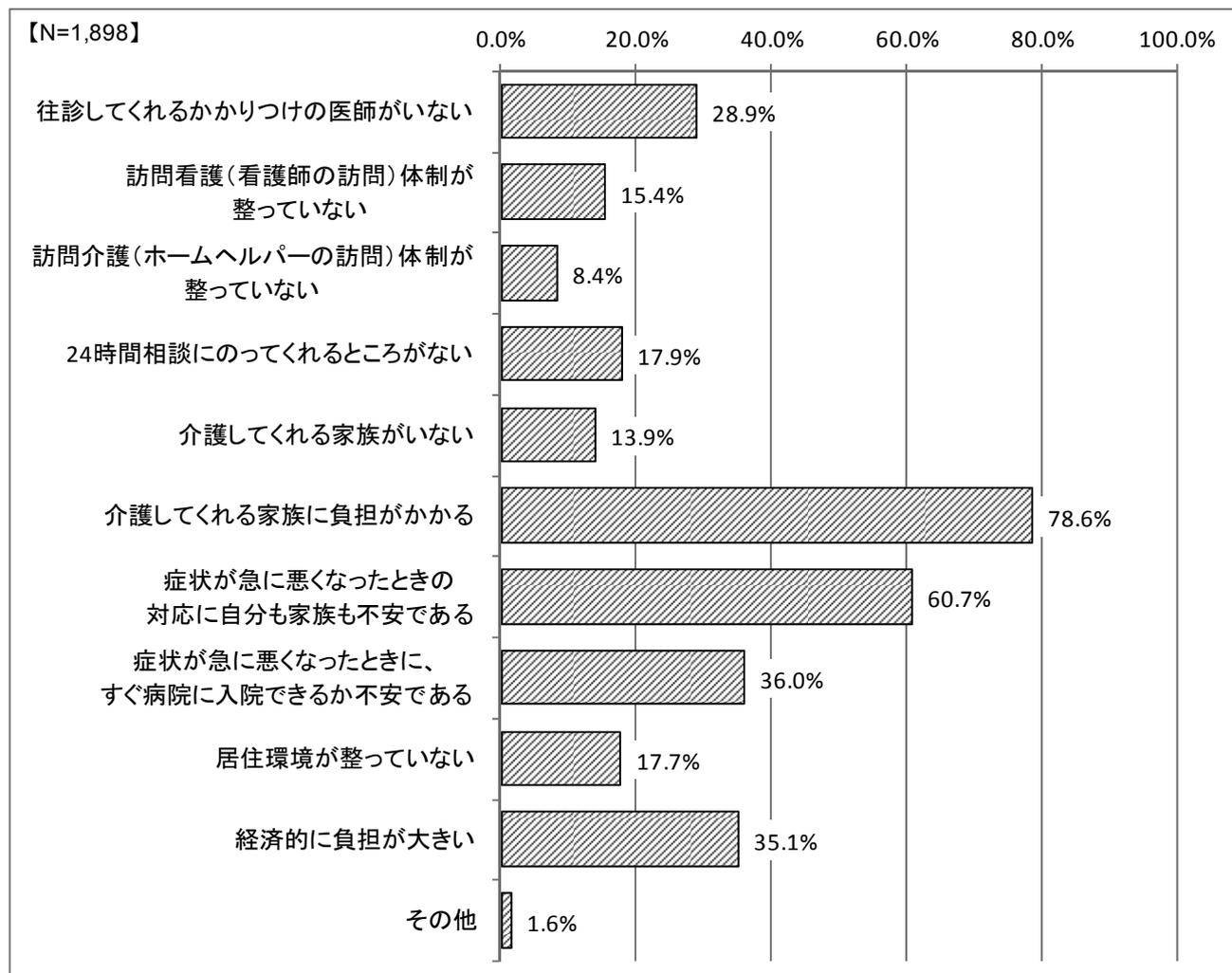


年齢別にみると、「実現可能である」はいずれの年代でも大きな差異はみられず、「わからない」が20歳代や60歳代、70歳以上で多くなっています。

## (5) 自宅療養が実現困難な理由

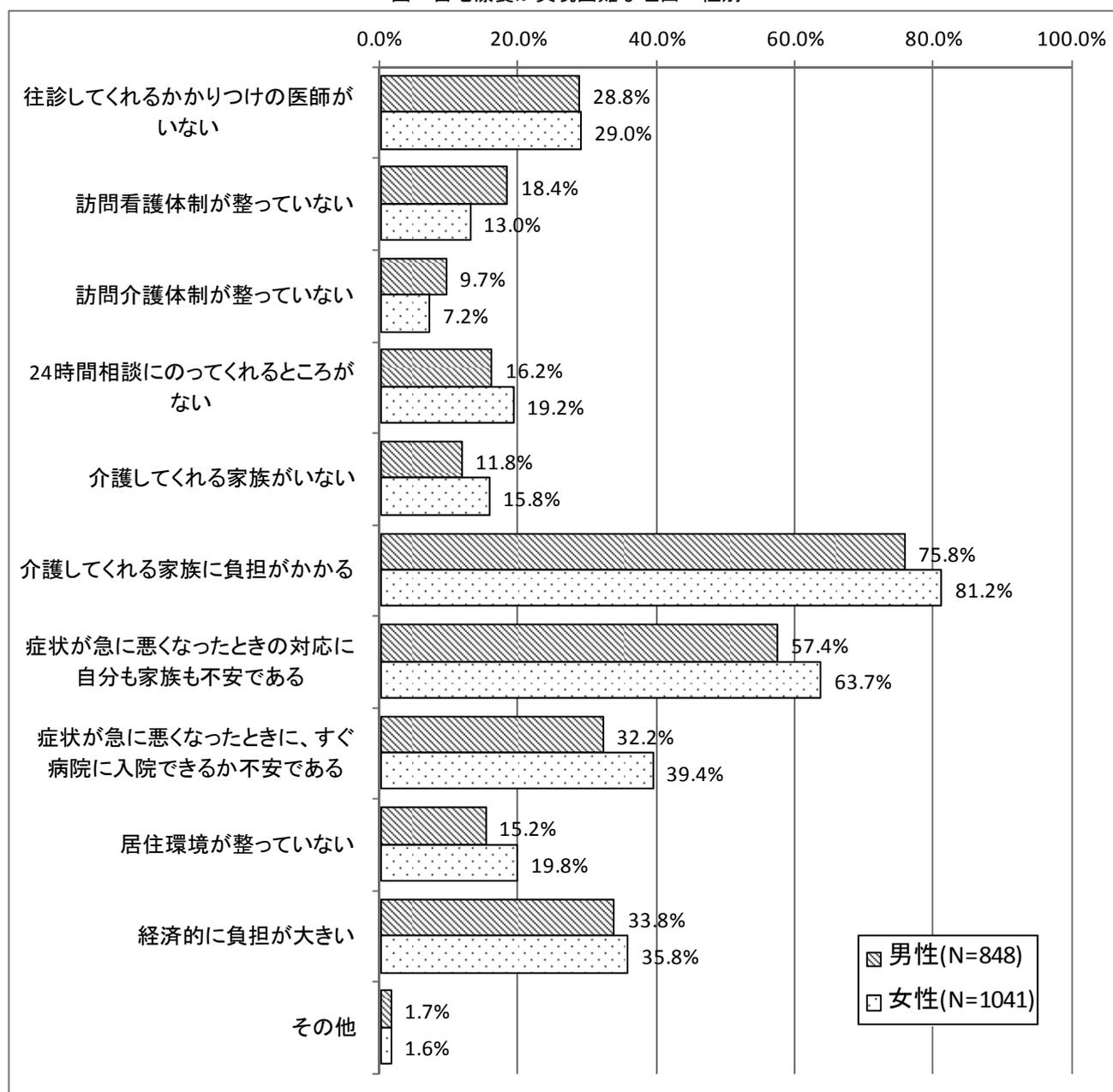
問 16-1 問 16 で「2. 実現困難である」とお答えの方におたずねします。実現困難であるとお考えになる具体的な理由はどのようなことでしょうか。お考えに近いものすべてに○をつけてください。

図 自宅療養が実現困難な理由



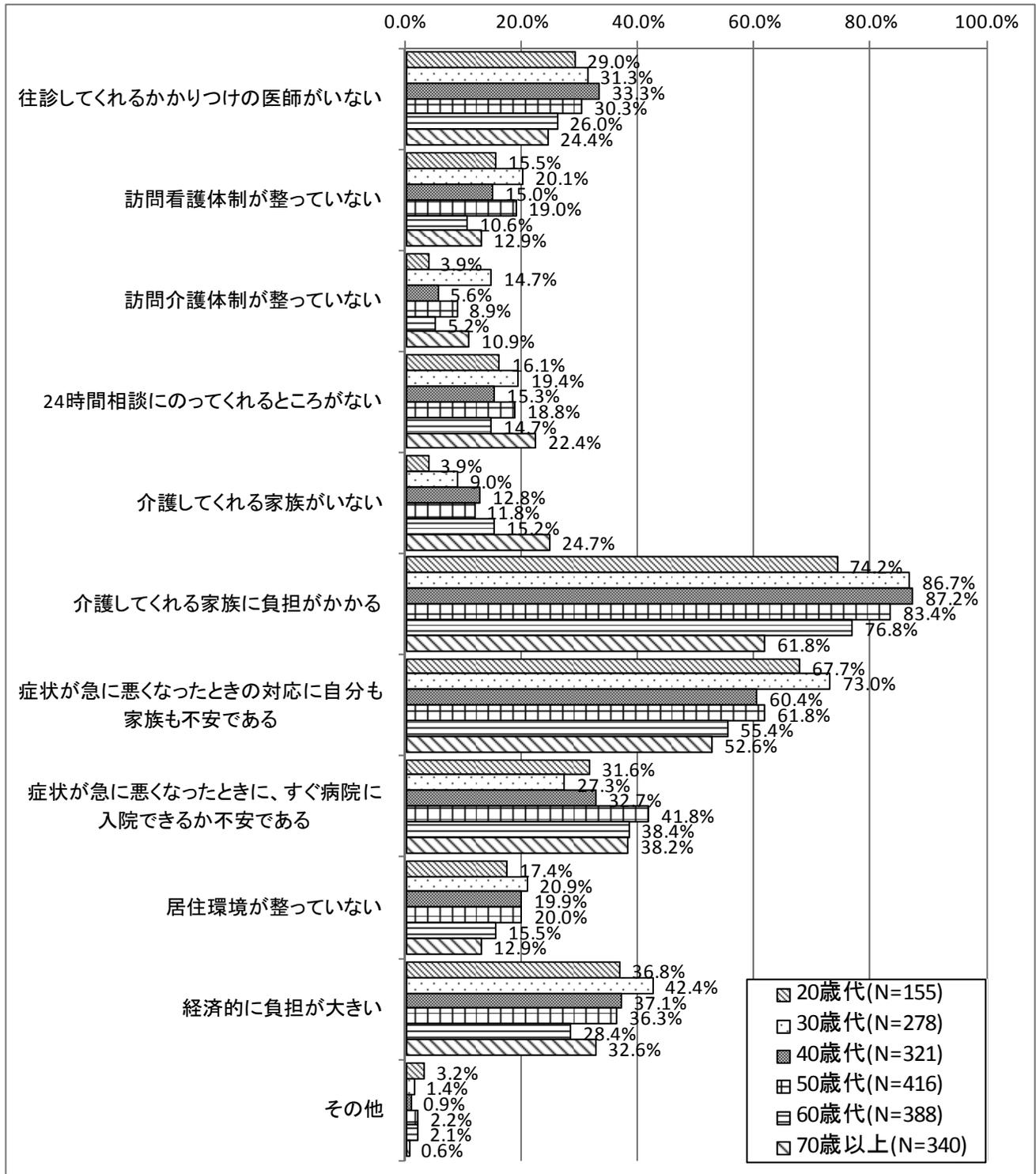
「実現困難である」と回答した人について、実現困難な理由をたずねたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が78.6%、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」の60.7%が多くなっています。

図 自宅療養が実現困難な理由—性別



性別にみると、女性は男性に比べて「介護してくれる家族に負担がかかる」「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が多くなっており、家族への負担がかかることを懸念しています。

図 自宅療養が実現困難な理由一年齢別

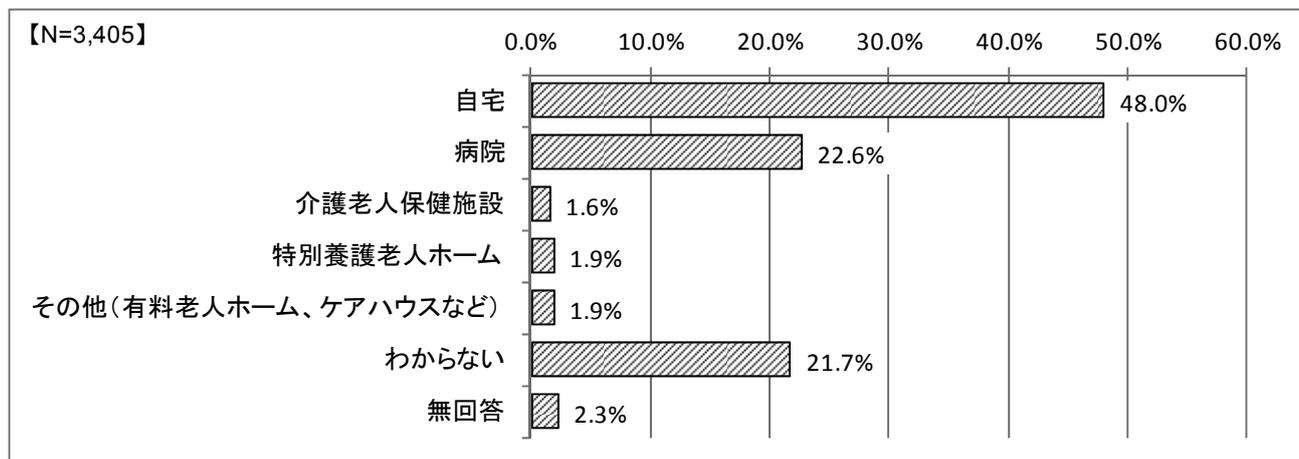


年齢別にみると、大きな差異はみられず、いずれの年代でも「介護してくれる家族に負担がかかる」や「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が多くなっています。

## (6) 人生の最期を迎えたい場所

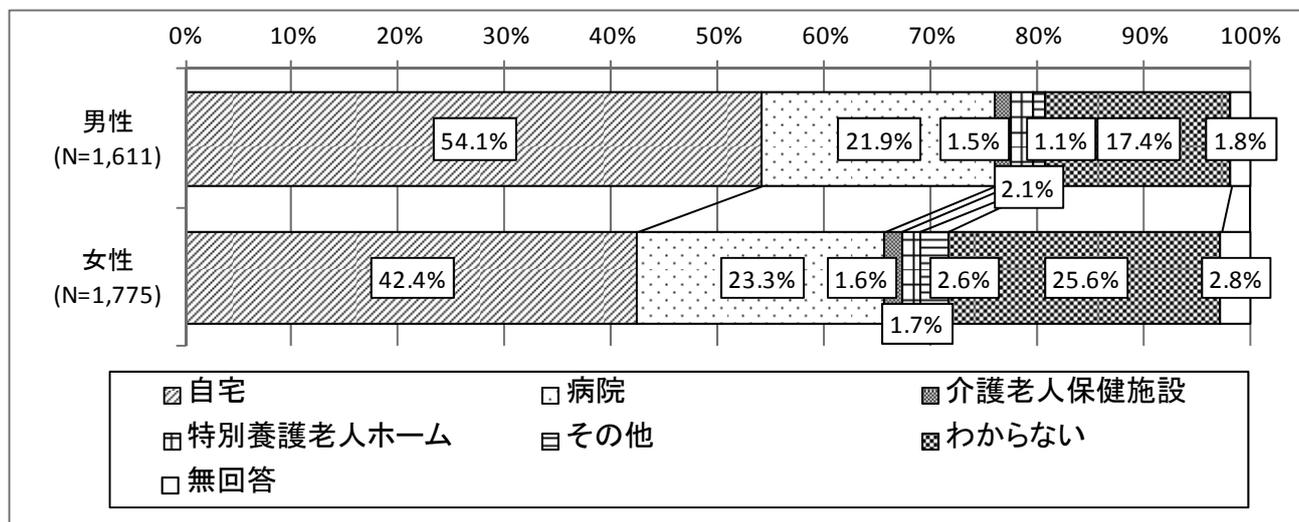
問17 あなたは、人生の最期（看取り）をどこで迎えたいですか。あなたの考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

図 人生の最期を迎えたい場所



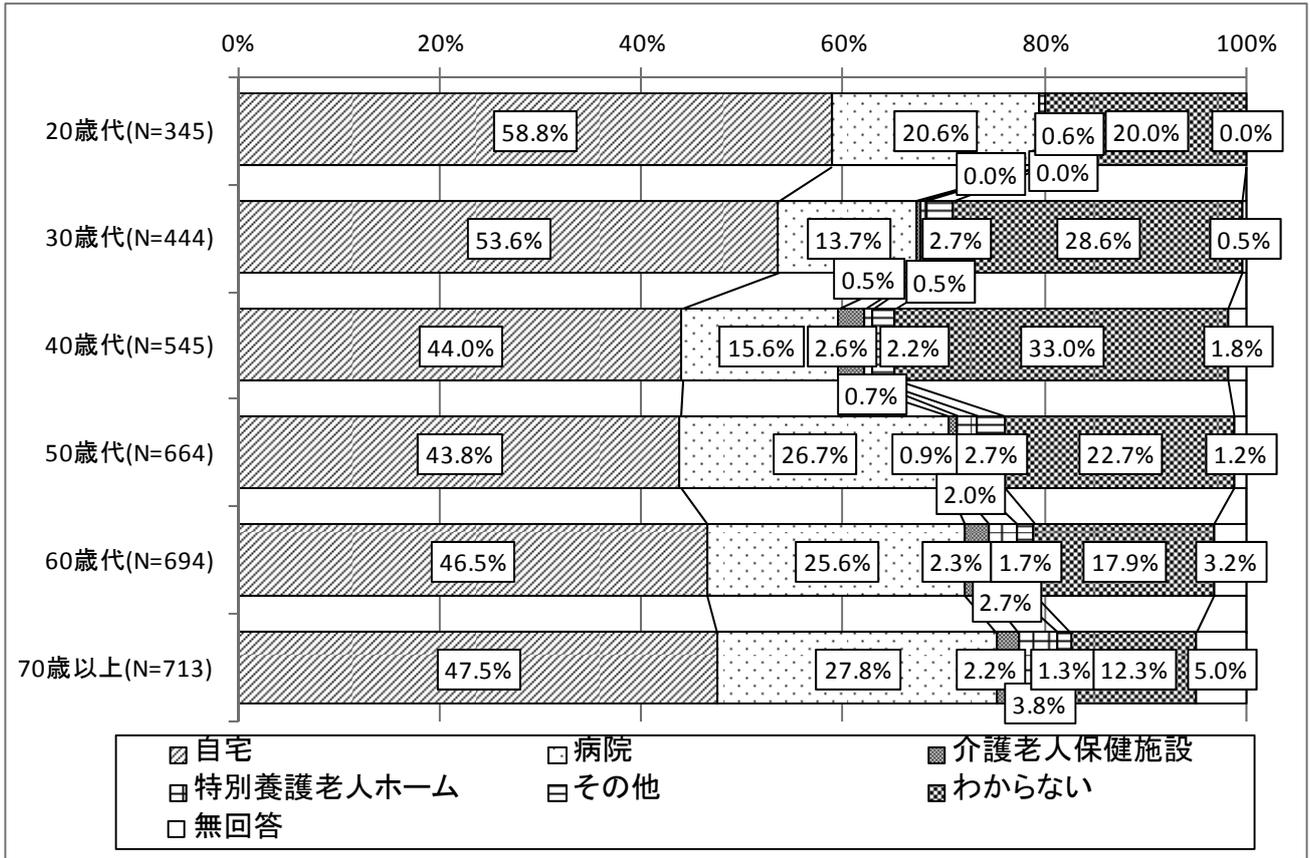
人生の最期を迎えたい場所では、「自宅」が48.0%で、次いで「病院」の22.6%となっています。また、「わからない」という回答も21.7%あります。

図 人生の最期を迎えたい場所－性別



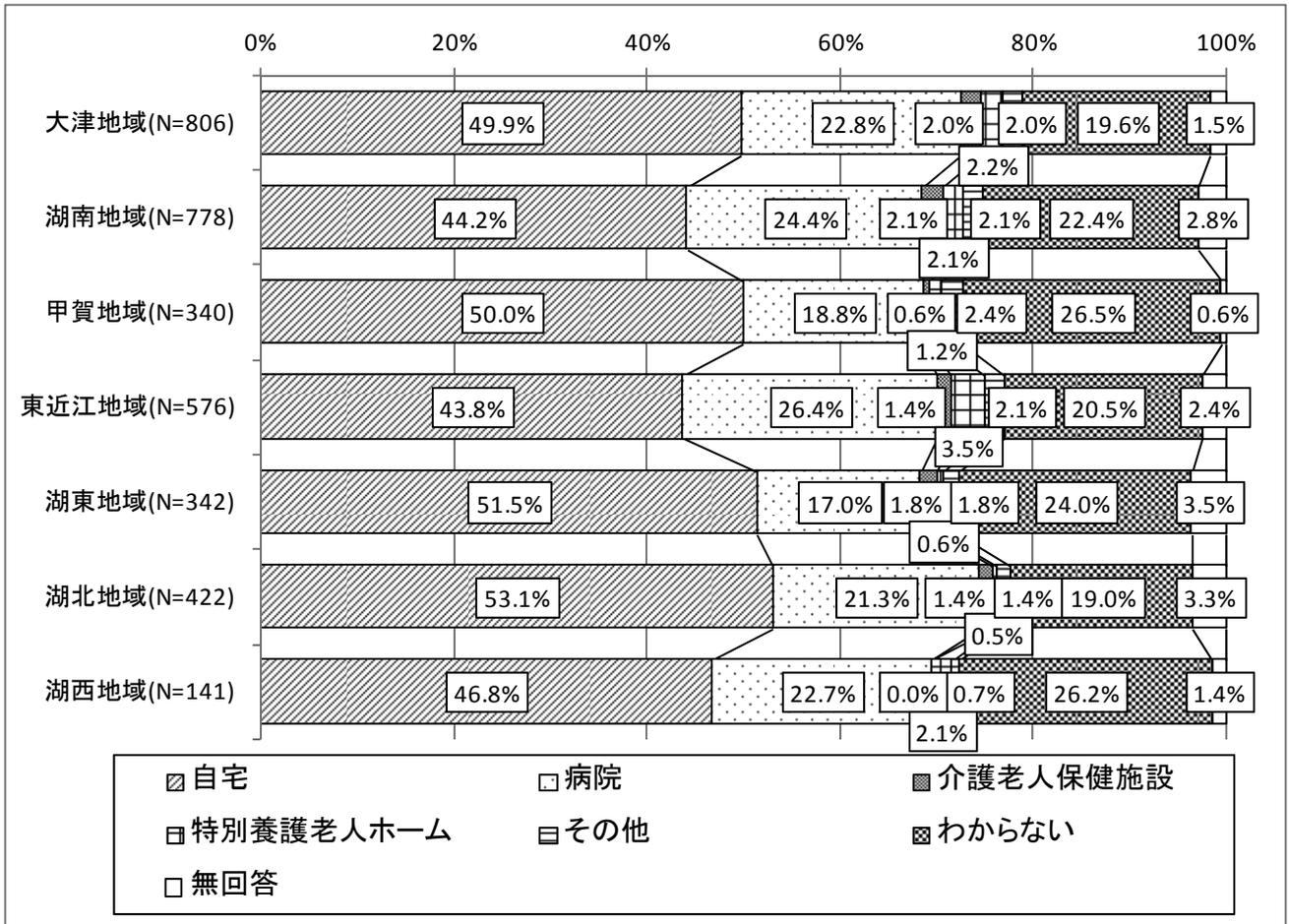
性別にみると、男性は「自宅」が54.1%と多くなっています。女性は男性に比べて「わからない」が25.6%と多くなっています。

図 人生の最期を迎えたい場所—年齢別



年齢別にみると、20歳代や30歳代では「自宅」が他の年代に比べ多くなっています。50歳代以上では「病院」が増加しています。

図 人生の最期を迎えたい場所—地域別

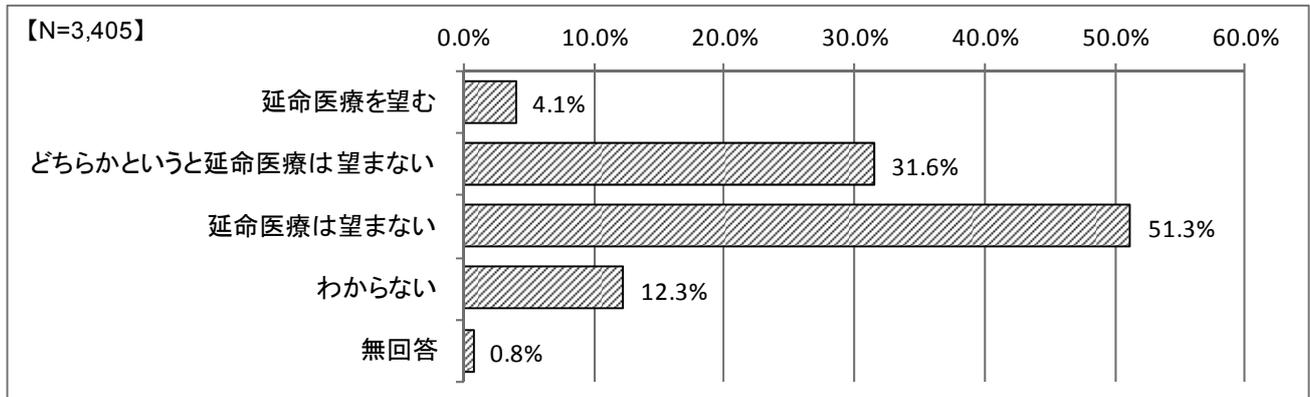


地域別にみると、大きな差異はみられず、いずれの地域でも「自宅」が半数程度で最も多くなっています。

## (7) 延命医療の希望

問 18 あなたは、もし自分の病気が治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合、延命医療を望みますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

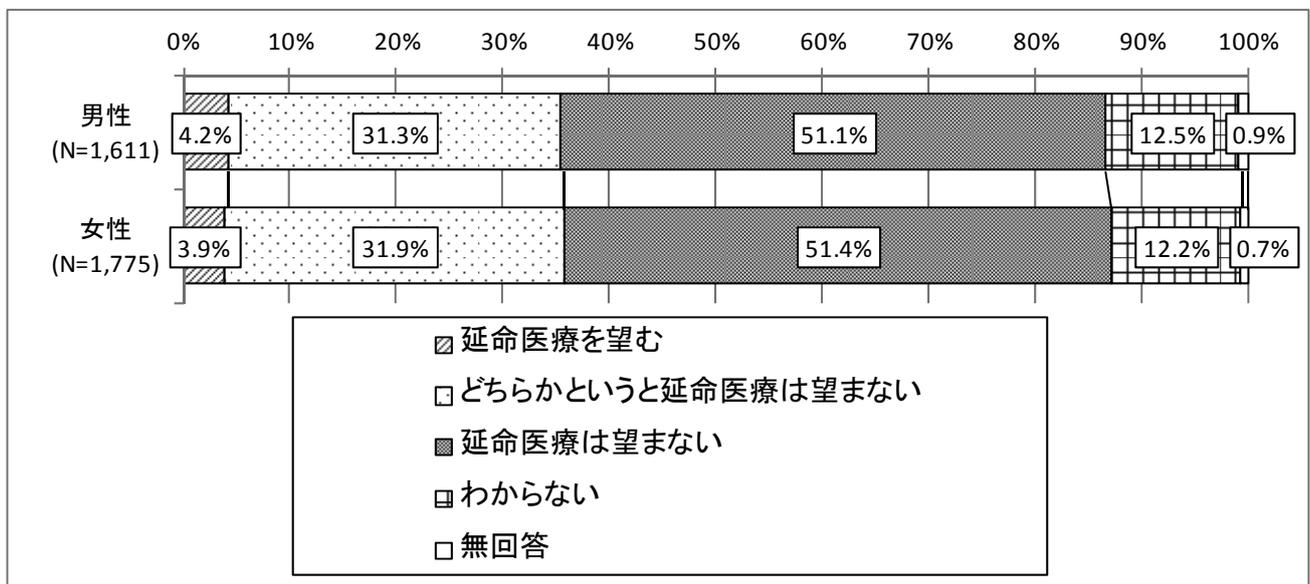
図 延命医療の希望



延命医療の希望では、「延命医療は望まない」が51.3%で、「どちらかという延命医療は望まない」が31.6%と、延命医療を望まないという回答が8割以上を占めています。

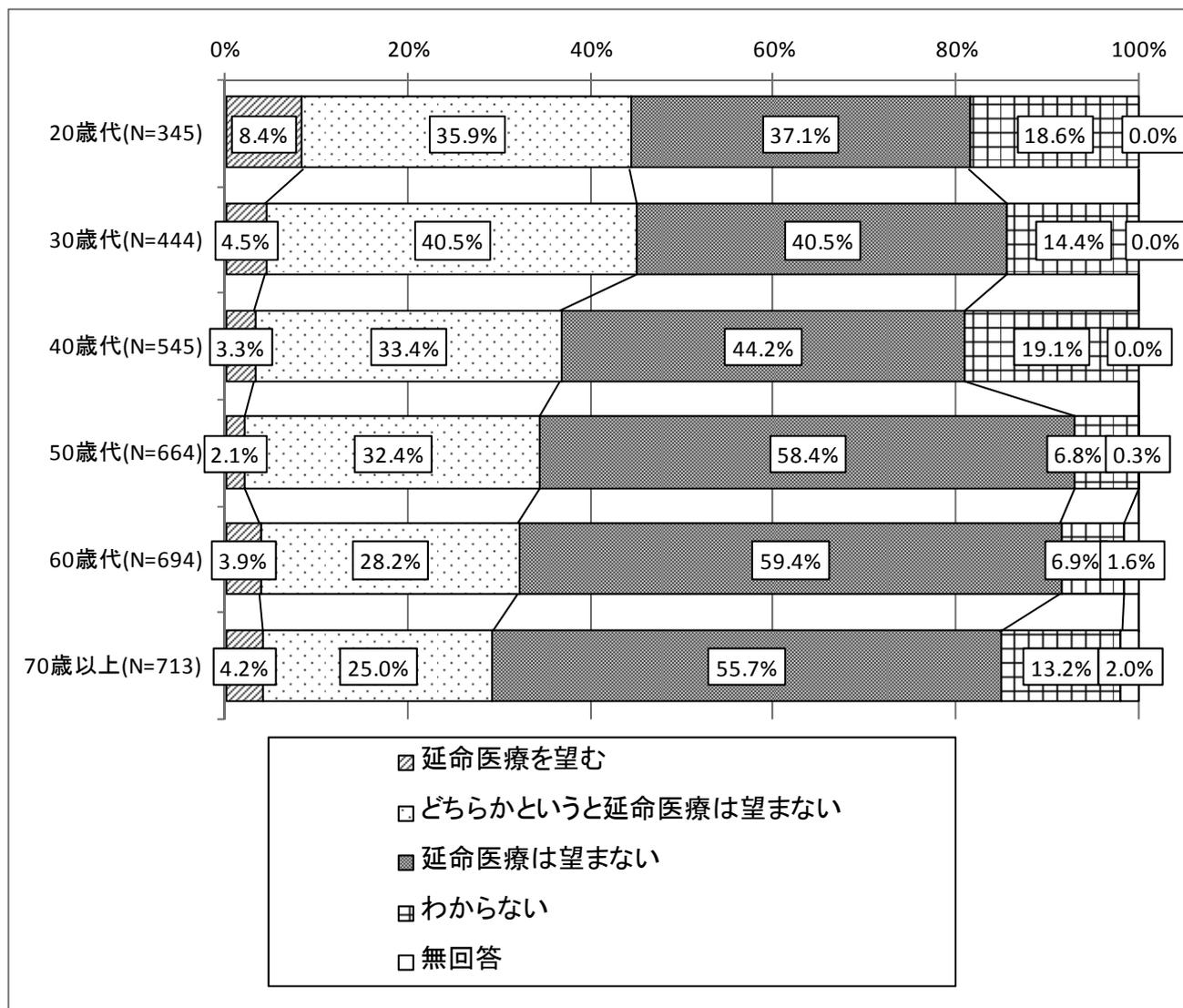
「延命医療を望む」という回答は4.1%となっています。

図 延命医療の希望－性別



性別にみると、差異はみられません。

図 延命医療の希望一年齢別

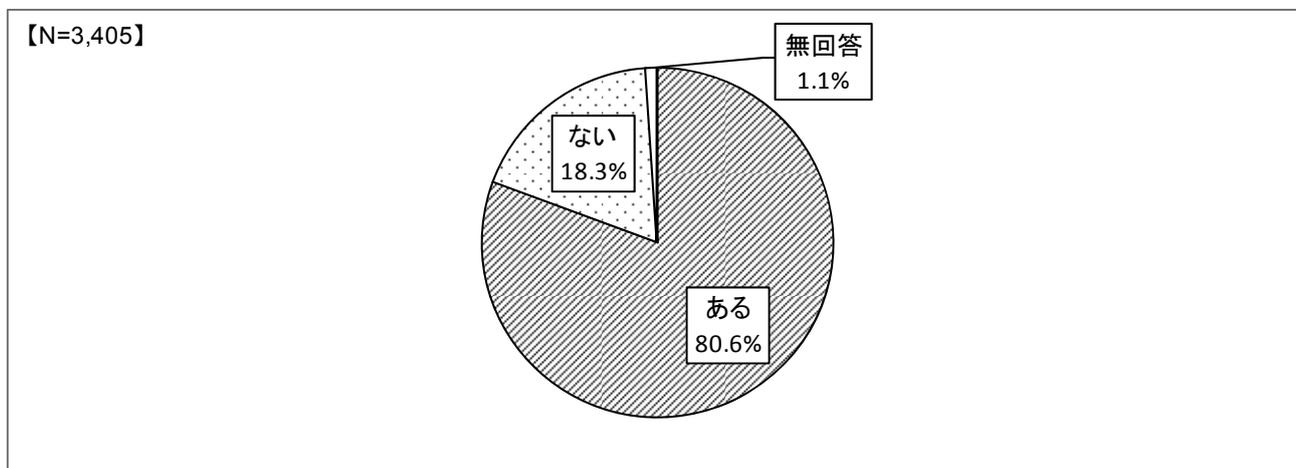


年齢別にみると、「延命医療を望む」は20歳代の8.4%が最も少なくなっています。50歳代以上となると「延命医療は望まない」が半数以上と増加しています。

## (8) 身近な人の死の体験

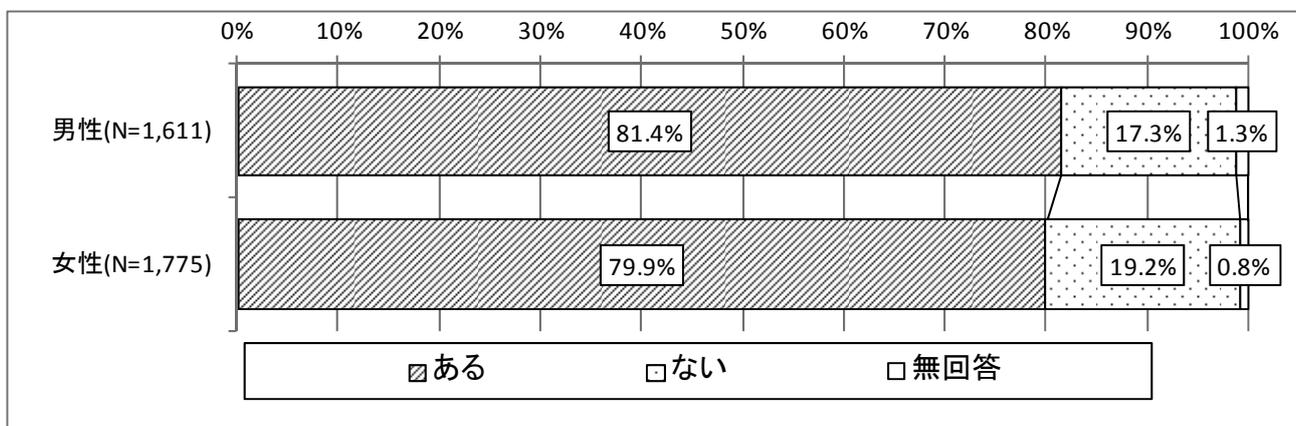
問19 あなたは、今までに身近な人の死を経験したこと（病院や施設、自宅などでの看取り）がありますか。

図 身近な人の死の体験



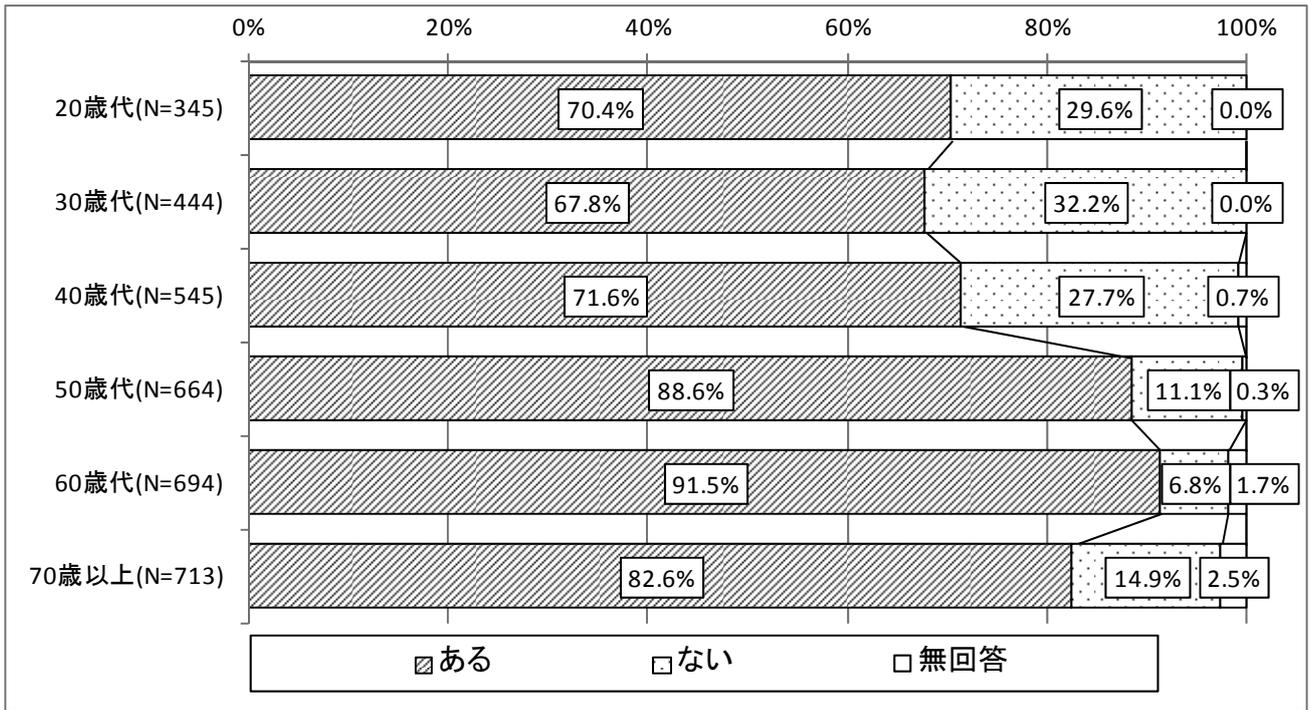
身近な人の死にあったことがあるかどうかでは、「ある」が 80.6%で、「ない」が 18.3%となっています。

図 身近な人の死の体験－性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 身近な人の死の体験一年齢別



年齢別にみると、「ある」は50歳代以上で増加しています。

## (9) エンディングノートの認知度

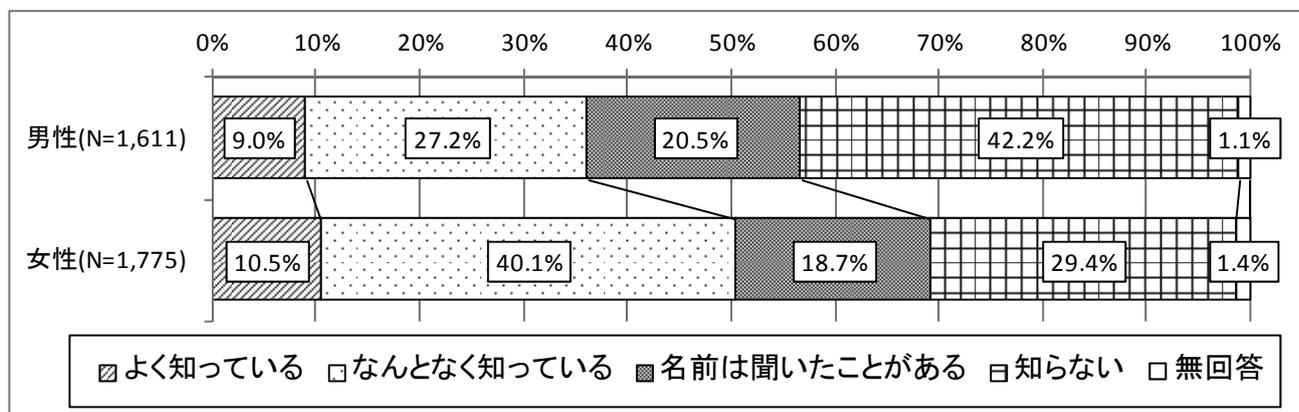
問 20 あなたは自分自身の方がーに備えて治療や介護、葬儀方法などの希望を予め書いておくエンディングノート（遺言ノート、マイライフノート等ともいう）を知っていますか。

図 エンディングノートの認知度



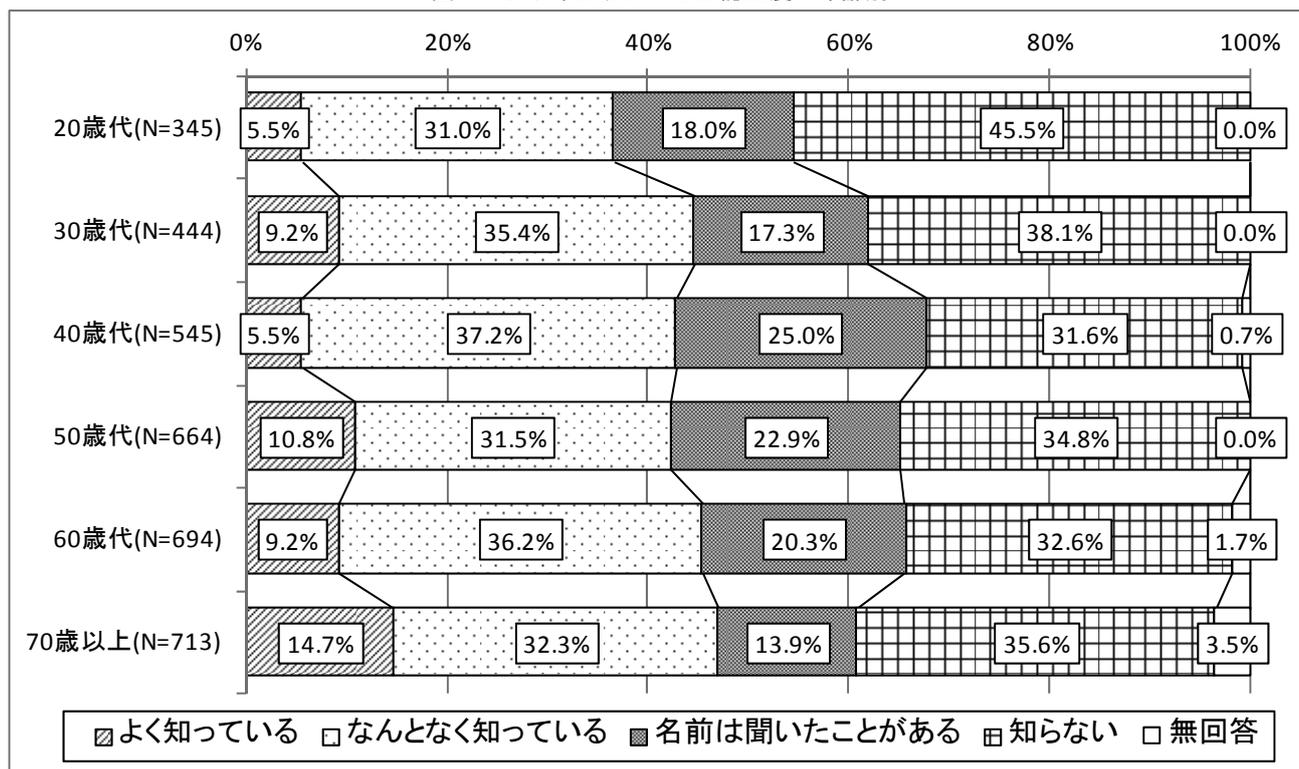
エンディングノートの認知度では、「知らない」が35.5%で、次いで「なんとなく知っている」が34.0%、「名前は聞いたことがある」が19.6%となっています。

図 エンディングノートの認知度－性別



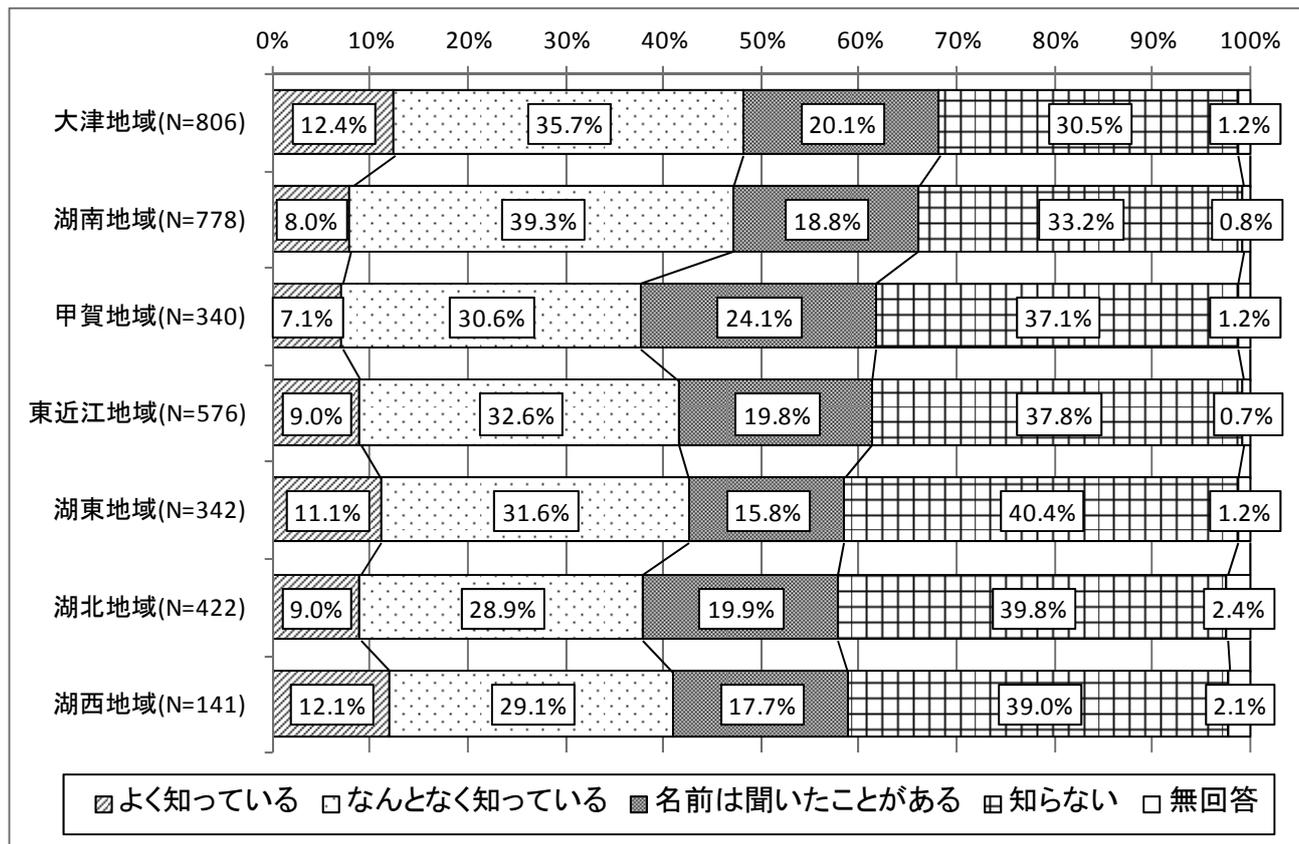
性別にみると、男性は女性に比べて「知らない」が多く、女性は「なんとなく知っている」が多くなっています。

図 エンディングノートの認知度一年齢別



年齢別にみると、「よく知っている」と「なんとなく知っている」を合わせてみると、年代での大きな差異はみられません。

図 エンディングノートの認知度—地域別

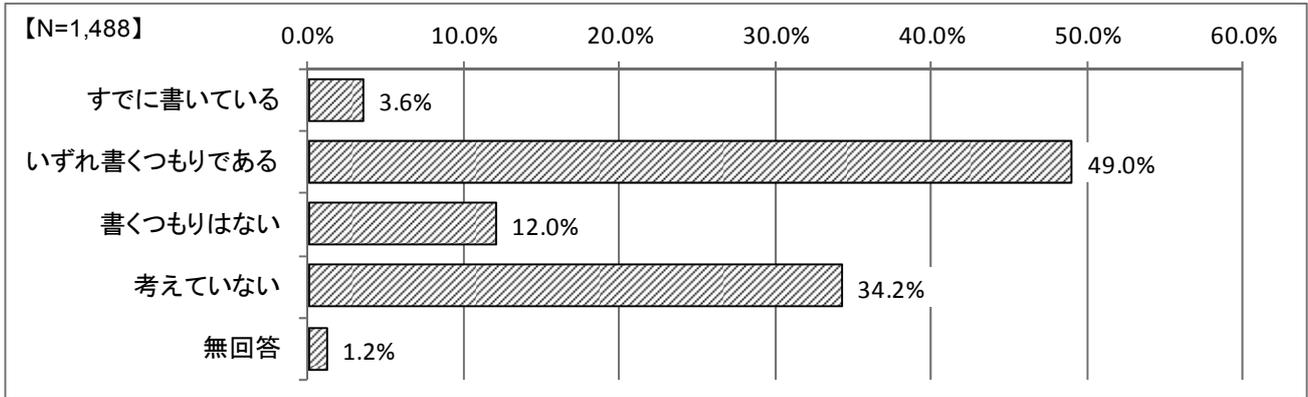


地域別にみると、大きな差異はみられず「よく知っている」はいずれの地域においても1割前後となっています。

(10) エンディングノート作成の経験や作成意向

問 20-1 問 20 で「1. よく知っている」「2. 何となく知っている」とお答えの方におたずねします。  
 エンディングノート作成の経験や作成意向について、あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

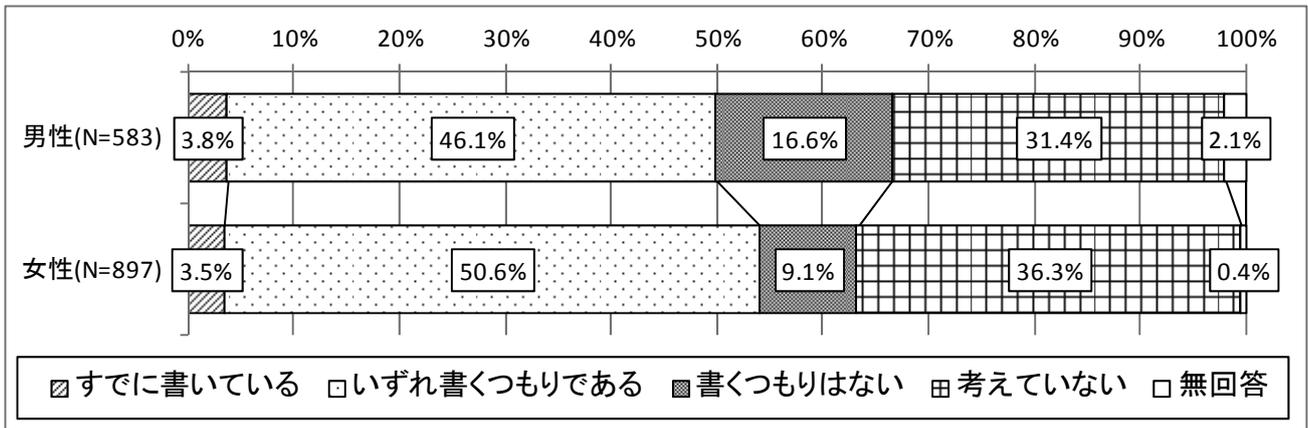
図 エンディングノート作成の経験や作成意向



エンディングノートについて「よく知っている」「何となく知っている」と回答した人について、エンディングノート作成の経験や作成意向をたずねたところ、「いずれ書くつもりである」が49.0%で最も多く、次いで「考えていない」の34.2%となっています。

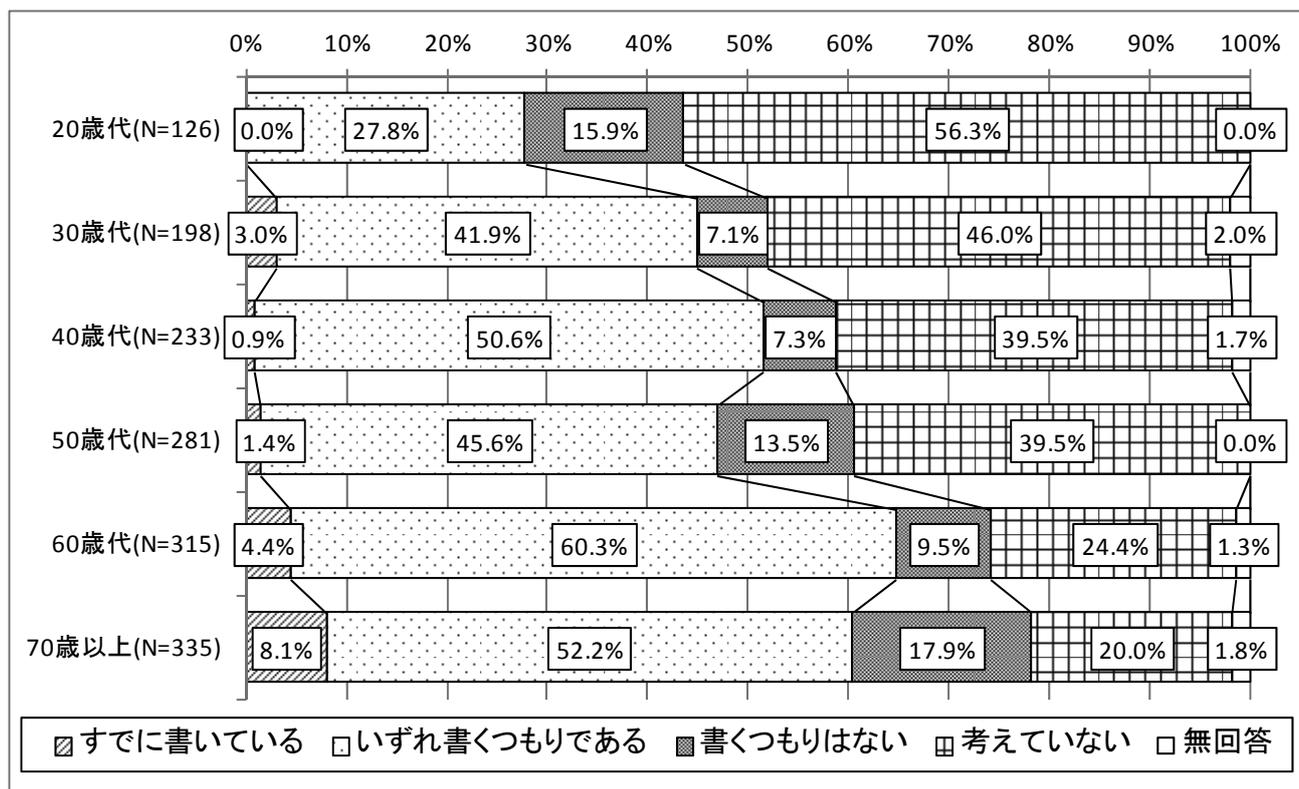
また、「すでに書いている」は3.6%となっています。

図 エンディングノート作成の経験や作成意向－性別



性別にみると、男性は女性に比べて「書くつもりはない」が多く、女性は「考えていない」が多くなっています。

図 エンディングノート作成の経験や作成意向一年齢別

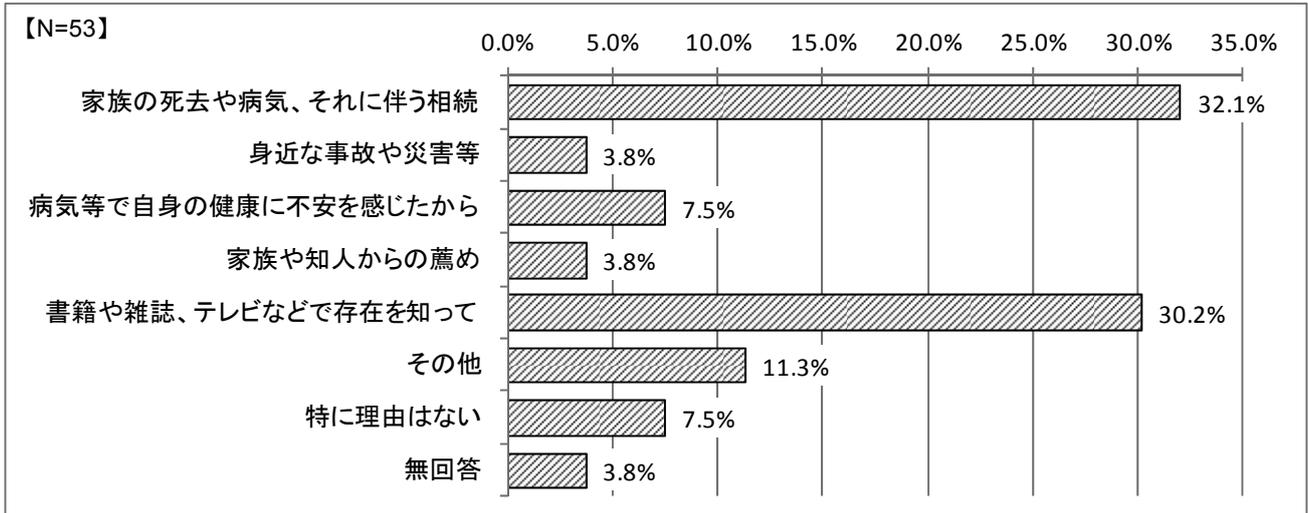


年齢別にみると、「すでに書いている」は70歳以上で8.1%と最も多くなっています。また、「考えていない」は20歳代の56.3%が最も多く、加齢に伴い減少していきます。

(11) エンディングノート作成のきっかけ

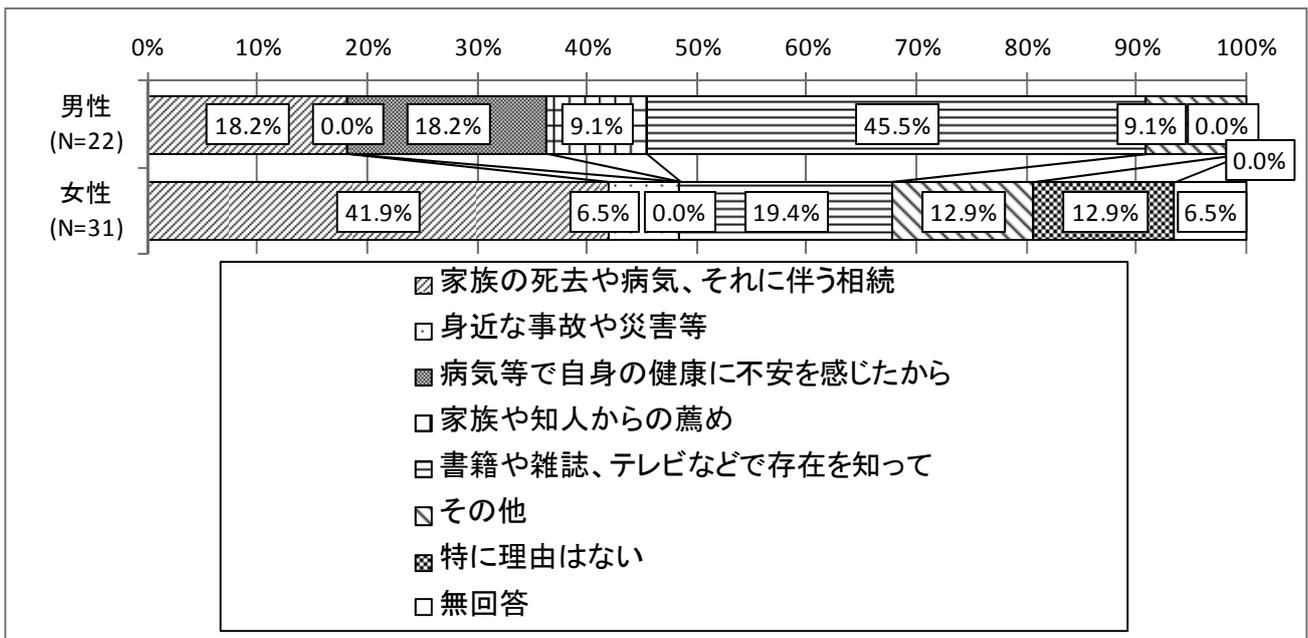
問 20-2 問 20-1 で「1. すでに書いている」とお答えの方におたずねします。エンディングノート作成のきっかけについて、あてはまるもの 1つに○ をつけてください。

図 エンディングノート作成のきっかけ



エンディングノートを「すでに書いている」と回答した人について、作成のきっかけをたずねたところ、「家族の死去や病気、それに伴う相続」が 32.1% で、「書籍や雑誌、テレビなどで存在を知って」が 30.2% となっています。

図 エンディングノート作成のきっかけ—性別



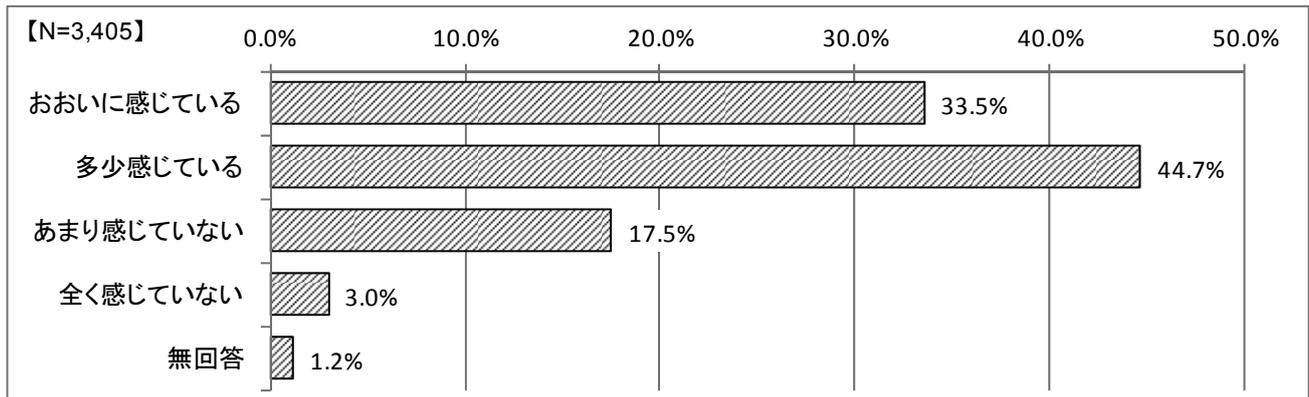
性別にみると、男性は「書籍や雑誌、テレビなどで存在を知って」が、女性は「家族の死去や病気、それに伴う相続」がそれぞれ多くなっています。

## 4. 介護について

### (1) 高齢期の生活の不安

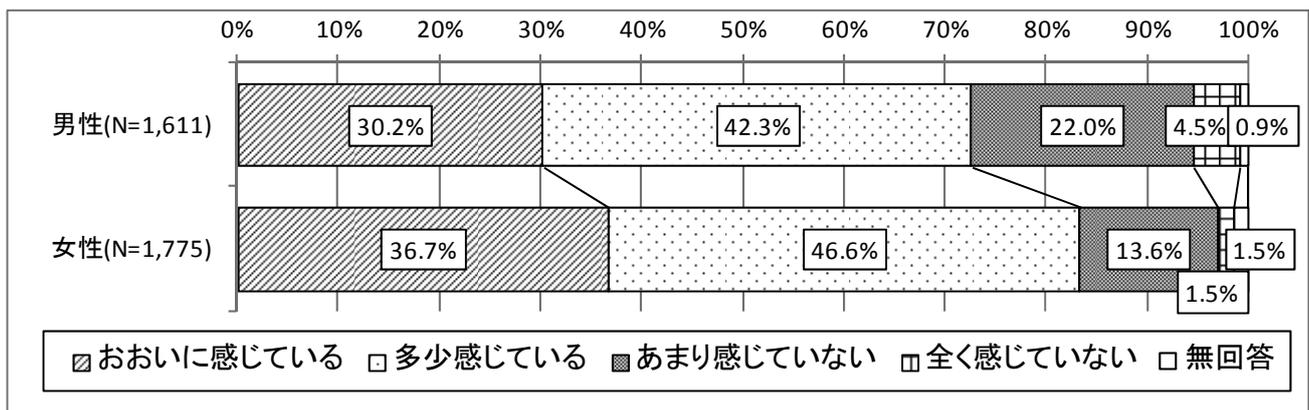
問21 あなたは、自分の高齢期（概ね65歳以上）の生活に不安を感じていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 高齢期の生活の不安



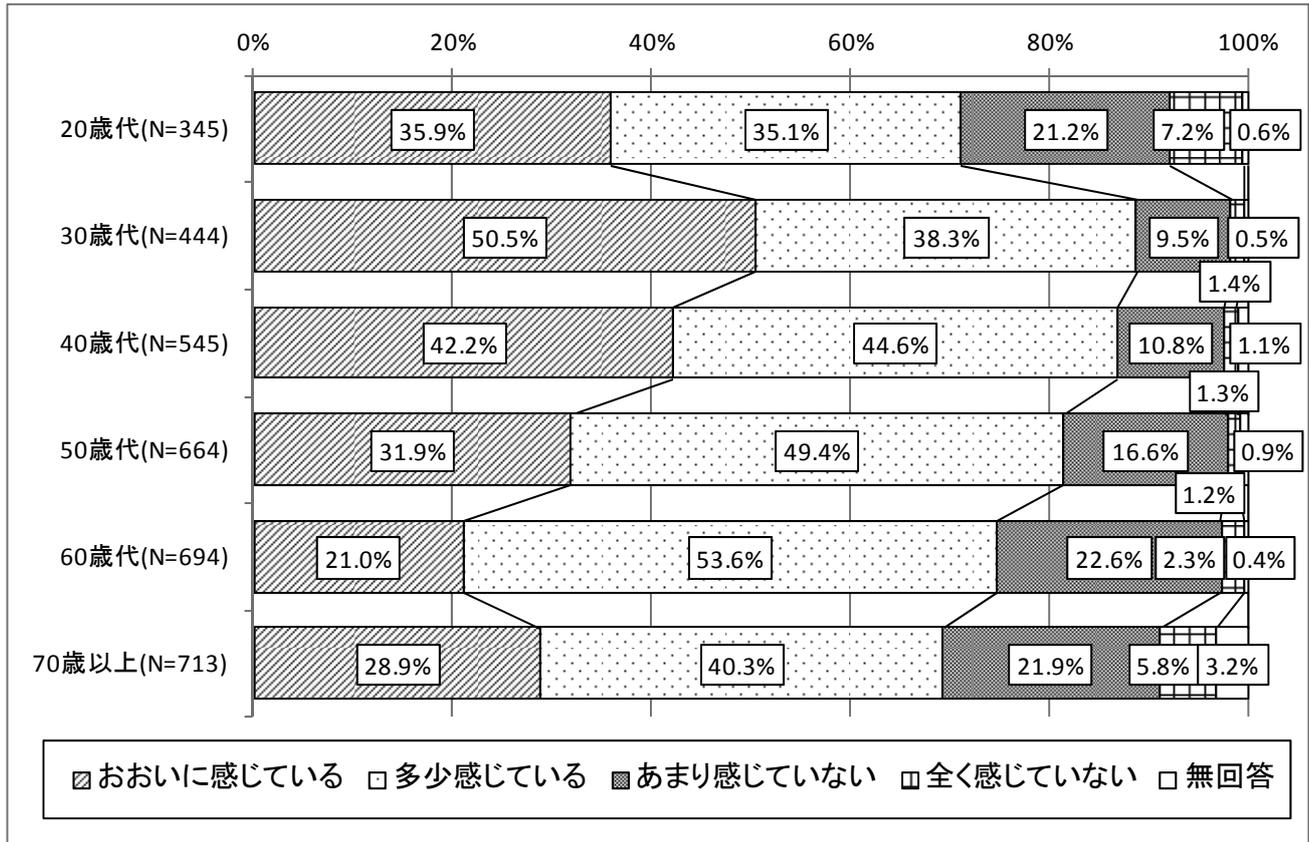
自分の高齢期（概ね65歳以上）の生活に不安を感じているかどうかでは、「多少感じている」が44.7%で、「おおいに感じている」の33.5%を合わせると「感じている」と回答した人が8割近くとなっています。

図 高齢期の生活の不安－性別



性別にみると、女性は男性に比べて「おおいに感じている」「多少感じている」が多くなっており、高齢期の生活に対する不安が高くなっています。

図 高齢期の生活の不安一年齢別

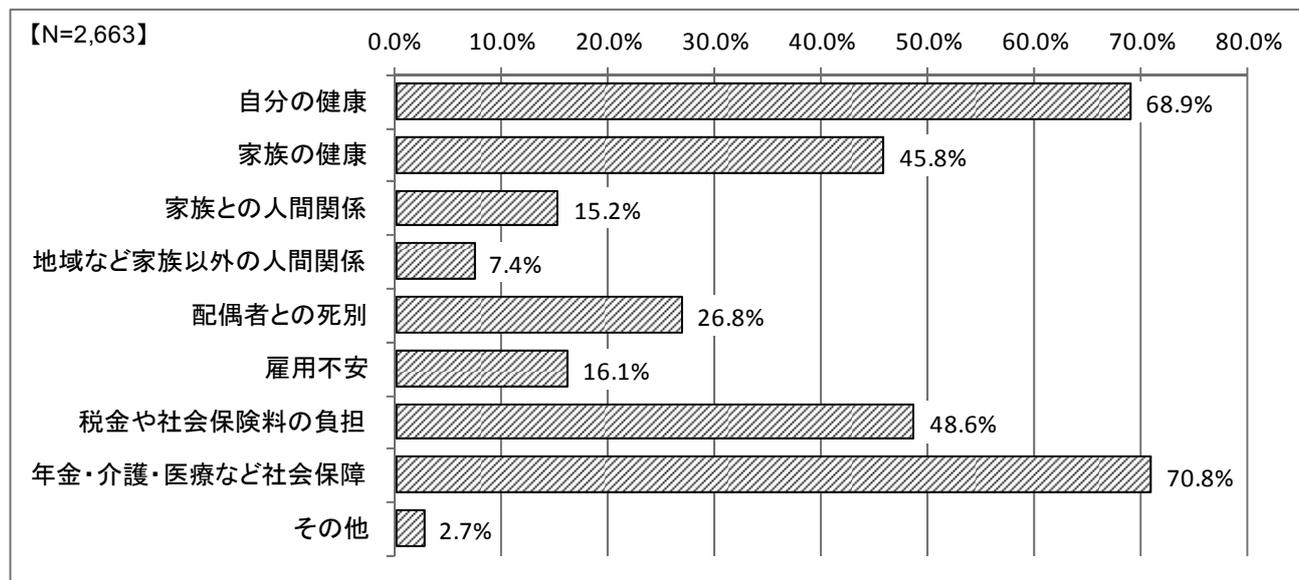


年齢別にみると、「非常に感じている」は30歳代の50.5%が最も多く、次いで40歳代となりこの世代を中心に高齢期の生活への不安が高くなっています。また、60歳代や70歳以上では「あまり感じていない」が増加しています。

## (2) 高齢期の生活の不安の内容

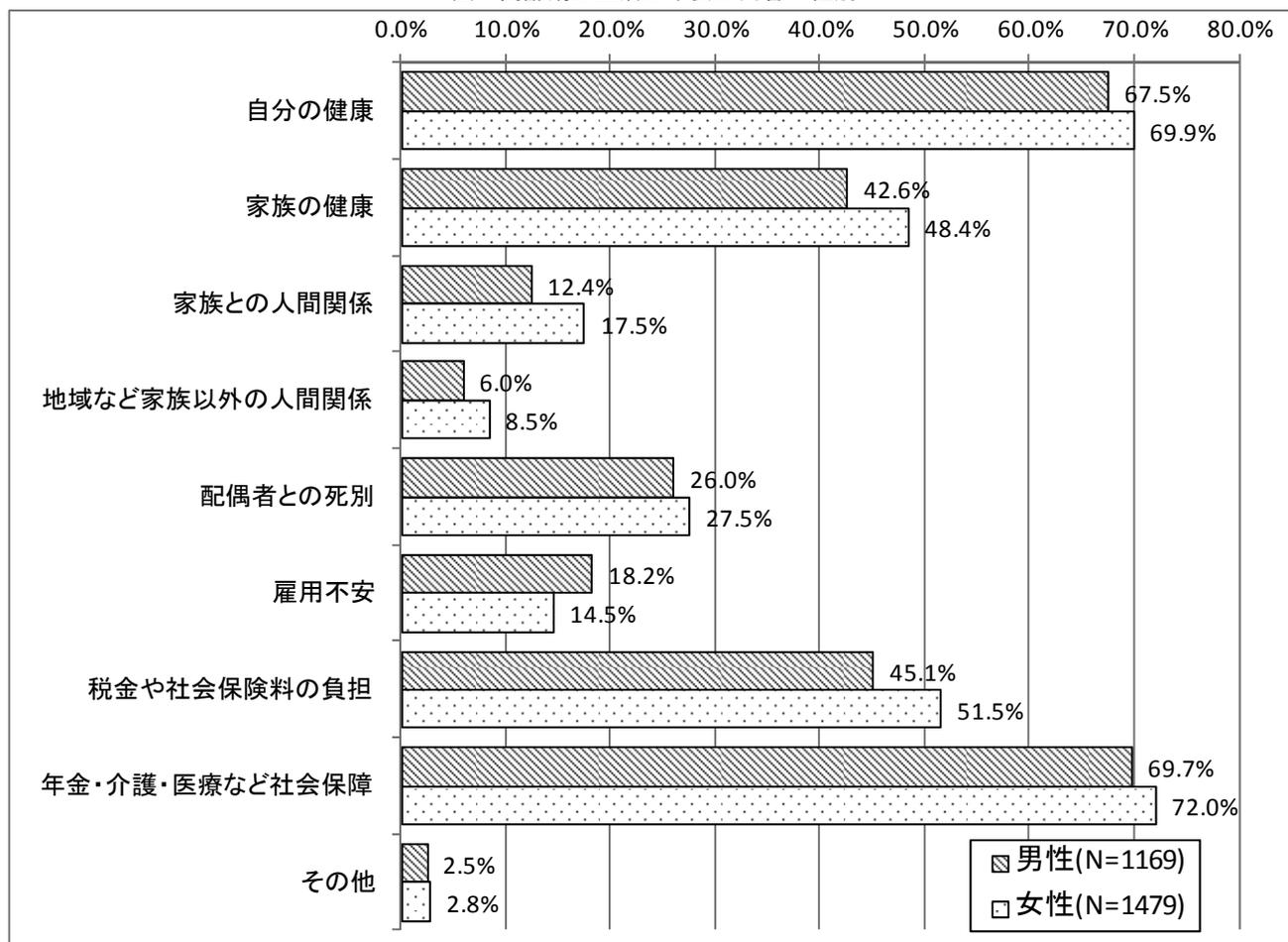
問 21-1 問 21 で「1. おおいに感じている」または「2. 多少感じている」とお答えの方におたずねします。それはどのようなことに関する不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 高齢期の生活の不安の内容



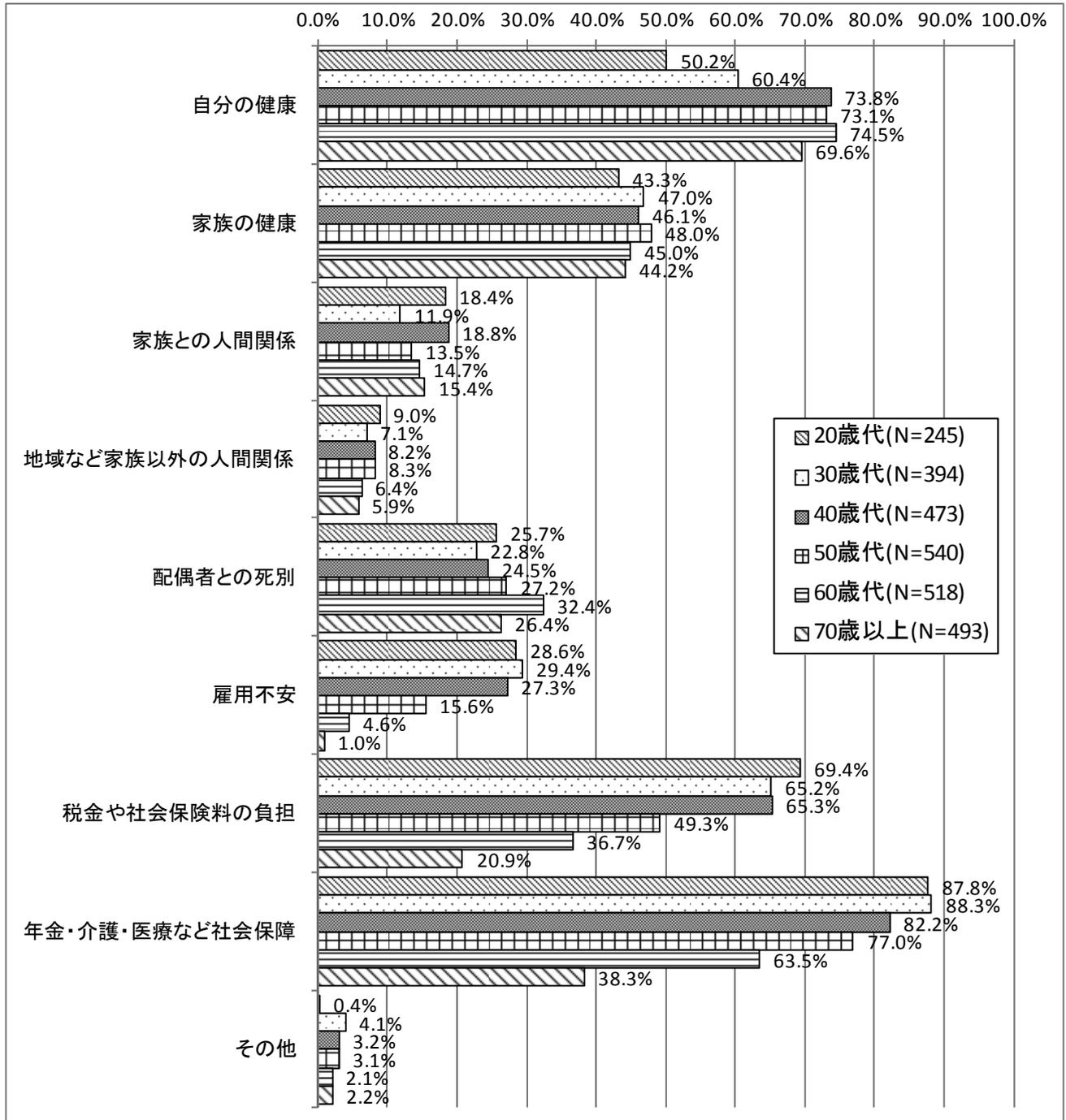
高齢期の生活について不安を「おおいに感じている」「多少感じている」と回答した人について、不安の内容をたずねてみると、「年金・介護・医療など社会保障」が70.8%、「自分の健康」が68.9%と多く、次いで「税金や社会保険料の負担」の48.6%、「家族の健康」の45.8%となっており、年金などの社会制度と健康への不安感が強くなっています。

図 高齢期の生活の不安の内容－性別



不安の内容を性別にみると、「雇用不安」以外の項目では、いずれも女性の方が男性よりも多くなっており、女性の方が高齢期の生活について多くの不安を抱えている状況となっています。

図 高齢期の生活の不安の内容一年齢別

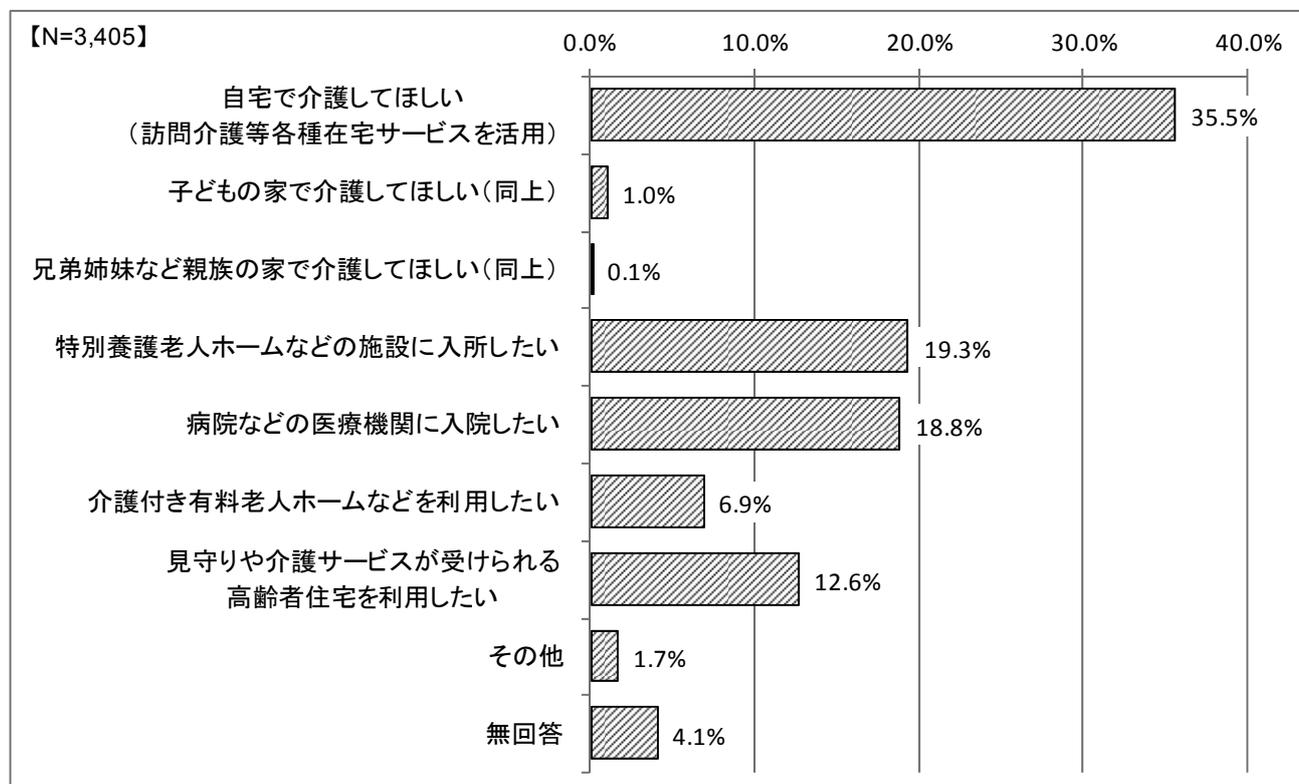


年齢別にみると、「自分の健康」や「家族の健康」「税金や社会保険料の負担」「年金・介護・医療など社会保障」はいずれの年代でも上位にあげられていて共通の不安内容となっています。20歳代から40歳代では「雇用不安」が上位にあがっており、50歳代以上の世代では「配偶者との死別」があげられています。

### (3) 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所

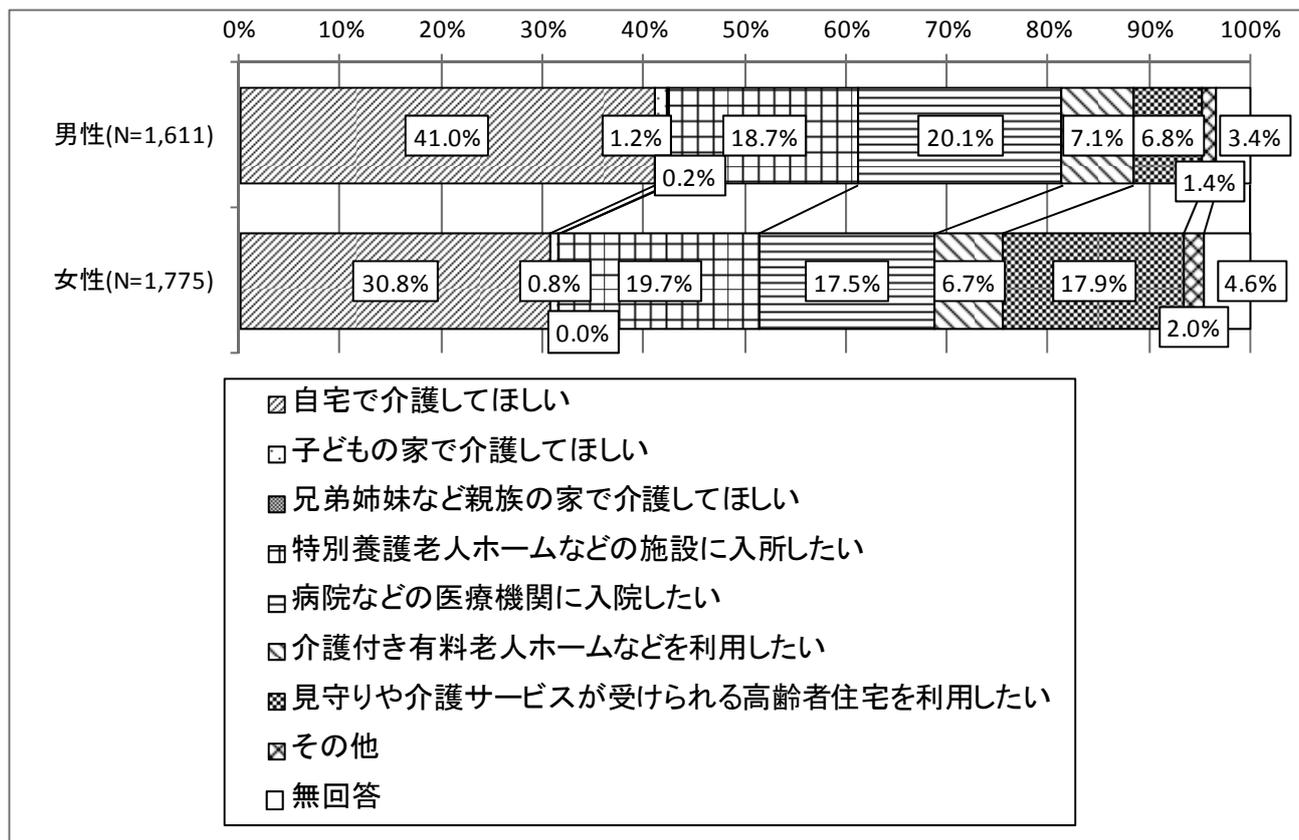
問 22 高齢期にあなたの身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、食事や排泄等の介護が必要な状態になった場合どこで介護を受けたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所



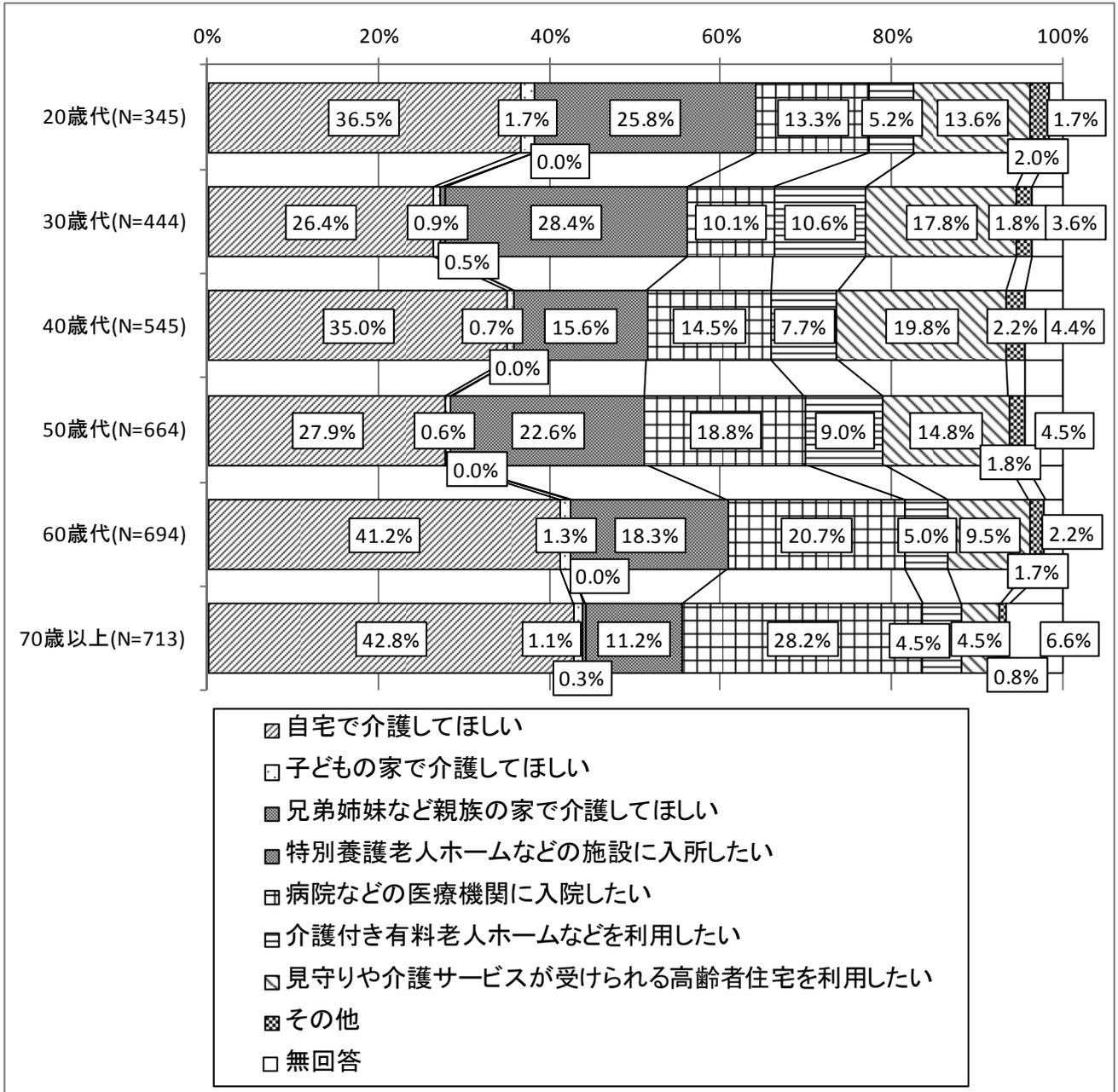
将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所では、「自宅で介護してほしい（訪問介護等各種在宅サービスを活用）」が 35.5%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」の 19.3%、「病院などの医療機関に入院したい」の 18.8%となっています。

図 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所－性別



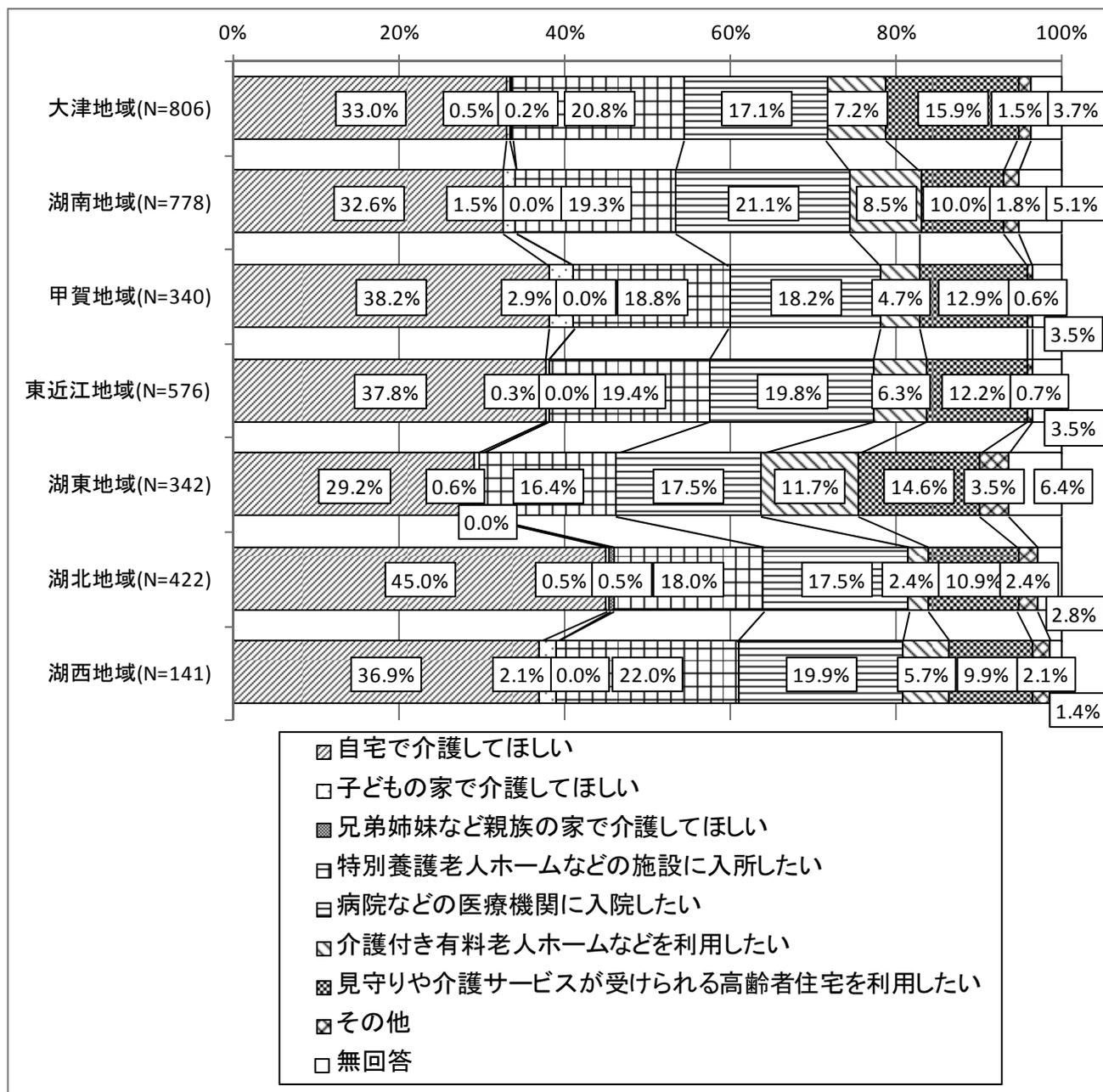
性別にみると、男性は女性に比べて「自宅で介護してほしい」が41.0%と多く、女性は「見守りや介護サービスが受けられる高齢者住宅を利用したい」が17.9%と多くなっています。

図 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所一年齢別



年齢別にみると、60歳代や70歳以上で「自宅で介護してほしい」や「病院などの医療機関に入院したい」が増加しています。また、20歳代や30歳代では、他の世代に比べて「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」が多くなっています。

図 将来介護が必要になったときに介護を受けたい場所—地域別

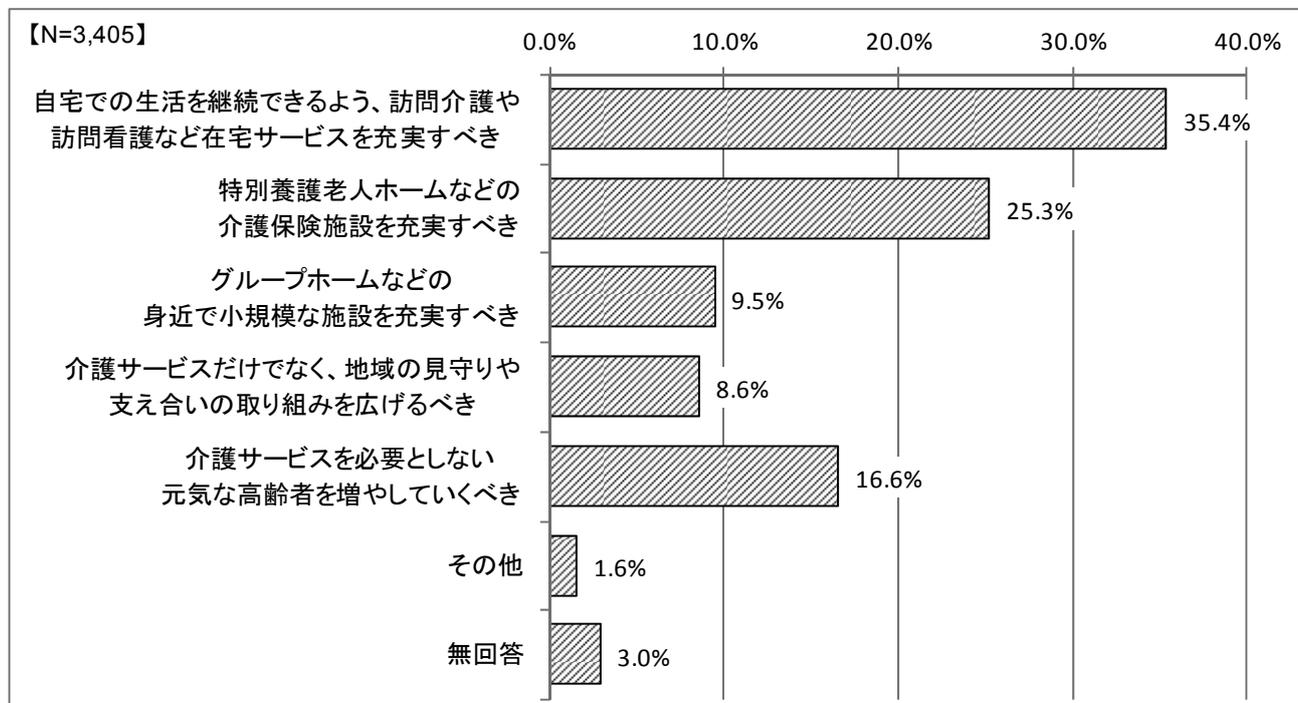


地域別にみると、大きな差異はみられず「自宅で介護してほしい」「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」「病院などの医療機関に入院したい」が多くなっています。

#### (4) 介護保険サービスで力を入れるべきこと

問 23 あなたは、介護保険サービスについて、どのようなことに力を入れるべきとお考えですか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

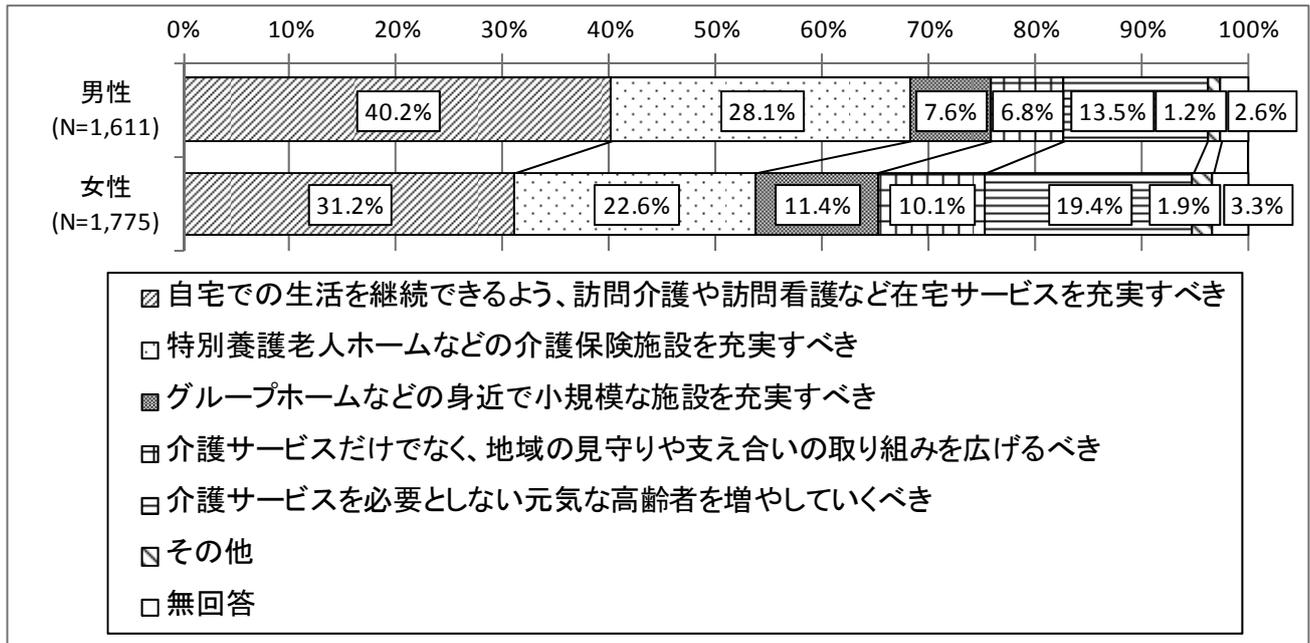
図 介護保険サービスで力を入れるべきこと



介護保険サービスで力を入れるべきことでは、「自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」が 35.4%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を充実すべき」が 25.3%となっており、在宅サービスや施設サービスの充実を望む意見が上位を占めています。

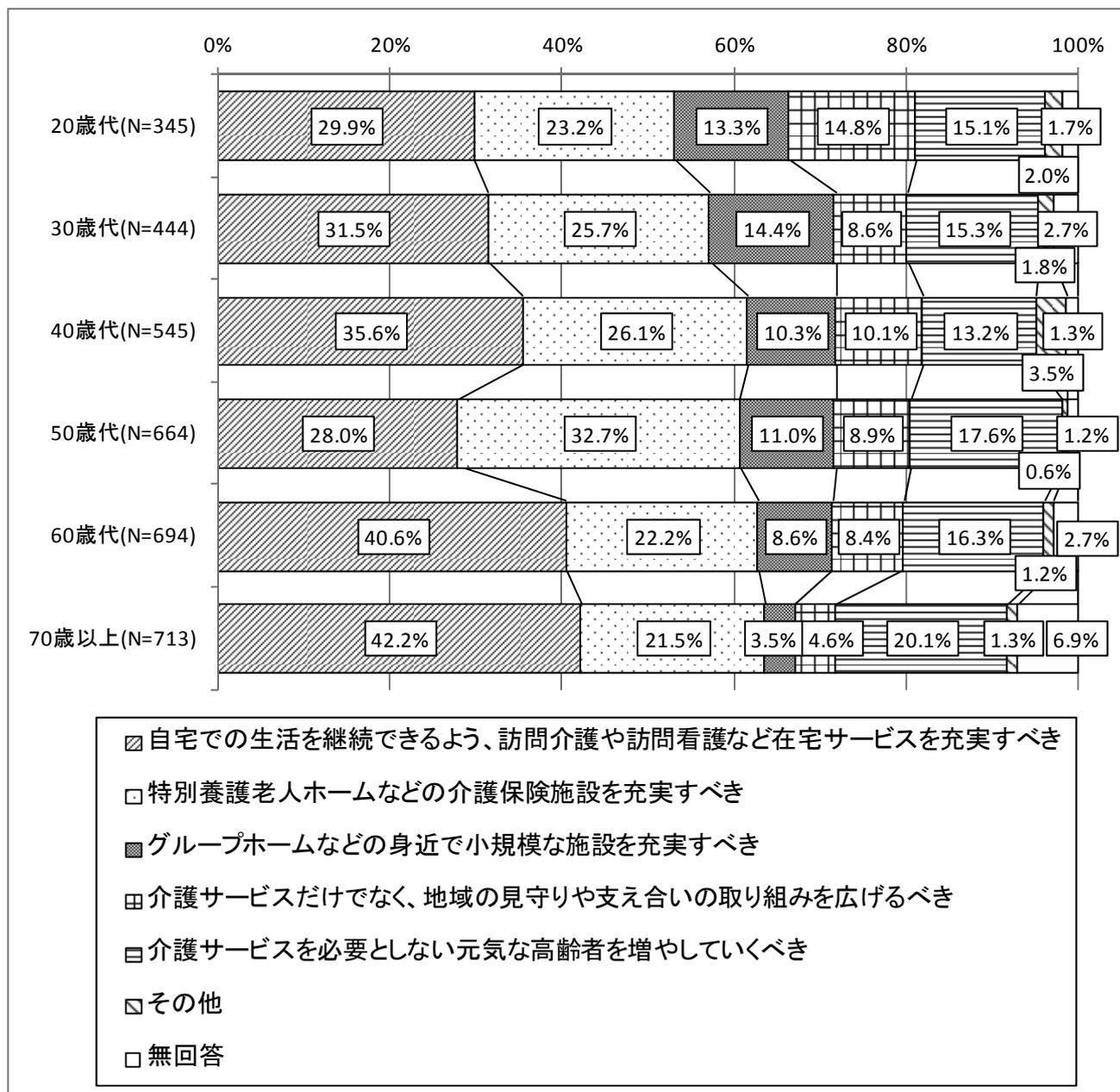
また、「介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき」という介護予防に力を入れるべきとの回答も 16.6%となっています。

図 介護保険サービスで力を入れるべきこと一性別



性別にみると、男性は女性に比べて「自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」が40.2%と多く、女性は「介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき」が19.4%と多くなっています。

図 介護保険サービスで力を入れるべきこと一年齢別



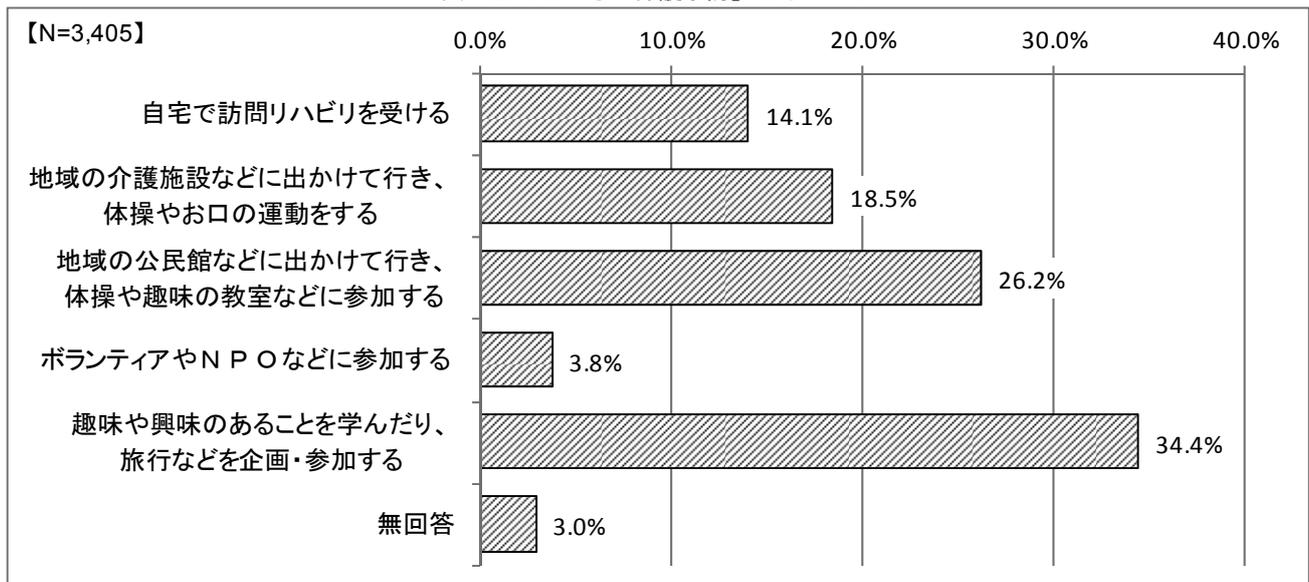
年齢別にみると、60歳代や70歳以上で「自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」が多くなり、70歳以上では「介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき」も多くなっています。

## 5. 介護予防について

### (1) 望んでいる「介護予防」のイメージ

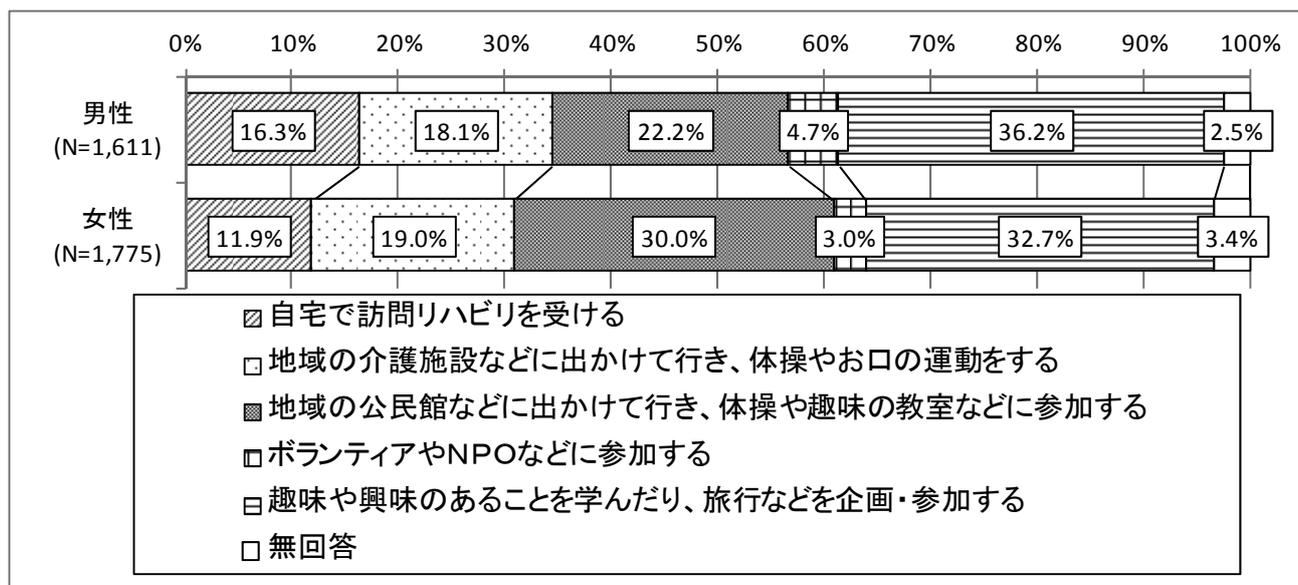
問 24 「介護予防」とは高齢になった場合に、“介護を必要とする状態を防ぐ”“介護が必要でも、できるだけ改善していく”ことを言います。あなたの望む「介護予防」のイメージに、より近いものは何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 望んでいる「介護予防」のイメージ



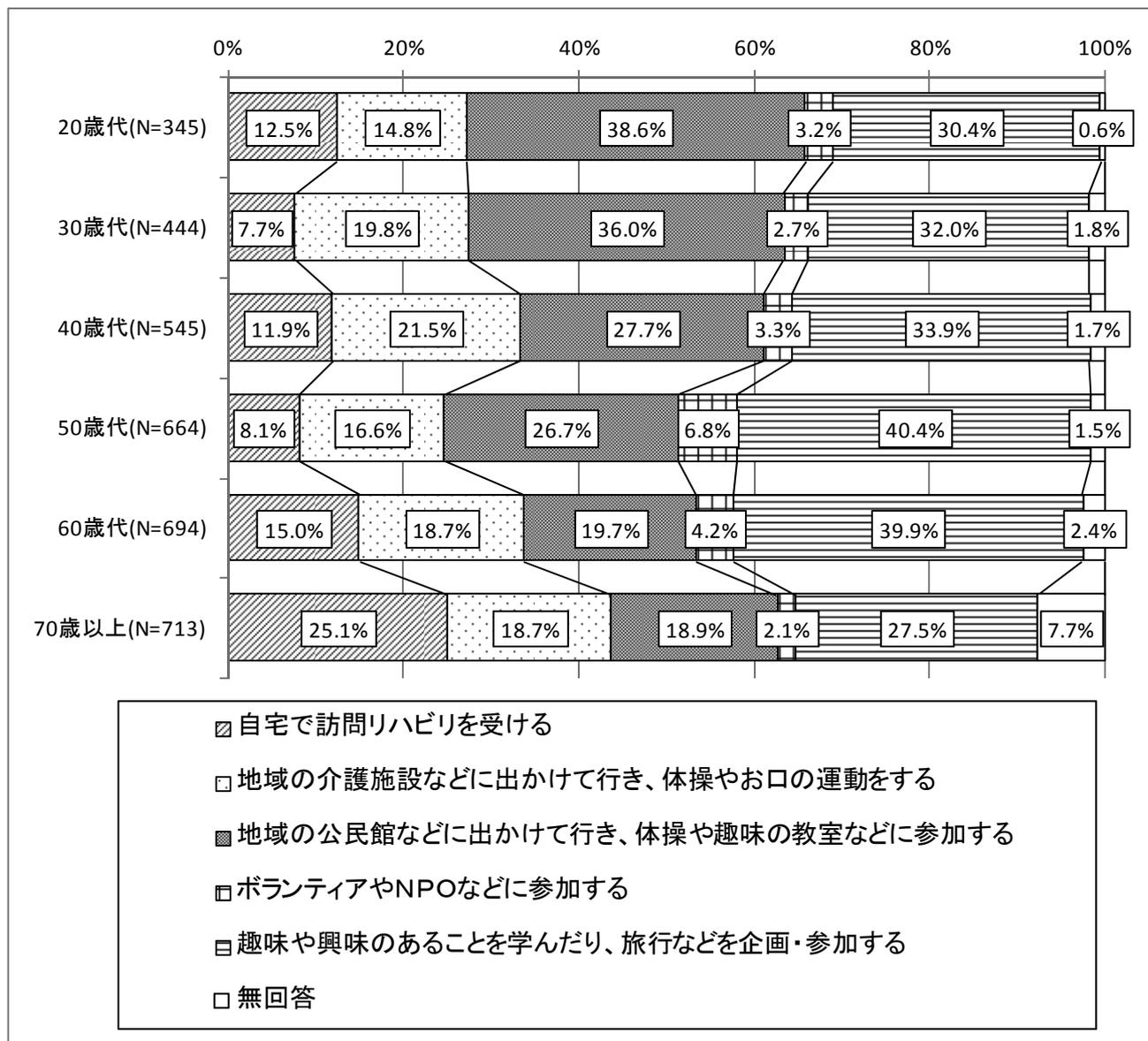
望んでいる「介護予防」のイメージでは、「趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する」が34.4%、「地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する」が26.2%と生涯学習などと連携した活動を望む意見が上位を占めています。

図 望んでいる「介護予防」のイメージ性別



性別にみると、男性は女性に比べて「自宅で訪問リハビリを受ける」や「趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する」が多く、女性は「地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する」が多くなっており、男性は趣味などを活かして遠くへの旅行などを考えており、女性は近くの公民館などでのサークル的な活動をイメージしています。

図 望んでいる「介護予防」のイメージ―年齢別

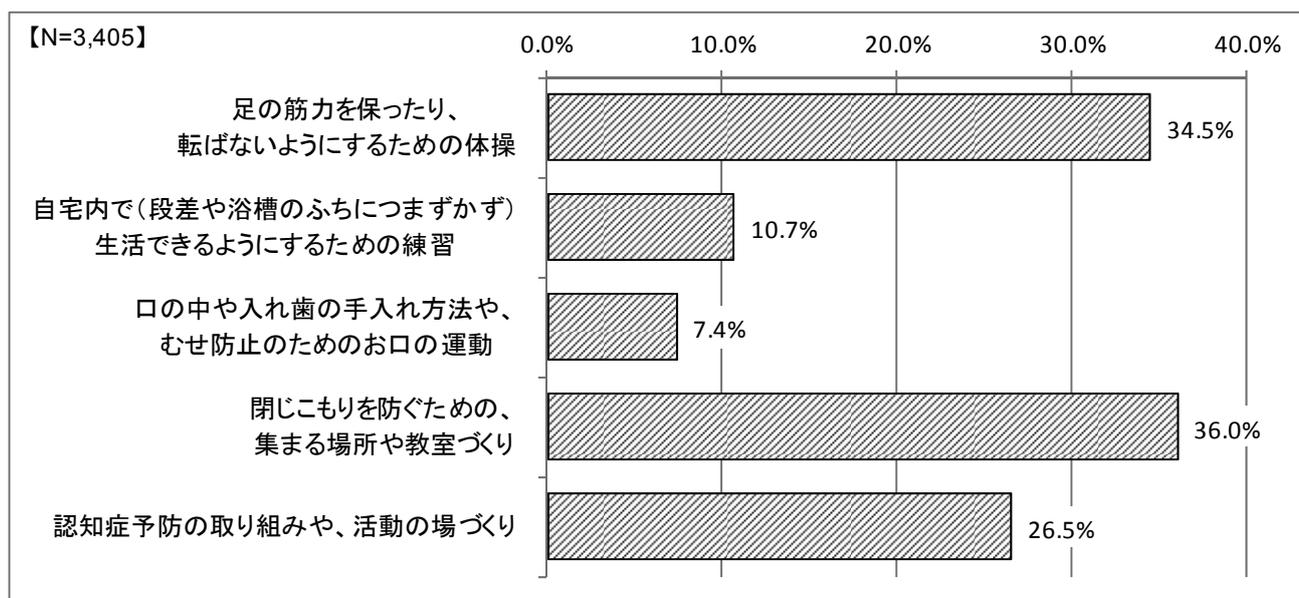


年齢別にみると、60歳代や70歳以上では「自宅で訪問リハビリを受ける」が多くなり、20歳代や30歳代では、地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加するが多くなっています。

## (2) 市町等で実施している介護予防事業の認知度

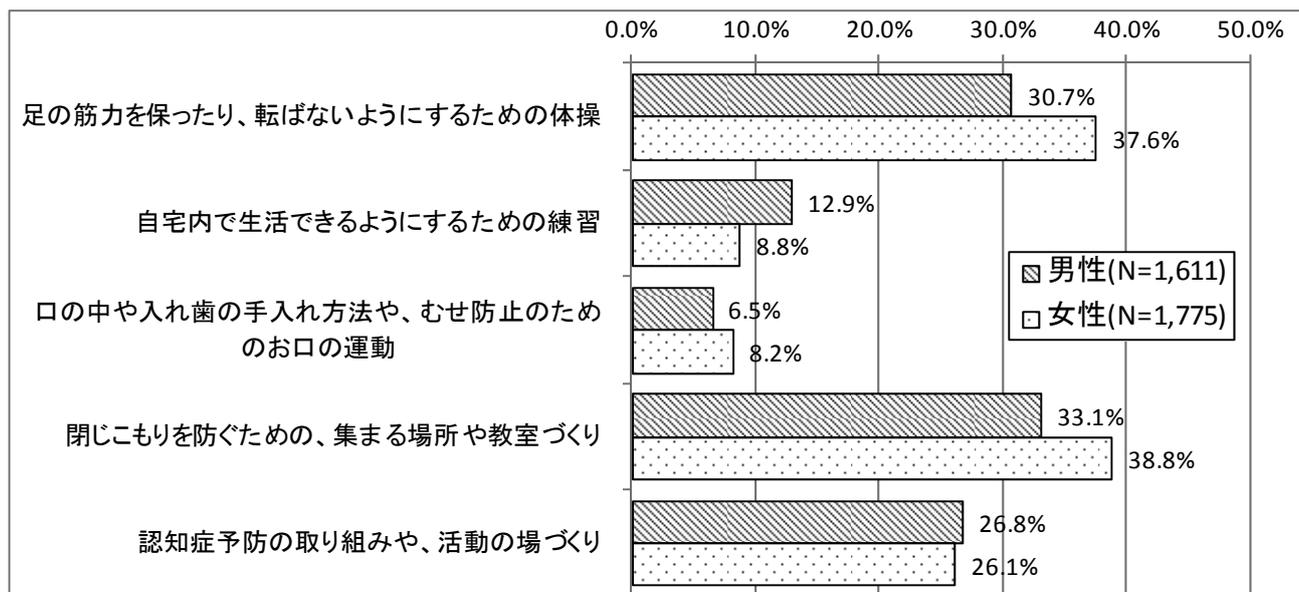
問 25 上記の生活を実現される手助けとして、あなたがお住まいの市町や介護施設などで、「介護予防」として、次のような取り組みがされていることをご存じですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 市町等で実施している介護予防事業の認知度



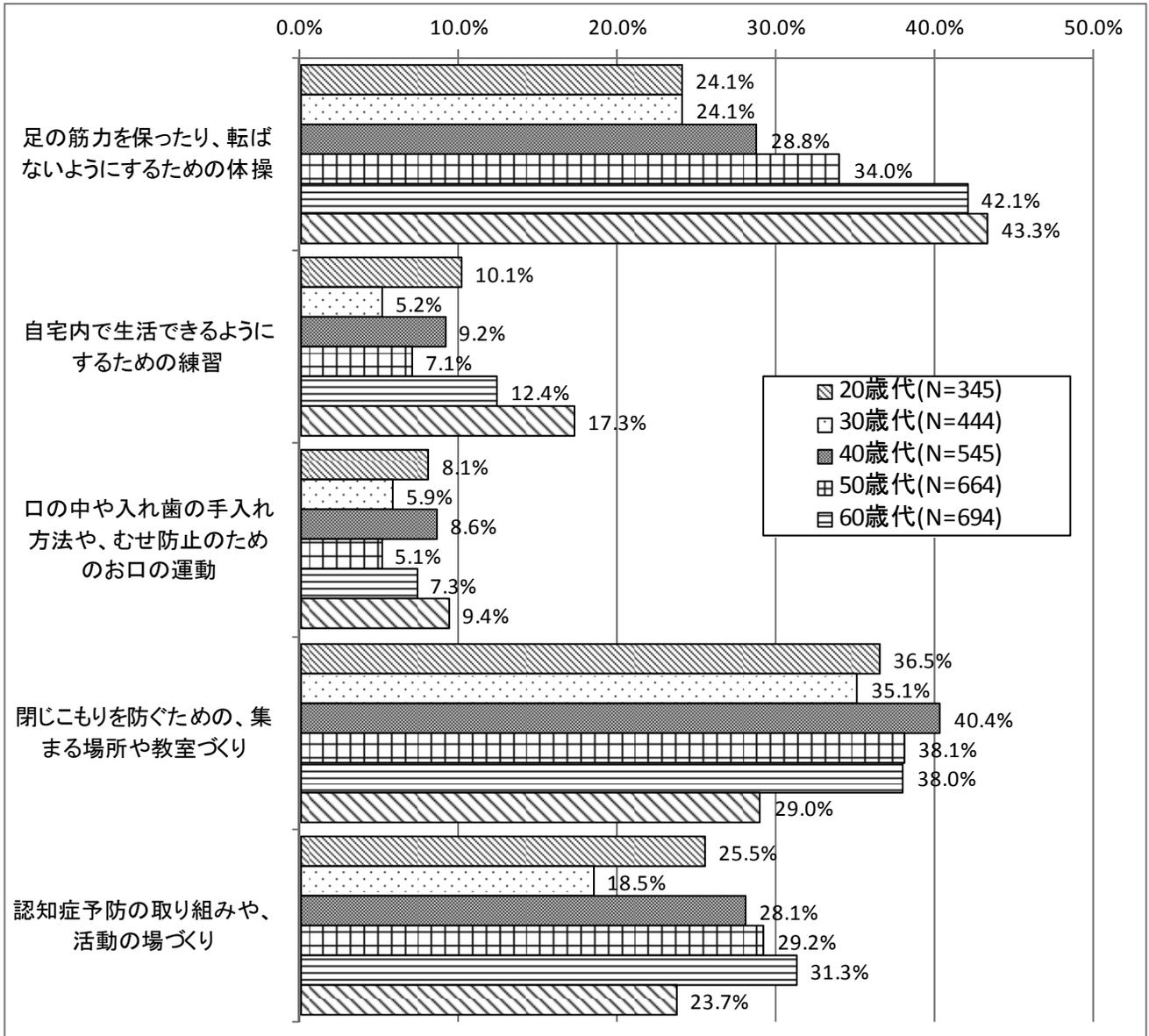
市町等で実施している介護予防事業の認知度では、「閉じこもりを防ぐための、集まる場所や教室づくり」が 36.0%、「足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操」が 34.5%とよく知られています。

図 市町等で実施している介護予防事業の認知度－性別



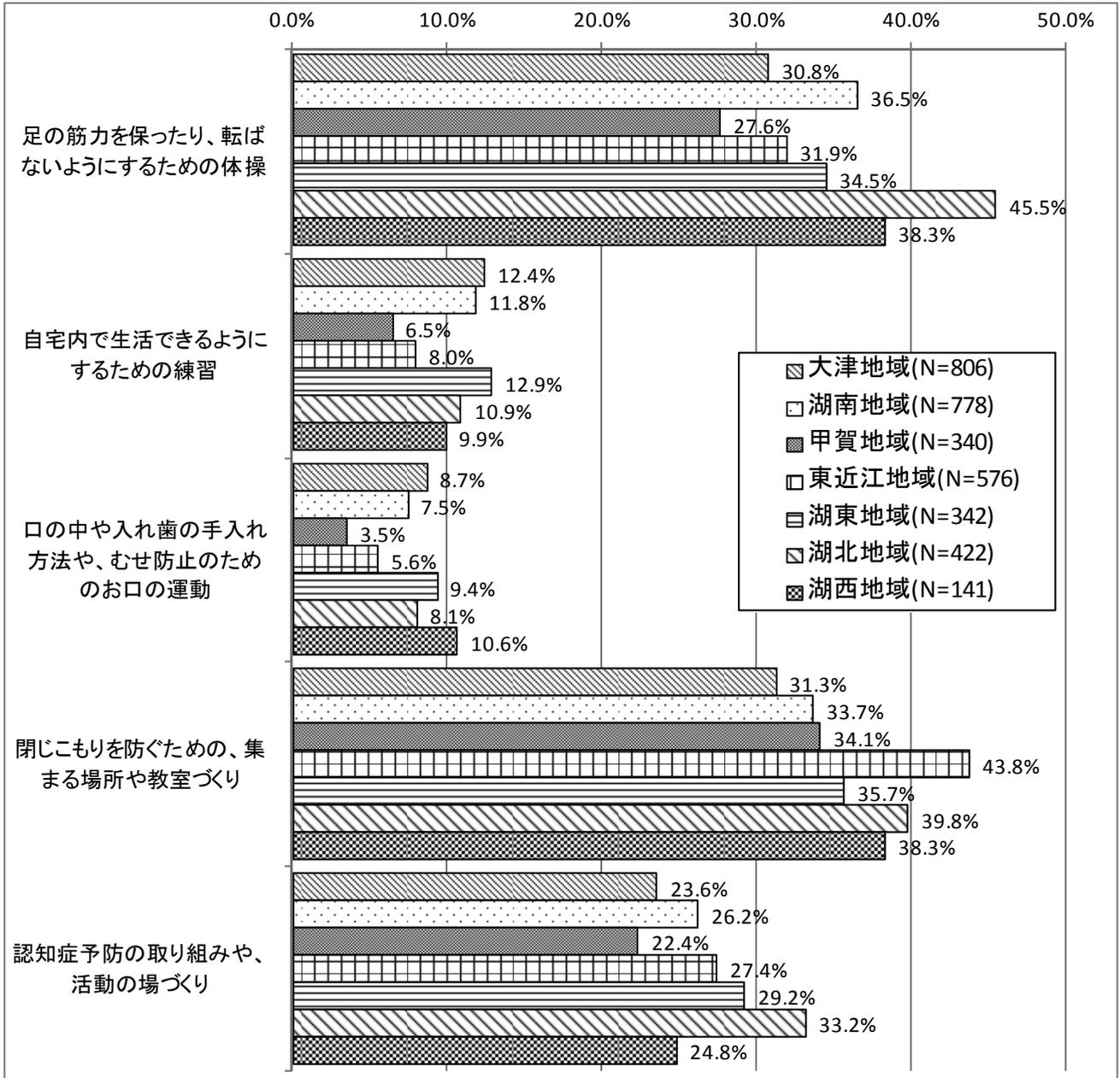
性別にみると、女性は男性に比べて「足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操」や「閉じこもりを防ぐための、集まる場所や教室づくり」が多くなっており、このような活動についての認知度が高くなっています。

図 市町等で実施している介護予防事業の認知度一年齢別



年齢別にみると、「足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操」は年齢とともに増加しており、高齢者ほど転倒防止のための事業の認知度が高くなっています。

図 市町等で実施している介護予防事業の認知度—地域別

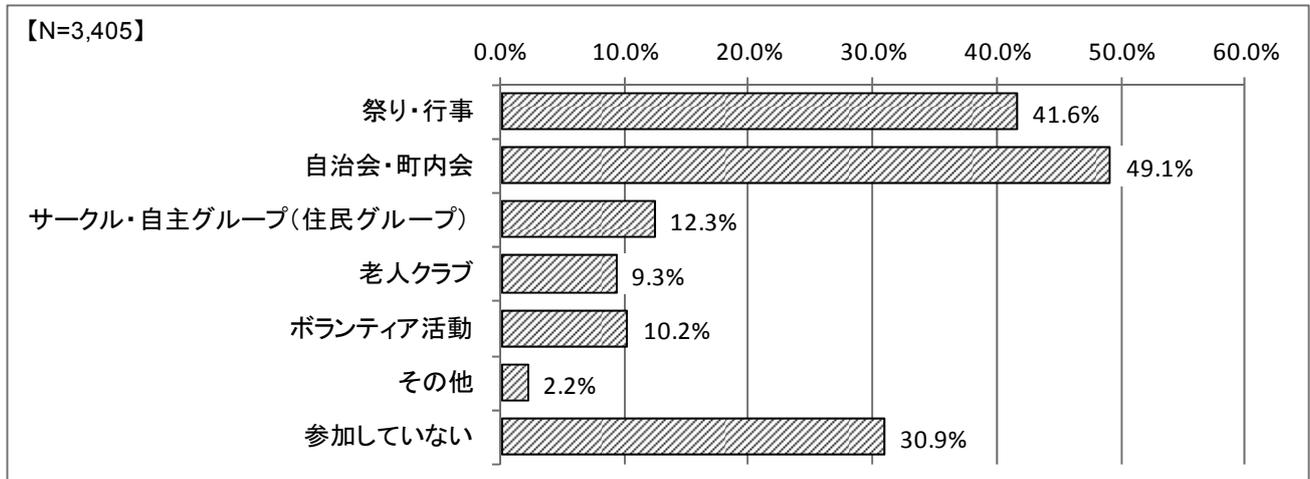


地域別にみると、いずれの地域においても「足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操」や「閉じこもりを防ぐための、集まる場所や教室づくり」の認知度は高くなっています。一方、「自宅内で生活できるようにするための練習」や「口の中や入れ歯の手入れ方法や、むせ防止のためのお口の運動」はいずれの地域においても低い認知度となっています。

### (3) 参加している地域活動等

問 26 あなたは地域活動等に参加していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

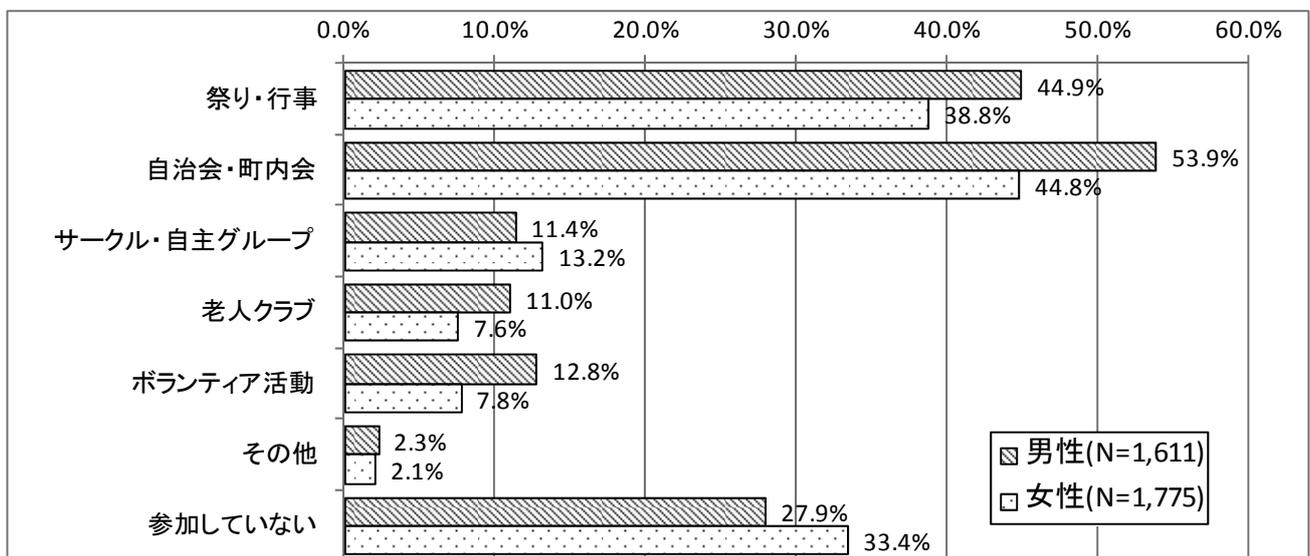
図 参加している地域活動等



参加している地域活動等では、「自治会・町内会」が 49.1%、「祭り・行事」が 41.6%となっています。

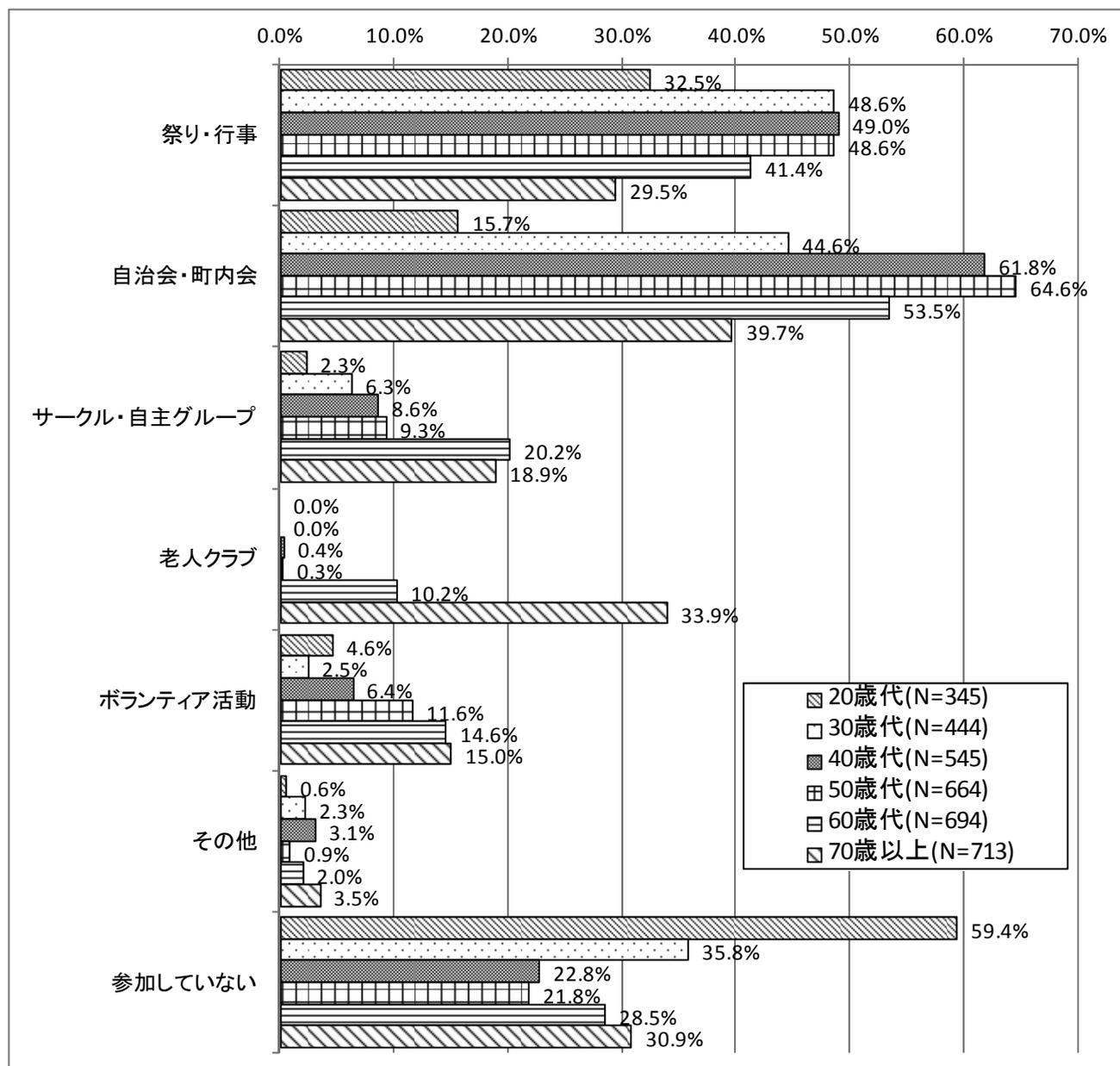
また、「参加していない」が 30.9%と 3 割程度の方は地域活動に参加していないと回答しています。

図 参加している地域活動等－性別



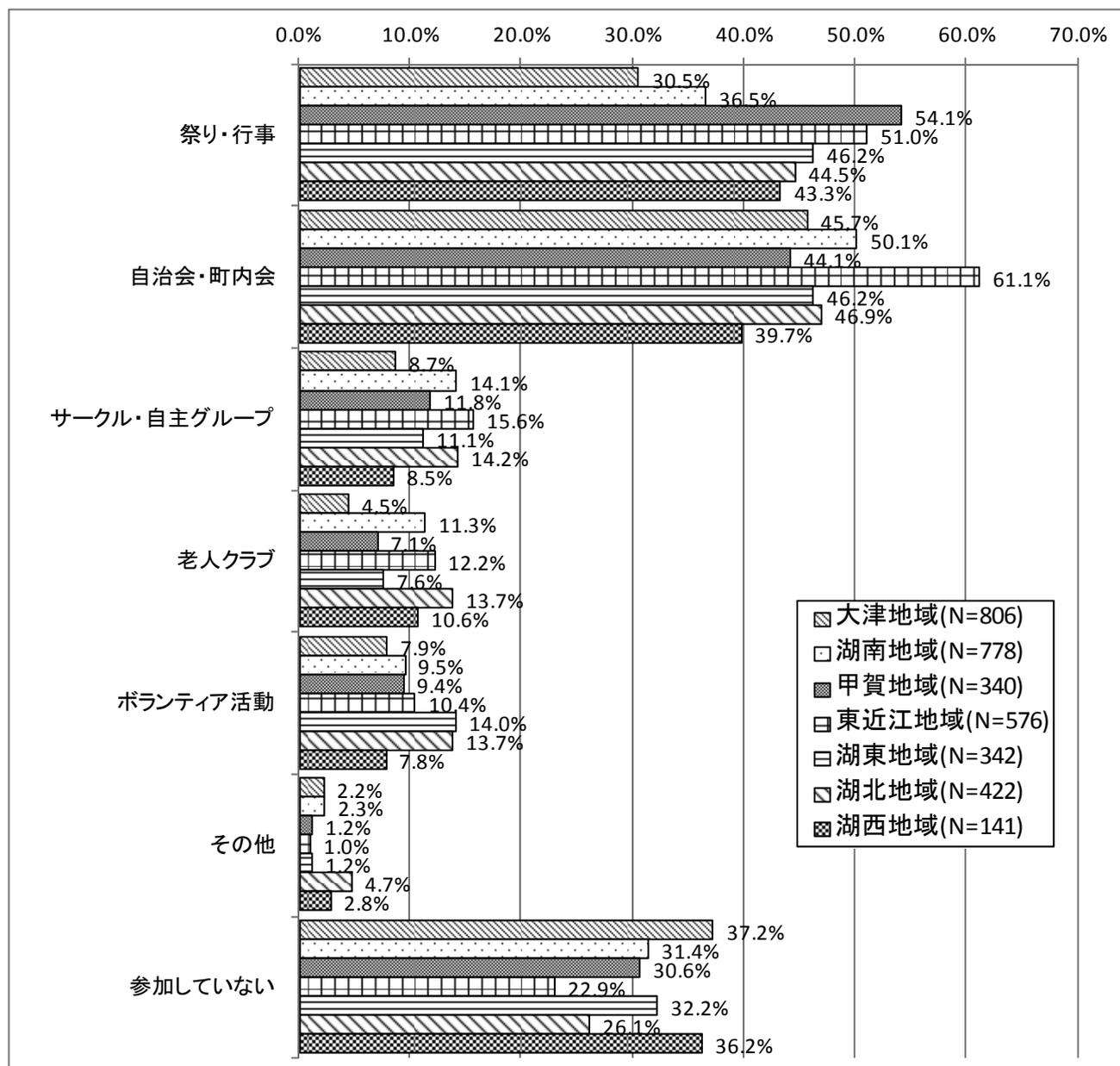
性別にみると、男性は「サークル・自主グループ」以外の項目で女性よりも多くなっており、様々な地域活動に参加している状況が見られます。また、女性は「参加していない」が男性よりも多くなっています。

図 参加している地域活動等一年齢別



年齢別にみると、「参加していない」は20歳代では59.4%と半数以上が地域活動等に参加していないと回答しています。次いで30歳代の35.8%と若い世代の不参加が多くなっています。

図 参加している地域活動等一地域別

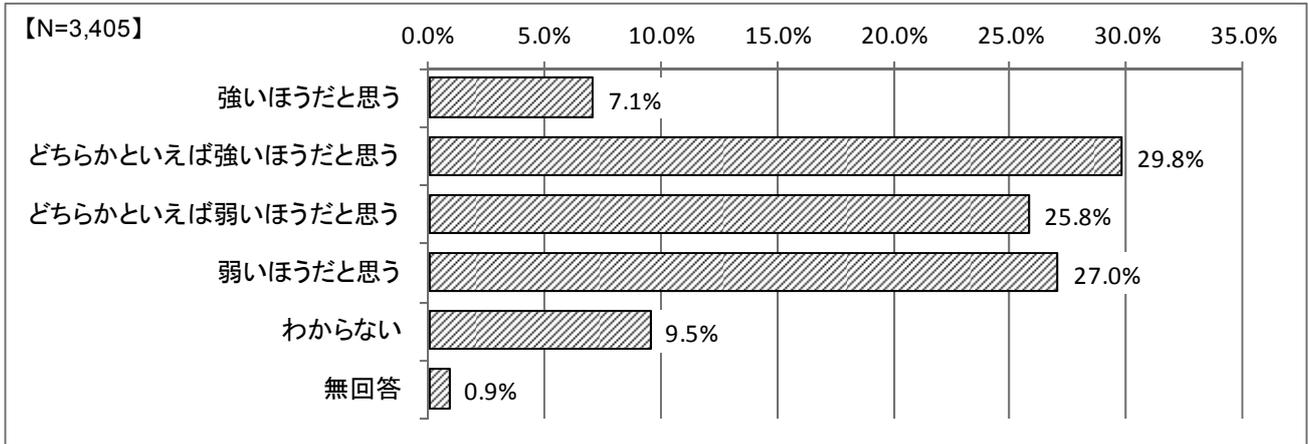


地域別にみると、「祭り・行事」は大津地域で30.5%、湖南地域で36.5%と少なくなっています。また、「自治会・町内会」は東近江地域が61.1%と最も多く、組織率が高くなっています。一方、「参加していない」は大津地域で37.2%、湖西地域で36.2%と多くなっています。

#### (4) 地域とのつながりの強さについて

問27 あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強いほうだと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

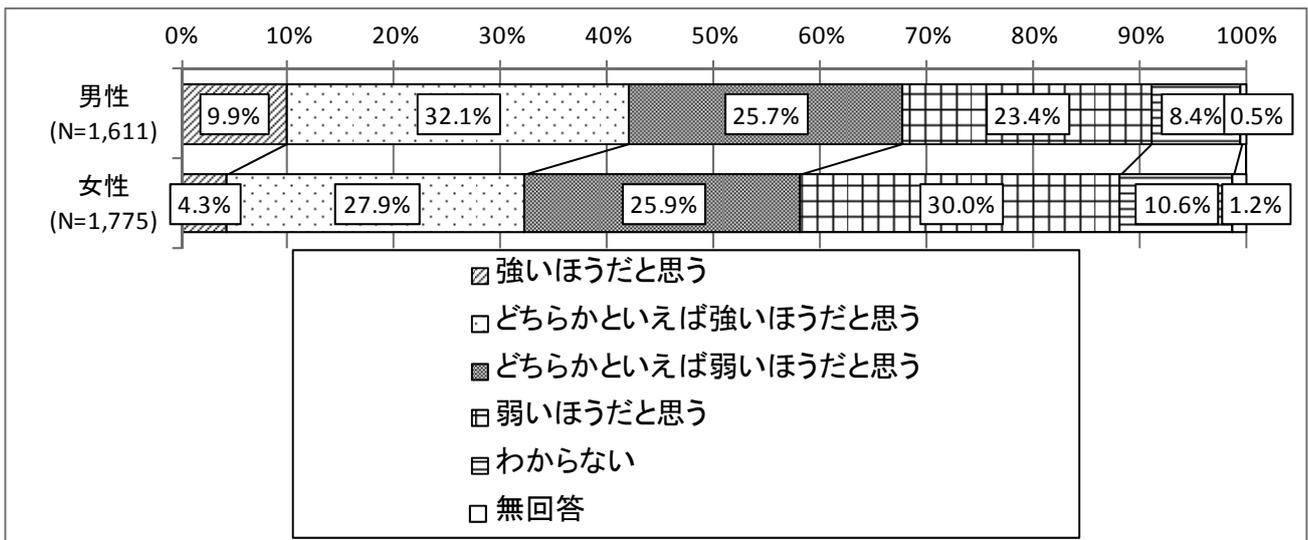
図 地域とのつながりの強さについて



地域とのつながりの強さについては、「どちらかといえば強いほうだと思う」が29.8%で、「強いほうだと思う」の7.1%を加えると3割超の人がつながりが強いと回答しています。

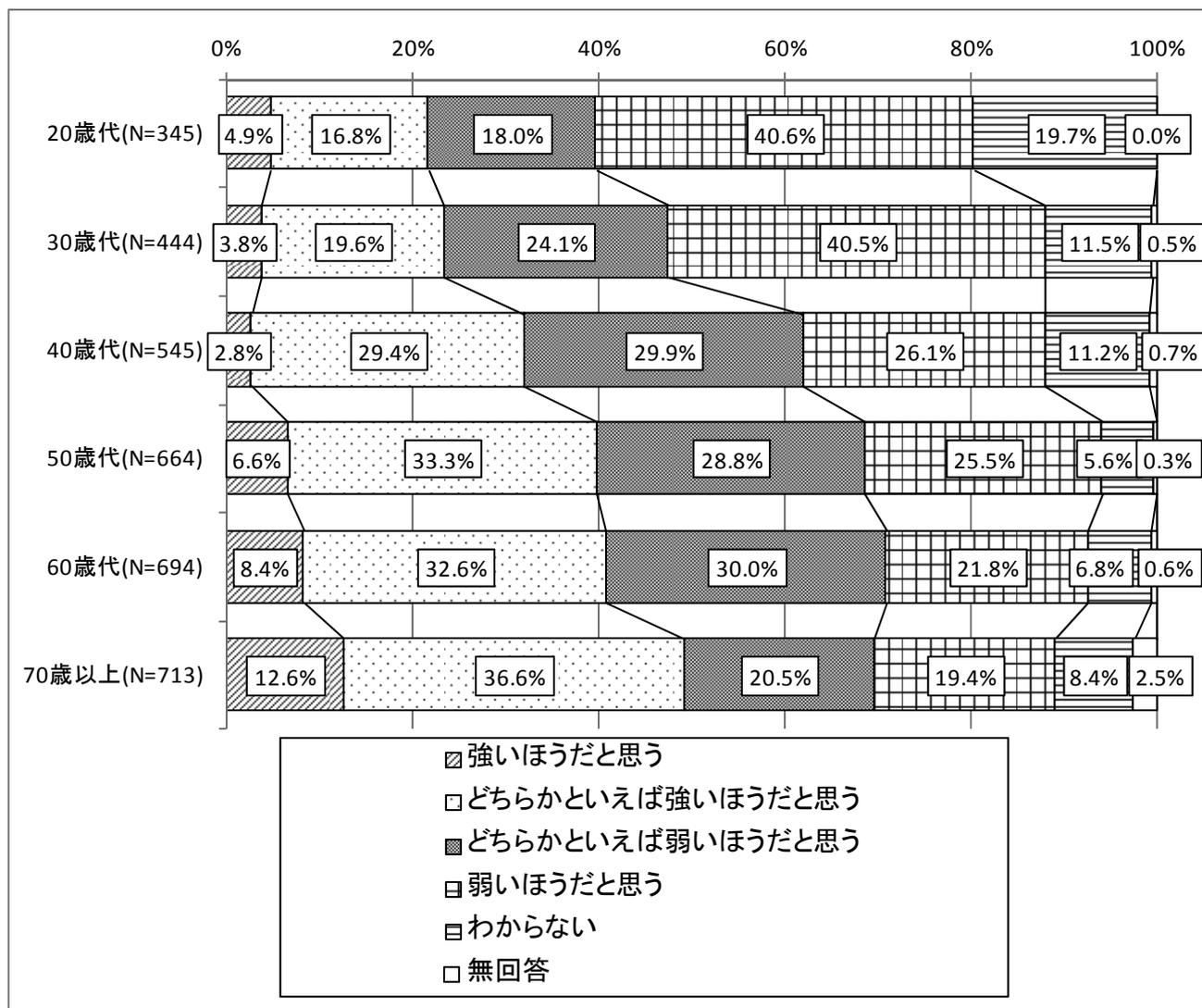
一方、「弱いほうだと思う」は27.0%で、「どちらかといえば弱いほうだと思う」の25.8%を加えると地域とのつながりが弱いと回答した人は5割以上となっています。

図 地域とのつながりの強さについて－性別



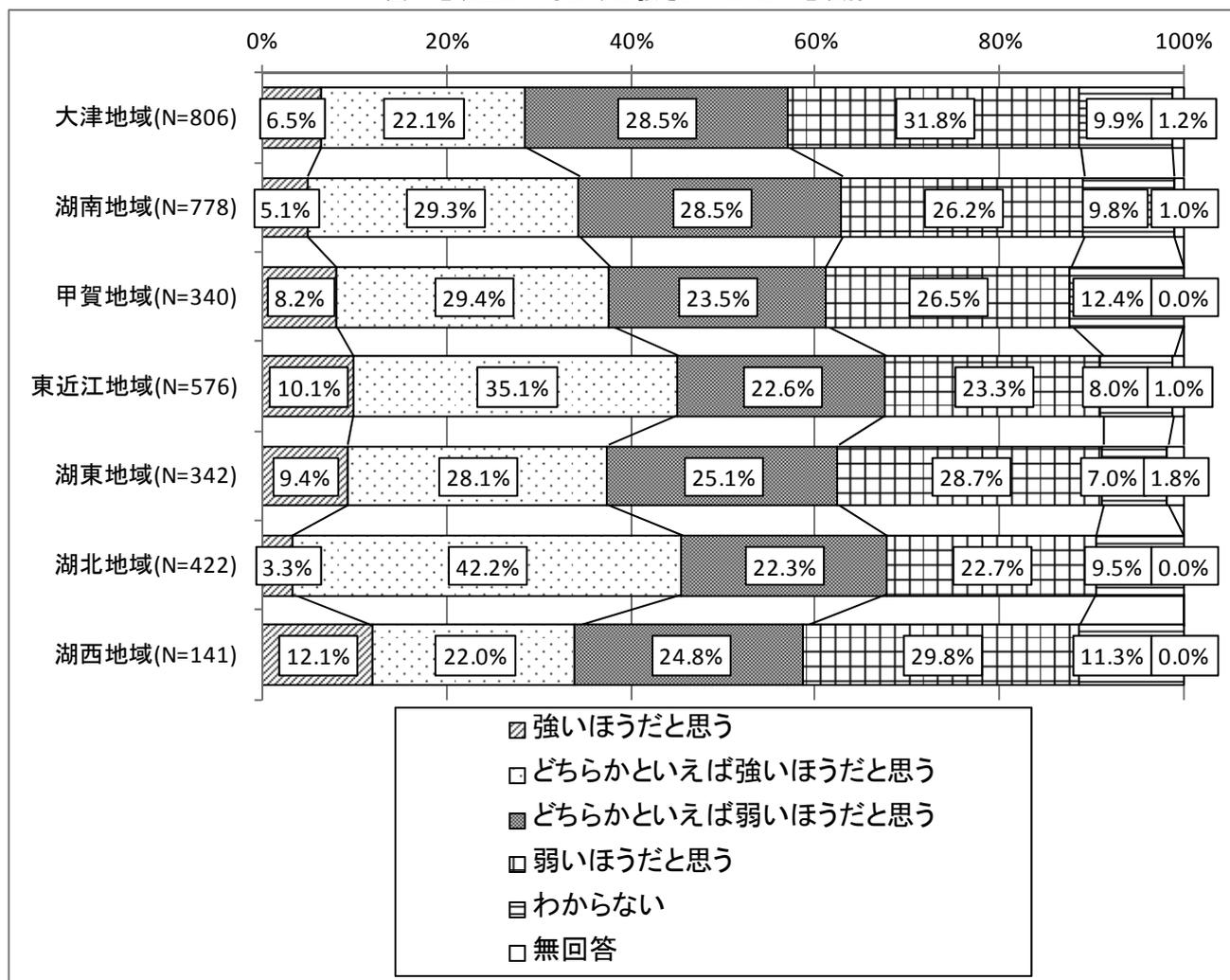
性別にみると、男性は「強いほうだと思う」「どちらかといえば強いほうだと思う」が女性に比べて多く、女性は「弱いほうだと思う」が多くなっています。

図 地域とのつながりの強さについて一年齢別



年齢別にみると、「強いほうだと思う」は70歳以上で12.6%と概ね高齢者ほど多くなっています。逆に「弱いほうだと思う」は20歳代が40.6%、30歳代が40.5%と多くなっています。

図 地域とのつながりの強さについて—地域別

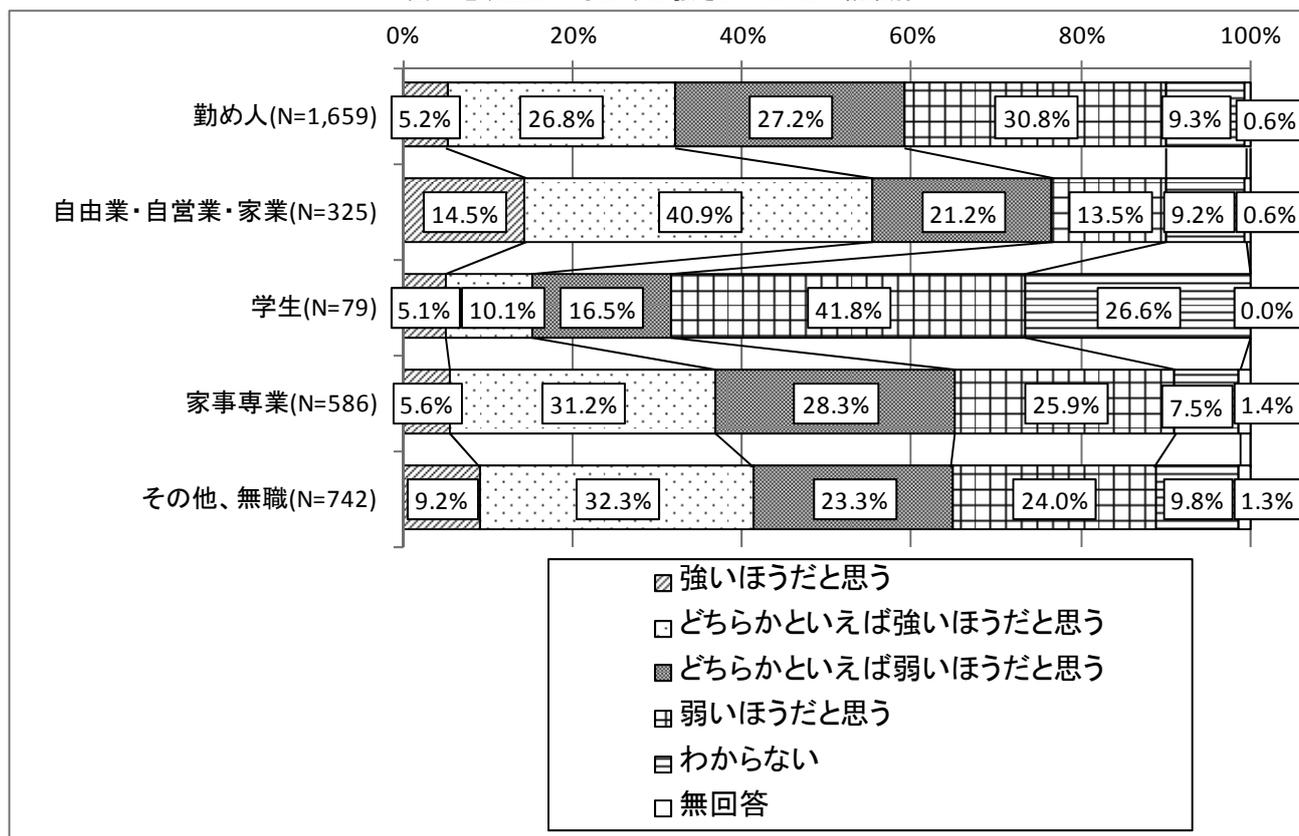


地域別にみると、「強いほうだと思う」と「どちらかといえば強いほうだと思う」を合わせたつながりが強いと考えているのは東近江地域や湖北地域となっています。

一方、つながりが弱いと考えているのは、大津地域や湖南地域、湖西地域となっています。

湖西地域は、「強いほうだと思う」が12.1%と他地域に比べて最も多くなっている反面「弱いほうだと思う」も大津地域の31.8%に次いで多く29.8%となっています。

図 地域とのつながりの強さについて—職業別



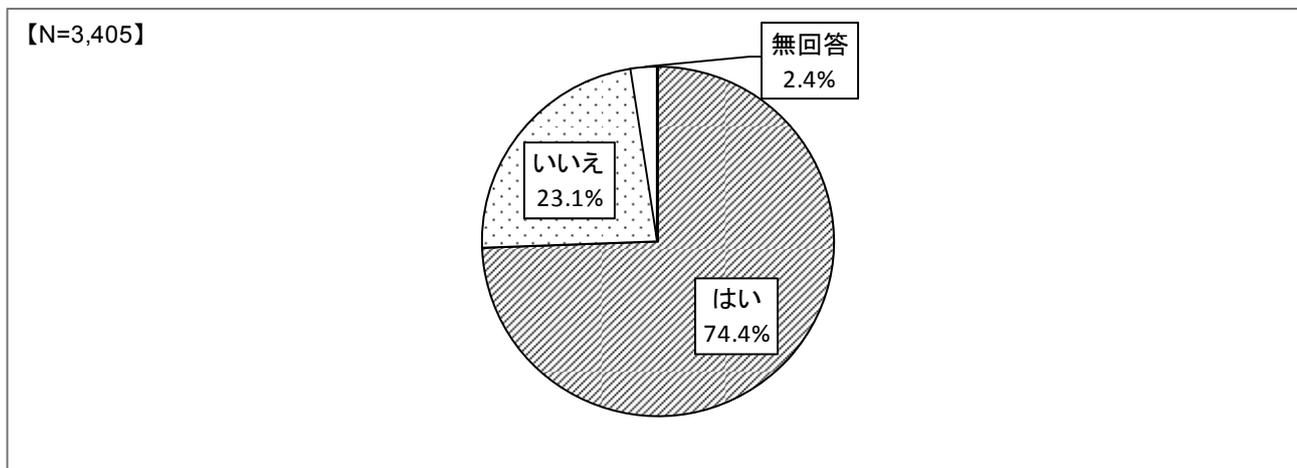
職業別に地域とのつながりの強さについてみると、強いほうだと思っているのは「自由業・自営業・家業」で「強いほうだと思う」と「どちらかといえば強いほうだと思う」を合わせると 55.4% となります。逆に強いほうだと思っている割合が低いのは「学生」となっています。

## 6. 健康づくりについて

### (1) 適正体重の維持を心がけているか

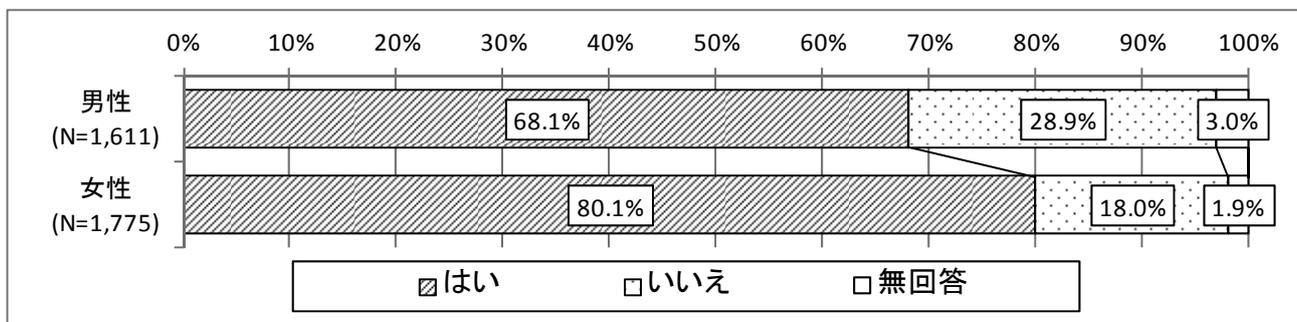
問 28 あなたは、現在の自分の体重をふつうの体重に近づけたり維持するように心がけていますか。

図 適正体重の維持を心がけているか



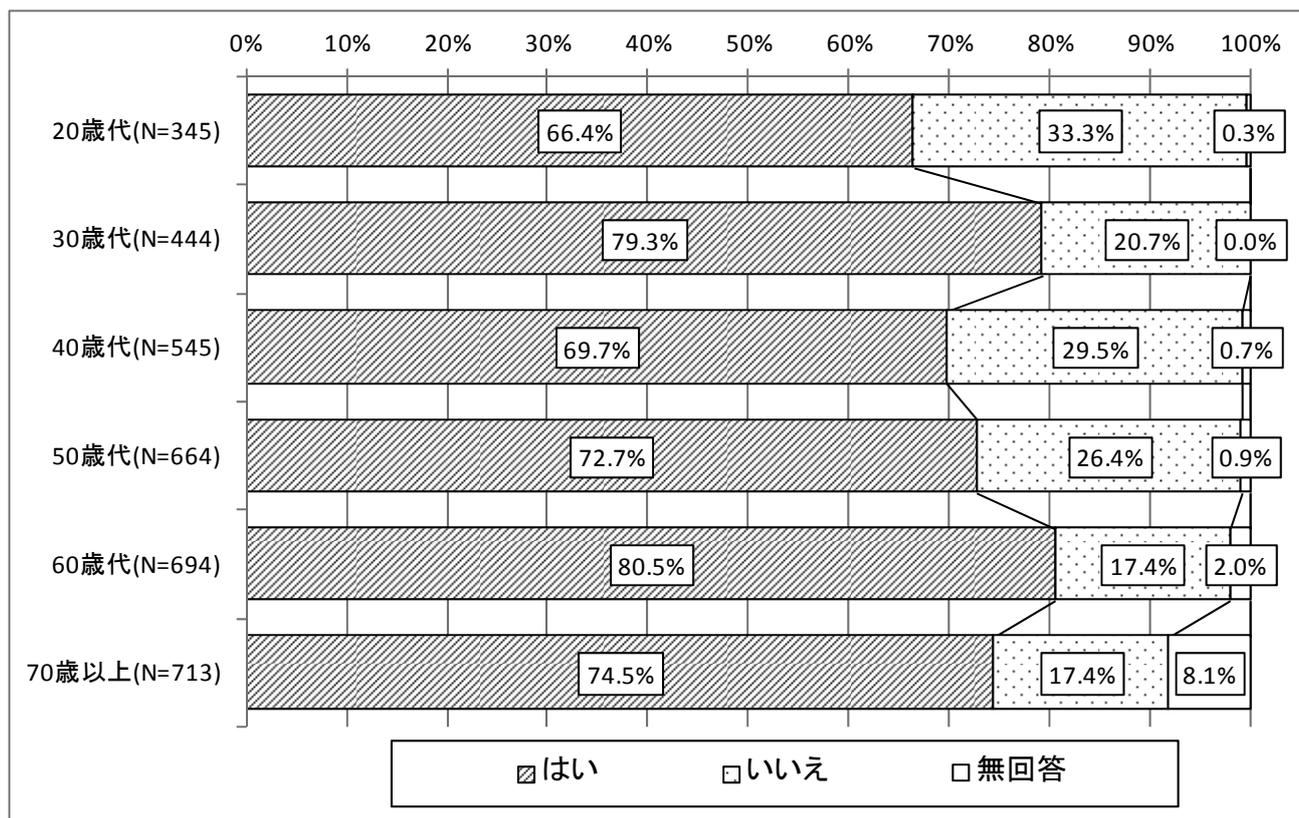
適正体重の維持を心がけているかどうかでは、「はい」が 74.4%で、「いいえ」が 23.1%となっています。

図 適正体重の維持を心がけているかー性別



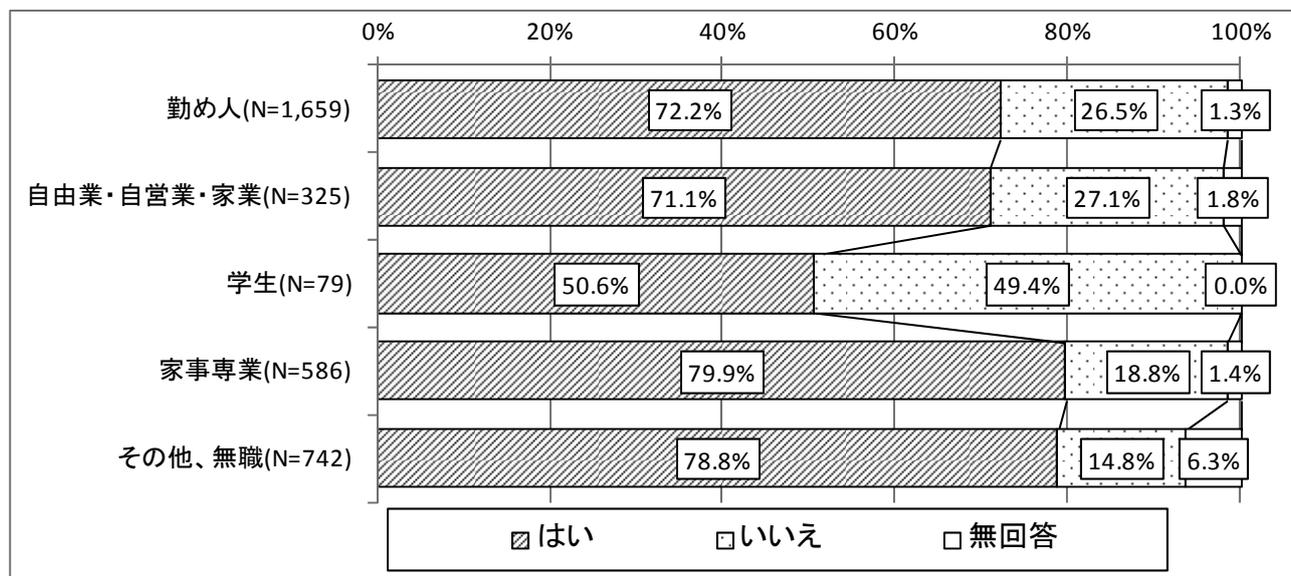
性別にみると、女性のほうが男性に比べて「はい」が多く、より適正体重を心がけています。

図 適正体重の維持を心がけているか一年齢別



年齢別にみると、「はい」は20歳代や40歳代で少し低下していますが、概ね7～8割の人が心がけていると回答しています。

図 適正体重の維持を心がけているか一職業別

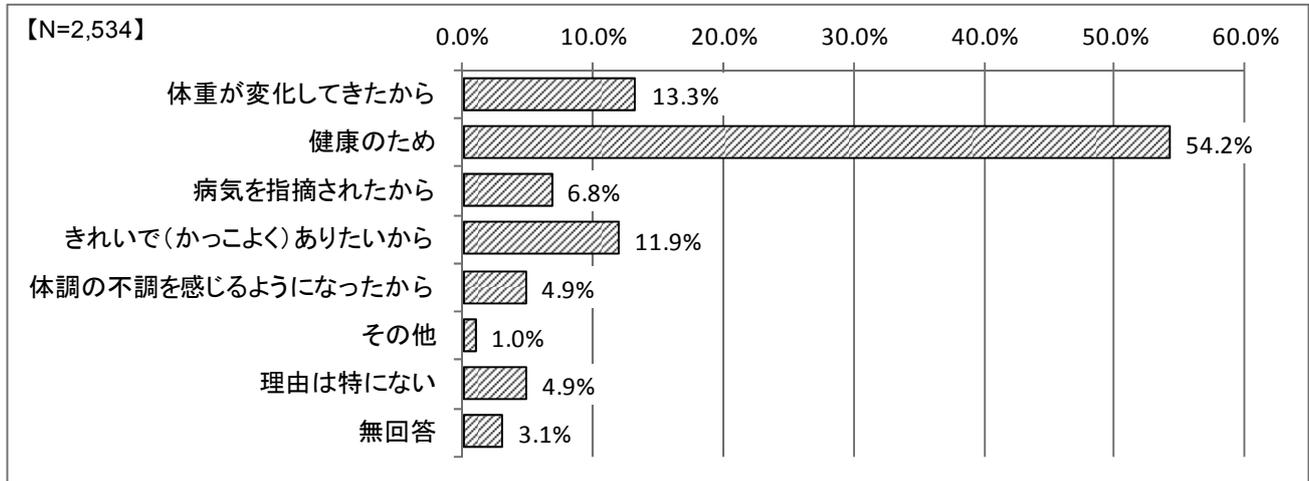


職業別にみると、「はい」は学生が50.6%と低くなっています。

## (2) 適正体重の維持を心がけている理由

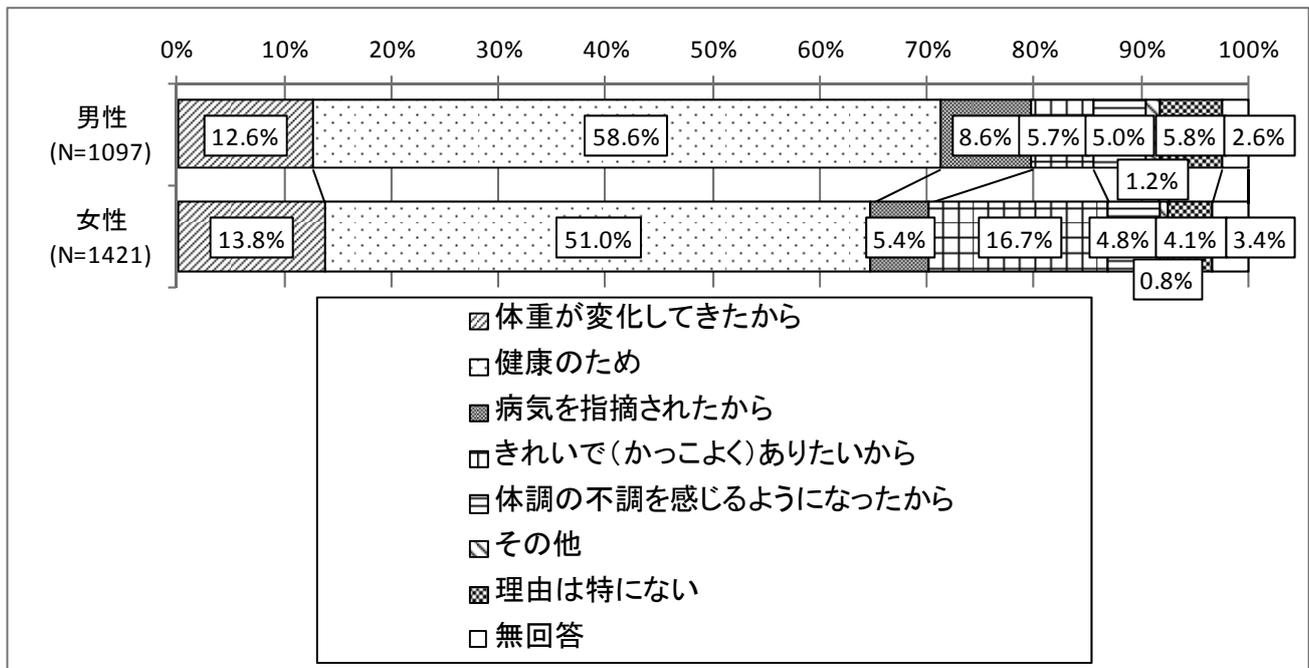
問28-1 問28で「1. はい」とお答えの方におたずねします。心がけている理由は何ですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

図 適正体重の維持を心がけている理由



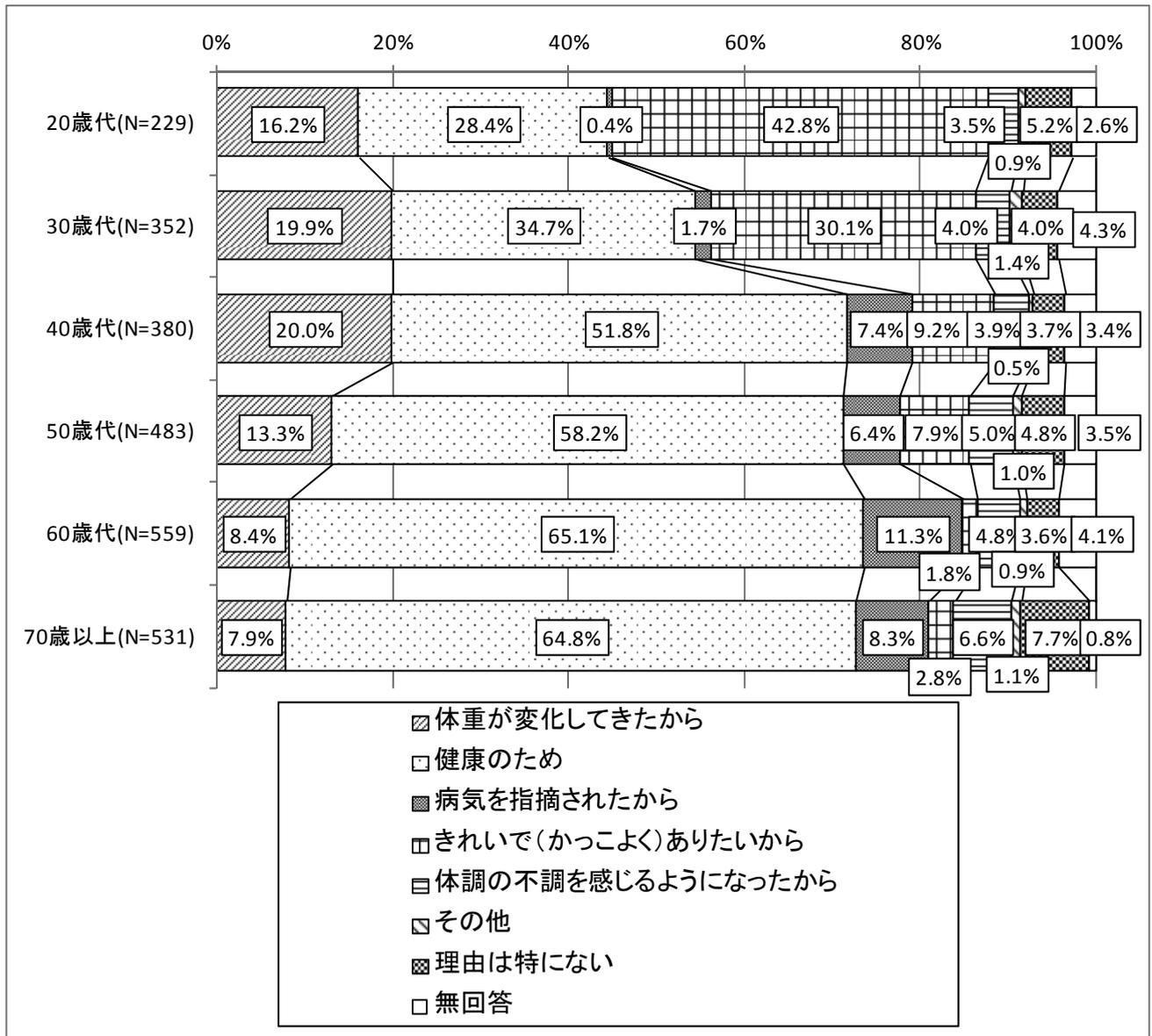
適正体重の維持を心がけているかどうかで「はい」と回答した人について、心がけている理由をたずねたところ、「健康のため」が54.2%で最も多く、次いで「体重が変化してきたから」の13.3%、「きれいで(かっこよく)ありたいから」の11.9%となっています。

図 適正体重の維持を心がけている理由－性別



性別にみると、全体的な傾向は大きな差異はみられませんが、女性のほうが男性に比べて「きれいで(かっこよく)ありたいから」が多くなっています。

図 適正体重の維持を心がけている理由—年齢別

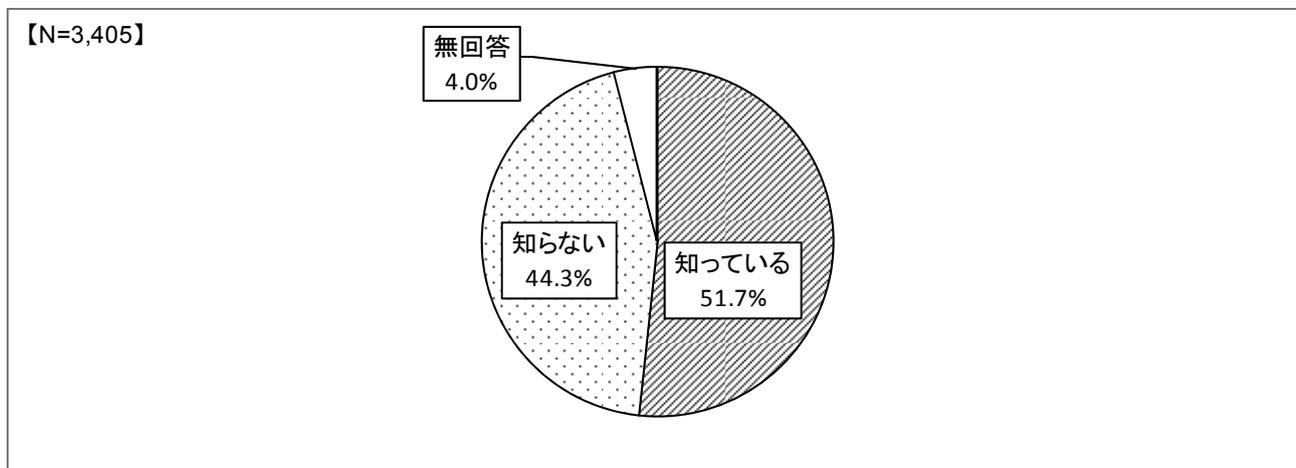


年齢別にみると、20歳代や30歳代では「きれいで(かっこよく)いたいから」が多く、40歳代以上では「健康のため」が半数以上となっています。

### (3) 適切な食事内容や量を知っているか

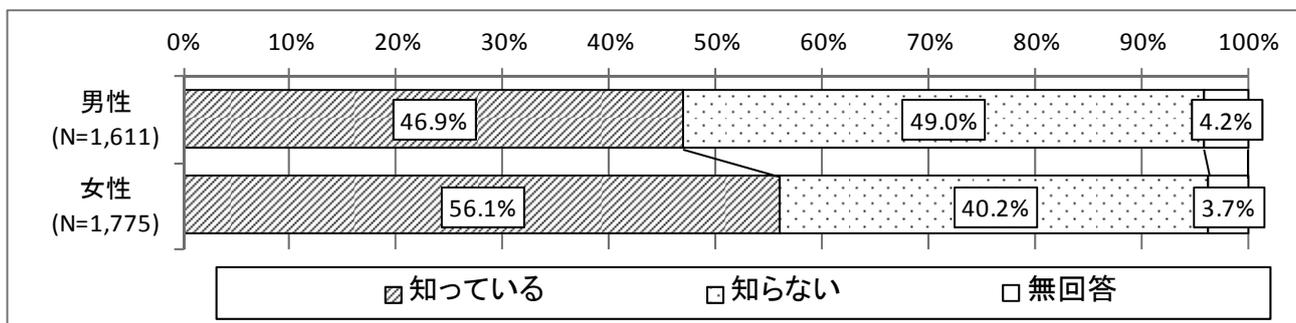
問29 自分の健康や体重を管理するための適切な食事内容や量を知っていますか。

図 適切な食事内容や量を知っているか



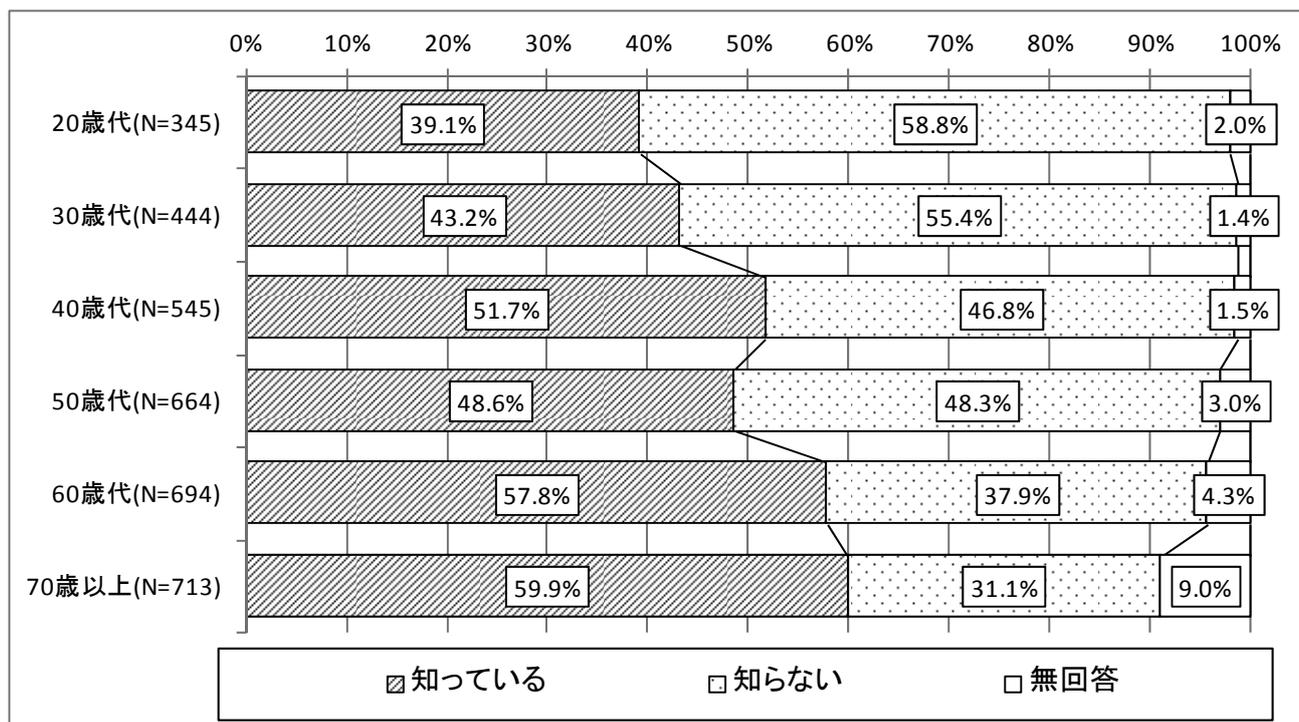
適切な食事内容や量を知っているかどうかでは、「知っている」が51.7%で、「知らない」が44.3%と拮抗した状況となっています。

図 適切な食事内容や量を知っているかー性別



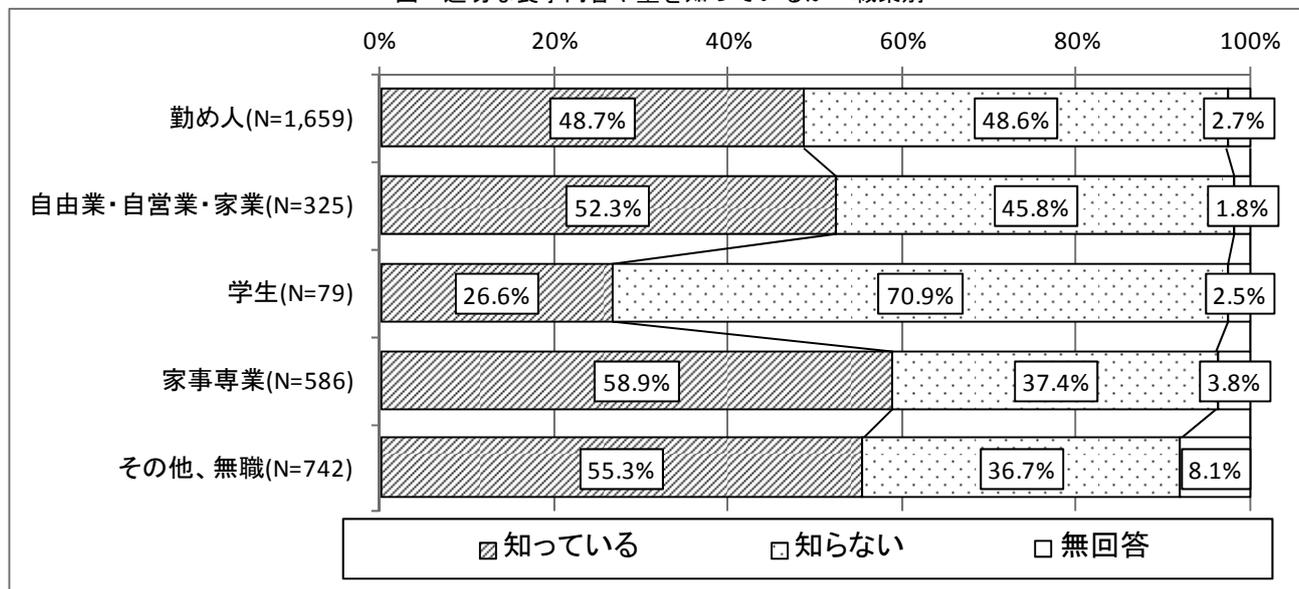
性別にみると、女性のほうが男性に比べて「知っている」が多くなっています。

図 適切な食事内容や量を知っているか—年齢別



年齢別にみると、「知っている」は概ね年齢とともに増加していく傾向となっています。

図 適切な食事内容や量を知っているか—職業別

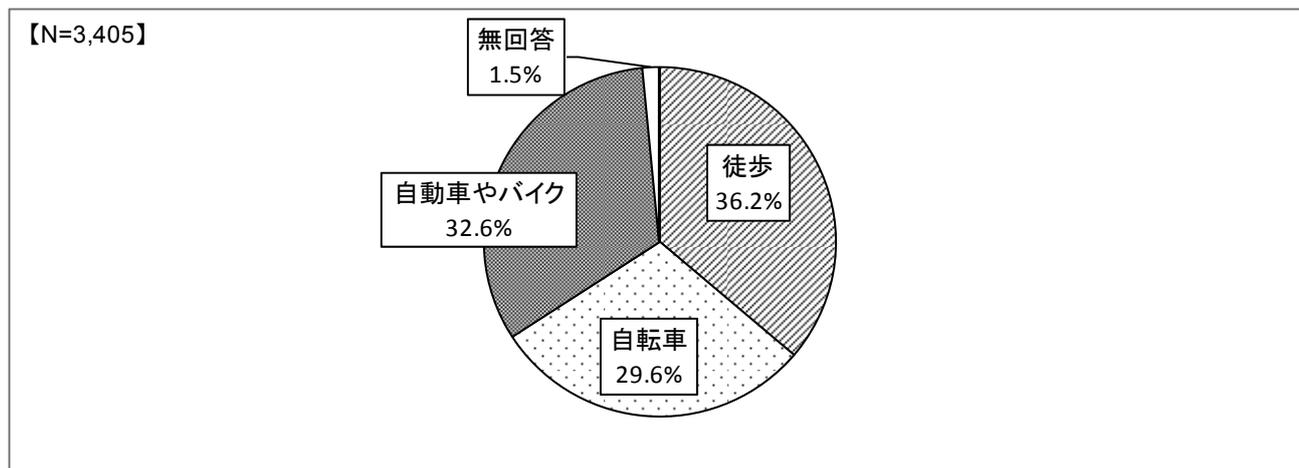


職業別にみると、「知っている」は学生が26.6%と他の職業に比べて低くなっています。

#### (4) 徒歩 10 分圏内への移動手段

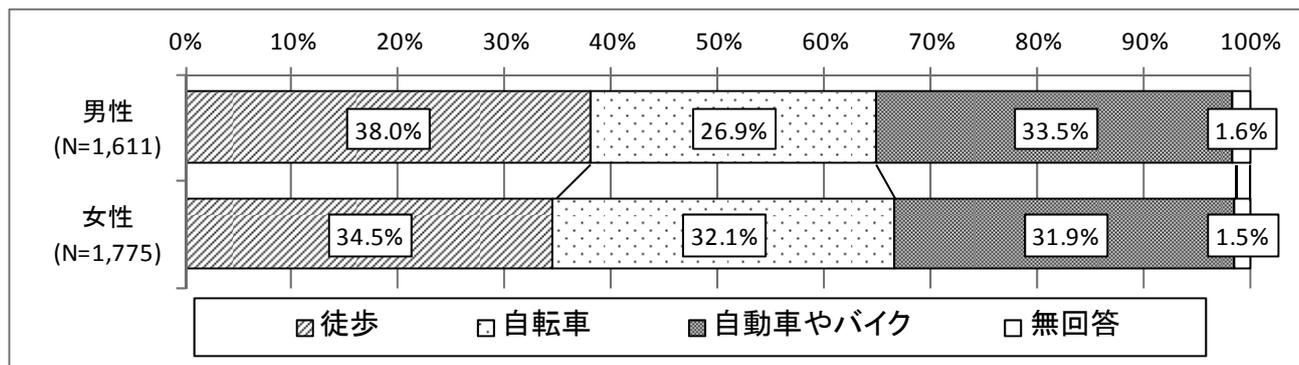
問 30 徒歩 10 分で行けるところへ出かけるとしたら、主にどのような方法で行くことが多いですか。あてはまるもの 1つに〇をつけてください。

図 徒歩 10 分圏内への移動手段



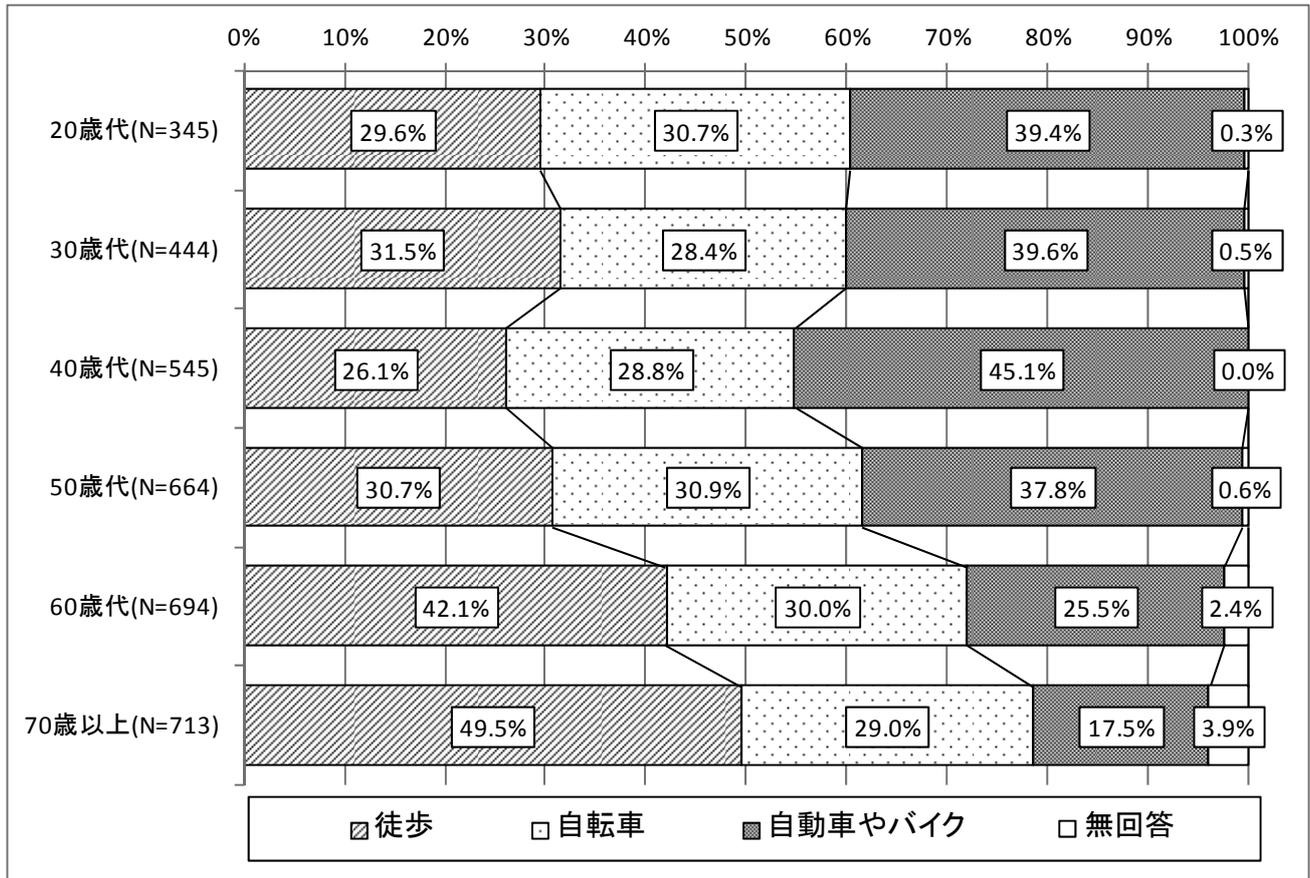
徒歩 10 分圏内への移動手段では、「徒歩」が 36.2%、「自動車やバイク (バスやタクシーを含む)」が 32.6%、「自転車」が 29.6%と意見がほぼ 3 つに分かれた結果となりました。

図 徒歩 10 分圏内への移動手段－性別



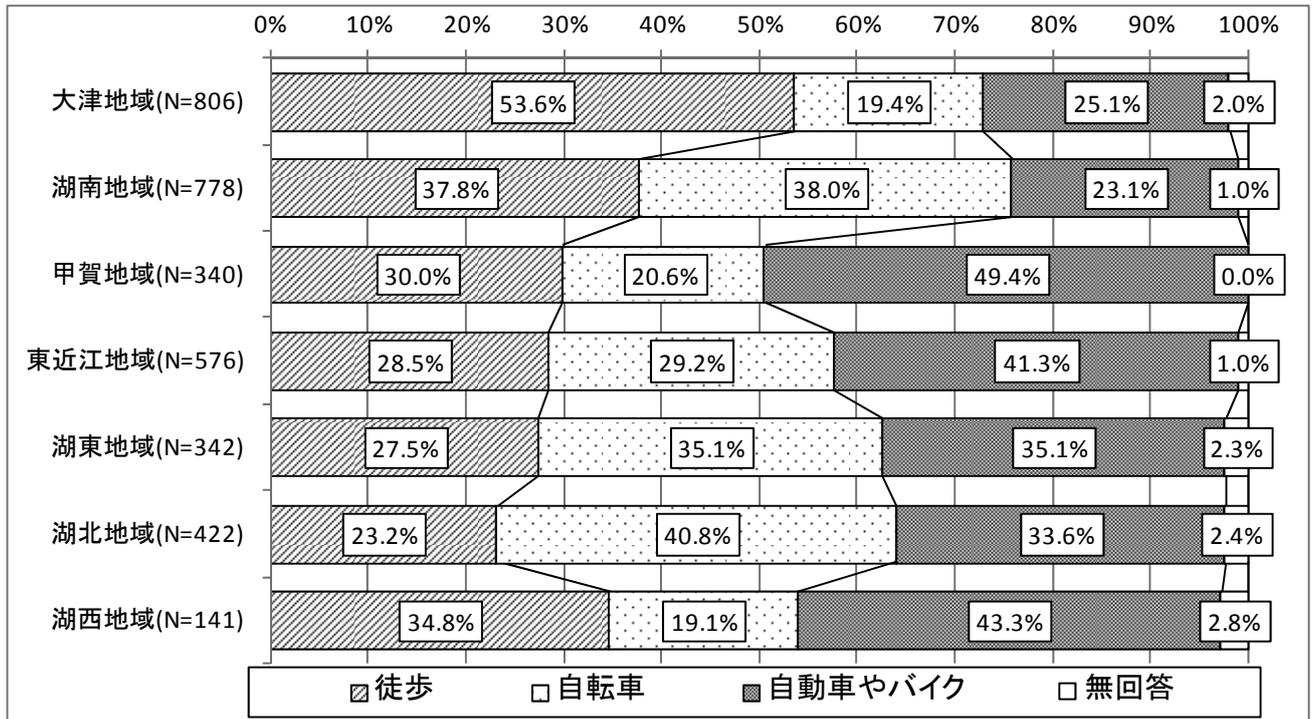
性別にみると、男性は「徒歩」や「自動車やバイク (バスやタクシーを含む)」が多く、女性は「自転車」が多くなっています。

図 徒歩 10 分圏内への移動手段一年齢別



年齢別にみると、50歳代までの世代では「自動車やバイク（バスやタクシーを含む）」が最も多く、60歳代や70歳以上では「徒歩」が最も多くなっています。

図 徒歩 10 分圏内への移動手段—地域別

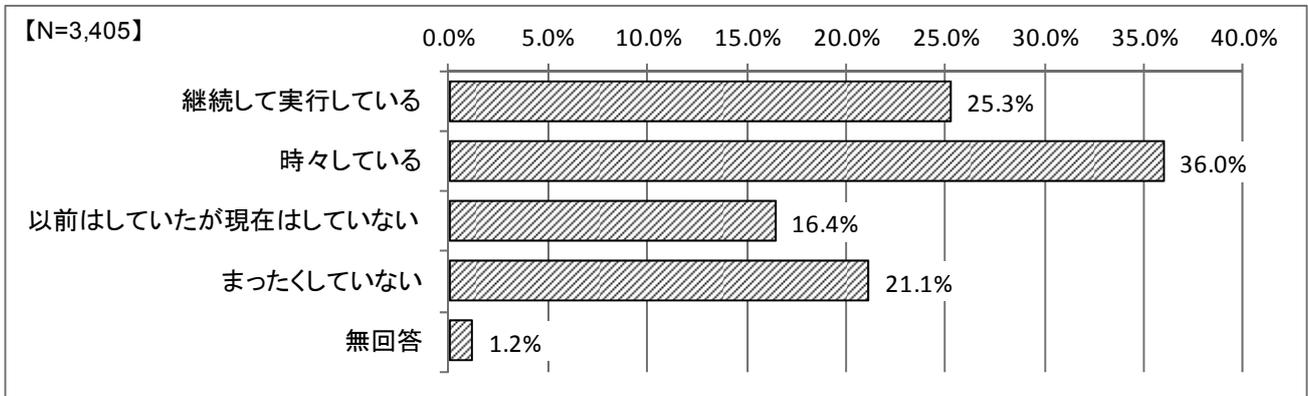


地域別にみると、「徒歩」が多いのは大津地域の 53.6% が最も多くなっています。「自動車やバイク（バスやタクシーを含む）」が多い地域は、甲賀地域の 49.4% や湖西地域の 43.3%、東近江地域の 41.3% などとなっています。

(5) 日常生活での運動の継続について

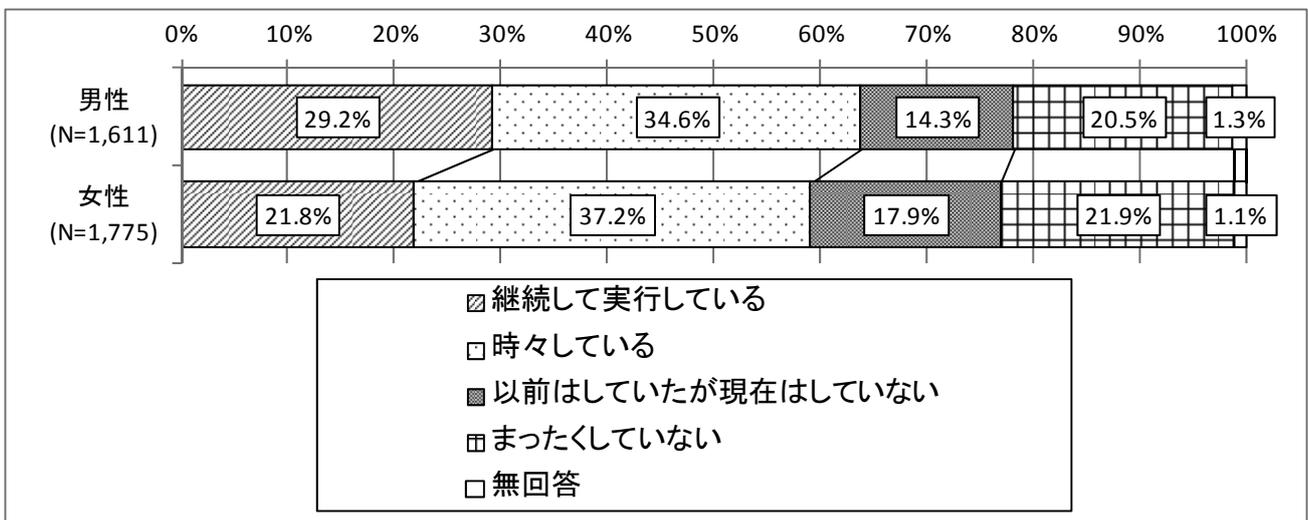
問31 日頃、自分の健康づくりのため意識的に身体を動かすなどの運動を実行していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(学校の授業等で行っているものは除きます。)

図 日常生活での運動の継続について



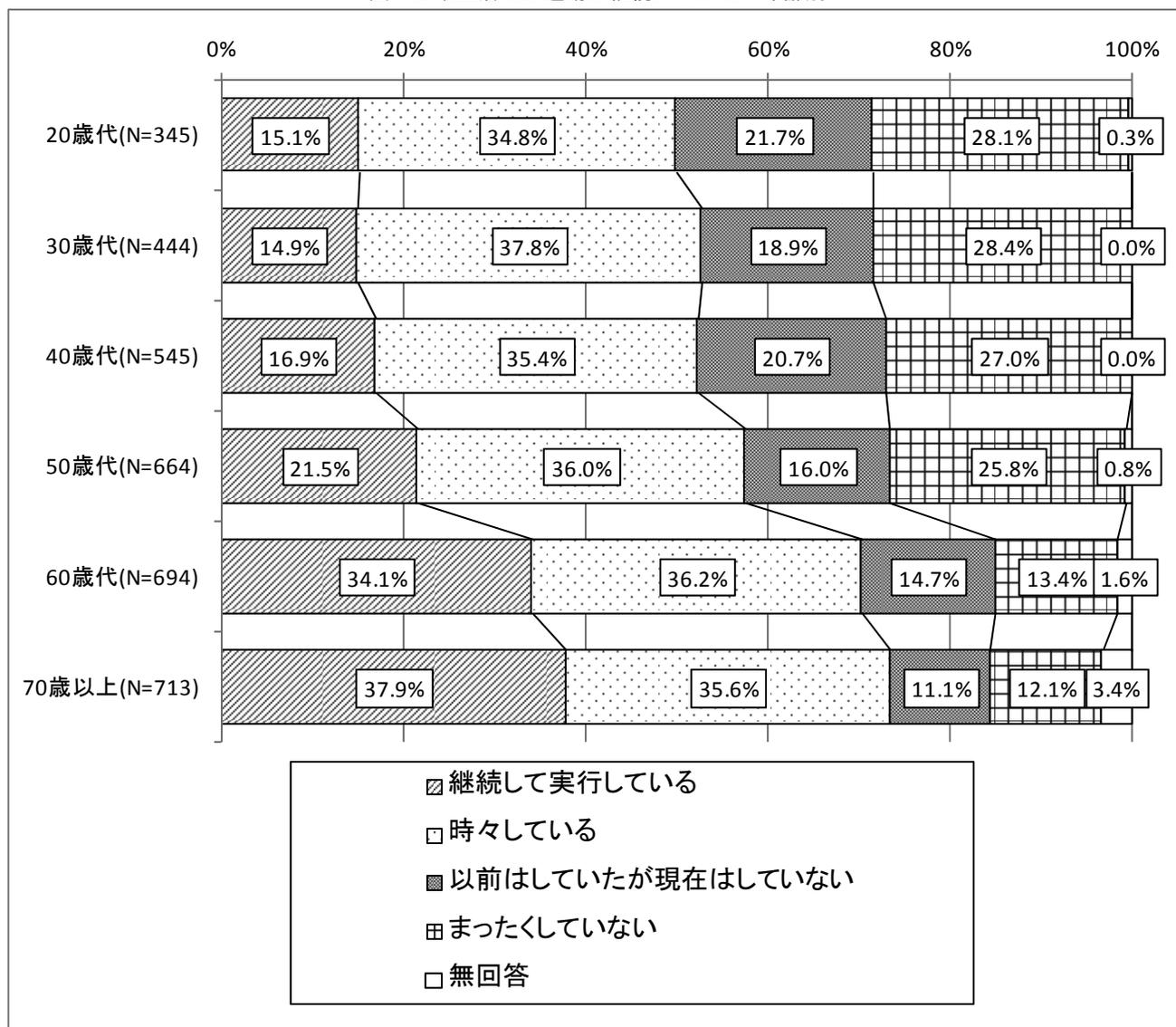
日常生活での運動の継続については、「時々している」が36.0%、「継続して実行している」が25.3%、「まったくしていない」が21.1%、「以前はしていたが現在はしていない」が16.4%となっています。

図 日常生活での運動の継続について－性別



性別にみると、男性のほうが女性に比べて「継続して実行している」が多くなっています。

図 日常生活での運動の継続について一年齢別

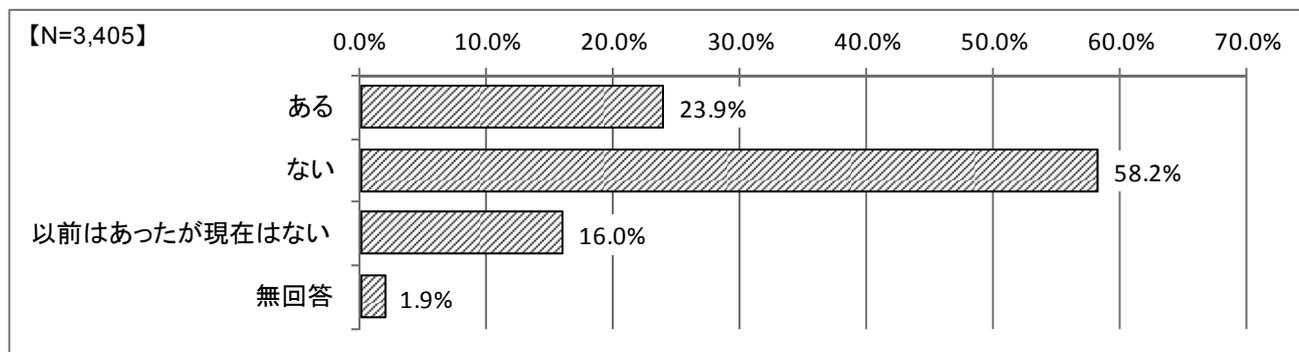


年齢別にみると、「継続して実行している」は年齢とともに増加しており、60歳代では34.1%、70歳以上では37.9%となっています。逆に「まったくしていない」は若年者ほど多く、20歳代で28.1%となっています。

## (6) 継続的に行っている運動について

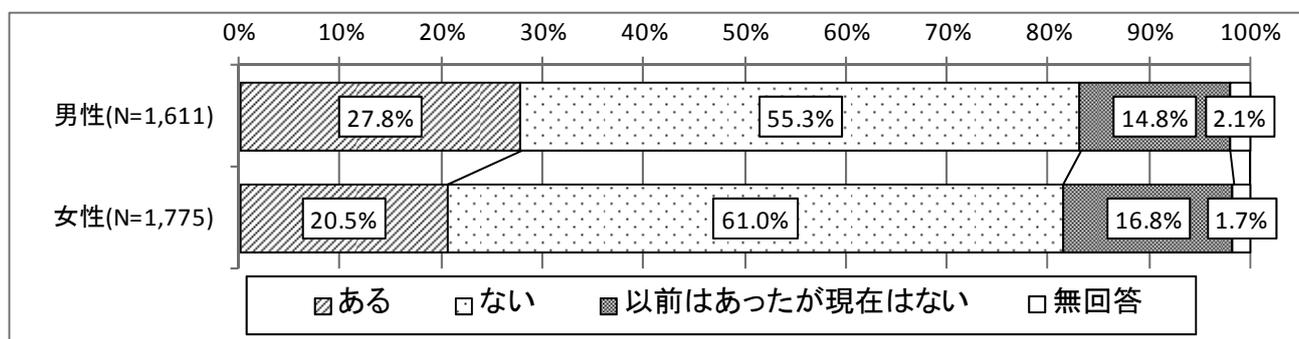
問32 1回30分以上の運動を週2回以上のペースで、1年以上続けているものがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 継続的に行っている運動について



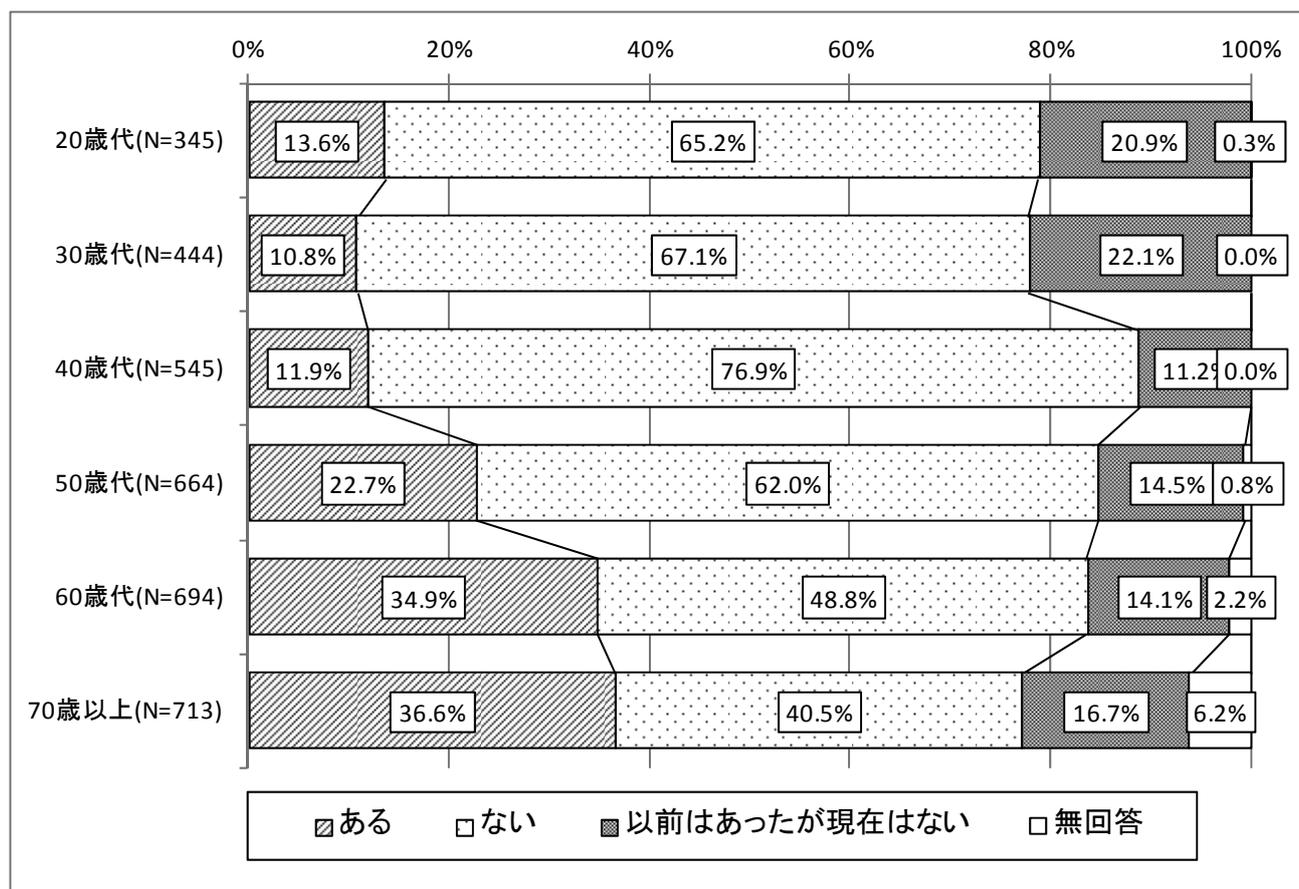
継続的に行っている運動では、「ない」が58.2%で、「ある」が23.9%、「以前はあったが現在はない」が16.0%となっています。

図 継続的に行っている運動について－性別



性別にみると、男性のほうが女性に比べて「ある」が多くなっています。

図 継続的に行っている運動について一年齢別

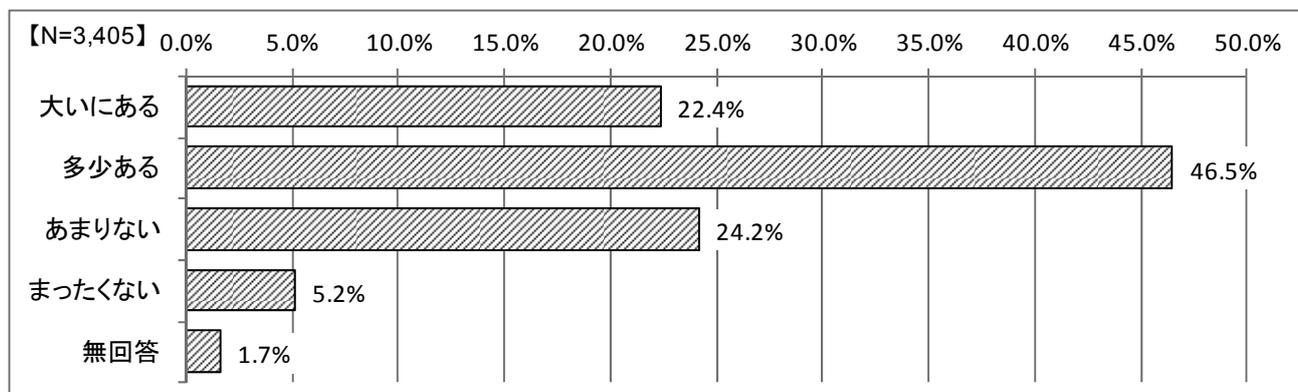


年齢別にみると、「ある」は年齢とともに増加し、60歳代で34.9%、70歳以上で36.6%となっています。逆に「ない」は40歳代の76.9%が最も多く、30歳代で67.1%、20歳代で65.2%と若年者が多くなっています。

## (7) 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について

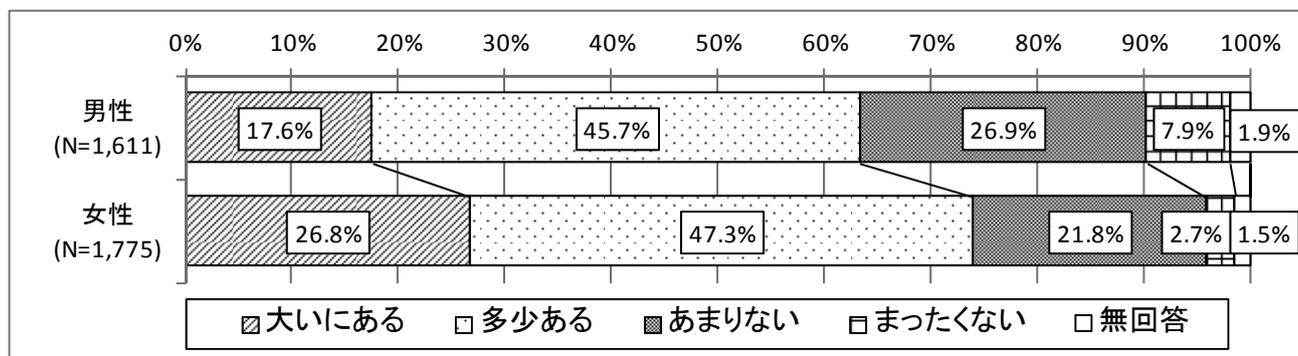
問 33 この1ヶ月に、不満、悩み、ストレスなどがありましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について



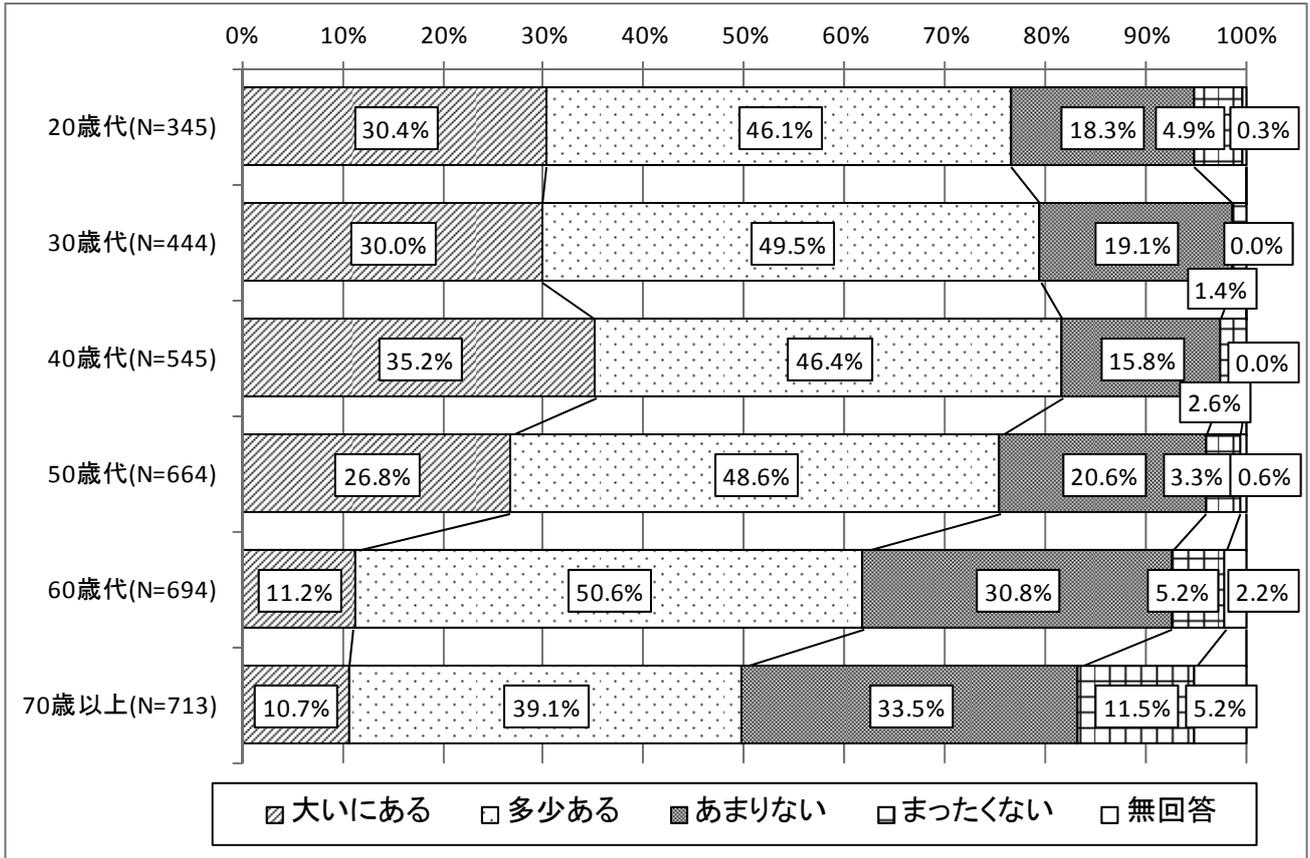
過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等の有無については、「多少ある」が46.5%で最も多く、次いで「あまりない」の24.2%、「大いにある」の22.4%、「まったくない」の5.2%となっています。

図 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について－性別



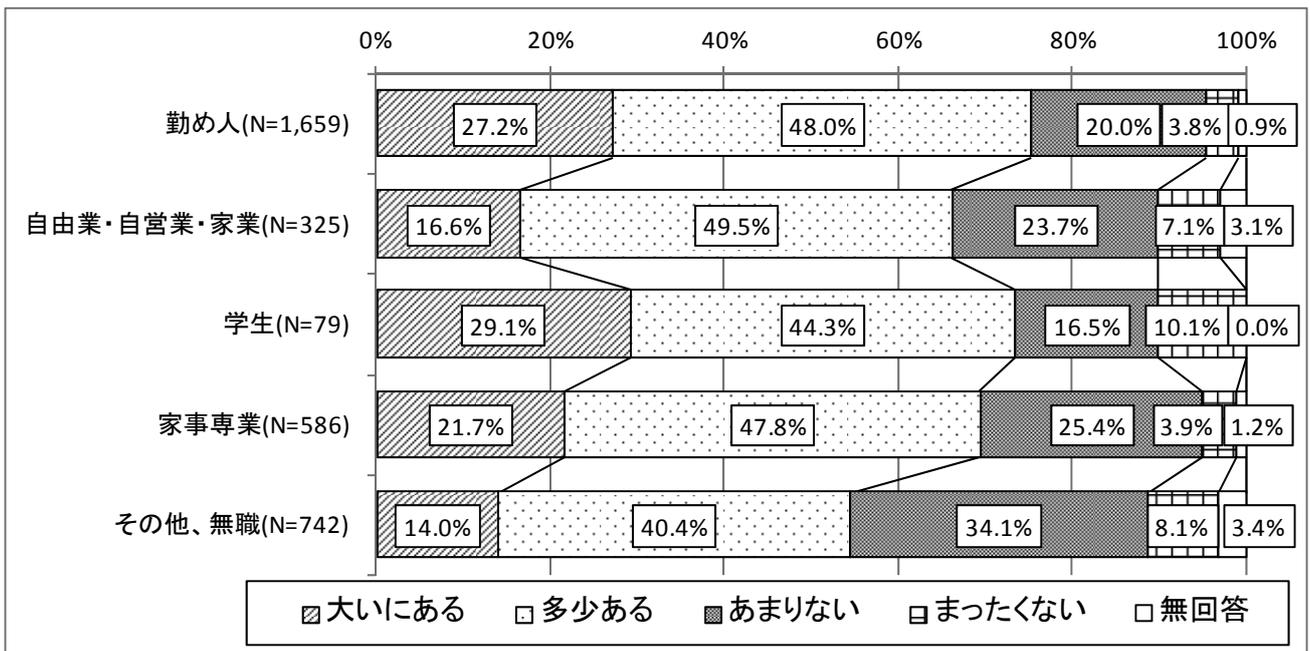
性別にみると、女性のほうが男性に比べて「大いにある」「多少ある」が多く、男性は「まったくない」が多くなっています。

図 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について一年齢別



年齢別にみると、「大いにある」は40歳代で35.2%と最も多く、50歳代までの世代で多くなっており、60歳代で11.2%、70歳以上で10.7%と大きく減少しています。

図 過去1ヶ月の不満・悩み・ストレス等について一職業別

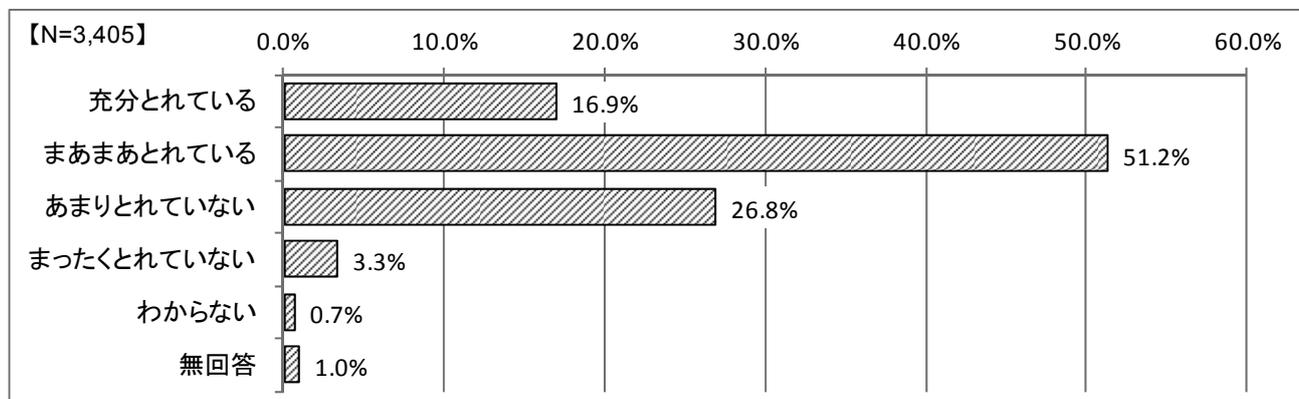


職業別にみると、「大いにある」は勤め人が27.2%、学生が29.1%と多くなっています。

## (8) 睡眠で休養が十分とれているか

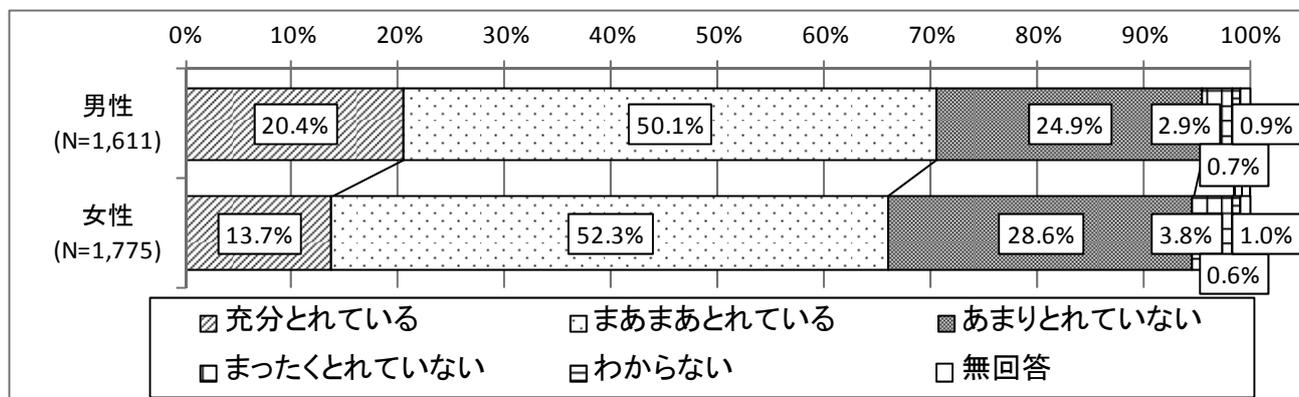
問 34 あなたは、いつもとっている睡眠で休養が充分とれていますか。あてはまるもの 1つに○をつけてください。

図 睡眠で休養が十分とれているか



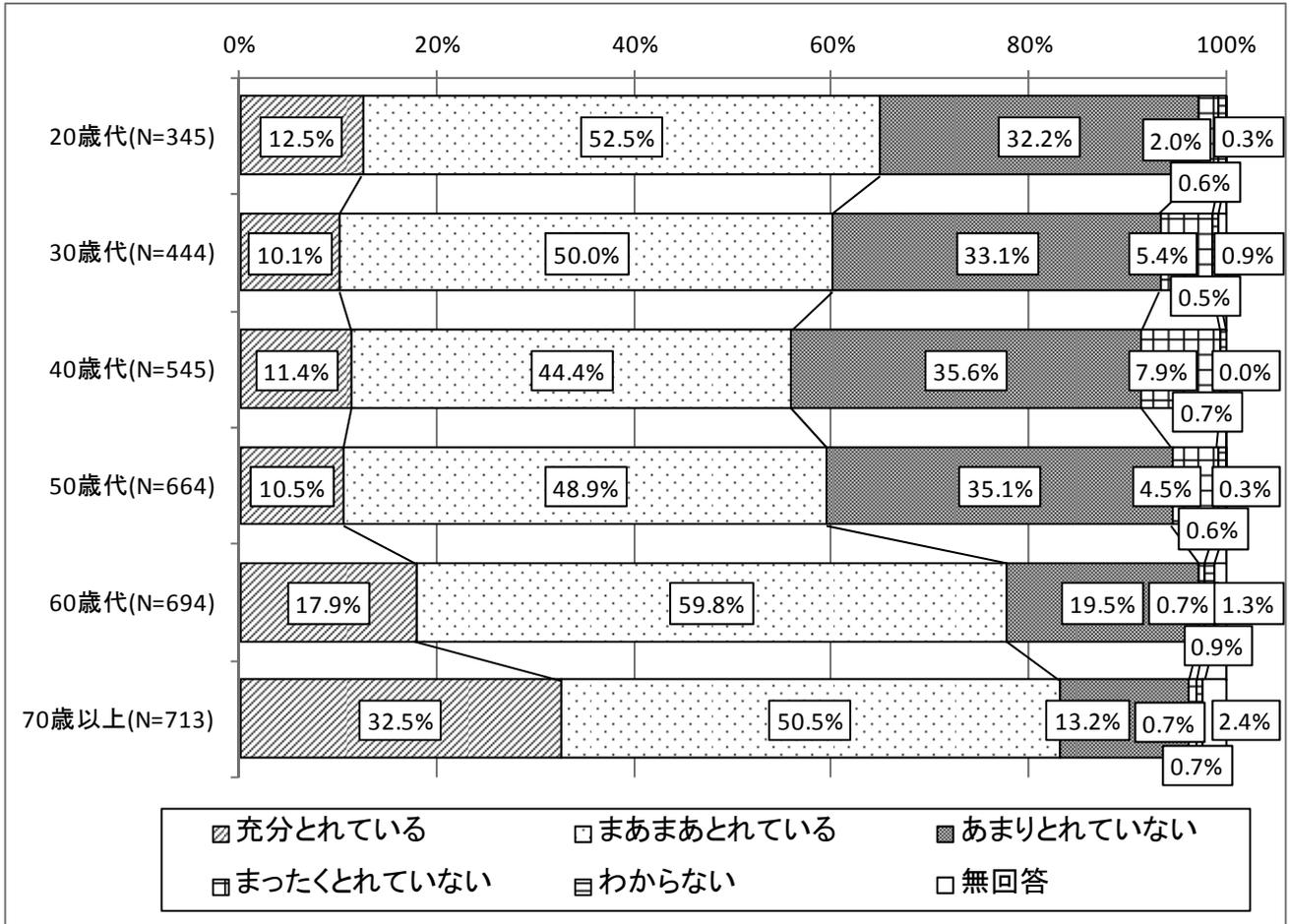
普段の睡眠で休養が十分とれているかでは、「まあまあとれている」が51.2%、「あまり取れていない」が26.8%、「充分とれている」が16.9%などとなっています。

図 睡眠で休養が十分とれているかー性別



性別にみると、男性のほうが女性に比べて「充分とれている」が多く、女性は「あまりとれていない」が多くなっています。

図 睡眠で休養が十分とれているか一年齢別

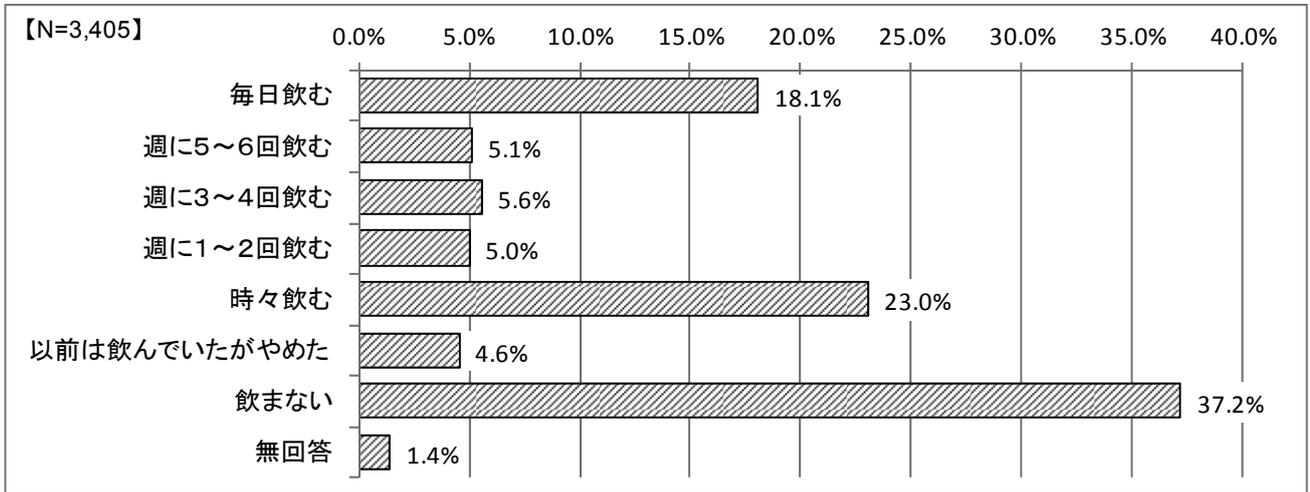


年齢別にみると、「充分とれている」は70歳以上で32.5%と多くなっています。また、「あまりとれていない」は40歳代の35.6%が最も多く、50歳代までの世代で多くなっています。

(9) 飲酒の頻度

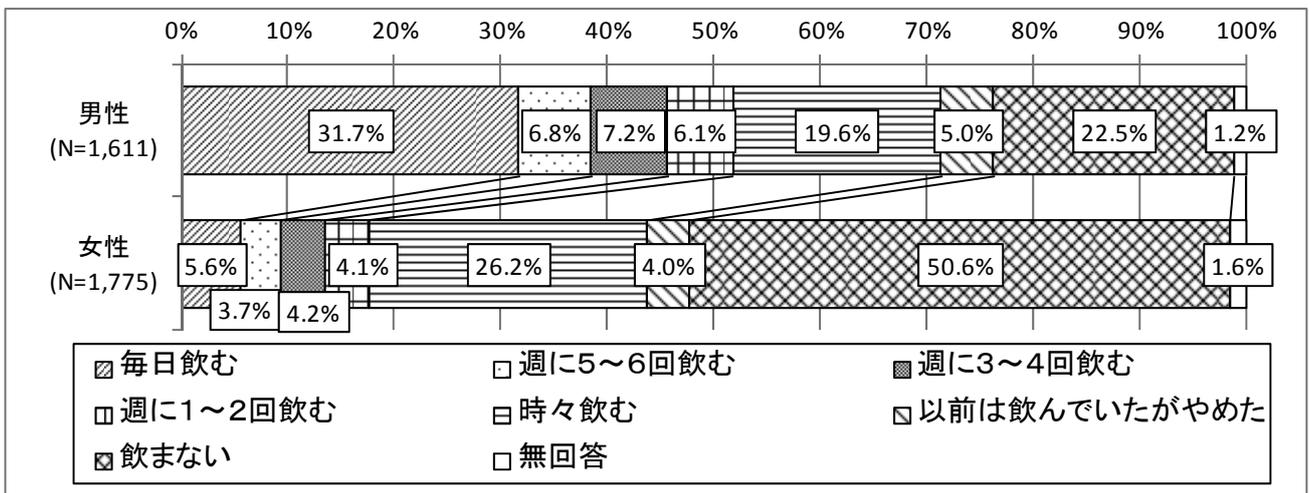
問35 あなたはアルコール類（酒類）を飲みますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 飲酒の頻度



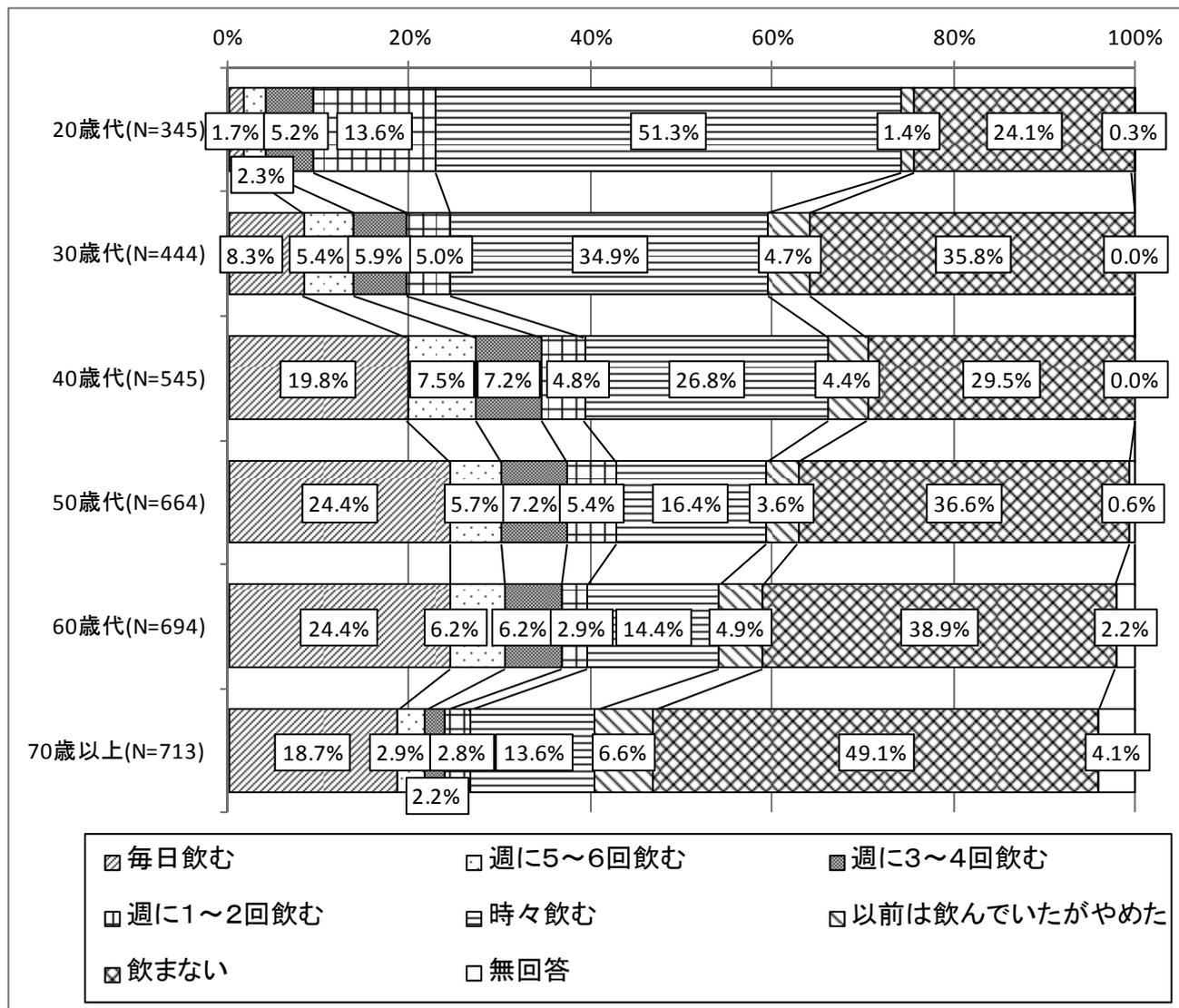
飲酒の頻度では、「飲まない」が37.2%で最も多く、次いで「時々飲む」の23.0%、「毎日飲む」の18.1%などとなっています。

図 飲酒の頻度－性別



性別にみると、男性は「毎日飲む」が多く、女性は「飲まない」や「時々飲む」が多くなっています。

図 飲酒の頻度－年齢別



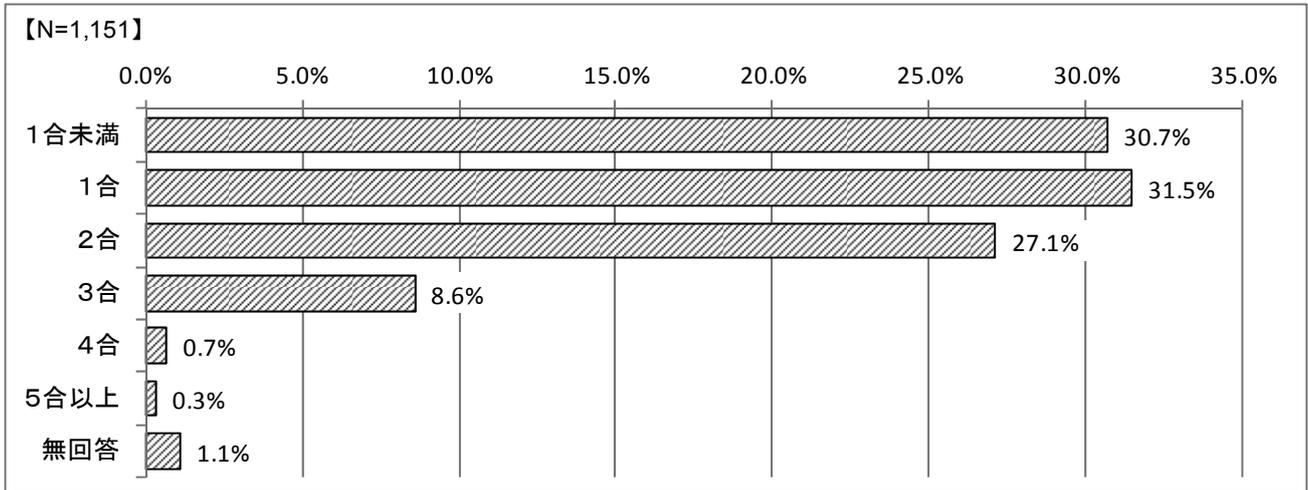
年齢別にみると、「毎日飲む」は40歳代以上の世代で多くなっています。20歳代や30歳代では「時々飲む」が多くなっています。

また、「飲まない」は概ね年齢とともに増加していきます。

(10) 1日の平均飲酒量

問35-1 1日あたり平均するとおおよそどれくらい飲みますか。最も近いもの1つに○をつけてください。

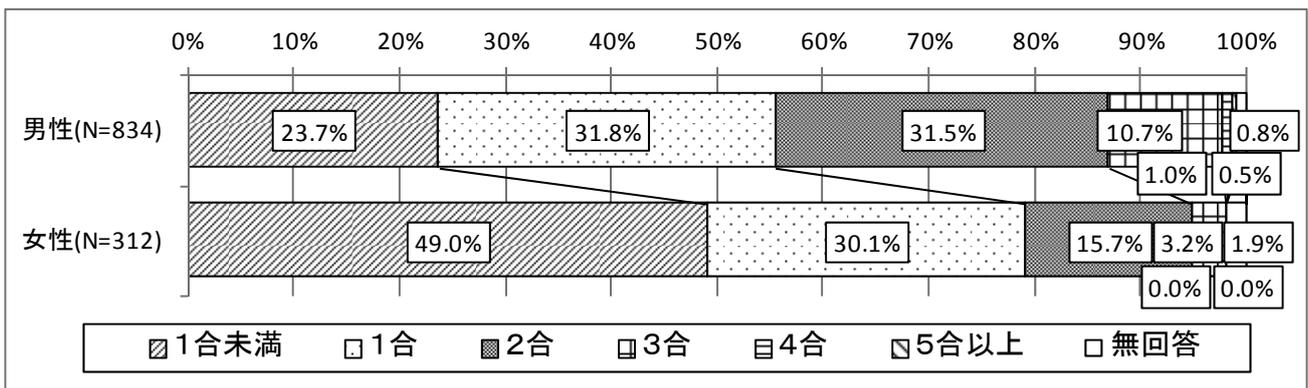
図 1日の平均飲酒量



飲酒の頻度で「週に1～2回以上飲む」と回答した人について、1日あたりの平均飲酒量をたずねたところ、「1合」が31.5%、「1合未満」が30.7%、「2合」が27.1%などとなっており、大半の人は2合以下の飲酒量となっています。

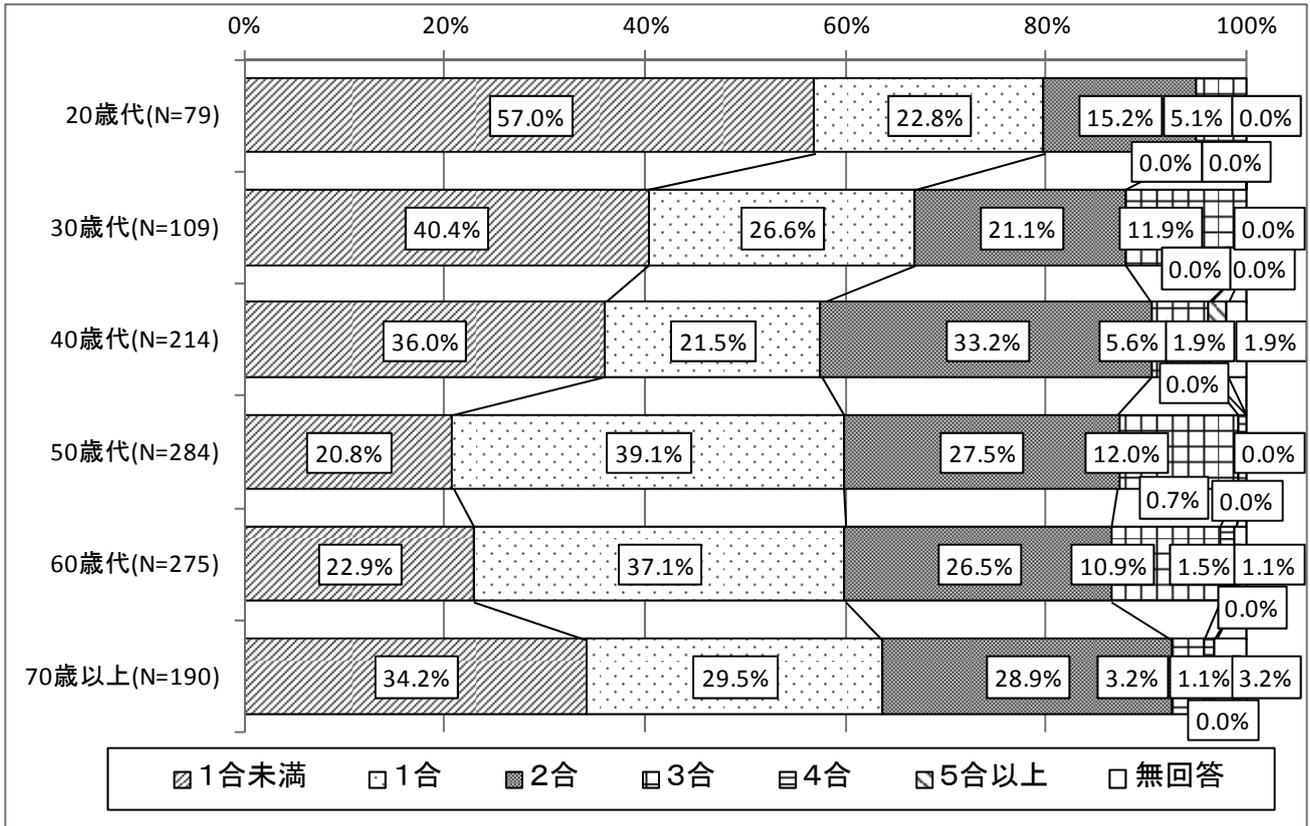
1日あたり「3合以上」飲むと回答した人は、合わせても1割弱程度となっています。

図 1日の平均飲酒量－性別



性別にみると、女性は「1合未満」が多く、「1合以上」になると男性のほうが多くなっています。

図 1日の平均飲酒量一年齢別

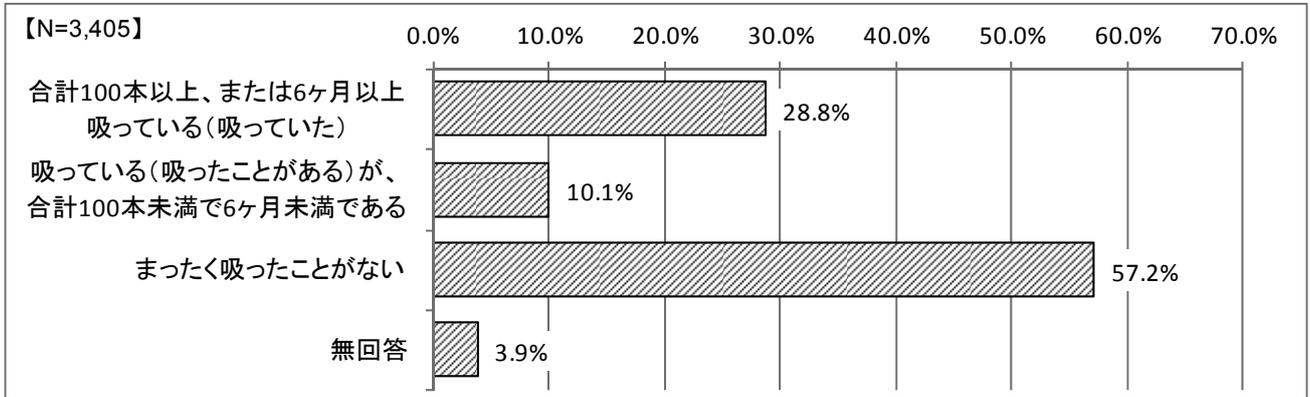


年齢別にみると、70歳以上を除くと概ね年齢とともに飲酒量が増加していく傾向がみられます。

(11) 喫煙経験

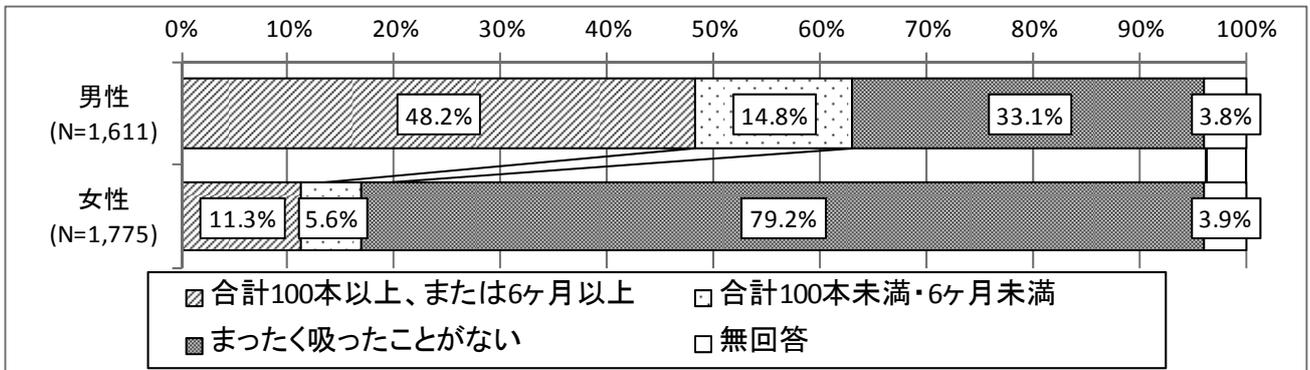
問36 これまでにたばこを吸ったことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 喫煙経験



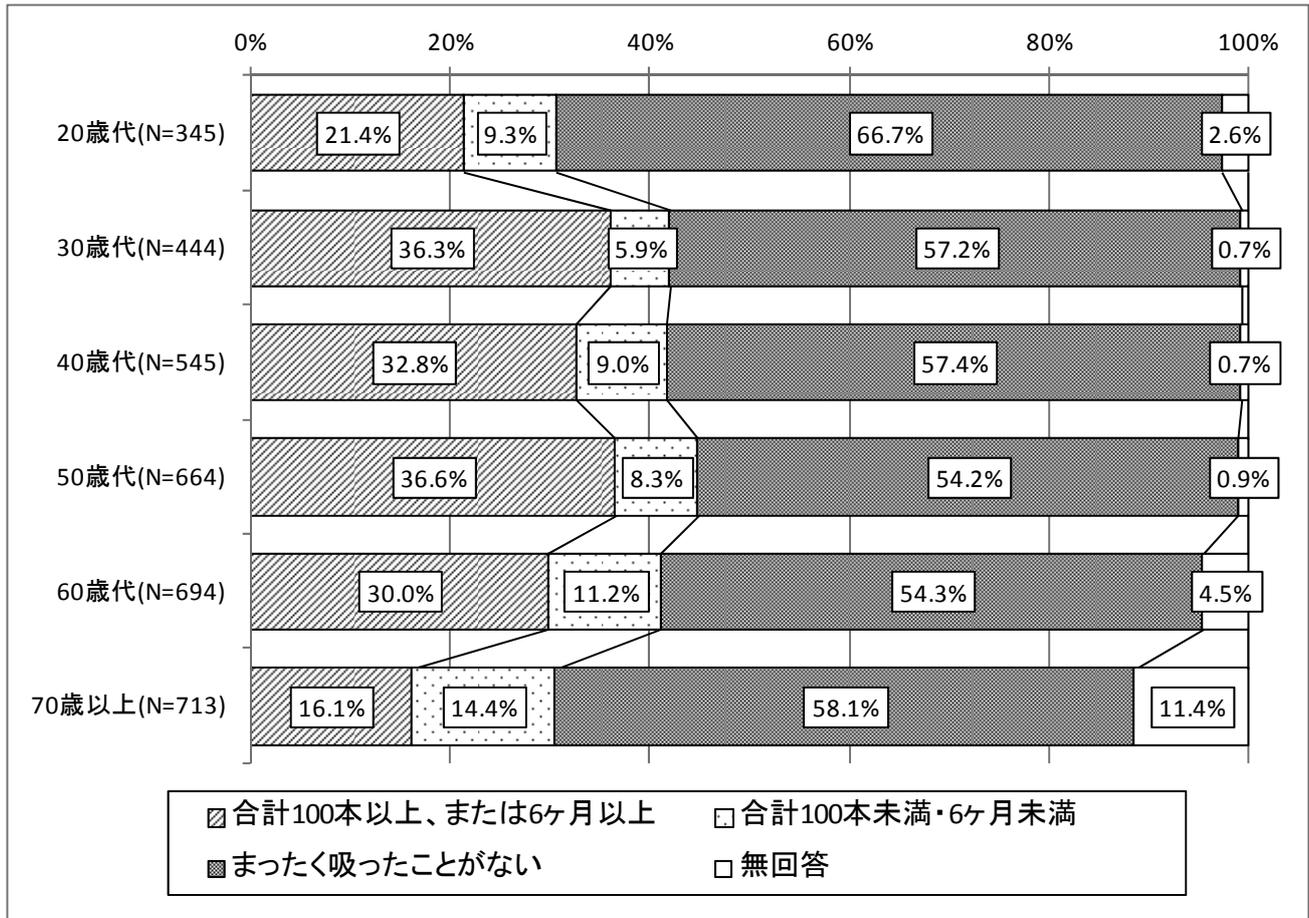
喫煙の経験では、「まったく吸ったことがない」が57.2%、「合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている(吸っていた)」が28.8%、「吸っている(吸ったことがある)が、合計100本未満で6ヶ月未満である」が10.1%となっています。

図 喫煙経験－性別



性別にみると、男性は「合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている(吸っていた)」が多く、女性は「まったく吸ったことがない」が多くなっています。

図 喫煙経験一年齢別

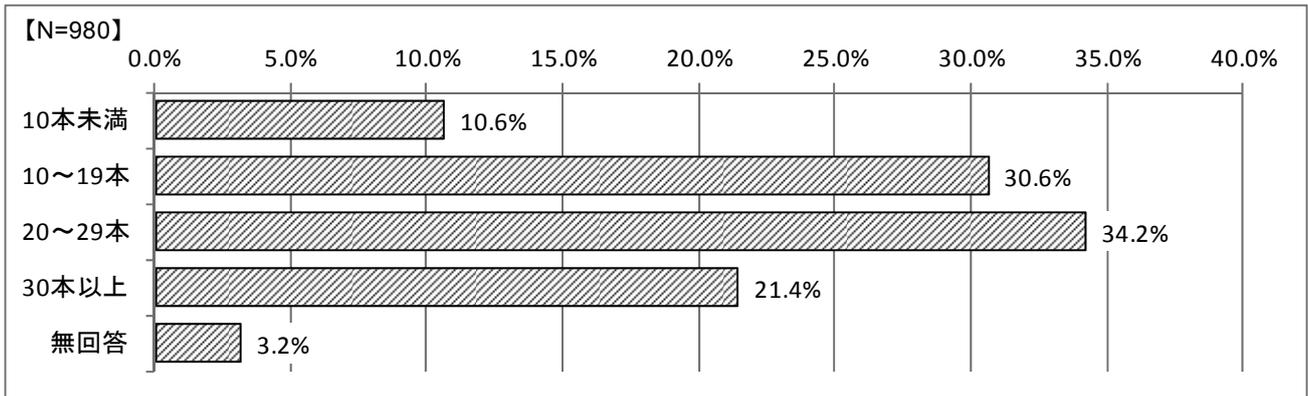


年齢別にみると、30歳代から60歳代で「合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている（吸っていた）」が多くなっています。

(12) 1日の平均喫煙本数

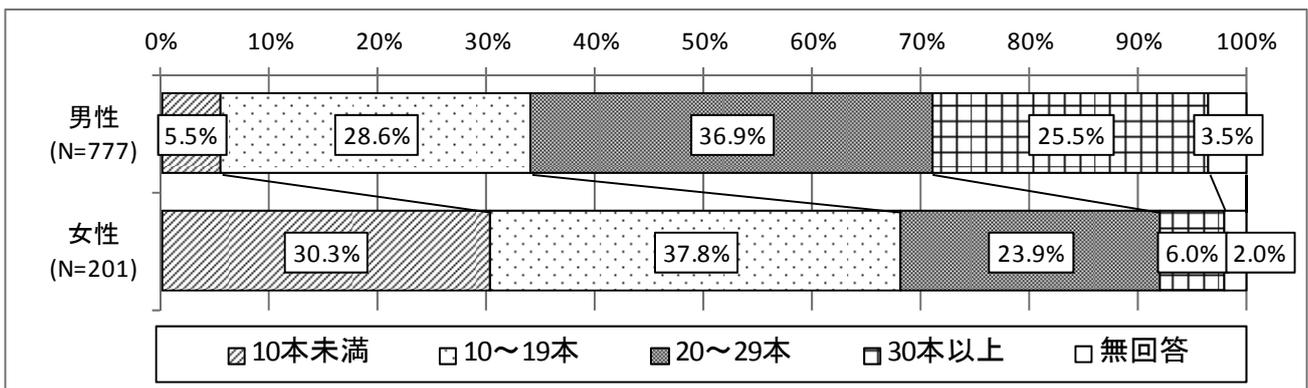
問 36-1 問 36 で「1. 合計 100 本以上、または 6 ヶ月以上吸っている」とお答えの方におたずねします。1日に何本たばこを吸いますか（吸っていましたか）。「ときどき吸う方」は吸うときの1日の本数をお答えください。

図 1日の平均喫煙本数



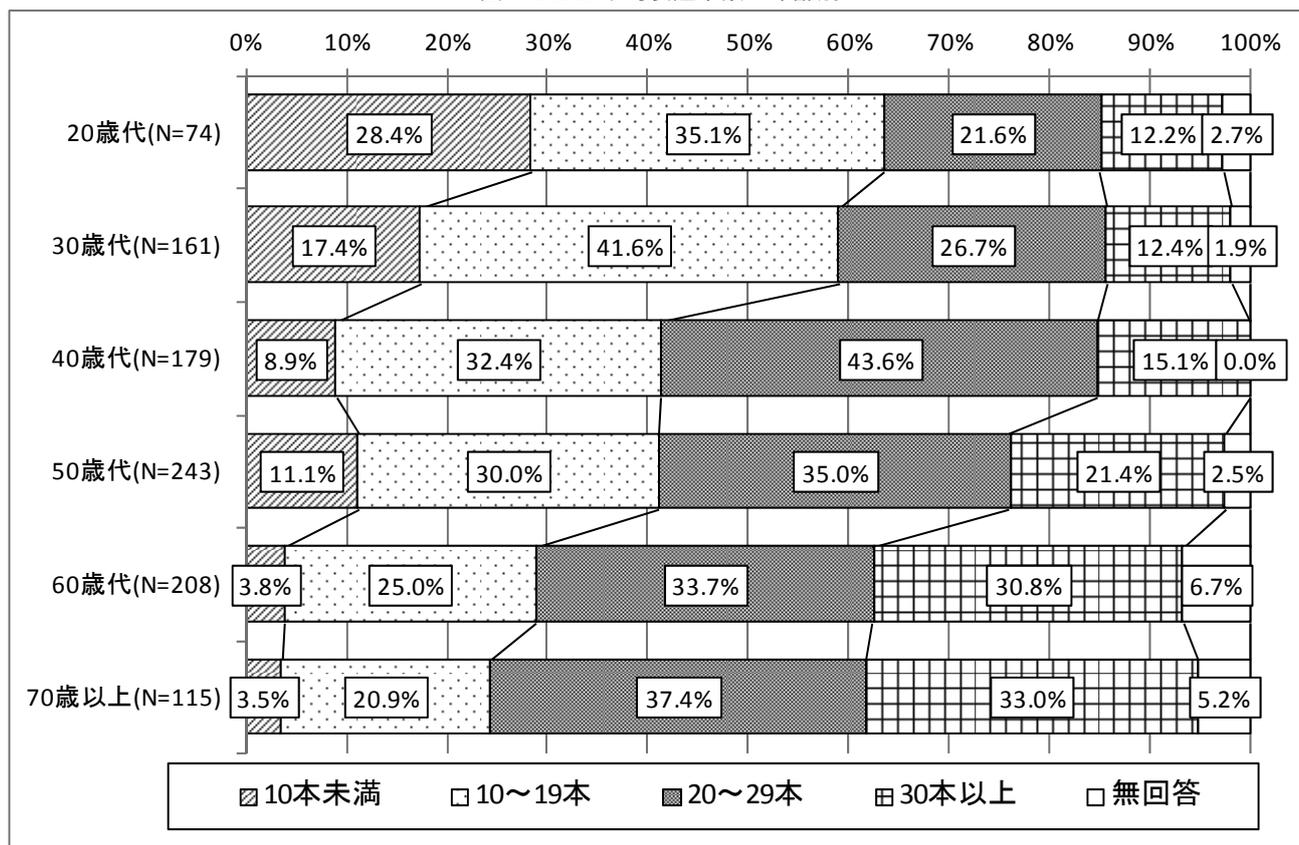
「合計 100 本以上、または 6 ヶ月以上吸っている」と回答した人について、1日の平均喫煙本数をたずねたところ、「20~29本」が 34.2%、「10~19本」が 30.6%、「30本以上」が 21.4%となっています。

図 1日の平均喫煙本数—性別



1日の平均喫煙本数を性別にみると、男性は「20本以上」で多くなり、女性は「20本未満」で多くなっています。

図 1日の平均喫煙本数一年齢別

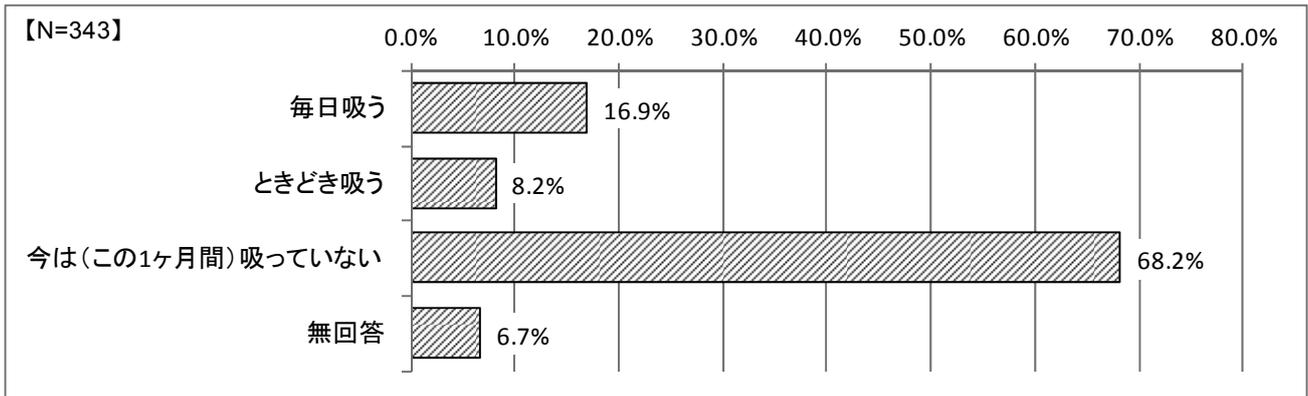


年齢別にみると、1日の喫煙本数が年齢とともに増加していく傾向がみられ、「10本未満」は20歳代で28.4%と他の年代に比べ多く、それ以上の年代では「20~29本」や「30本以上」が増加していき、60歳代や70歳以上では「30本以上」が3割以上と多くなっています。

(13) 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況

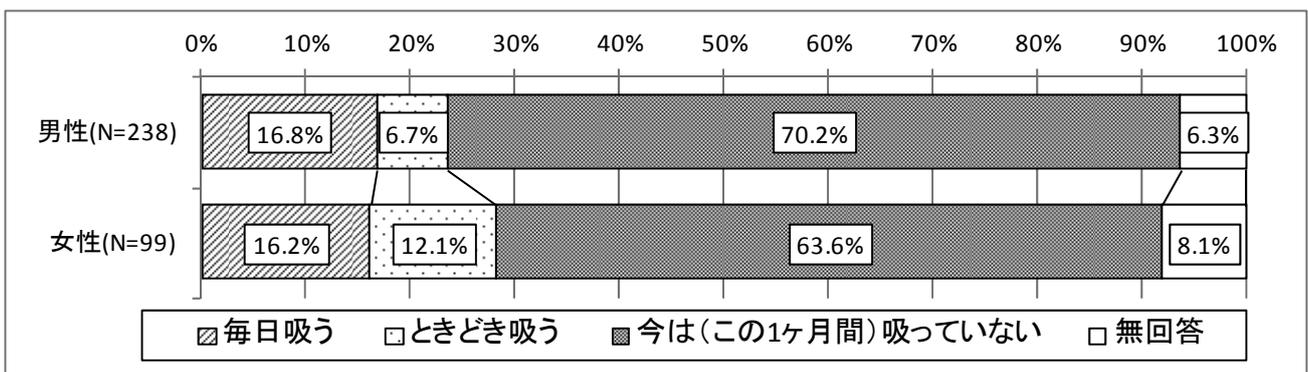
問 37 問 36 で「2. 吸っている（吸ったことがある）が、合計 100 本未満で 6 ヶ月未満である」とお答えの方におたずねします。現在（この 1 ヶ月間）あなたはたばこを吸っていますか。あてはまるもの 1 つに〇 をつけてください。

図 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況



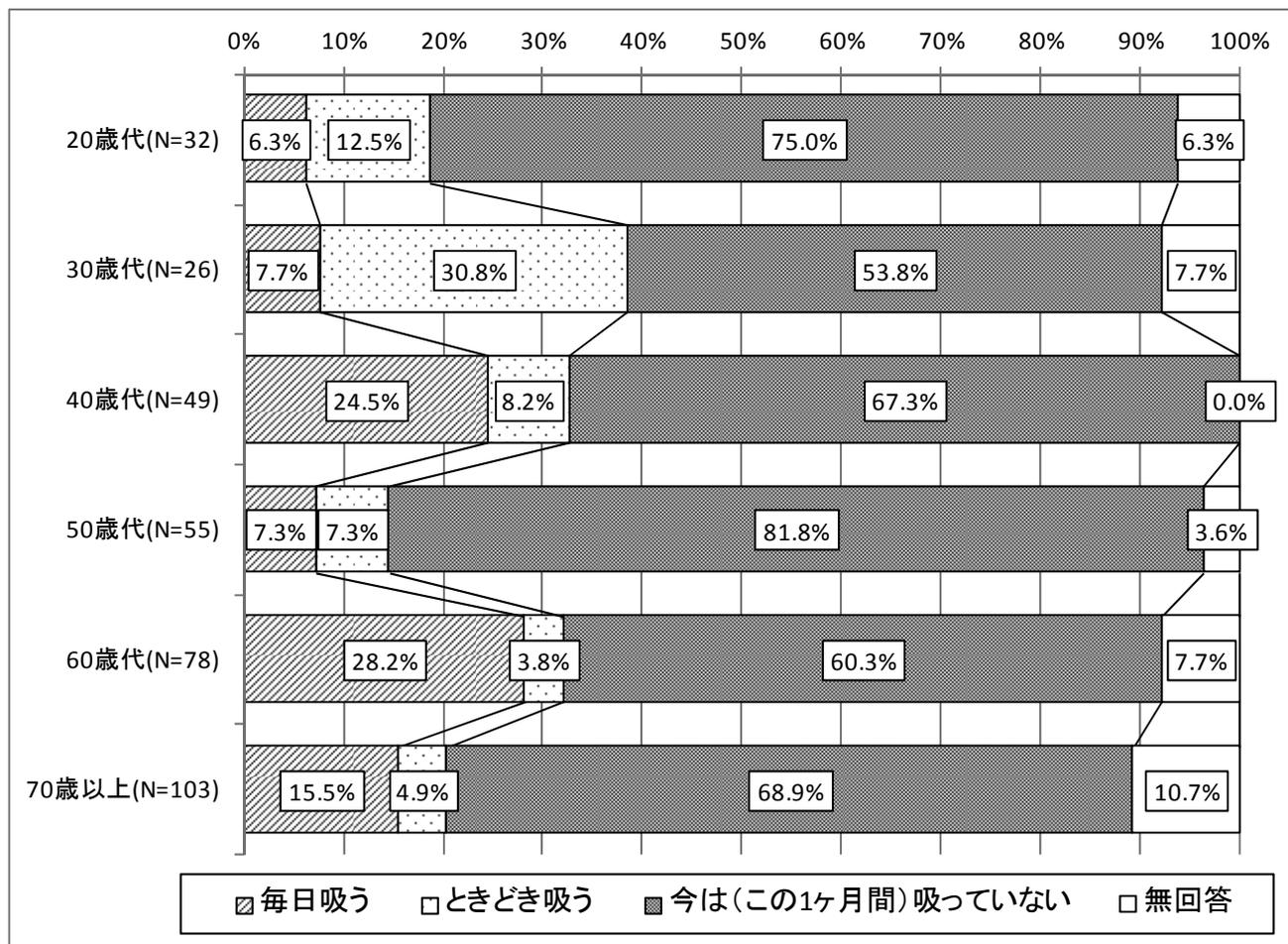
喫煙経験で「吸っている（吸ったことがある）が、合計 100 本未満で 6 ヶ月未満である」と回答した人について、喫煙状況をたずねたところ、「今は（この 1 ヶ月間）吸っていない」が 68.2%、「毎日吸う」が 16.9%となっています。

図 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況－性別



性別にみると、男性は「今は（この1ヶ月間）吸っていない」が多く、女性は男性に比べて「ときどき吸う」が多くなっています。

図 喫煙歴の浅い喫煙者の現在の喫煙状況一年齢別

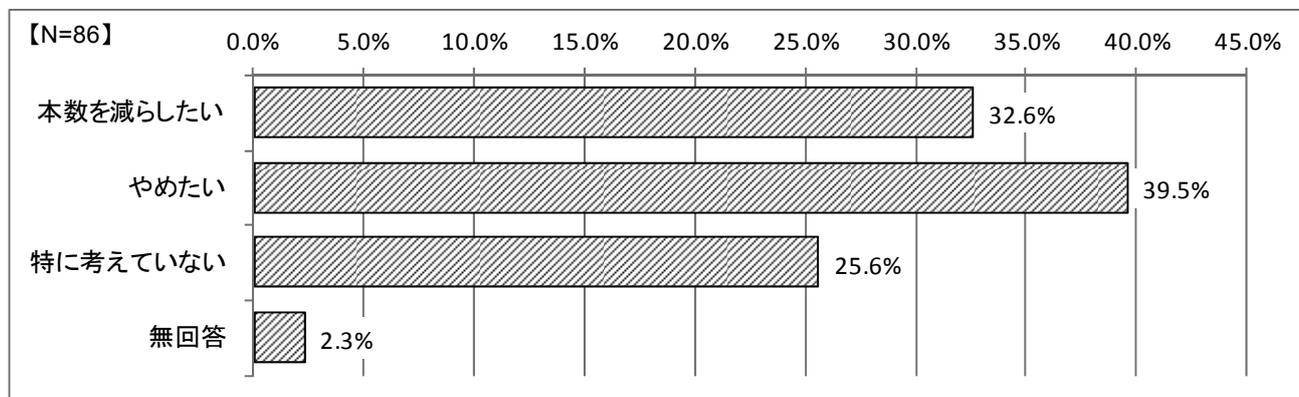


年齢別にみると、いずれの年代においても「今は（この1ヶ月間）吸っていない」が多くなっています。

## (14) 今後の喫煙についての考え方

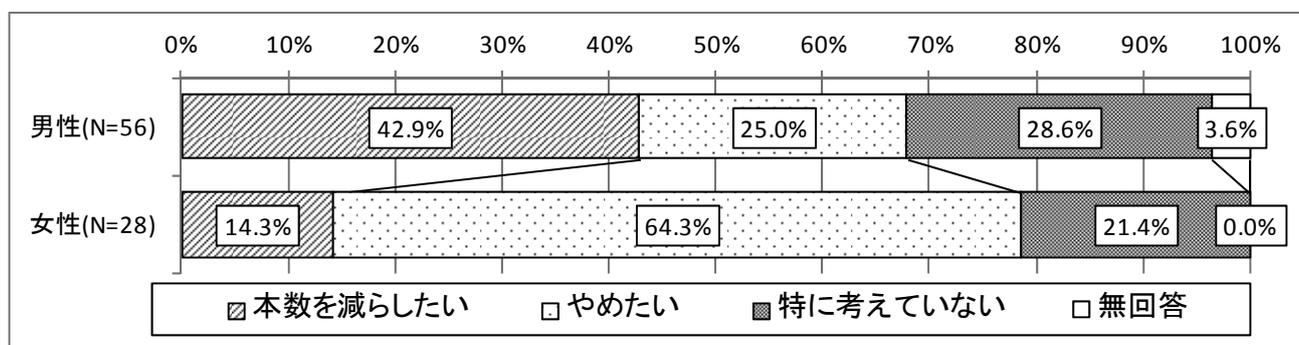
問 37-1 問 37 で「1. 毎日吸う」または「2. ときどき吸う」とお答えの方におたずねします。今後はどのようにしたいと思っていますか。最もあてはまるもの 1つに○ をつけてください。

図 今後の喫煙についての考え方



前問で「毎日吸う」「ときどき吸う」と回答した人について、今後の喫煙についての考え方をたずねたところ、「やめたい」が39.5%、「本数を減らしたい」が32.6%、「特に考えていない」が25.6%と禁煙したい人や本数を減らしたいという人が多くなっています。

図 今後の喫煙についての考え方—性別

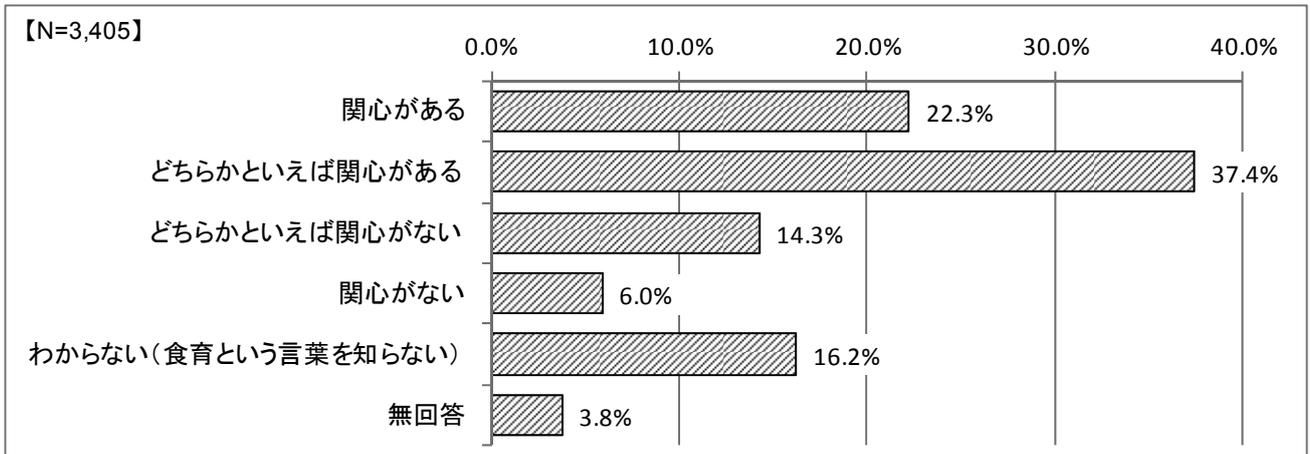


性別にみると、男性は女性に比べて「本数を減らしたい」が多く、女性は「やめたい」が多くなっています。

(15) 食育についての関心

問38 あなたは「食育」に関心がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

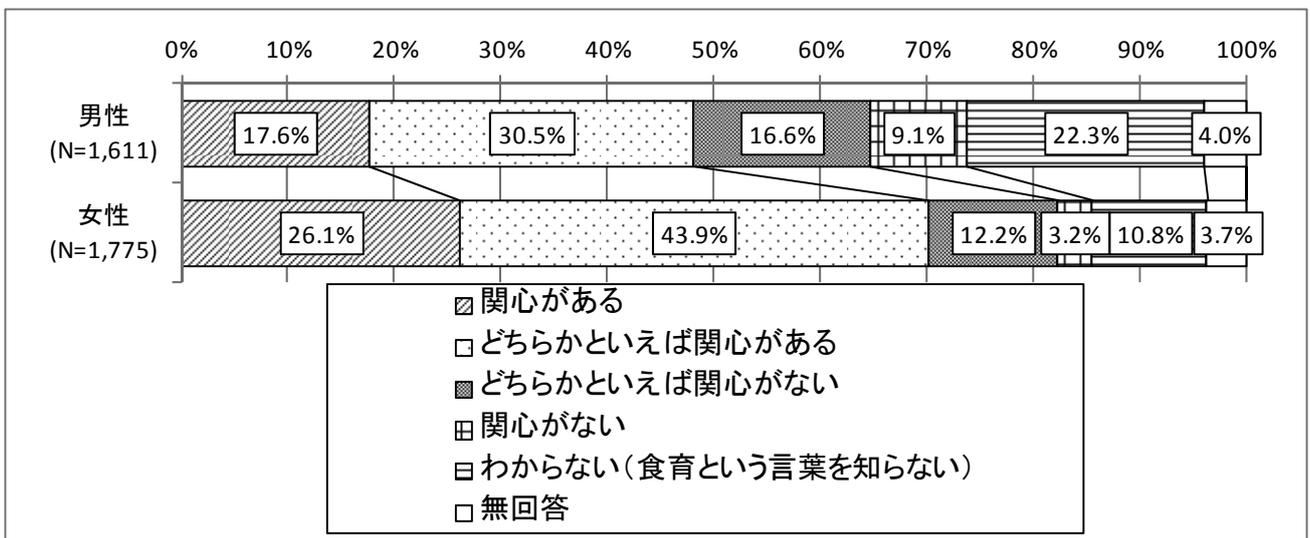
図 食育についての関心



食育についての関心では、「どちらかといえば関心がある」が37.4%で、「関心がある」の22.3%を加えると6割近くの人に関心があると回答しています。

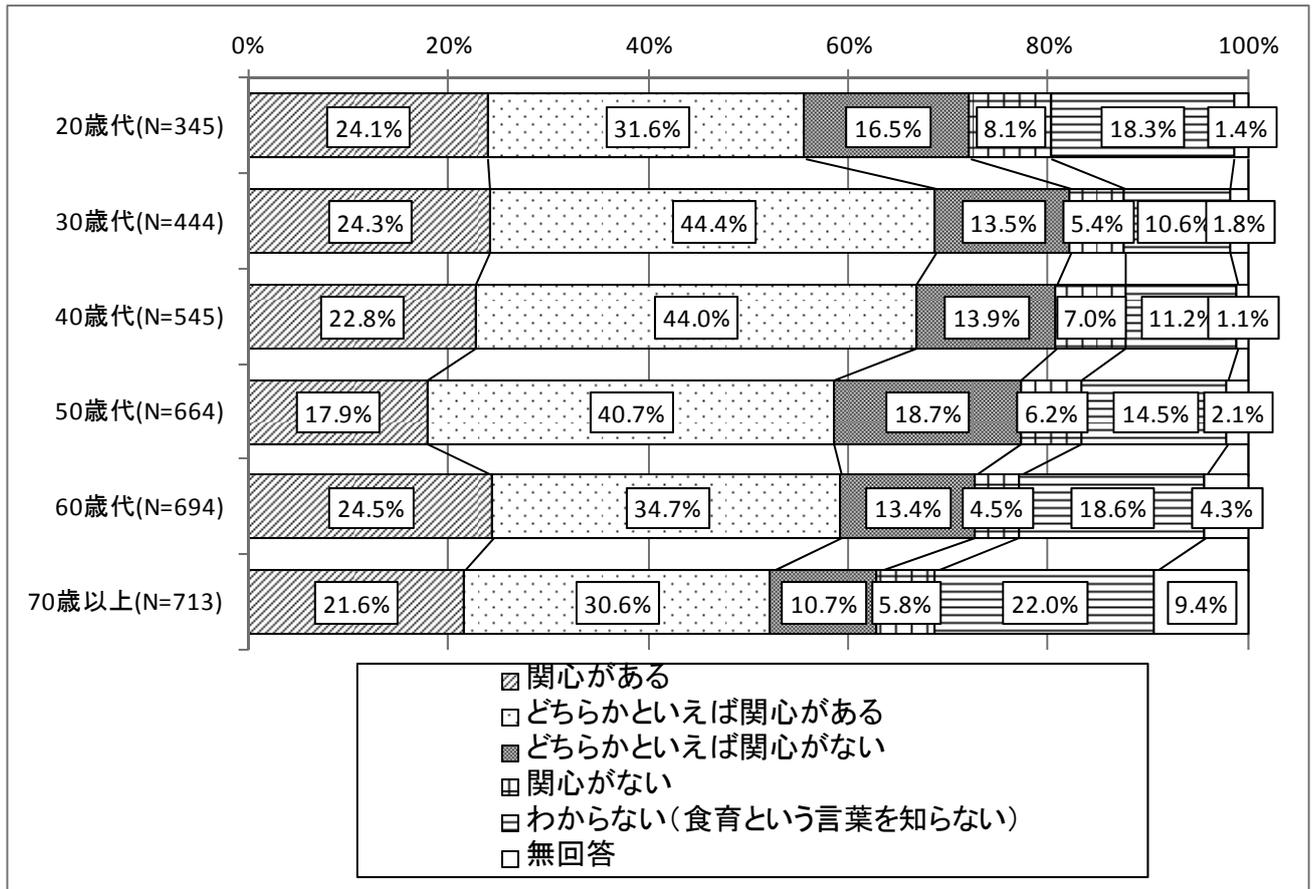
逆に「どちらかといえば関心がない」は14.3%で、「関心がない」の6.0%を加えると2割程度の人は関心がないとなっています。

図 食育についての関心—性別



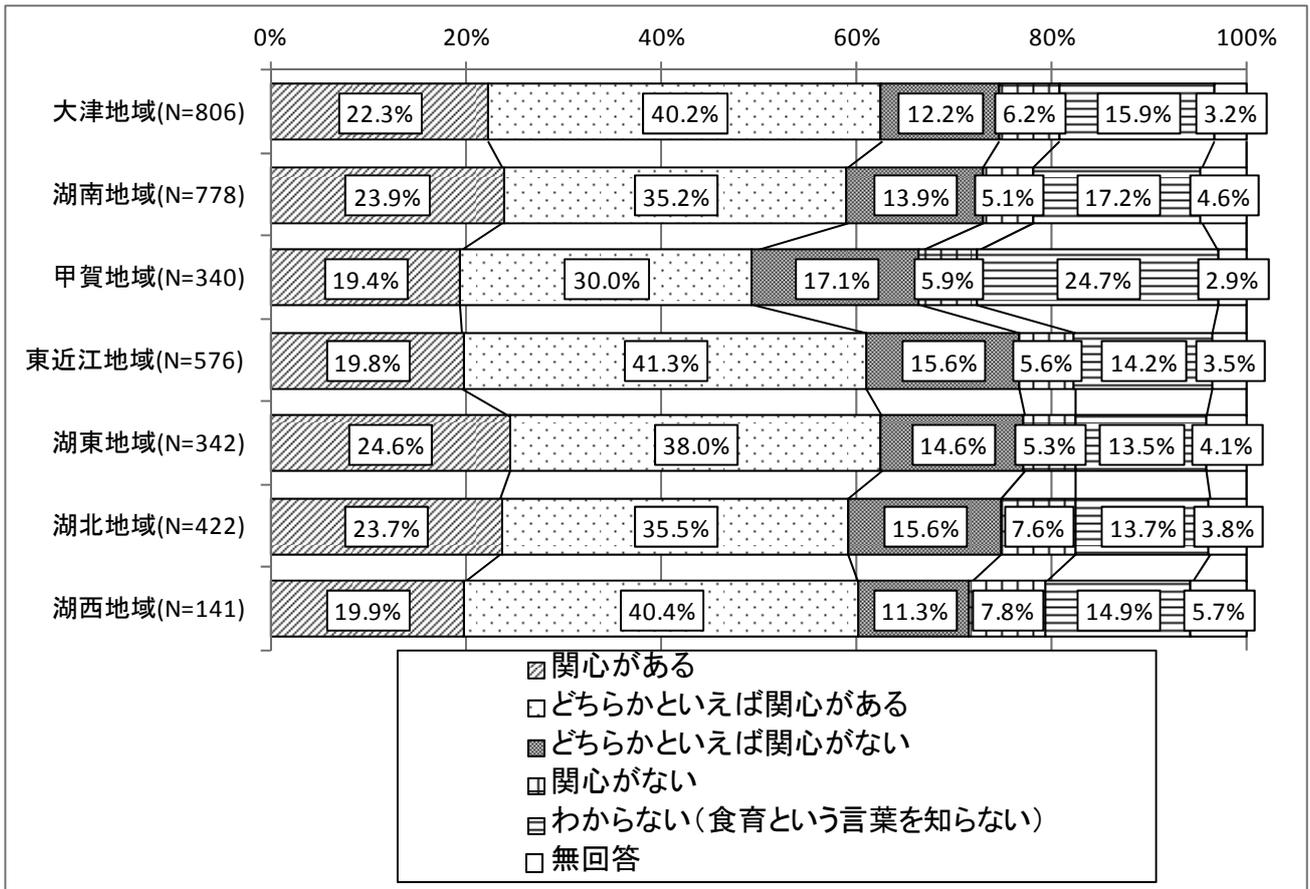
性別にみると、女性は男性に比べて「関心がある」「どちらかといえば関心がある」が多く、男性は「わからない(食育という言葉を知らない)」が多くなっています。

図 食育についての関心一年齢別



年齢別にみると、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した食育に関心がある層は30歳代や40歳代が多くなっています。また、「わからない(食育という言葉を知らない)」という回答は70歳以上で22.0%と多くなっています。

図 食育についての関心—地域別

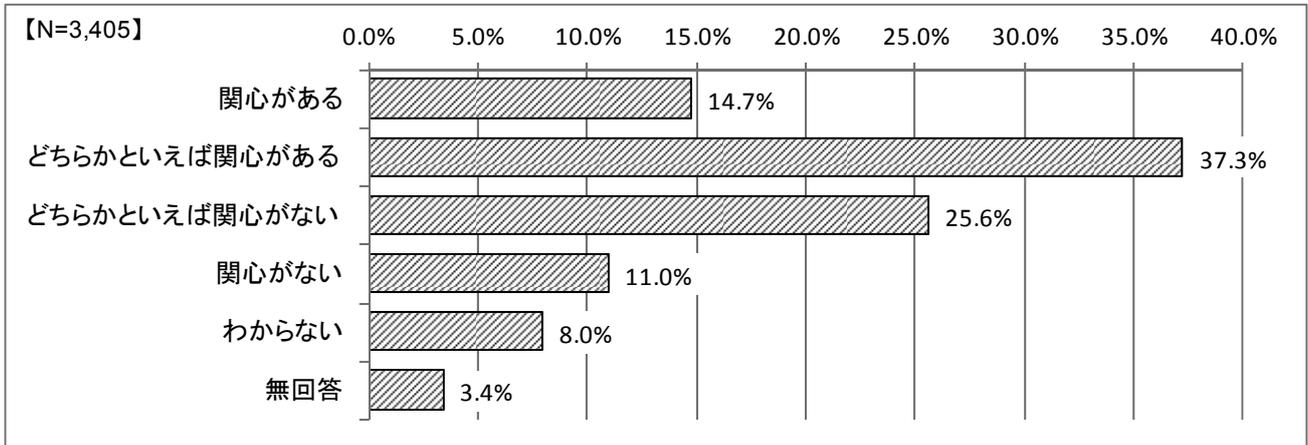


地域別にみると、大きな差異はみられませんが、「わからない(食育という言葉を知らない)」で甲賀地域が24.7%と他の地域よりやや多くなっています。

(16) 噛み方などの食べ方についての関心

問 39 あなたは、噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

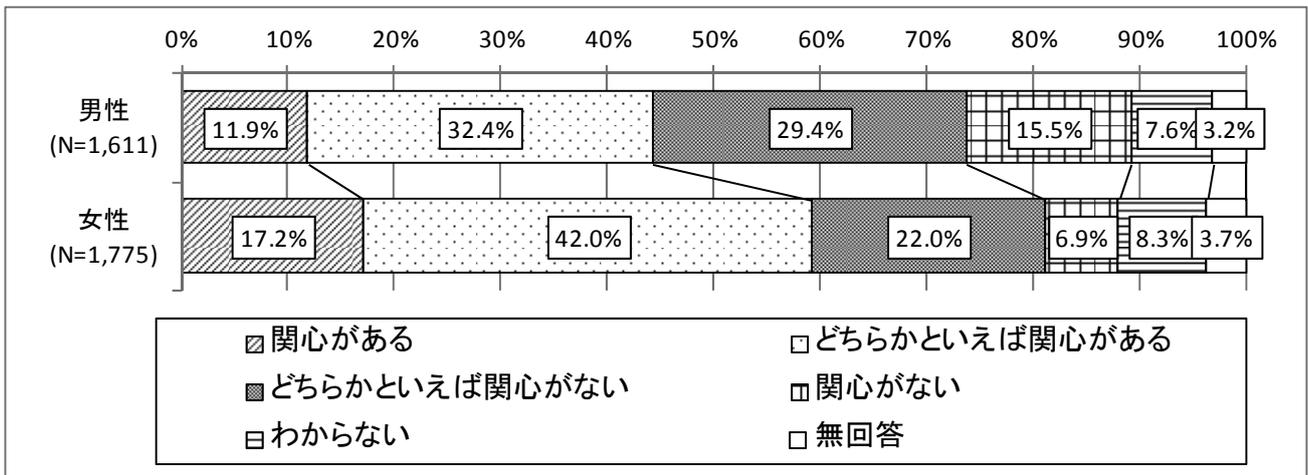
図 噛み方などの食べ方についての関心



噛み方などの食べ方についての関心では、「どちらかといえば関心がある」が37.3%で、「関心がある」の14.7%を加えると半数以上の人は関心があると回答しています。

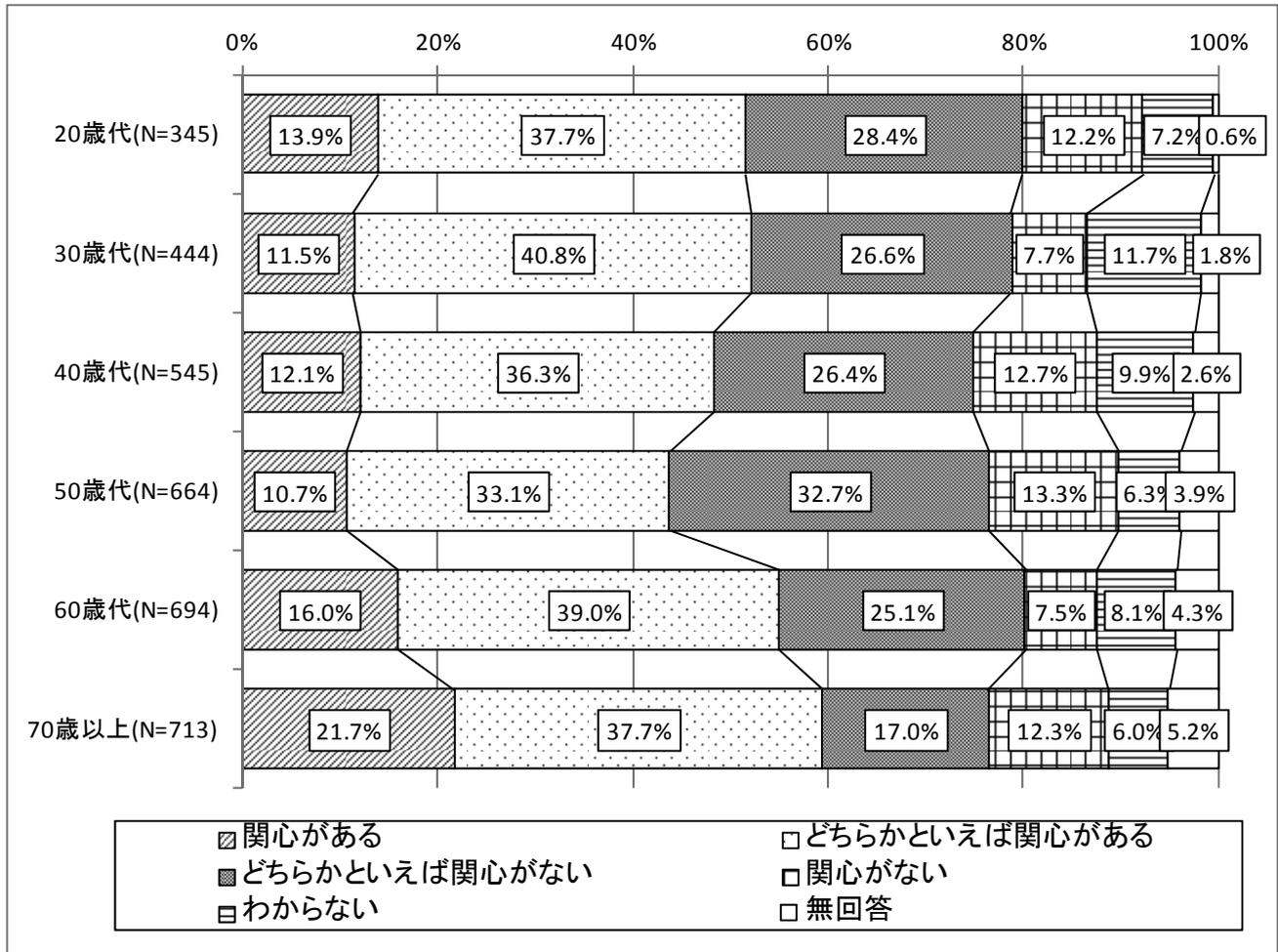
逆に「どちらかといえば関心がない」は25.6%で、「関心がない」の11.0%を加えると3割以上の人は関心がないと回答しており、食育に比べると関心がある人が減少し、関心がない人が多くなっています。

図 噛み方などの食べ方についての関心－性別



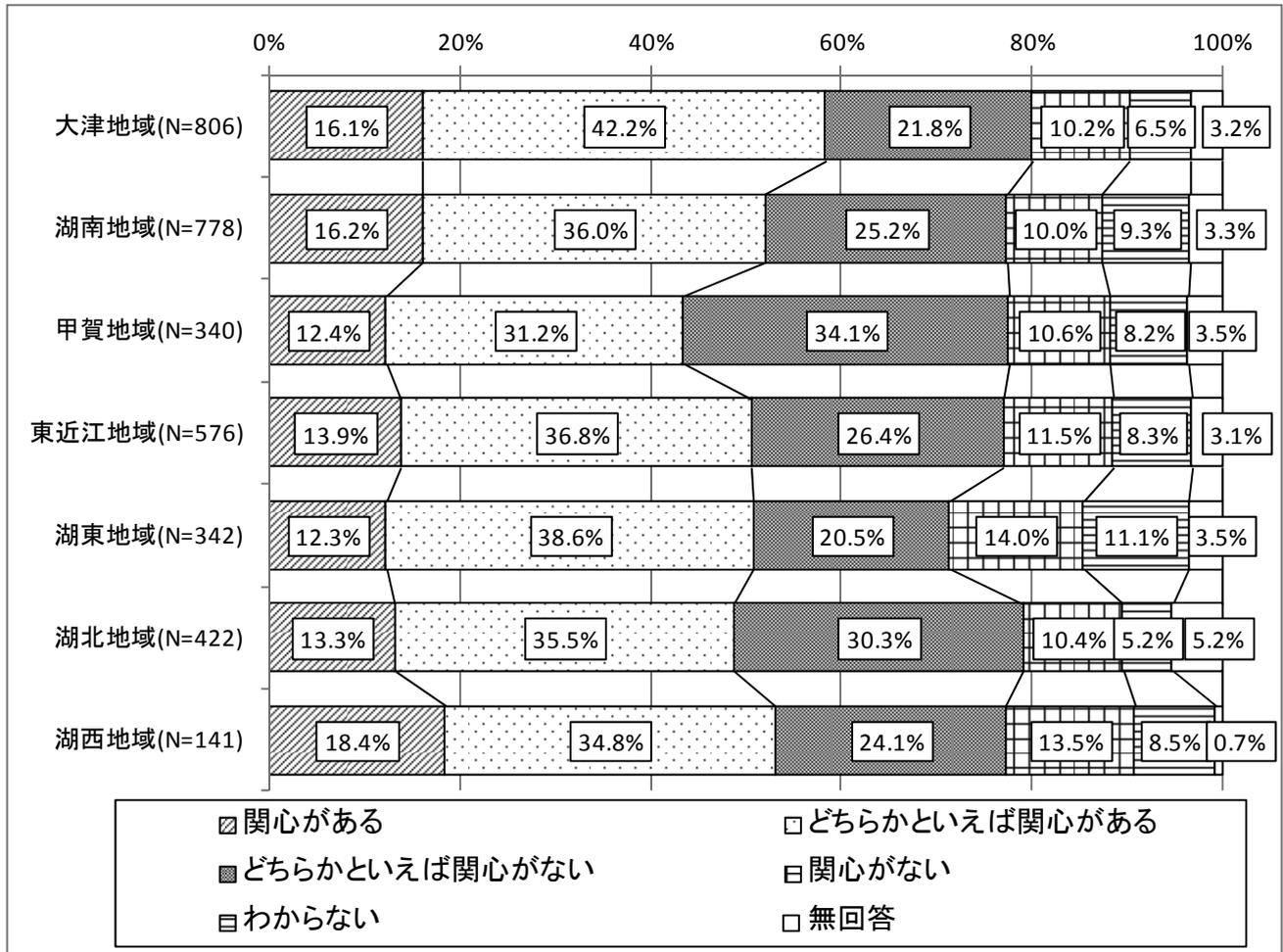
性別にみると、女性は男性に比べて「関心がある」「どちらかといえば関心がある」が多く、男性は「どちらかといえば関心がない」「関心がない」が多くなっています。

図 噛み方などの食べ方についての関心—年齢別



年齢別にみると、どの年代でも大きな差異はみられませんが、50歳代で関心があるとの回答が最も少なくなっており、70歳以上の関心が多くなっています。

図 噛み方などの食べ方についての関心—地域別

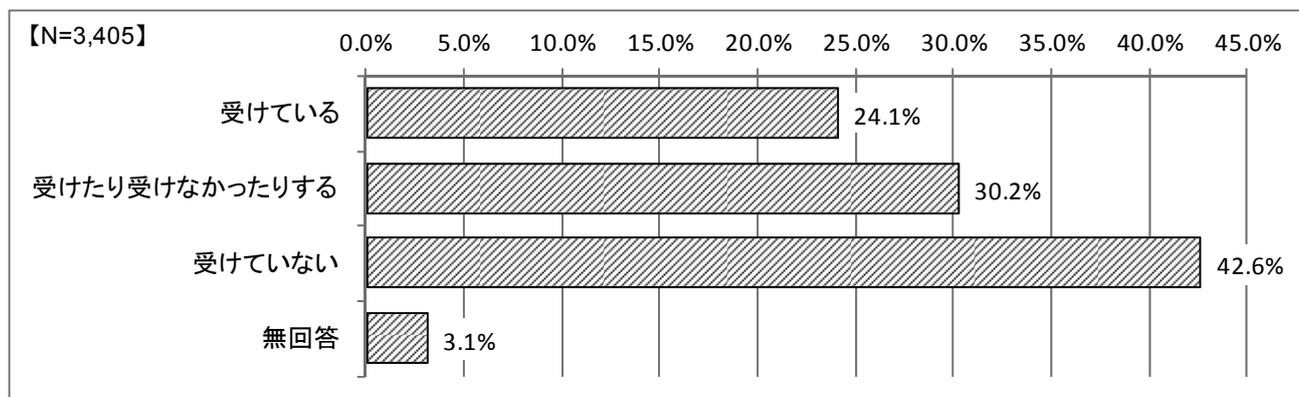


地域別にみると、大きな差異はみられませんが、「どちらかといえば関心がない」は甲賀地域で34.1%とやや多くなっています。

(17) 歯科検診の定期的な受診について

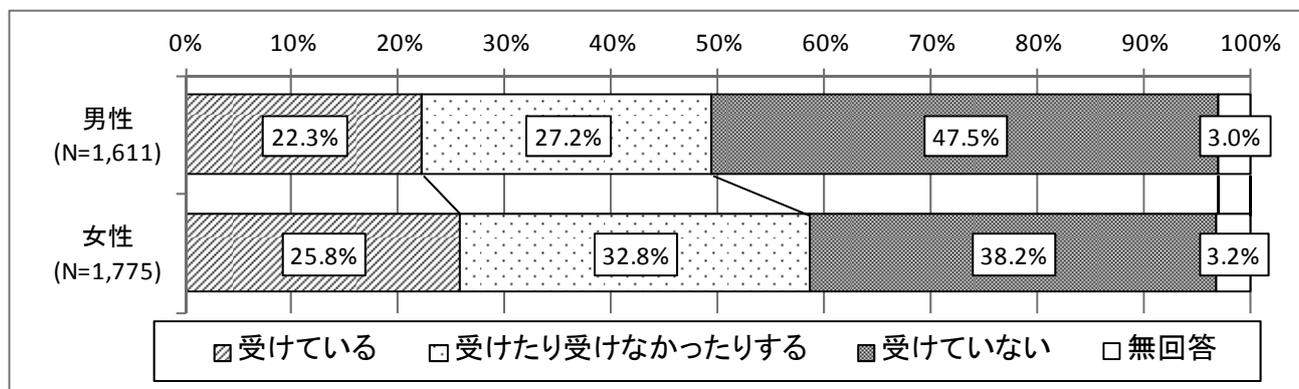
問40 定期的に歯科検診を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 歯科検診の定期的な受診について



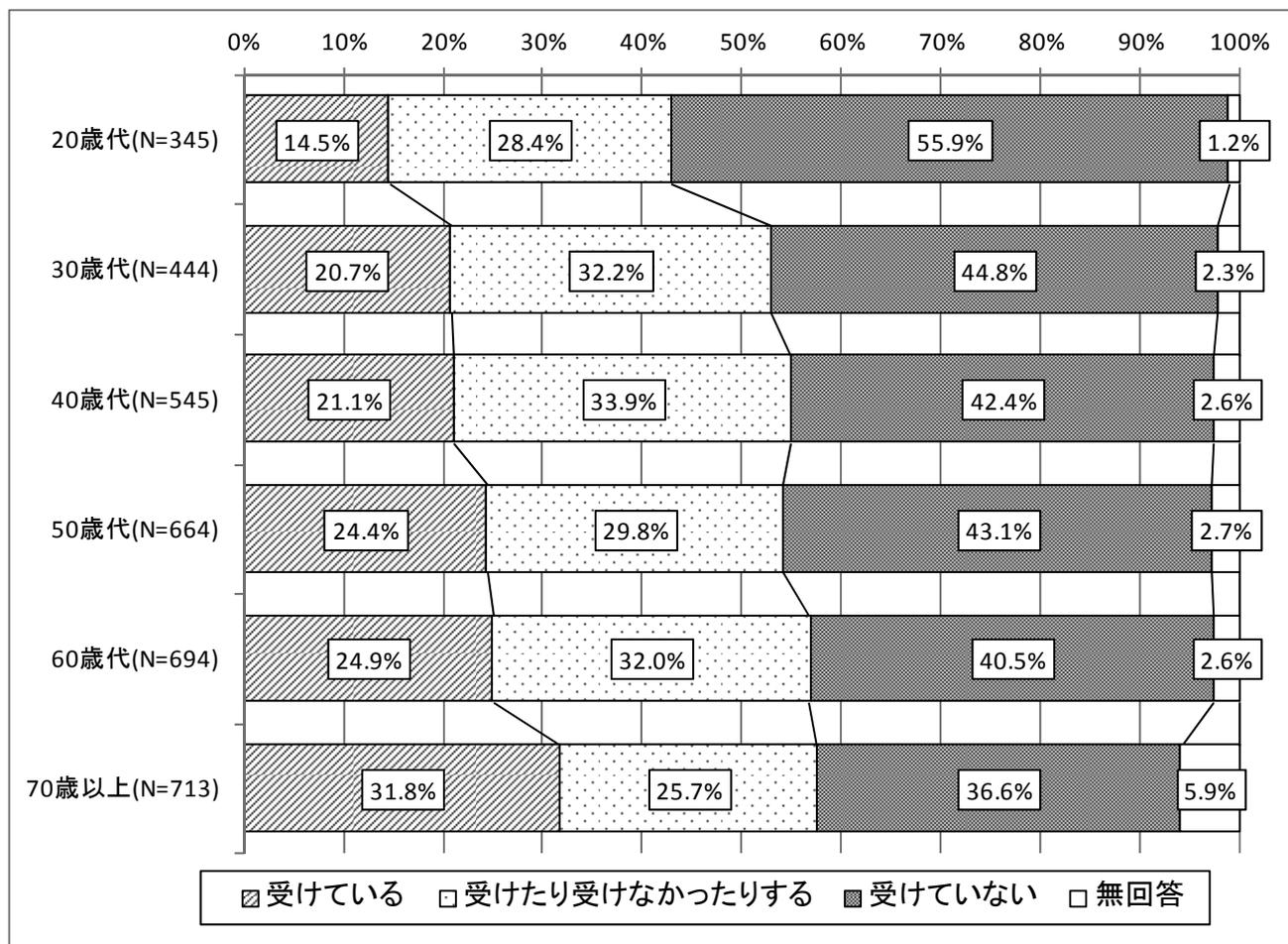
歯科検診の定期的な受診では、「受けていない」が42.6%で、「受けてたり受けなかったりする」が30.2%、「受けている」が24.1%となっています。

図 歯科検診の定期的な受診について－性別



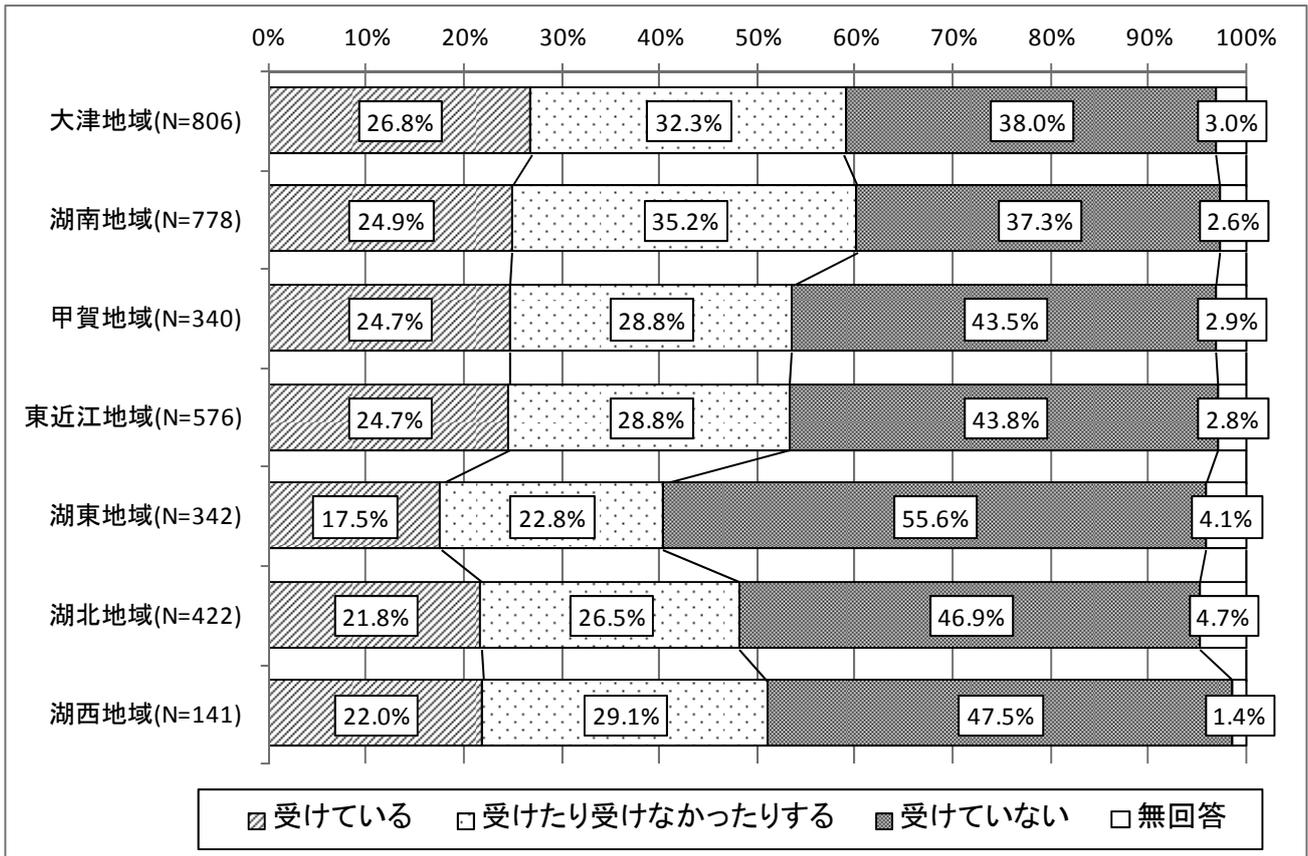
性別にみると、男性は女性に比べて「受けていない」が多く、女性は「受けている」「受けてたり受けなかったりする」が多くなっています。

図 歯科検診の定期的な受診について一年齢別



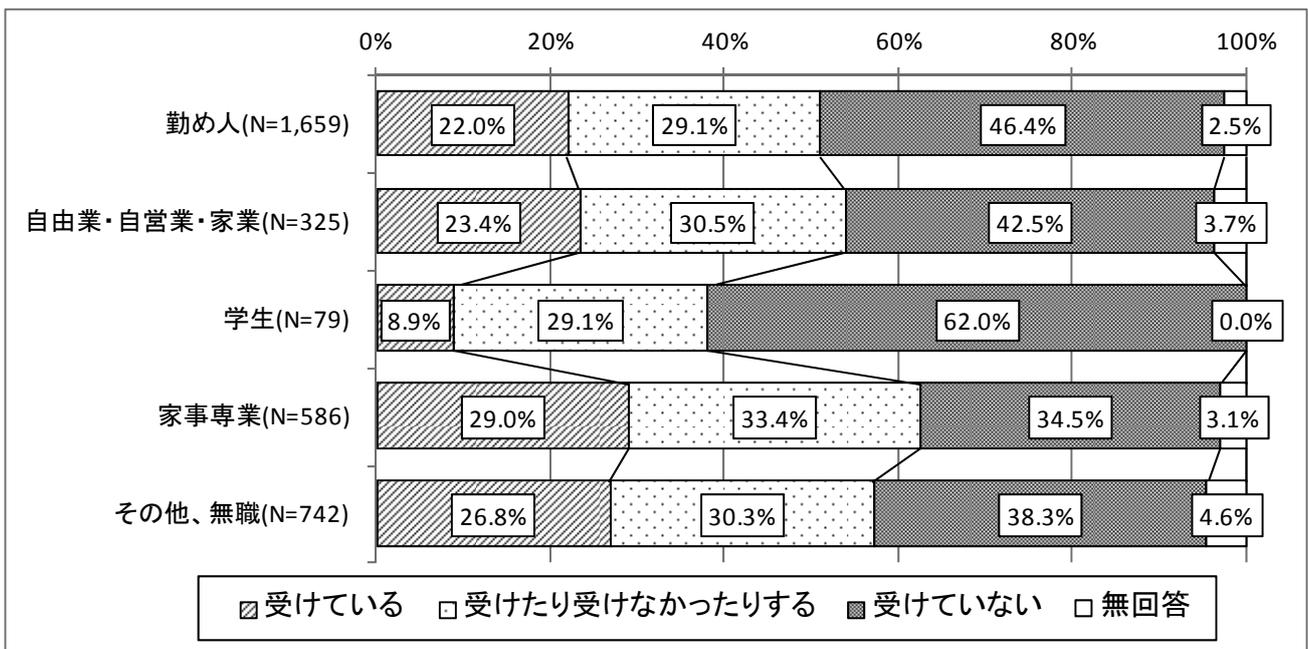
年齢別にみると、「受けている」は年齢とともに増加しています。逆に「受けていない」は20歳代で55.9%と若年者ほど多くなっています。

図 歯科検診の定期的な受診について—地域別



地域別にみると、大きな差異はみられません。

図 歯科検診の定期的な受診について—職業別

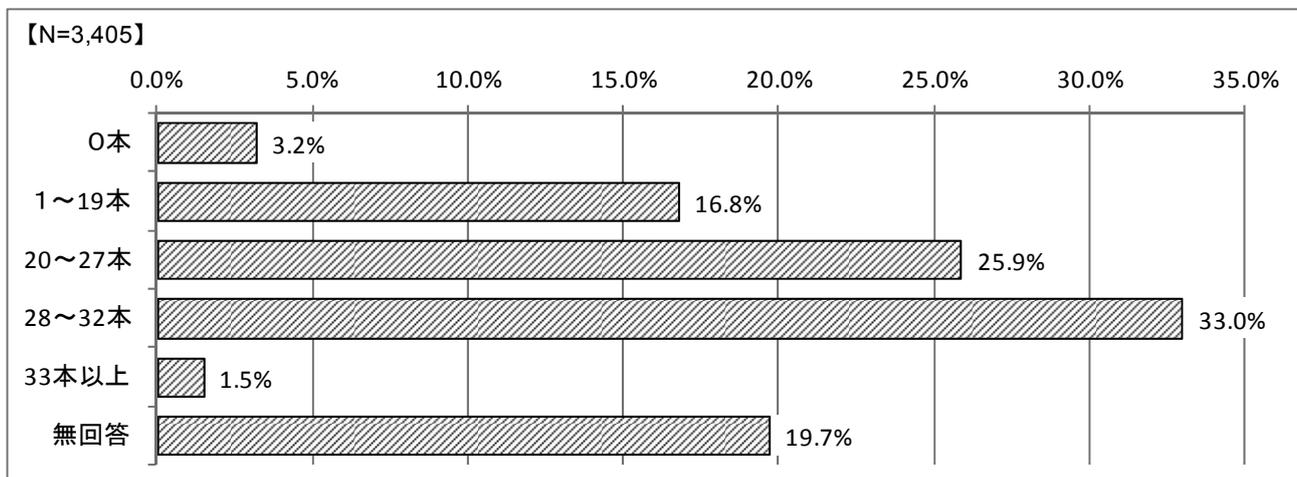


職業別にみると、「受けている」は学生が8.9%と他の職業に比べて低くなっています。

(18) 歯の本数

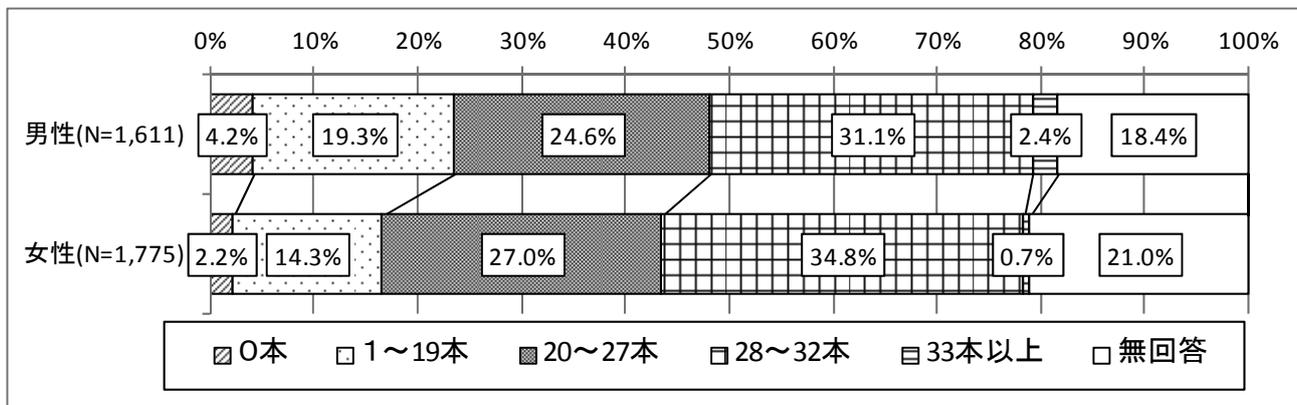
問 41 現在自分の歯は何本ありますか。

図 歯の本数



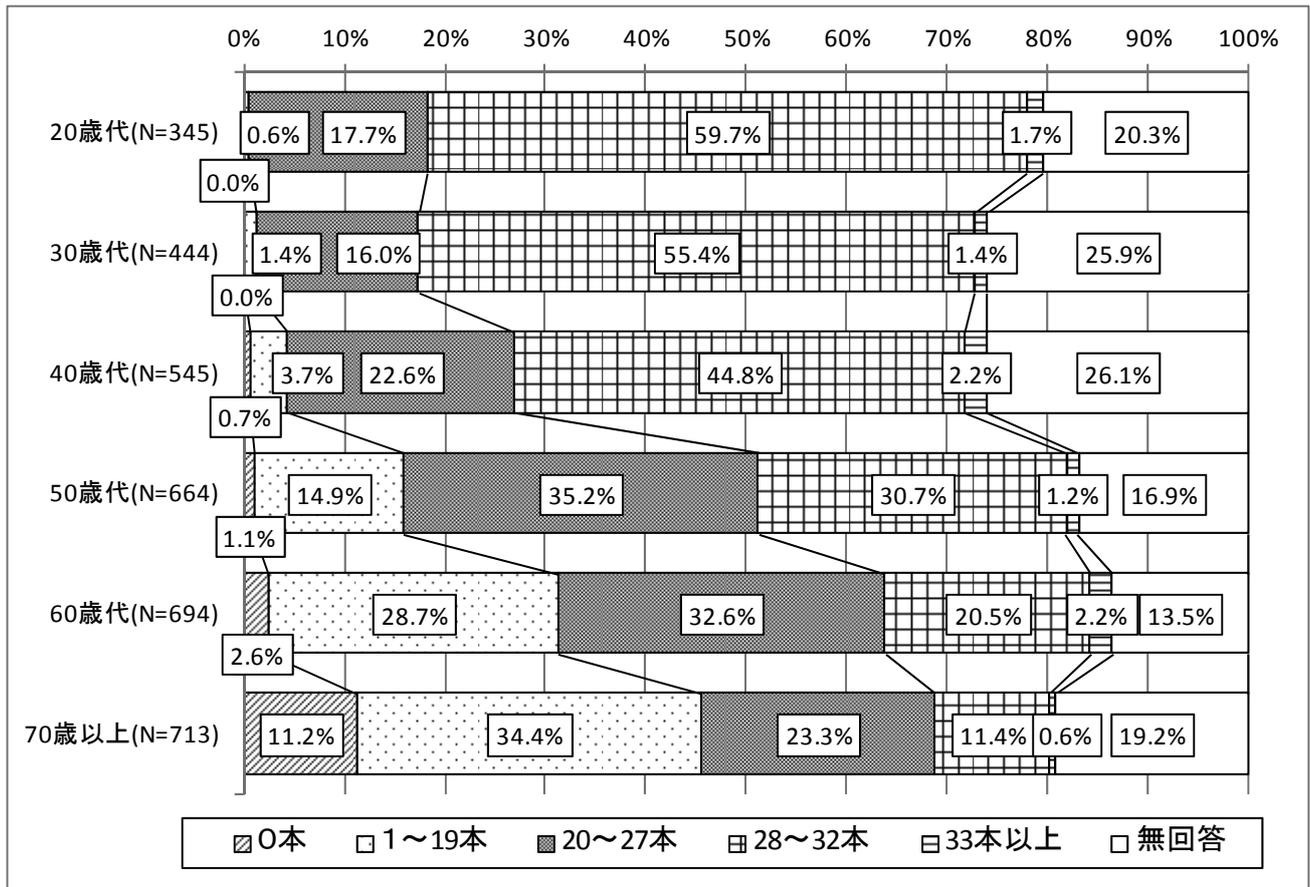
歯の本数では、「28～32本」が33.0%、「20～27本」が25.9%などとなっています。

図 歯の本数－性別



性別にみると、男性は女性に比べて「20本未満」の回答が多くなっています。女性は「20～32本」の回答が男性に比べて多くなっています。

図 歯の本数－年齢別

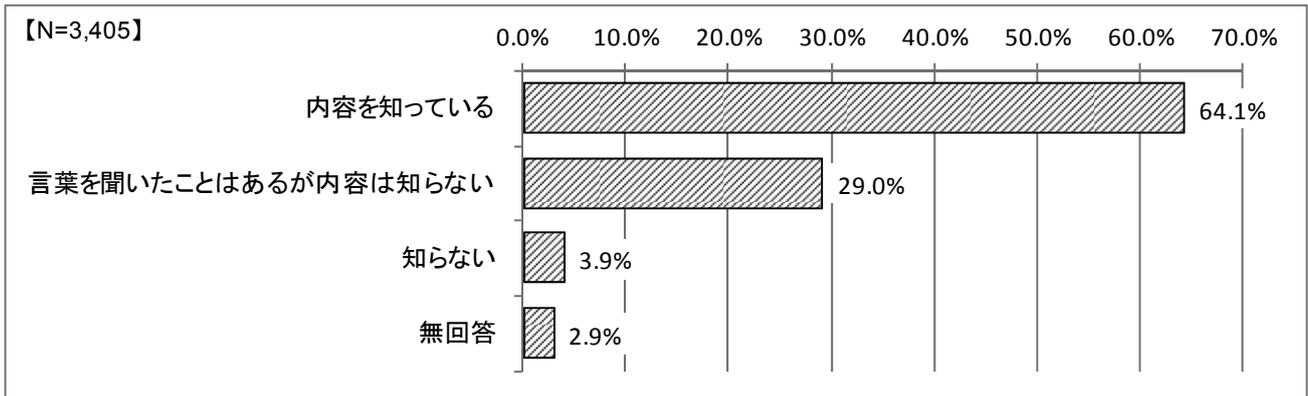


年齢別にみると、「28～32本」は20歳代で59.7%、30歳代で55.4%と半数以上あったものが、60歳代では20.5%、70歳以上では11.4%と急激に減少していき、年齢とともに歯を失っていく状況がみられます。

## (19) メタボリックシンドロームの認知度

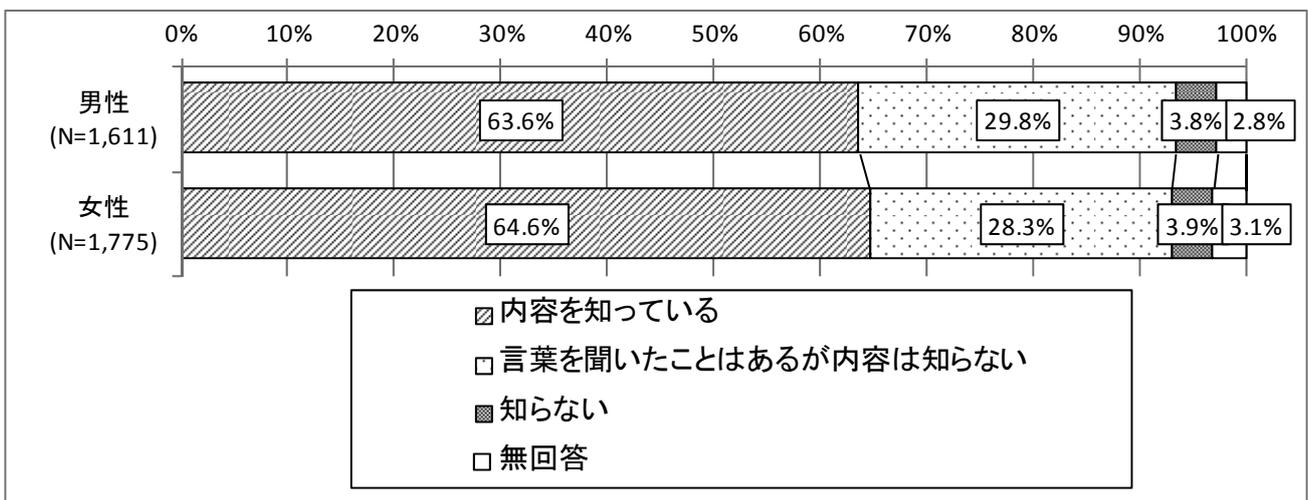
問 42 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）とは「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中脂質異常を起こしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことで、あなたは、この内容を知っていますか。あてはまるもの 1つに○ をつけてください。

図 メタボリックシンドロームの認知度



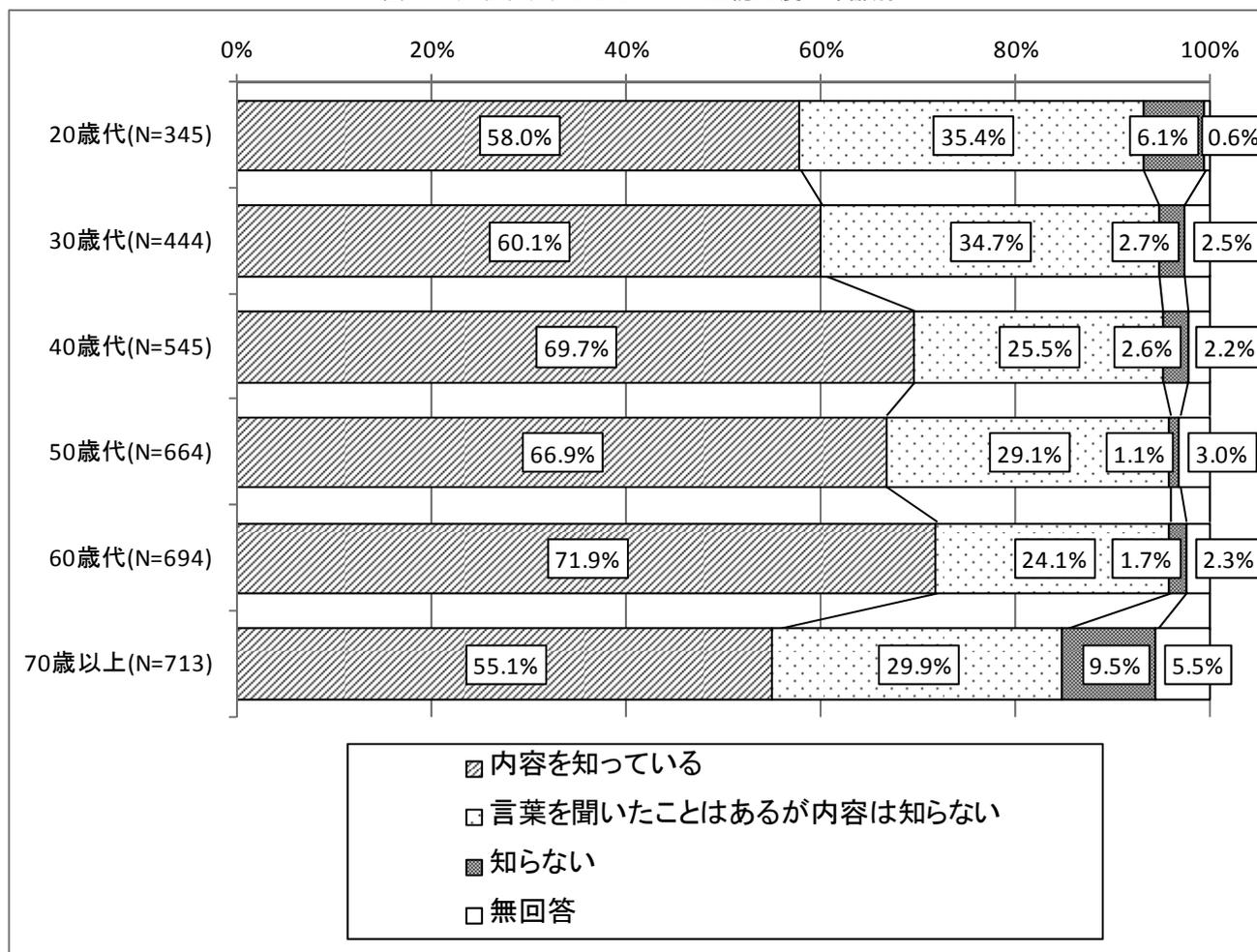
メタボリックシンドロームの認知度では、「内容を知っている」が64.1%、「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」が29.0%となっています。

図 メタボリックシンドロームの認知度－性別



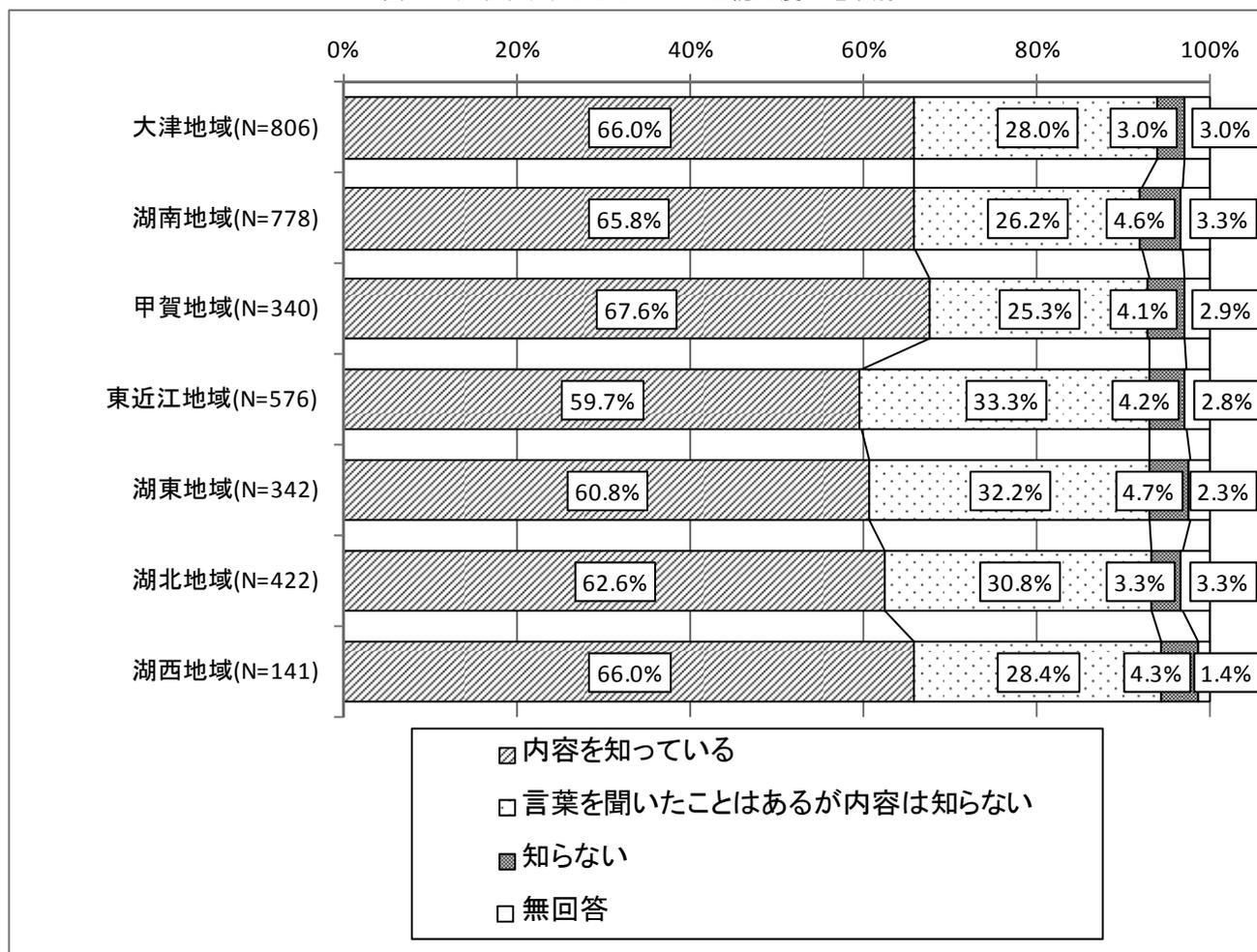
性別にみると、大きな差異はみられず、いずれも「内容を知っている」が6割以上となっています。

図 メタボリックシンドロームの認知度—年齢別



年齢別にみると、「内容を知っている」は60歳代の71.9%を最高にいずれの年代でも半数以上の認知度となっており、幅広く知られています。「知らない」は70歳以上で9.5%、20歳代で6.1%と多くなっています。

図 メタボリックシンドロームの認知度—地域別

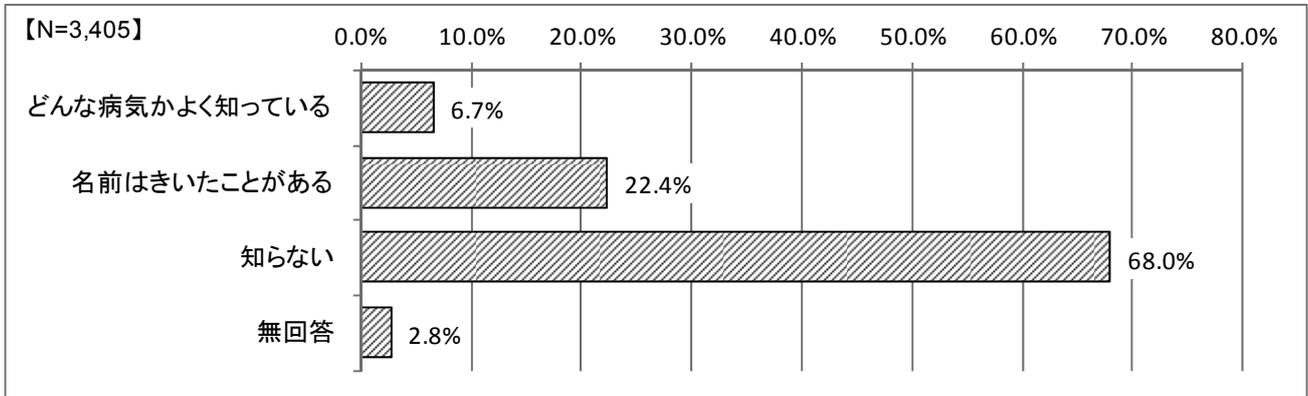


地域別にみると、大きな差異はみられずいずれの地域でも「内容を知っている」が6割前後となっています。

## (20) COPDの認知度

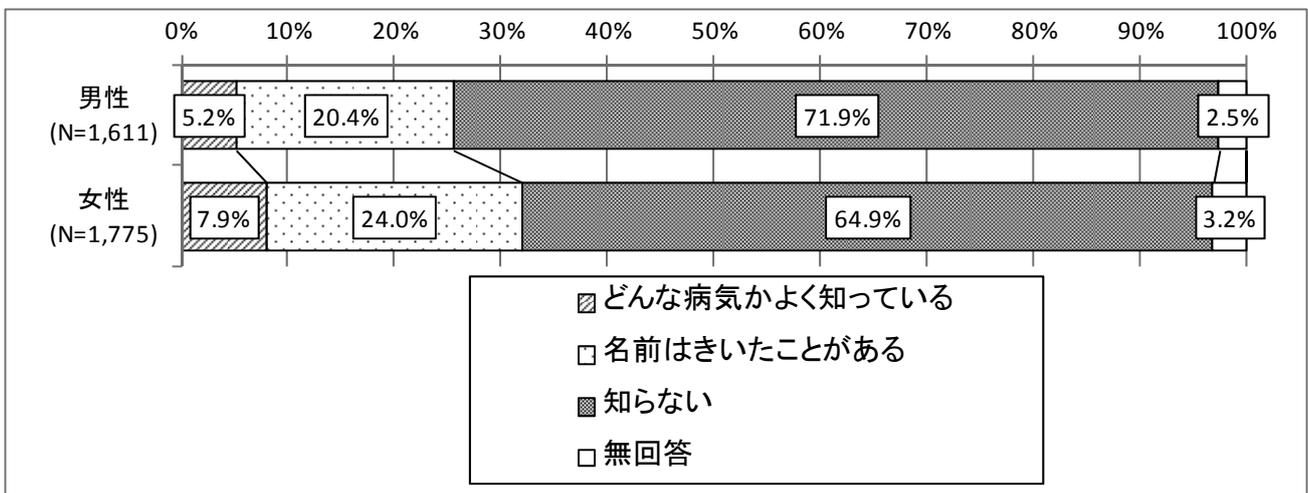
問43 あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 COPDの認知度



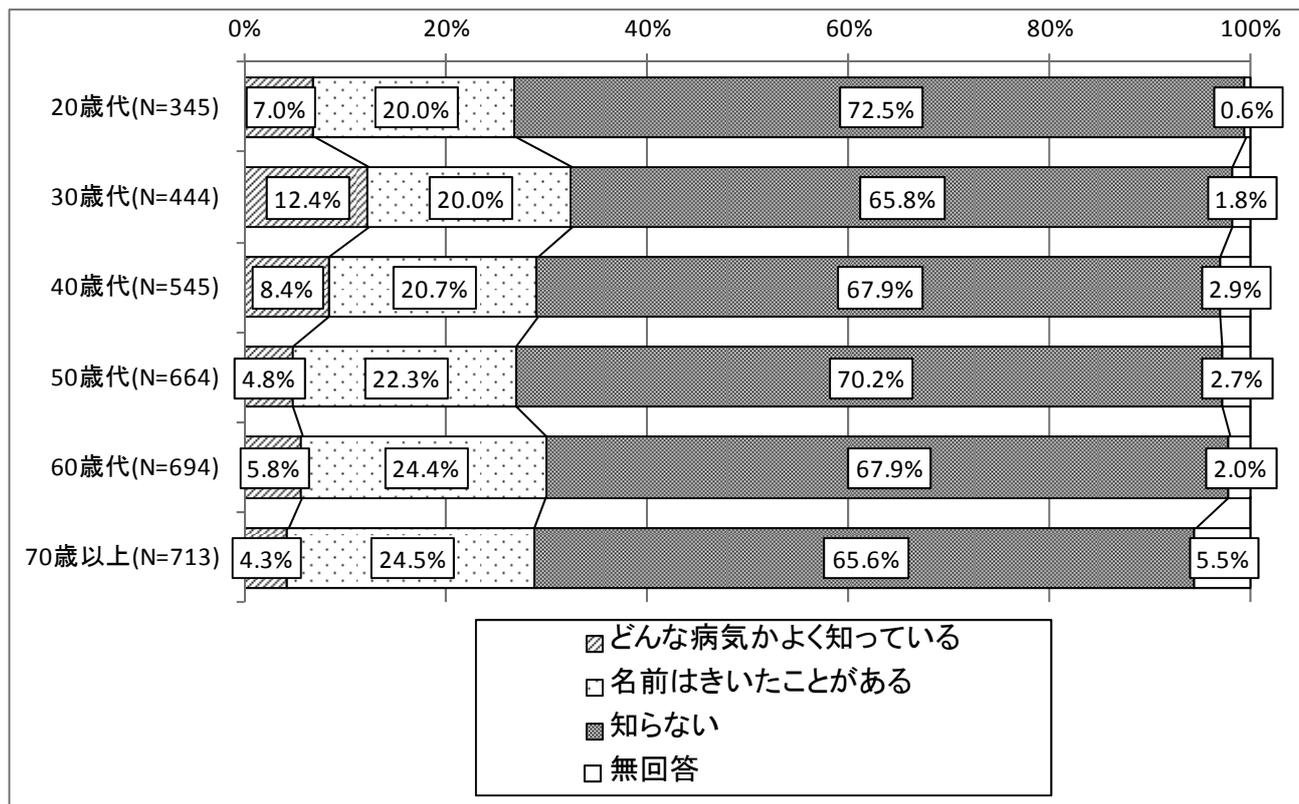
COPDの認知度では、「知らない」が68.0%、「名前はきいたことがある」が22.4%で、「どんな病気かよく知っている」は6.7%にとどまっています。

図 COPDの認知度－性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 COPDの認知度一年齢別



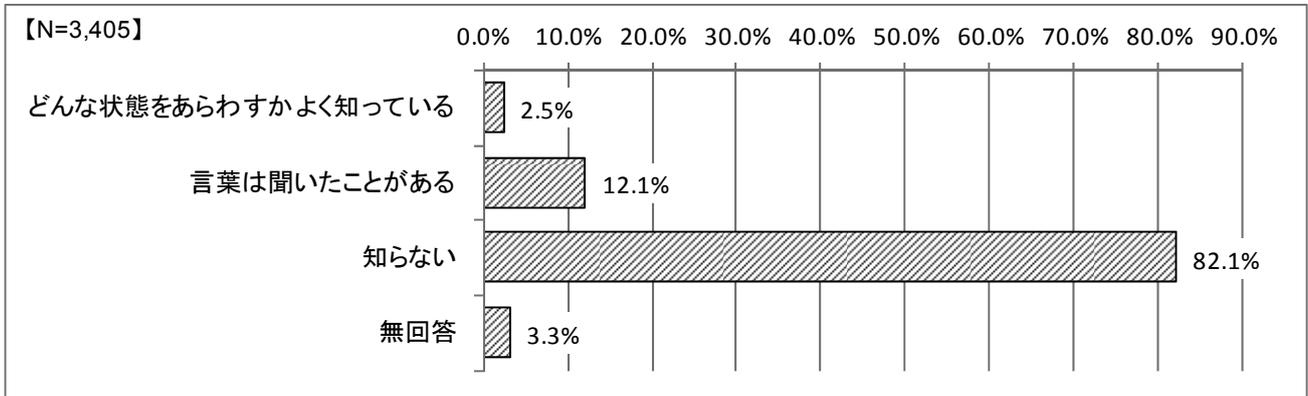
年齢別にみると、大きな差異はみられずいずれの年代においても「知らない」が最も多く7割前後となっています。

<参考> COPD（慢性閉塞性肺疾患）は、主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患で、咳・痰・息切れを主訴として緩徐に呼吸障害が進行します。かつて肺気腫・慢性気管支炎と称されていた疾患が含まれています。

## (21) ロコモティブシンドロームの認知度

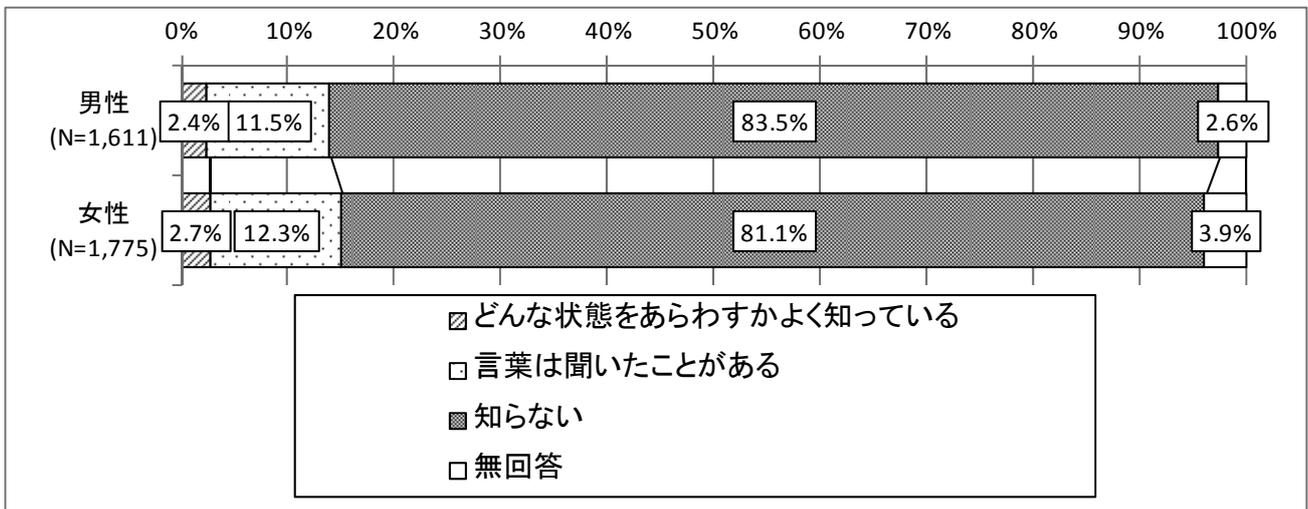
問44 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）ということばを知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 ロコモティブシンドロームの認知度



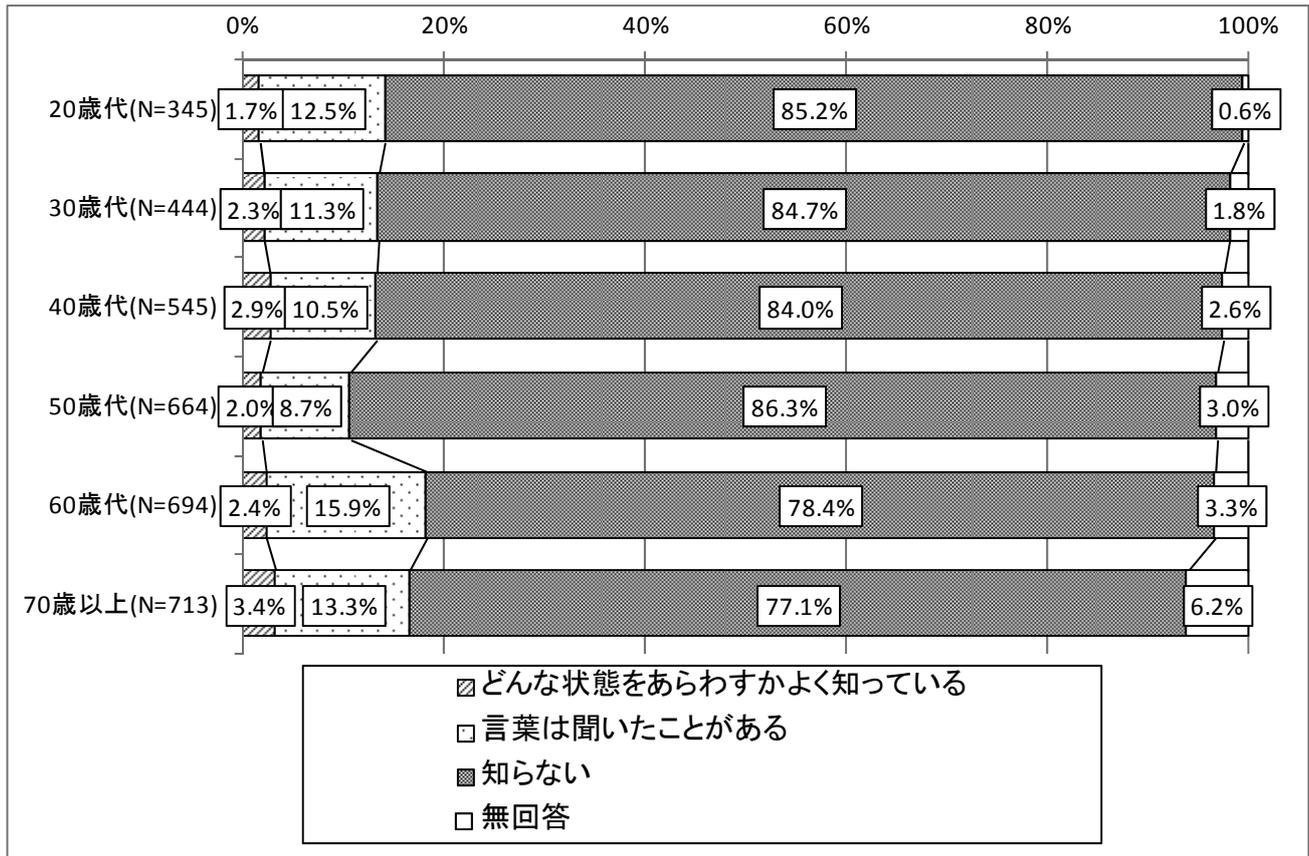
ロコモティブシンドロームの認知度では、「知らない」が82.1%で、「言葉は聞いたことがある」が12.1%、「どんな状態をあらわすかよく知っている」は2.5%となっています。

図 ロコモティブシンドロームの認知度－性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 ロコモティブシンドロームの認知度—年齢別



年齢別にみると、大きな差異はみられずいずれの年代においても「知らない」が最も多く8割前後となっています。

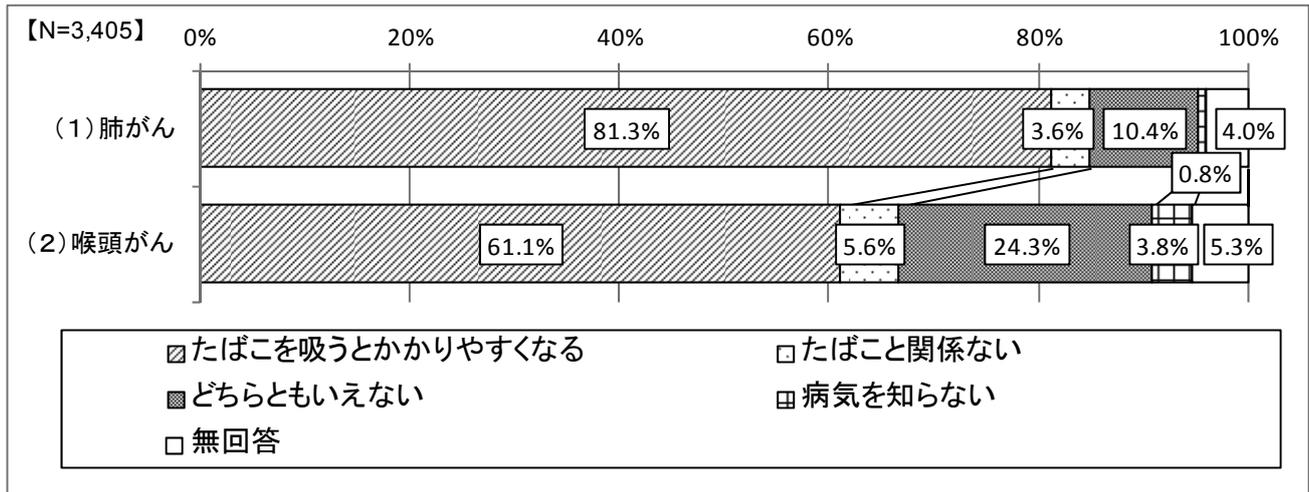
<参考>ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態と定義されています。

(22) たばこが健康に与える影響の認識について

問 45 たばこが健康に与える影響について、どのように思いますか。それぞれの病気についてあてはまるもの 1つに○をつけてください。

- (1) 肺がん
- (2) 喉頭がん

図 たばこが健康に与える影響の認識について

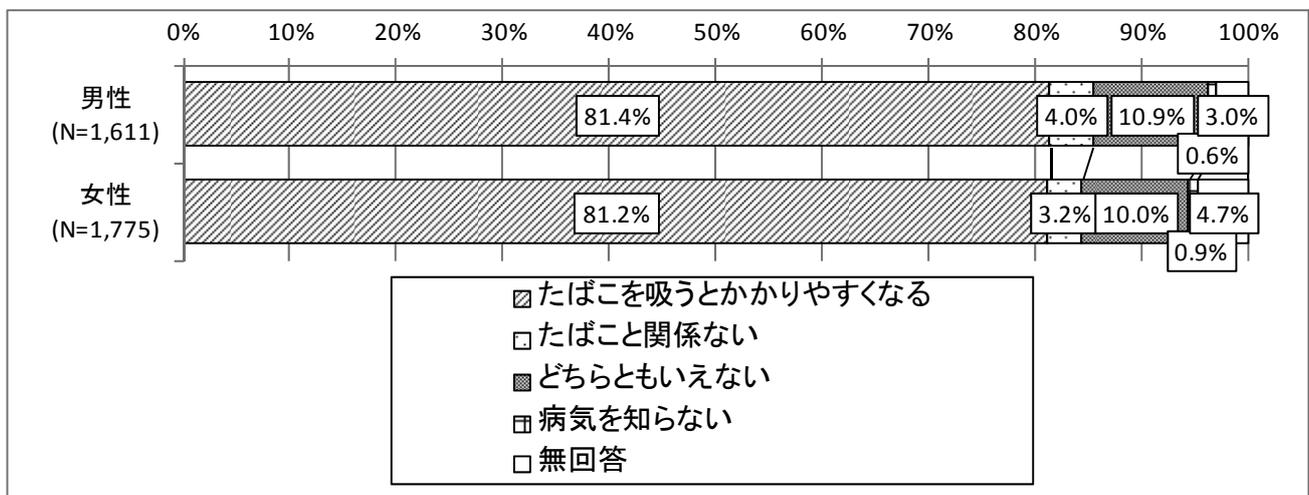


たばこが健康に与える影響の認識については、「肺がん」では、「たばこを吸うとわかりやすくなる」が81.3%となっています。

「喉頭がん」では、「たばこを吸うとわかりやすくなる」が61.1%となっています。

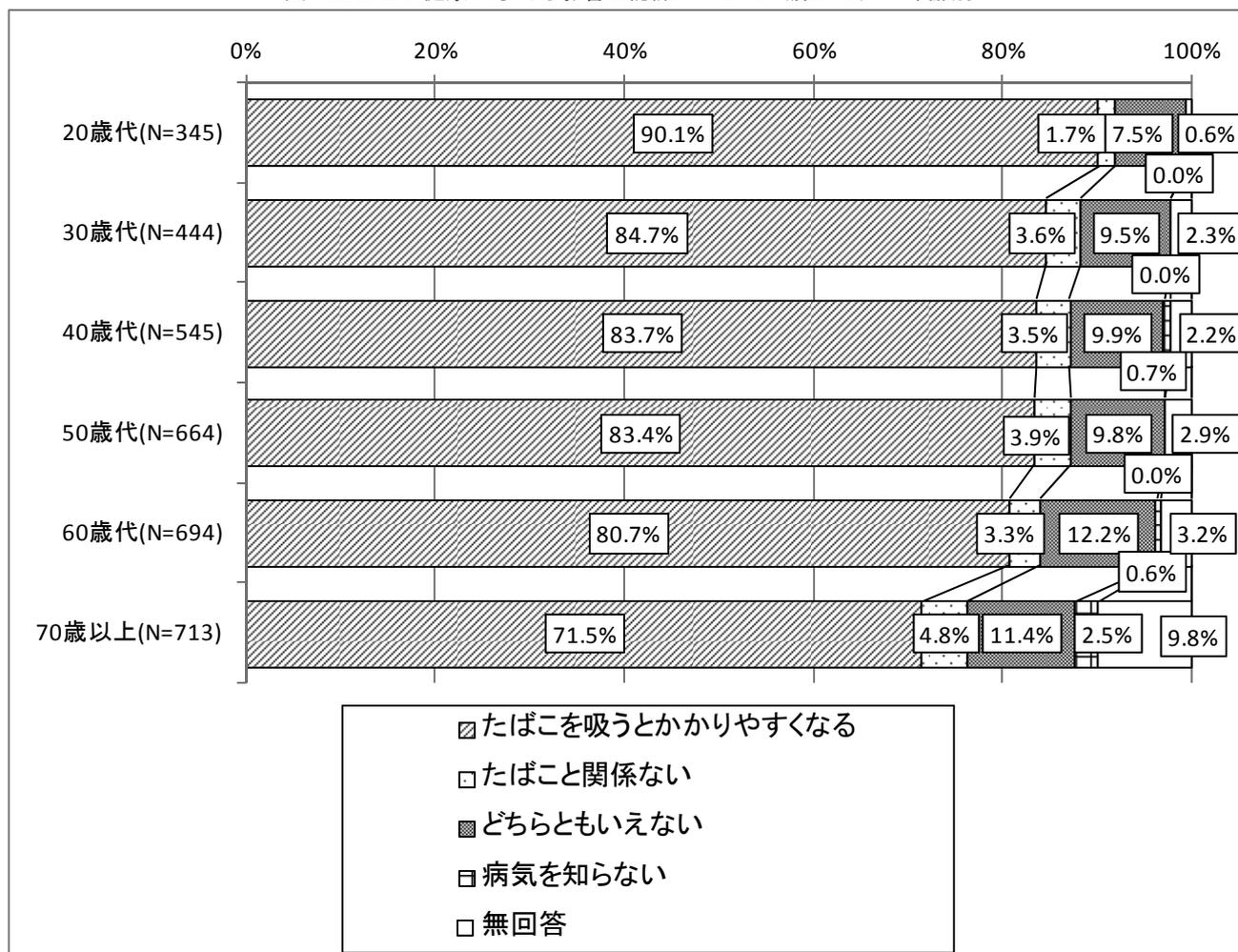
(1) 肺がん

図 たばこが健康に与える影響の認識について（肺がん）－性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

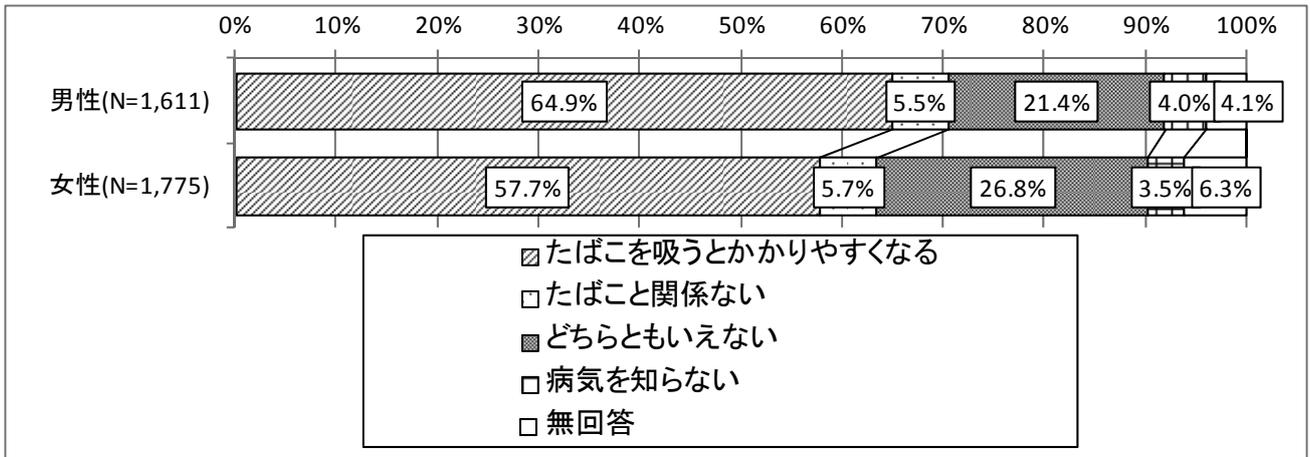
図 たばこが健康に与える影響の認識について（肺がん）－年齢別



年齢別にみると、「たばこを吸うとかかりやすくなる」は年齢とともに減少していき、「どちらともいえない」が増加していく傾向となっています。

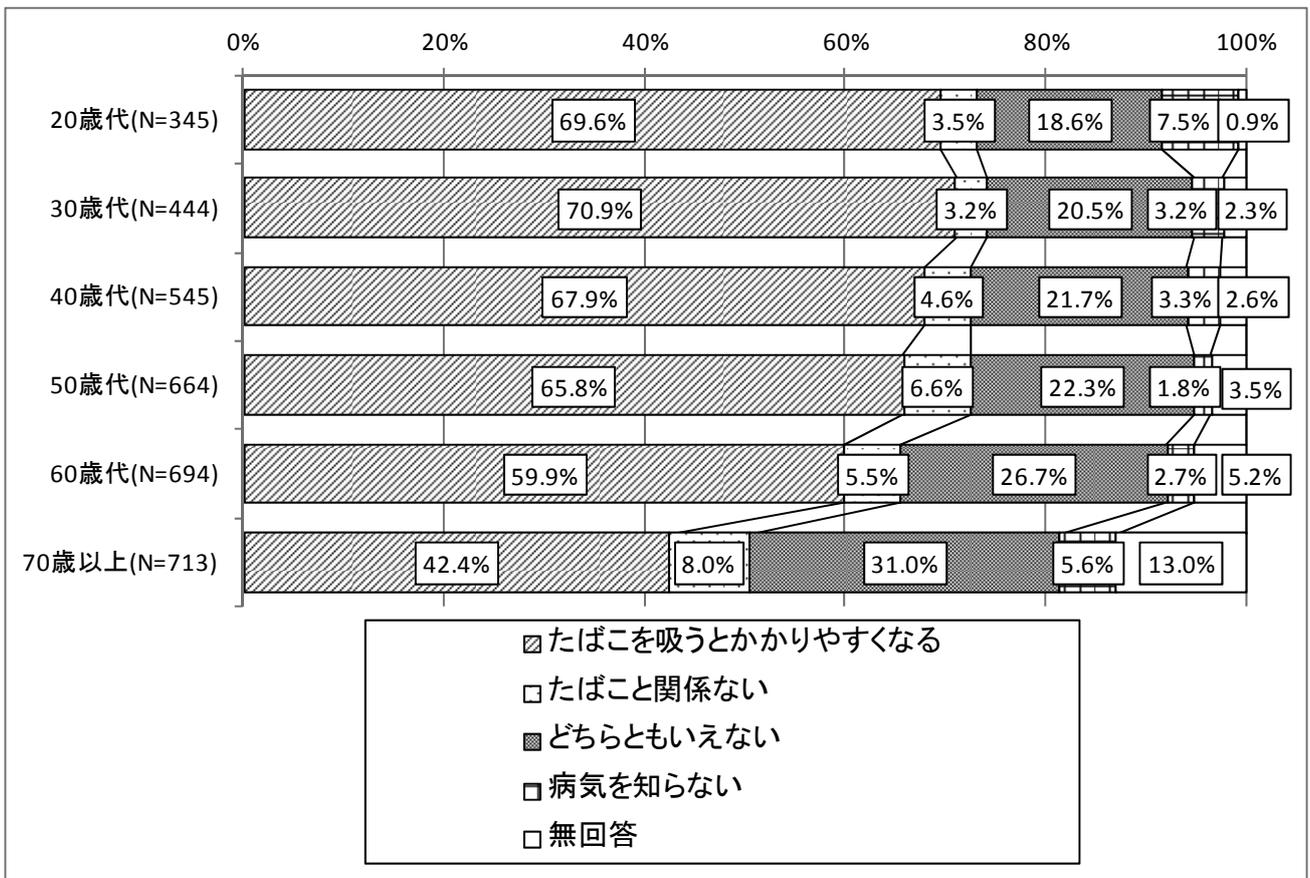
(2) 喉頭がん

図 たばこが健康に与える影響の認識について（喉頭がん）－性別



性別にみると、男性は女性に比べて「たばこを吸うとかかりやすくなる」との回答が多くなっています。

図 たばこが健康に与える影響の認識について（喉頭がん）－年齢別

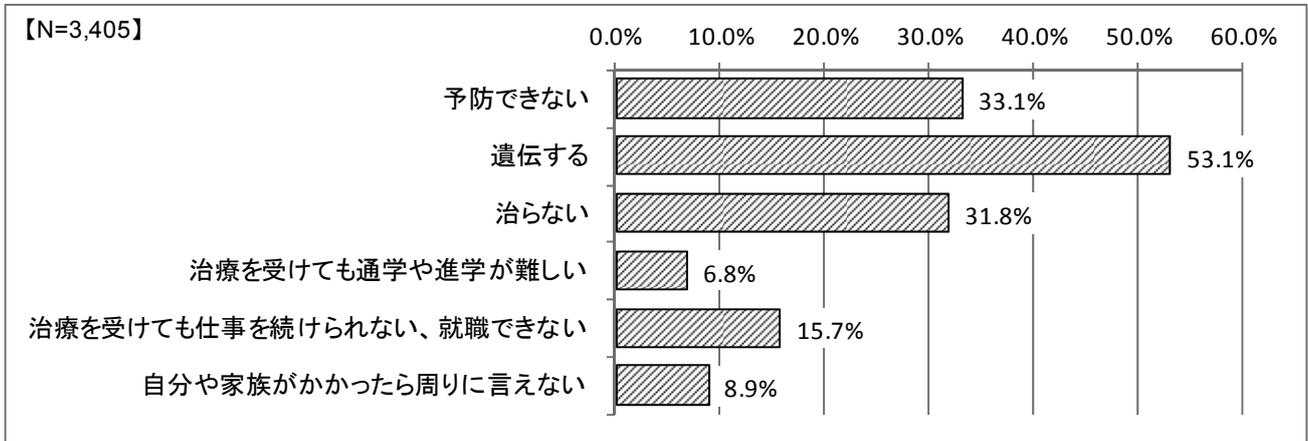


年齢別にみると、「たばこを吸うとかかりやすくなる」は年齢とともに減少していき、「どちらともいえない」が増加していく傾向となっています。

(23) がんについてのイメージ

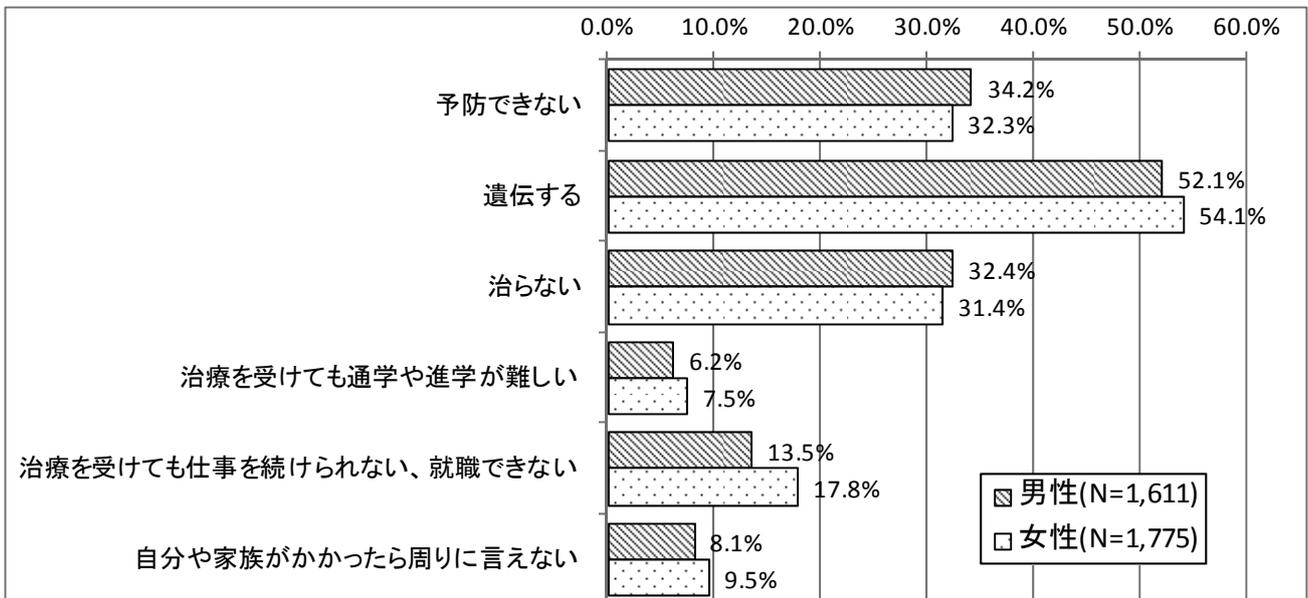
問46 「がん」についてどんなイメージをもっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 がんについてのイメージ



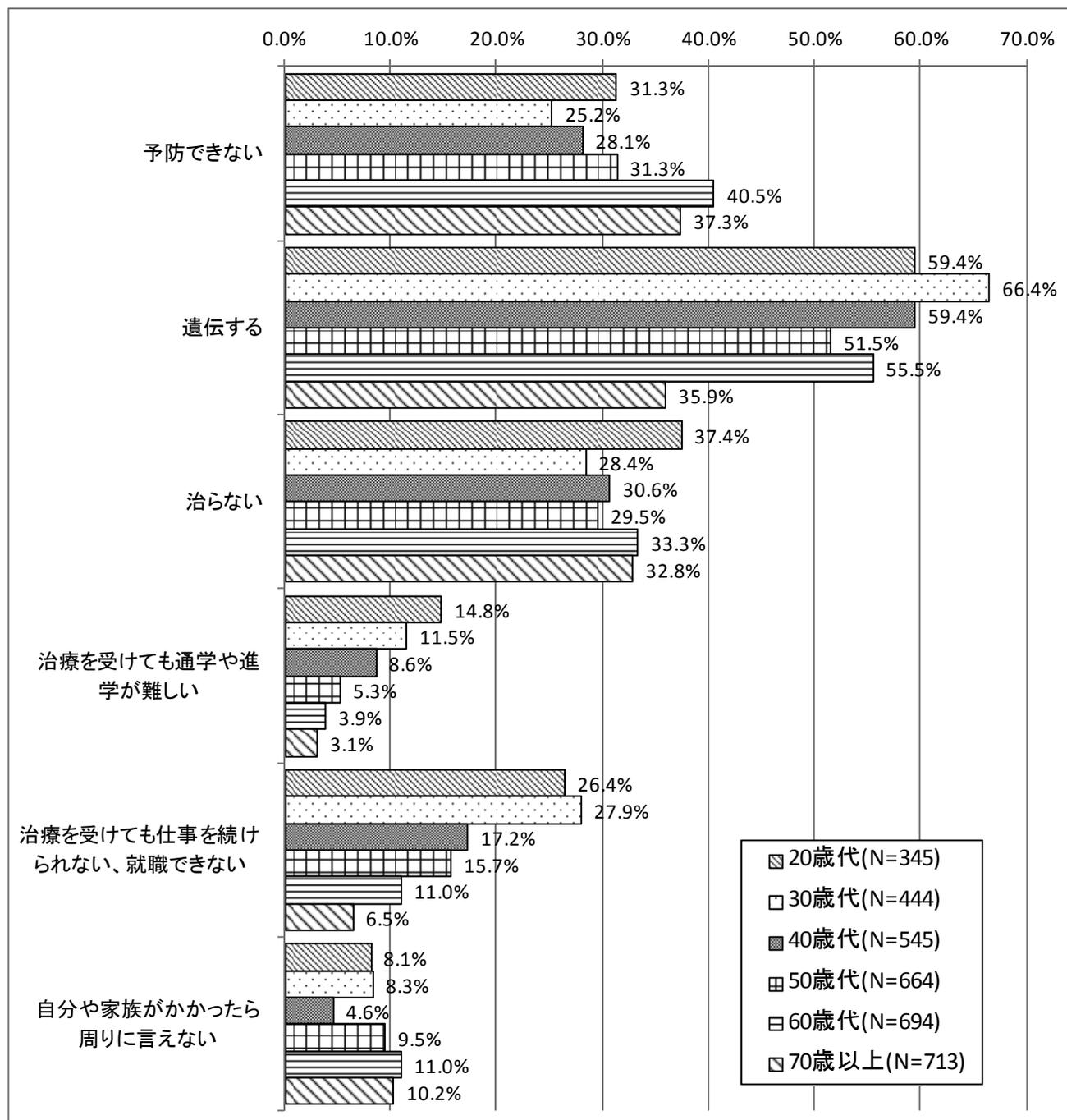
がんについてのイメージでは、「遺伝する」が53.1%、「予防できない」が33.1%、「治らない」が31.8%と多くなっています。

図 がんについてのイメージ-性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 がんについてのイメージ—年齢別

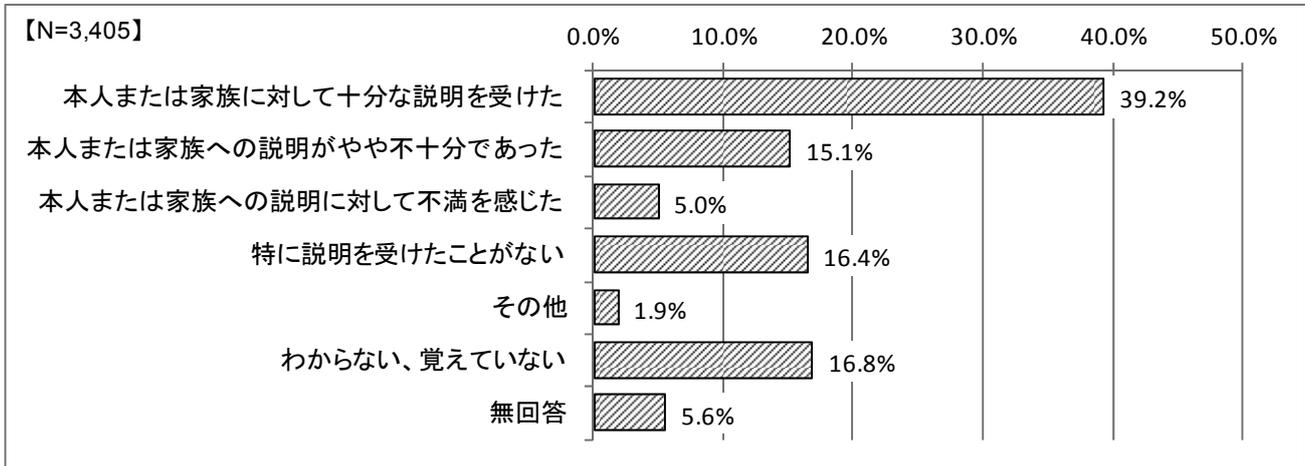


年齢別にみると、大きな差異はみられませんが、20歳代や30歳代では「治療を受けても仕事を続けられない、就職できない」がそれぞれ26.4%、27.9%と他の世代より多くなっています。

(24) インフォームド・コンセントについて

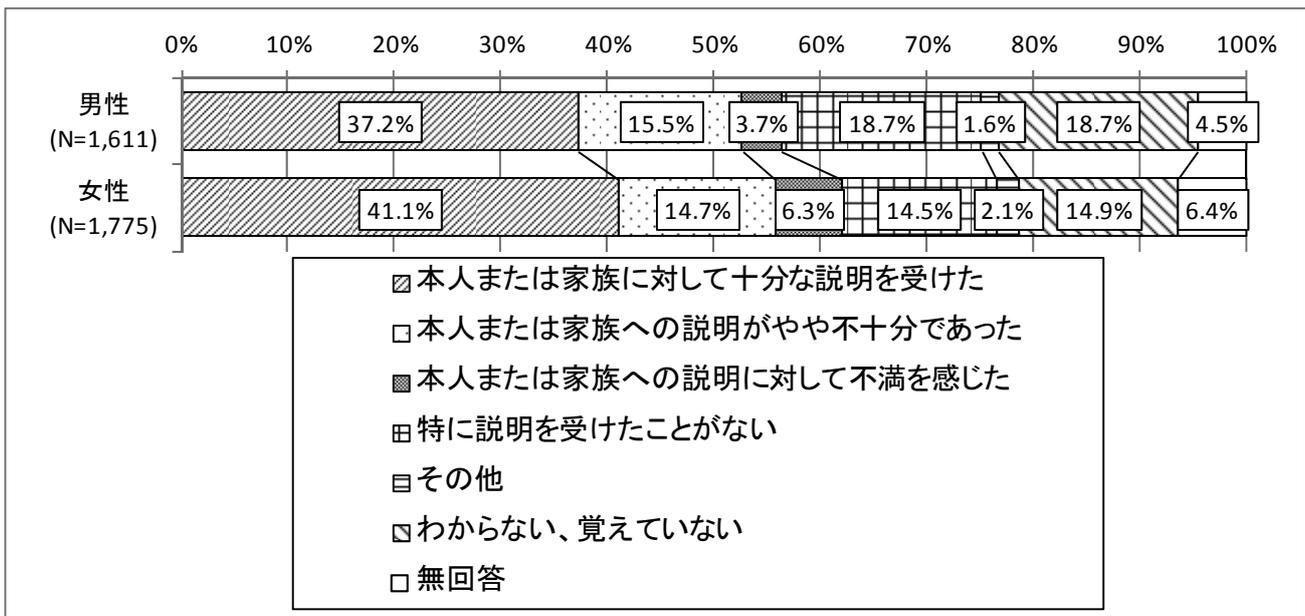
問 47 「インフォームド・コンセント」が患者の権利として重視されていますが、あなたがこれまでに受けた医療機関の対応は、次のうちどれに近いですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 インフォームド・コンセントについて



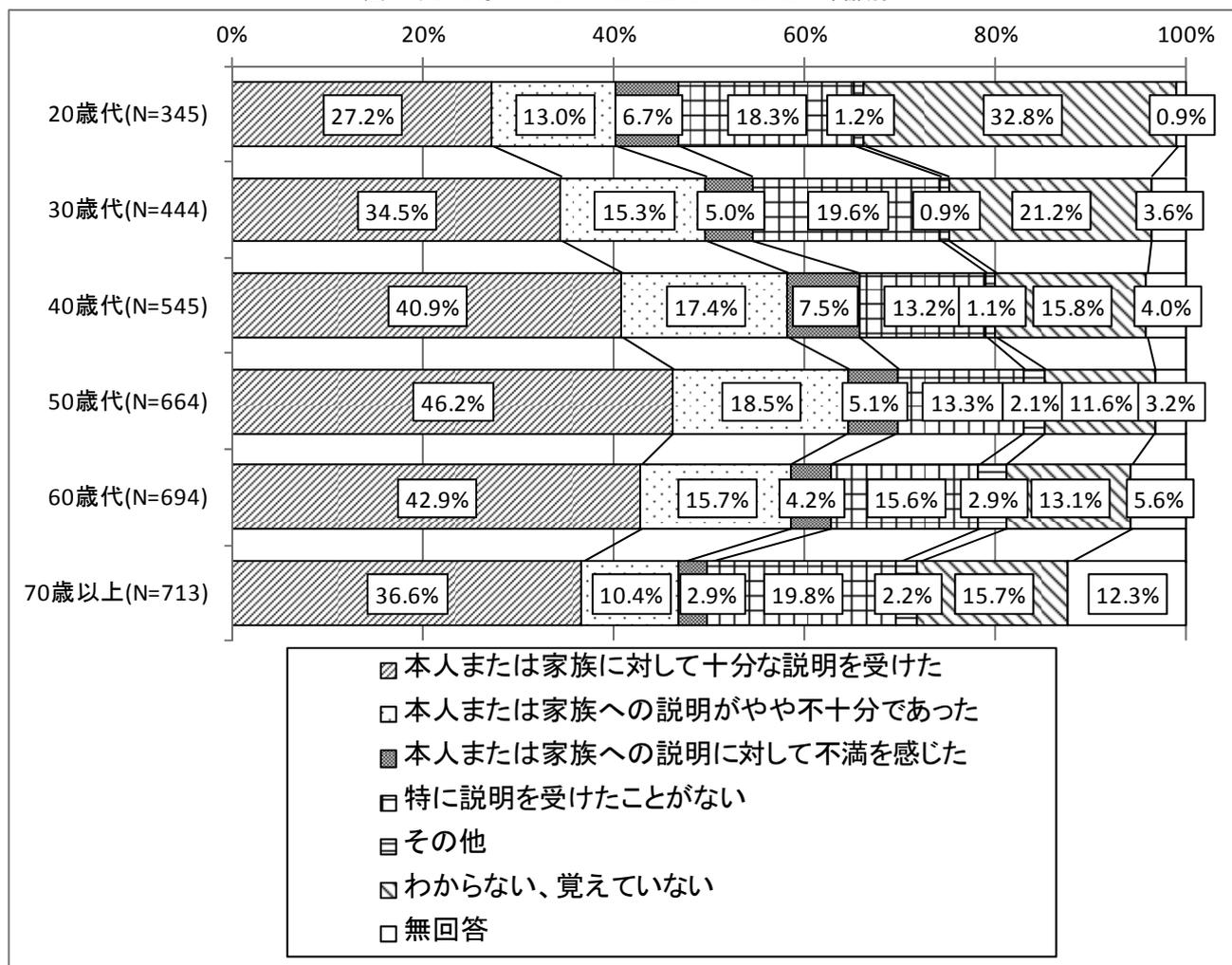
インフォームド・コンセントについてこれまでに受けた医療機関の対応では、「本人または家族に対して十分な説明を受けた」が39.2%と最も多く、次いで「わからない、覚えていない」の16.8%、「特に説明を受けたことがない」の16.4%、「本人または家族への説明がやや不十分であった」の15.1%などとなっています。

図 インフォームド・コンセントについて－性別



性別にみると、男性は女性に比べて「特に説明を受けたことがない」や「わからない、覚えていない」が多くなっています。

図 インフォームド・コンセントについて一年齢別

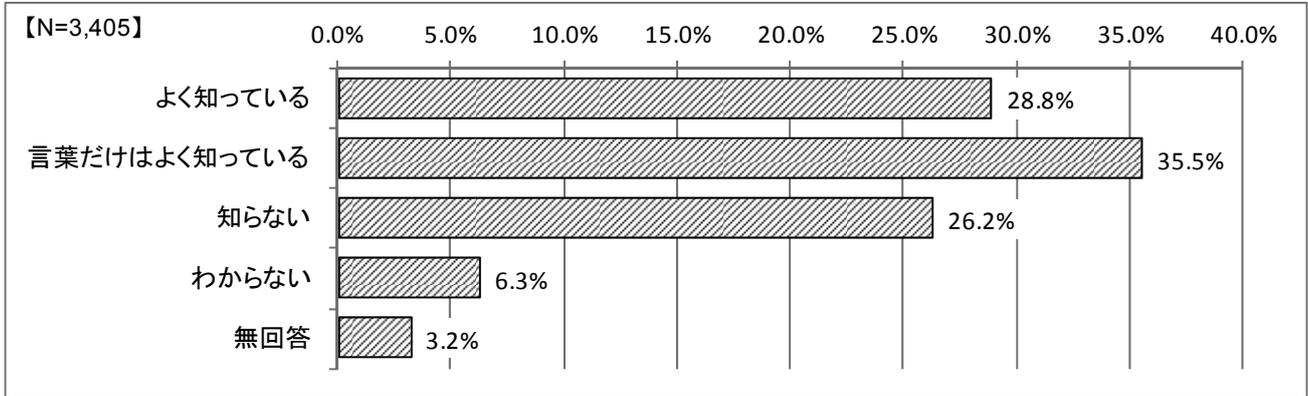


年齢別にみると、「本人または家族に対して十分な説明を受けた」は50歳代の46.2%が最も多く、次いで60歳代の42.9%、40歳代の40.9%と中高年で多くなっています。「わからない、覚えていない」は20歳代で32.8%、30歳代で21.2%と若年者に多くみられます。

(25) がん治療の「セカンド・オピニオン」について

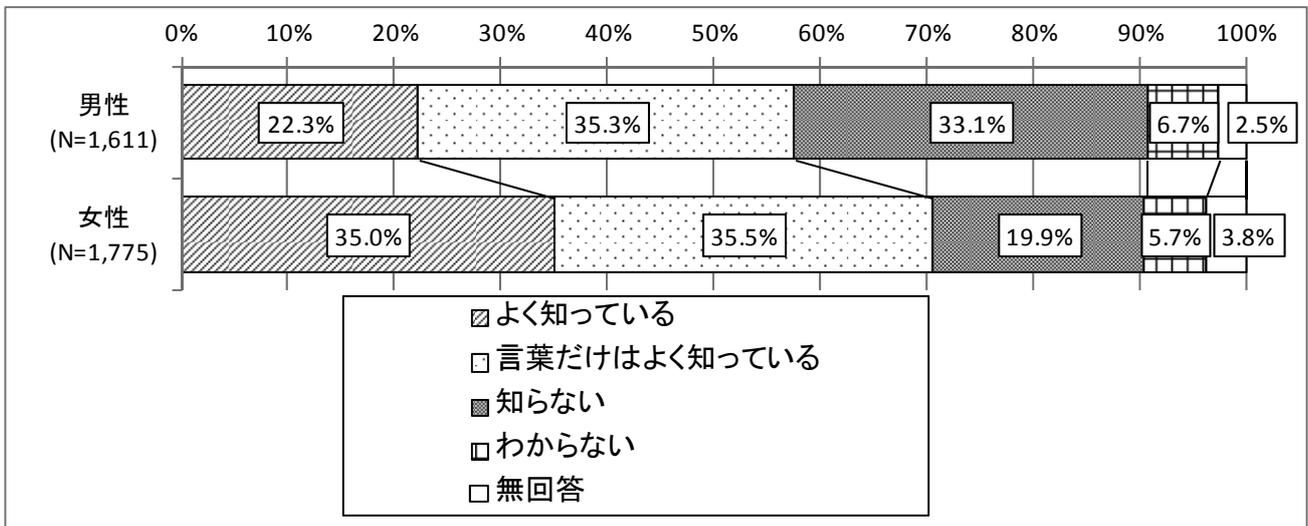
問48 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」という方法があることを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 がん治療の「セカンド・オピニオン」について



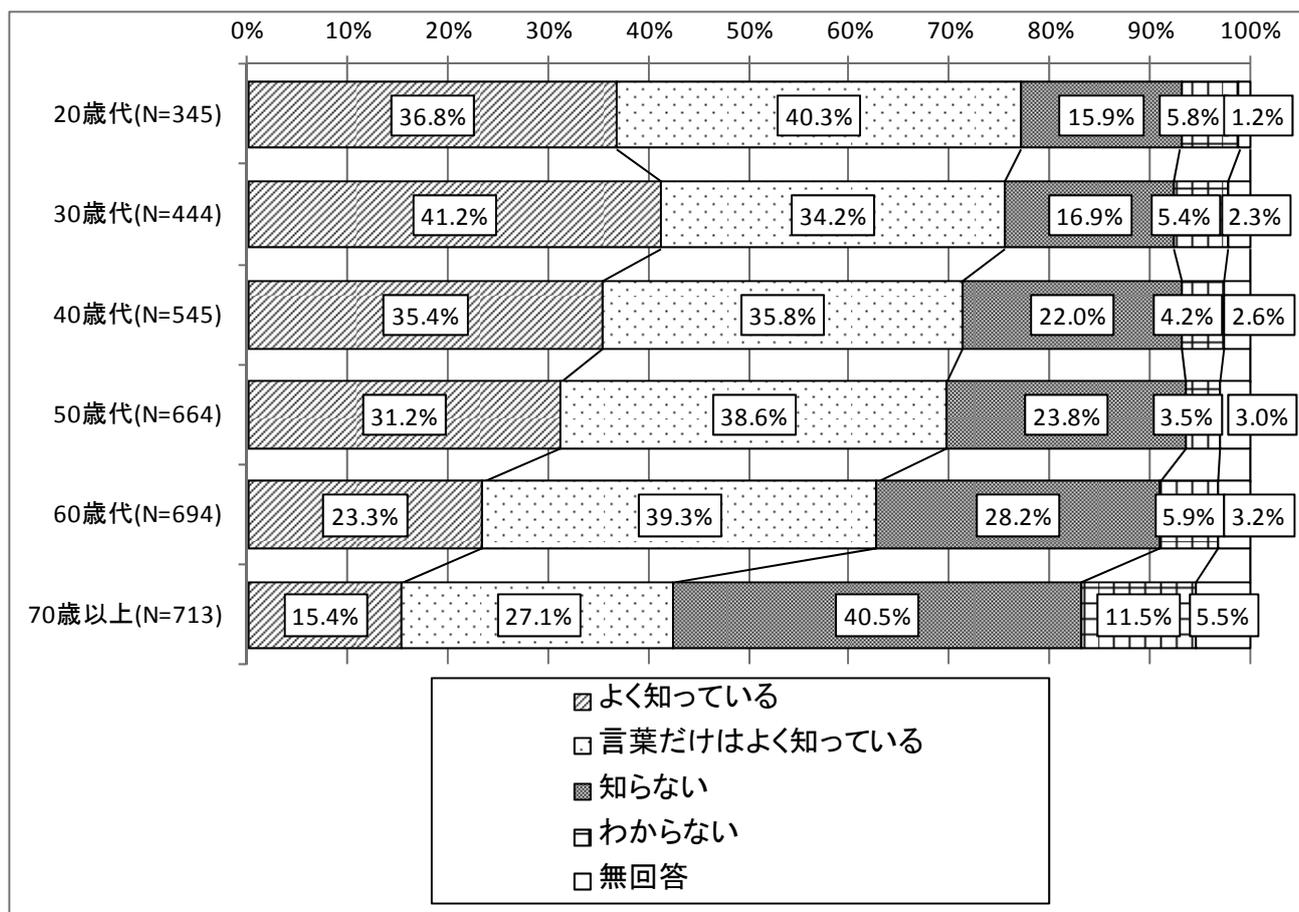
がん治療の「セカンド・オピニオン」の認知度では、「言葉だけはよく知っている」が35.5%で最も多く、次いで「よく知っている」の28.8%、「知らない」の26.2%となっています。

図 がん治療の「セカンド・オピニオン」について—性別



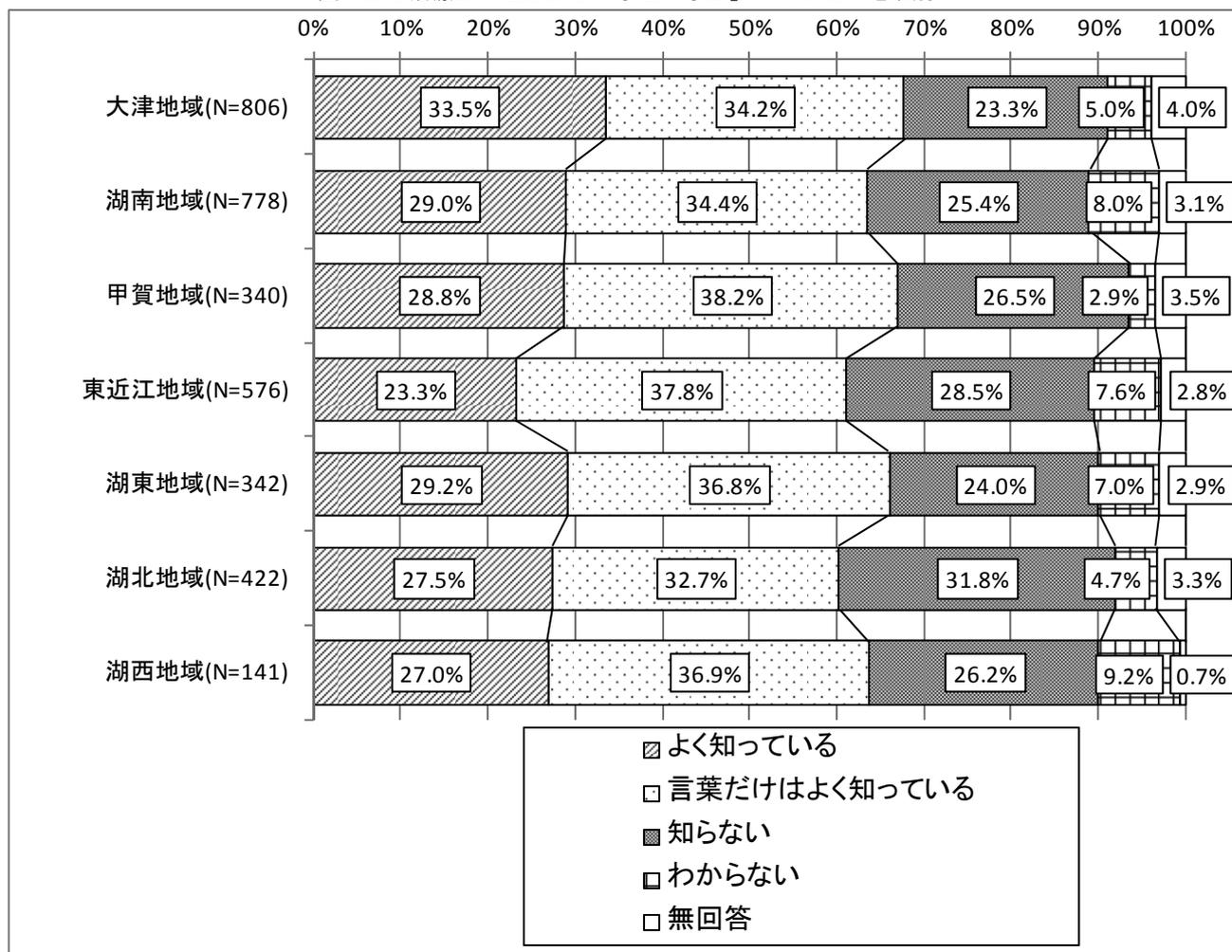
性別にみると、女性は男性に比べて「よく知っている」が多くなっており、男性は「知らない」が多くなっています。

図 がん治療の「セカンド・オピニオン」について一年齢別



年齢別にみると、「よく知っている」は30歳代の41.2%が最も多く、概ね年齢とともに減少していき、「知らない」が増加しています。

図 がん治療の「セカンド・オピニオン」について—地域別

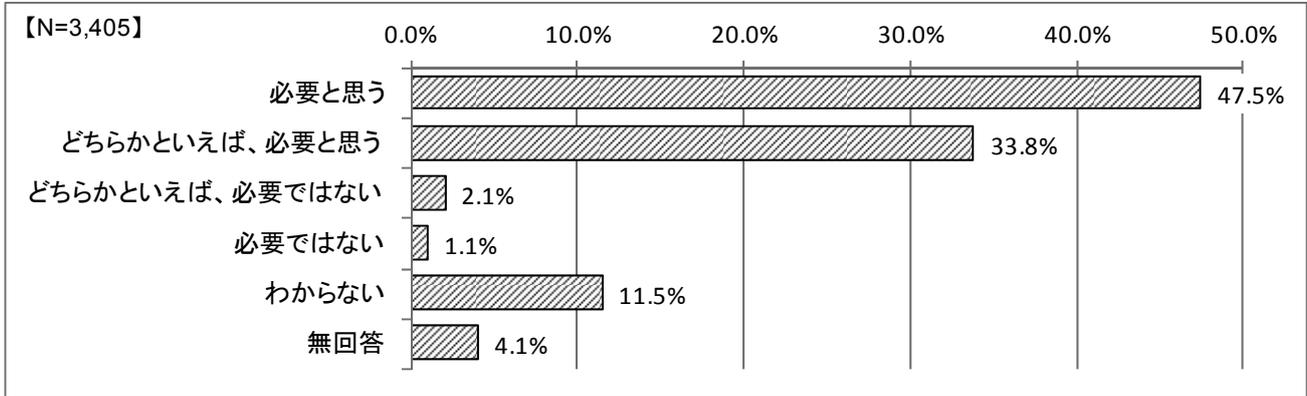


地域別にみると、大きな差異はみられずいずれの地域においても「よく知っている」は2から3割程度となっています。

(26) 「セカンド・オピニオン」の必要性について

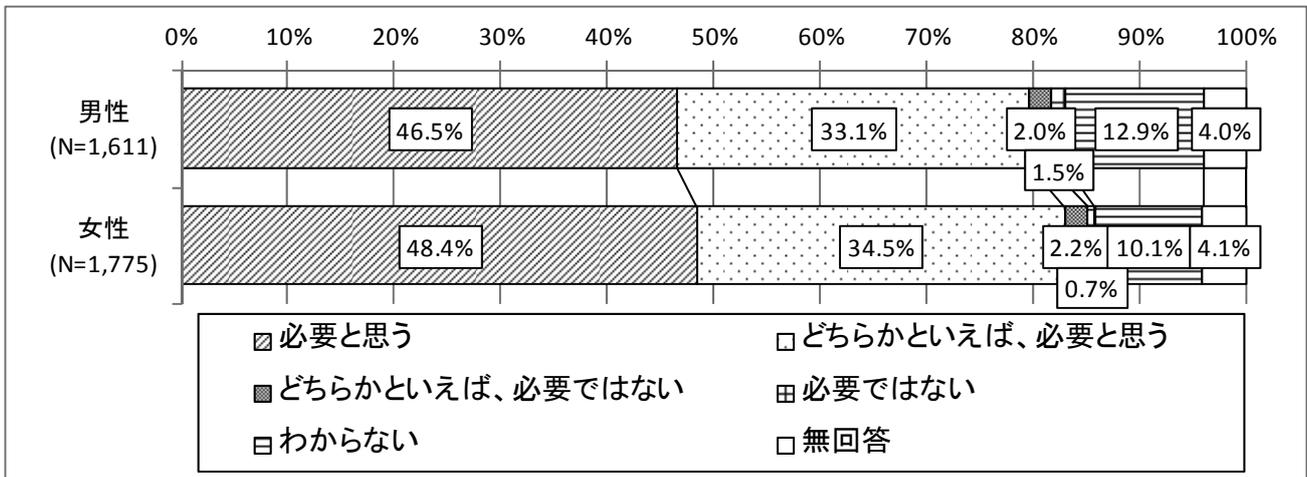
問49 あなたは、もしもがんと診断され治療を行う場合、「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 「セカンド・オピニオン」の必要性について



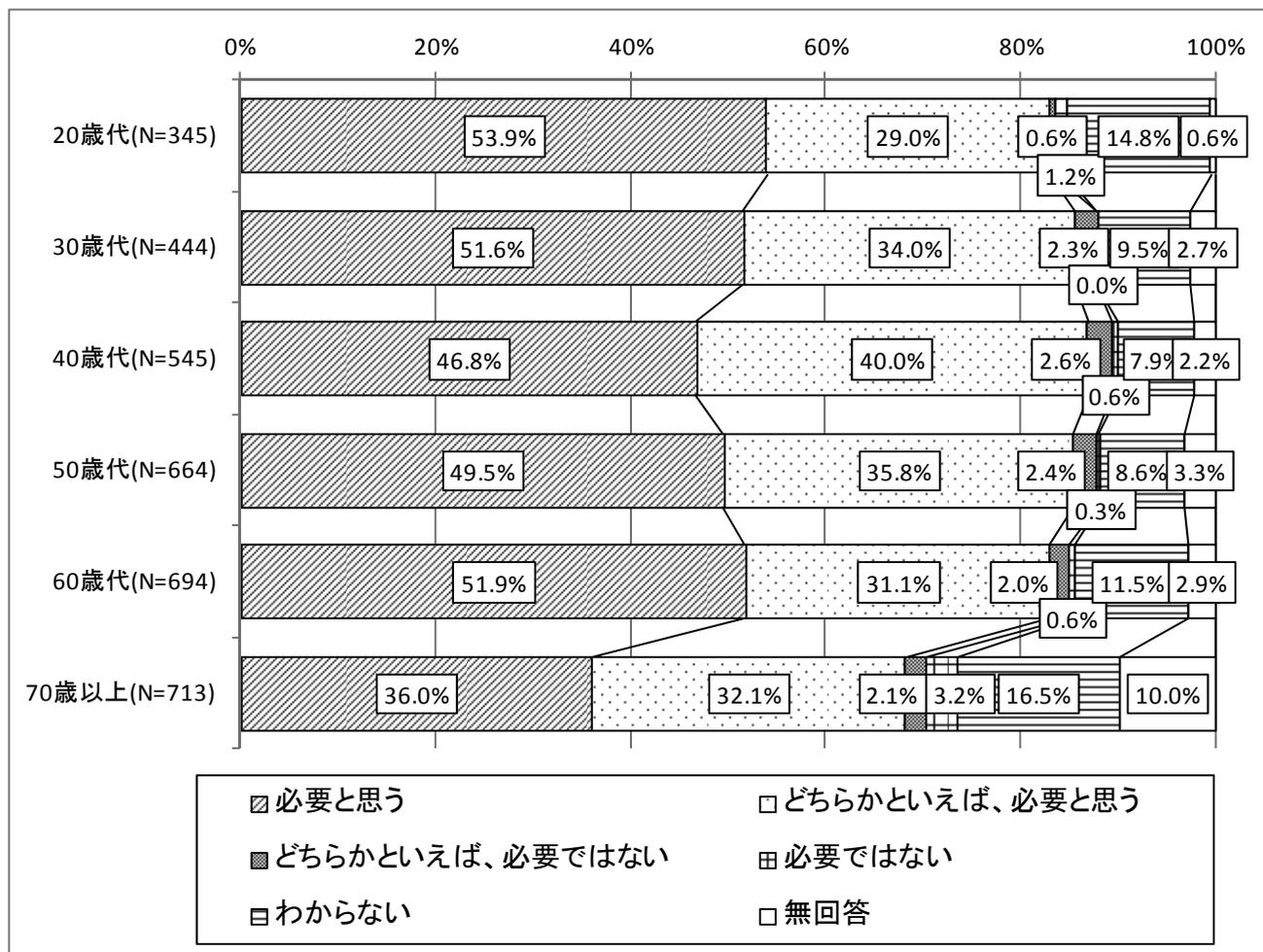
自分自身ががんと診断され治療を行う場合の「セカンド・オピニオン」の必要性では、「必要と思う」が47.5%で、「どちらかといえば、必要と思う」の33.8%を加えると8割以上の人が必要と思っています。

図 「セカンド・オピニオン」の必要性について－性別



性別にみると、大きな差異はみられません。

図 「セカンド・オピニオン」の必要性について－年齢別

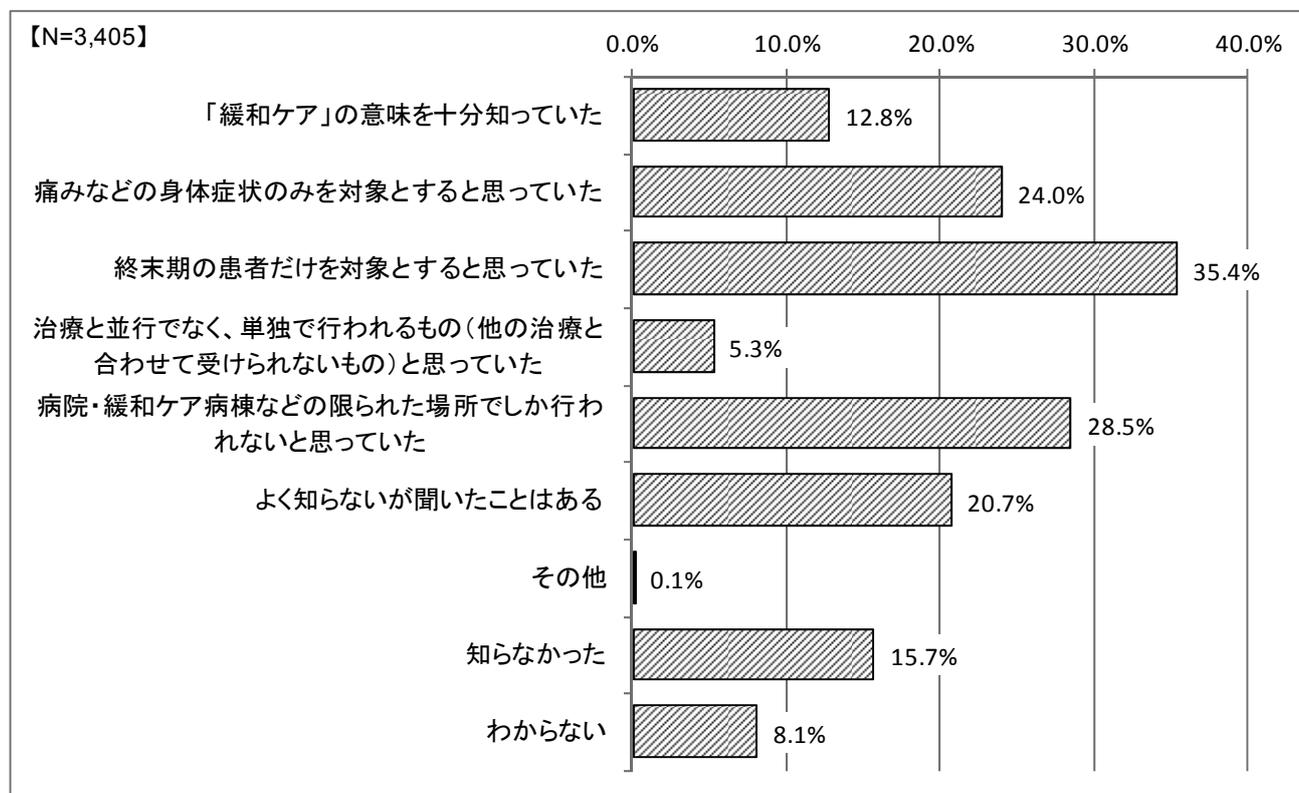


年齢別にみると、「必要と思う」は70歳以上を除くと5割前後となっています。70歳以上では、「必要と思う」は36.0%と他の世代に比べ減少し、「わからない」が16.5%と多くなっています。

## (27) 「緩和ケア」の認知度

問50 「緩和ケア」について、この中からあてはまることすべてに○をつけてください。

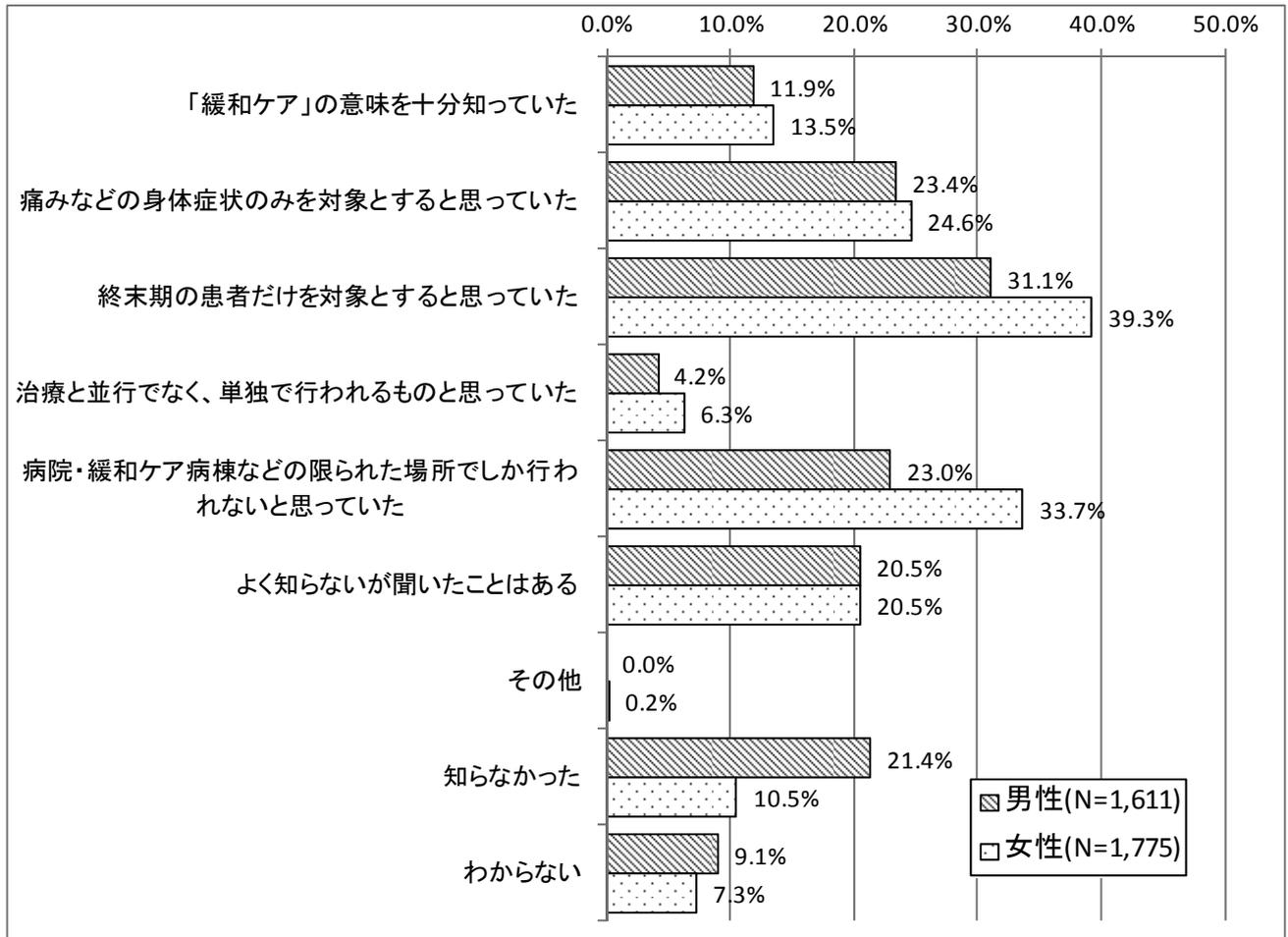
図 「緩和ケア」の認知度



「緩和ケア」の認知度では、「終末期の患者だけを対象とと思っていた」が35.4%で最も多く、次いで「病院・緩和ケア病棟などの限られた場所でしか行われなれないと思っていた」の28.5%、「痛みなどの身体症状のみを対象とと思っていた」の24.0%などとなっています。

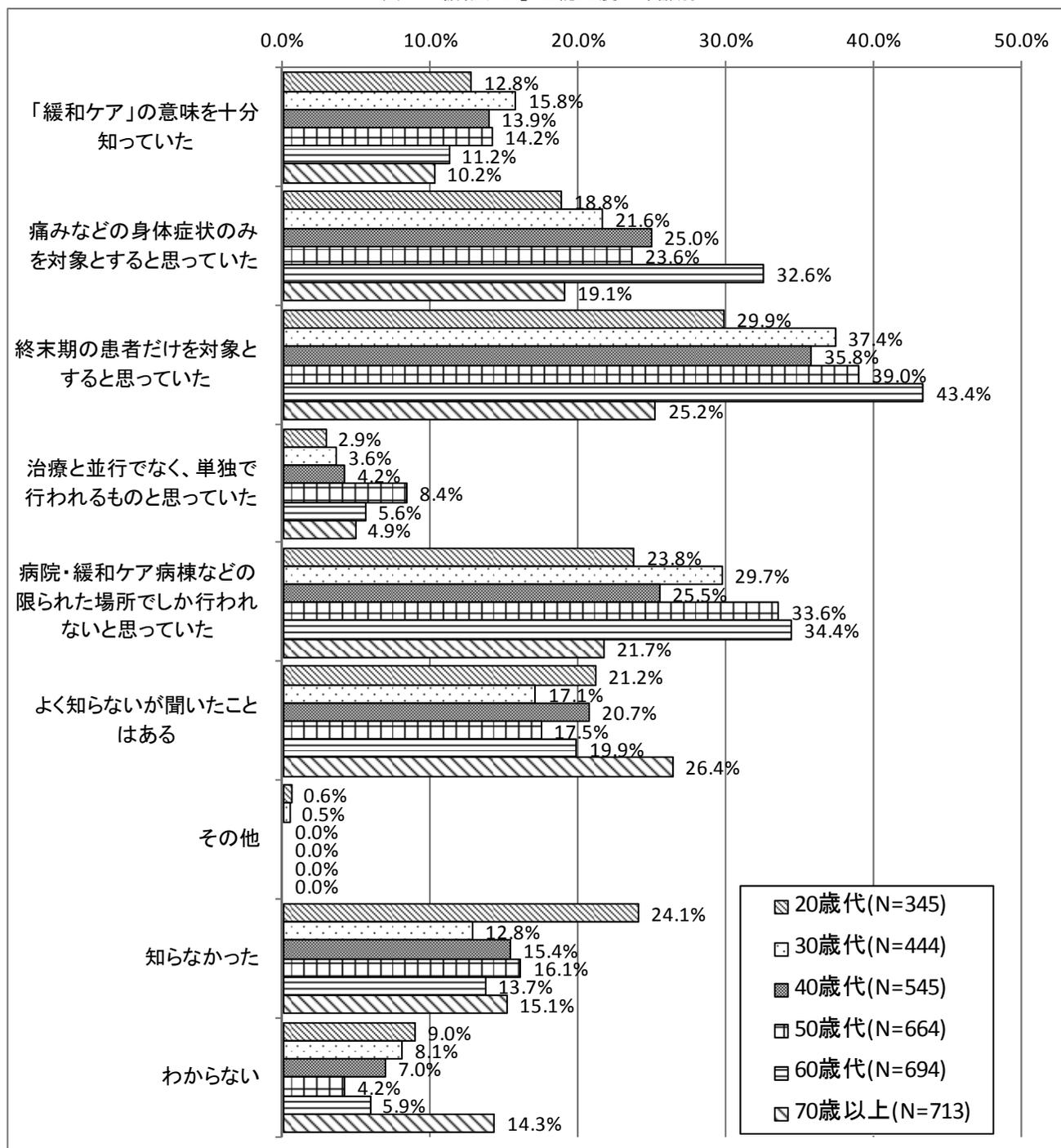
また、「よく知らないが聞いたことはある」は20.7%、「知らなかった」は15.7%と知らない人も多くなっています。

図 「緩和ケア」の認知度—性別



性別にみると、「知らなかった」や「わからない」は男性のほうが多く、「終末期の患者だけを対象とと思っていた」などについては女性のほうが多くなっています。

図 「緩和ケア」の認知度一年齢別



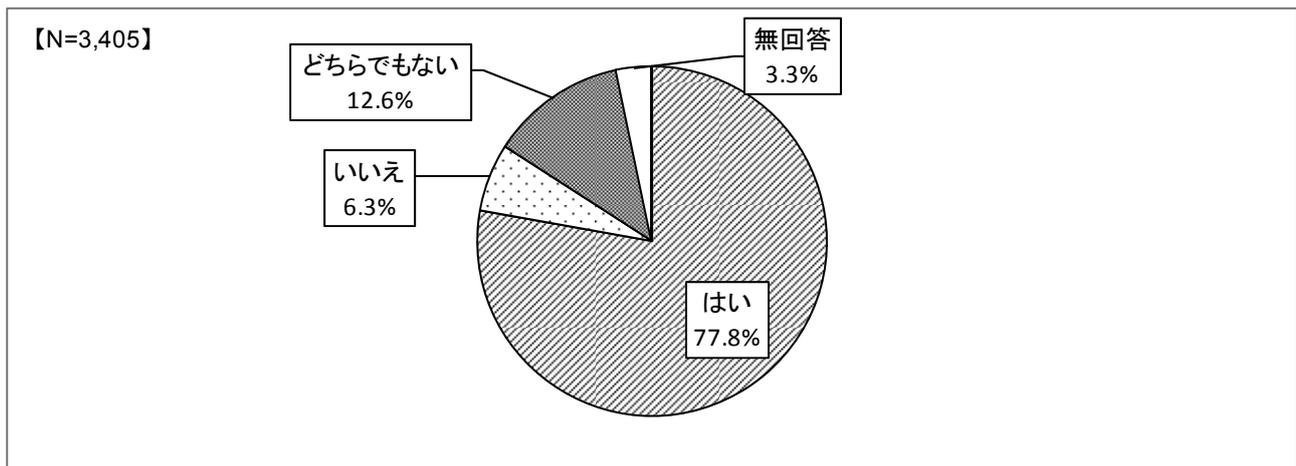
年齢別にみると、いずれの年代においても「終末期の患者だけを対象とと思っていた」「病院・緩和ケア病棟などの限られた場所で行われなかったと思っていた」が上位を占めていますが、20歳代では「知らなかった」が24.1%と他の世代に比べて多くなっています。

## 7. 健診等について

### (1) 健診等の受診希望について

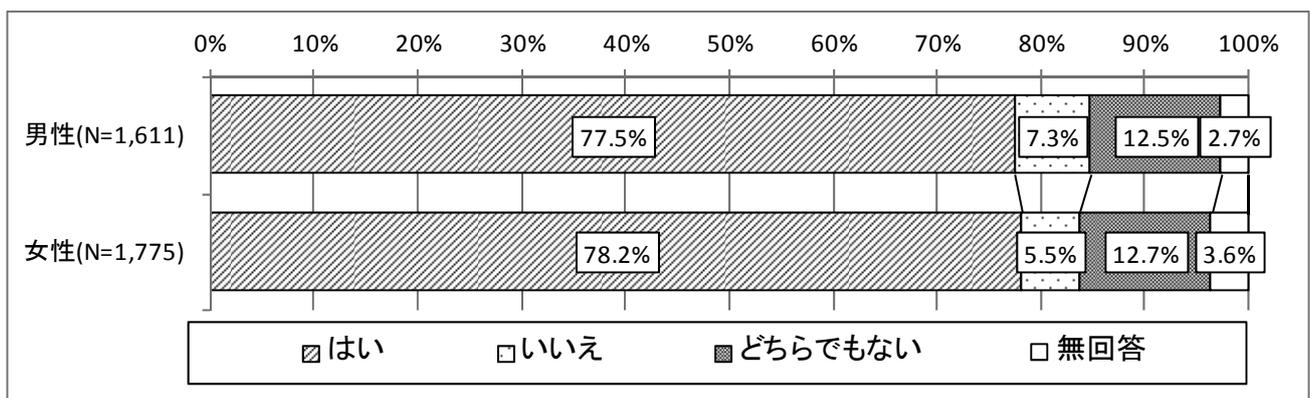
問 51 あなたは健診等（健康診断、健康診査および人間ドック）を受けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 健診等の受診希望について



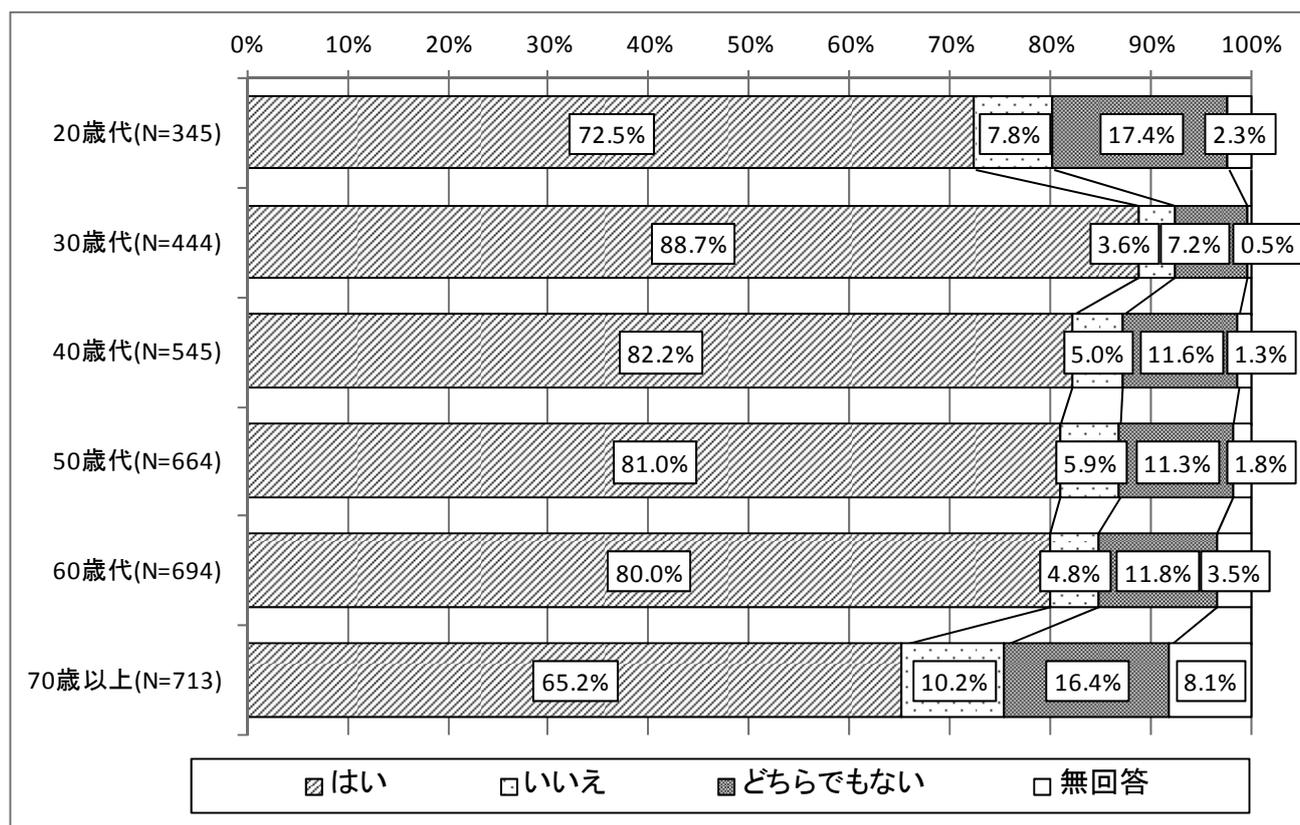
健診等の受診希望では、「はい」が77.8%で、「いいえ」の6.3%を大きく上回っています。

図 健診等の受診希望について－性別



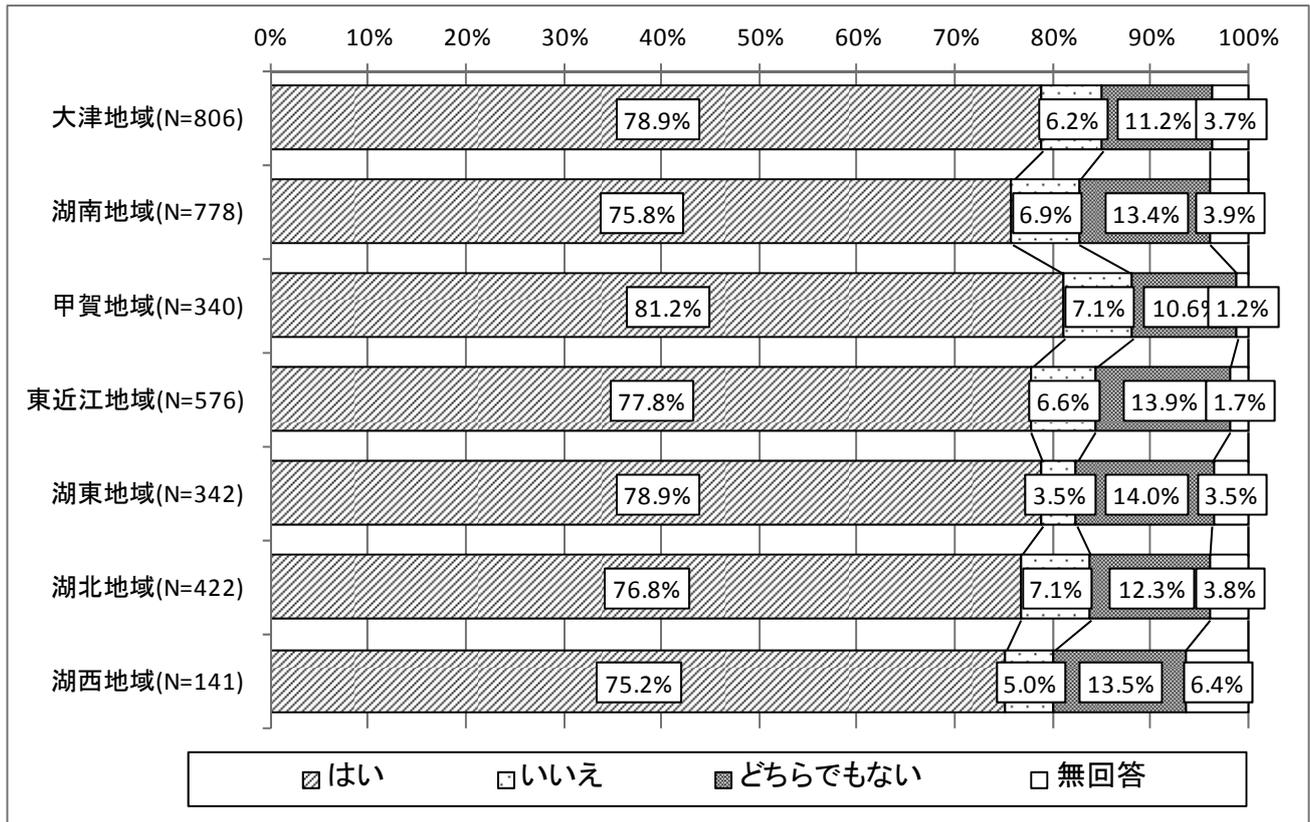
性別にみると、大きな差異はみられません。

図 健診等の受診希望について一年齢別



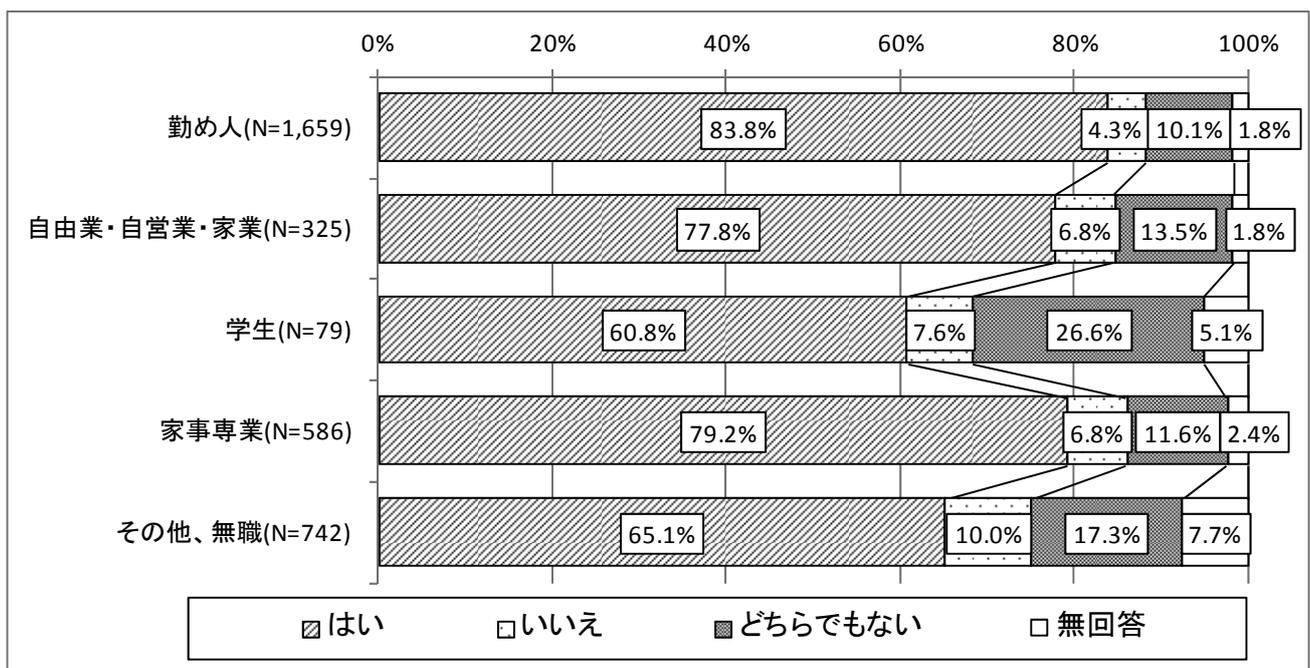
年齢別にみると、「はい」は30歳代の88.7%が最も多く、40歳代から60歳代では8割以上となっていますが、20歳代では72.5%、70歳以上では65.2%とやや減少しています。

図 健診等の受診希望について—地域別



地域別にみると、大きな差異はみられず、いずれの地域においても「はい」が8割前後となっています。

図 健診等の受診希望について—職業別

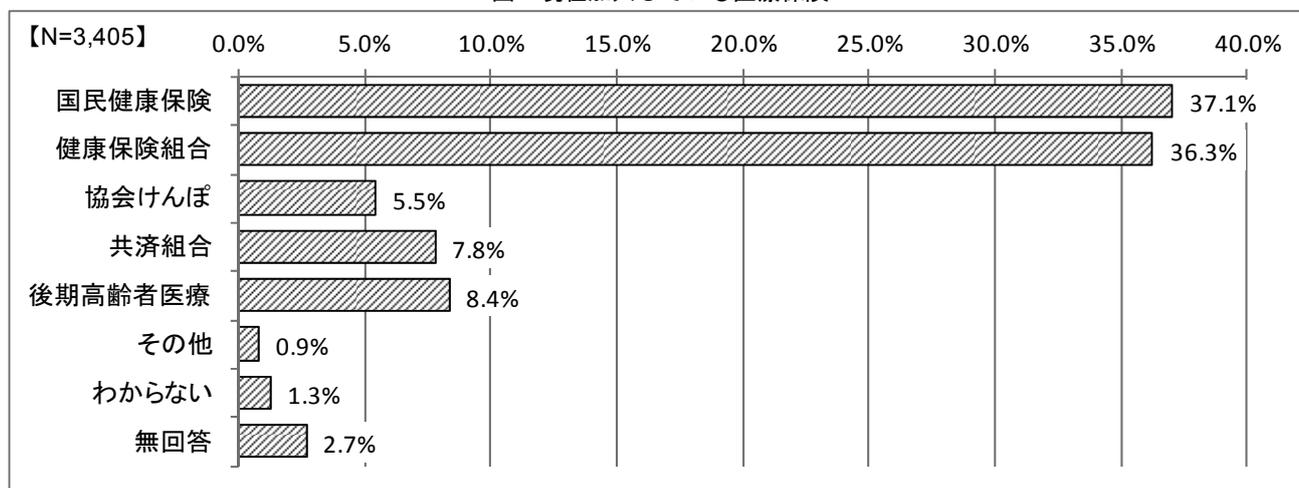


職業別にみると、「はい」は学生が60.8%、その他、無職が65.1%と低くなっています。

## (2) 現在加入している医療保険

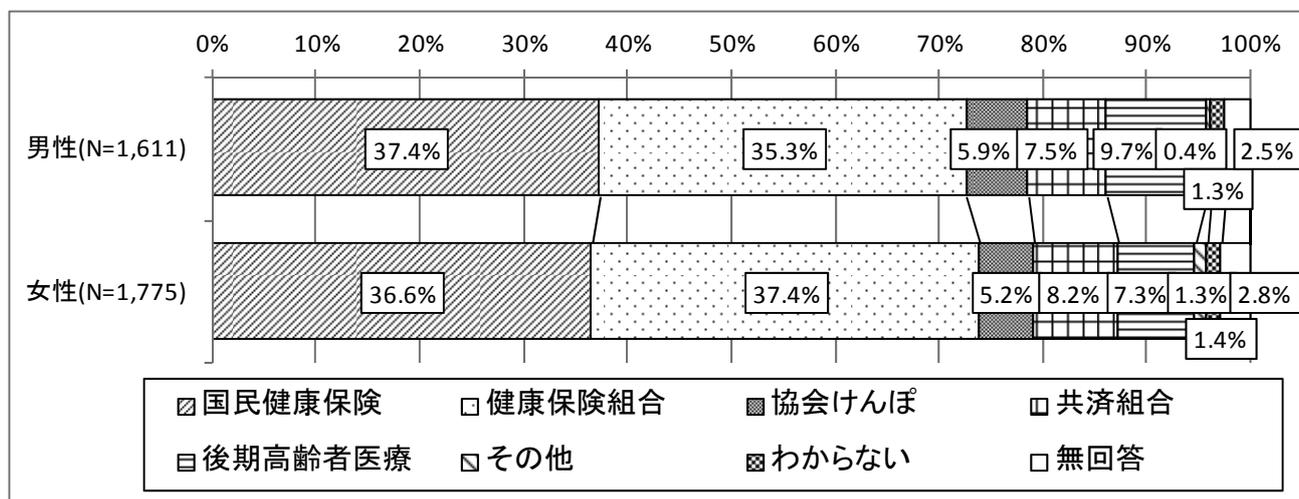
問 52 あなたが現在加入している医療保険は次のどれですか。あてはまるもの 1つに○をつけてください。

図 現在加入している医療保険



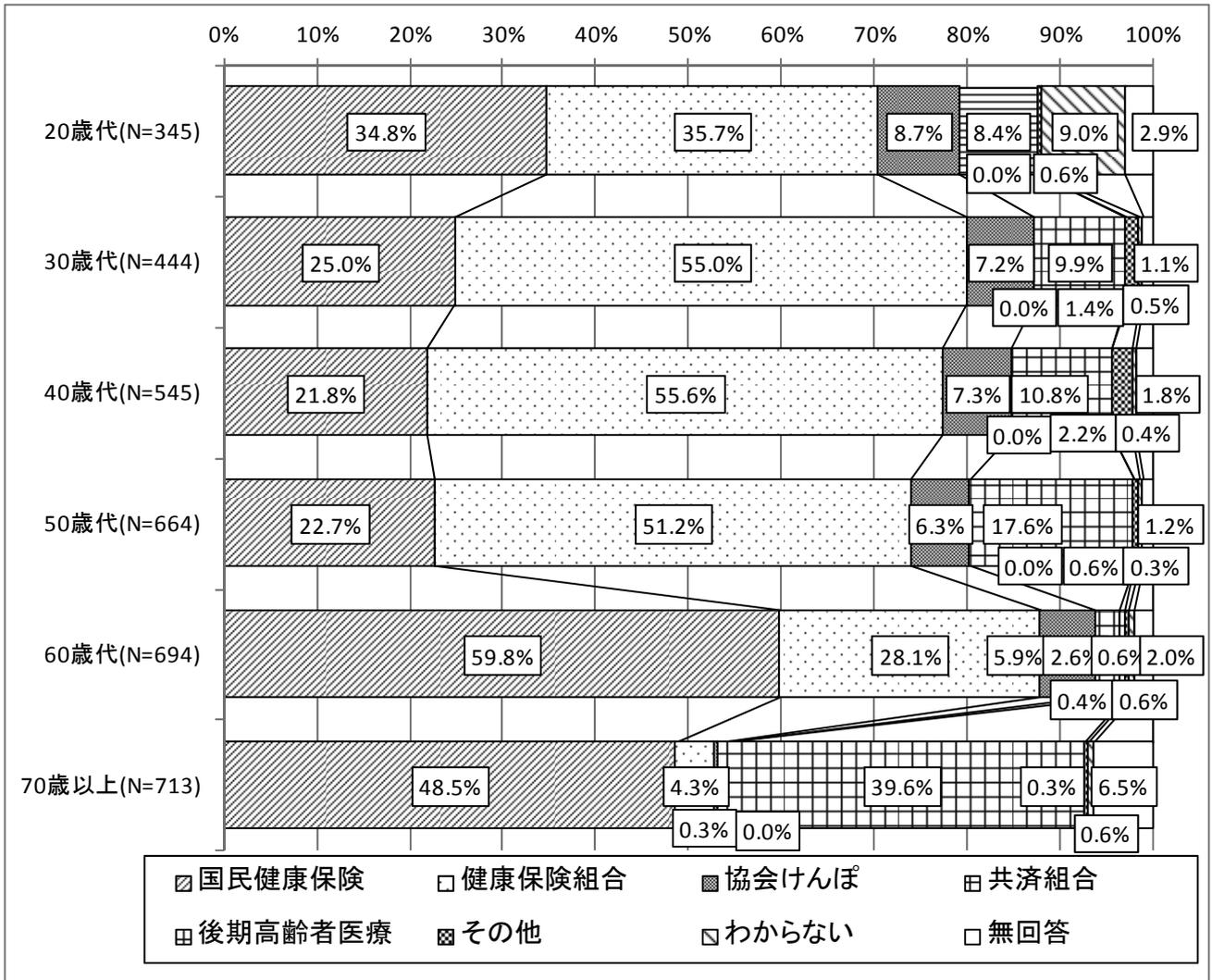
現在加入している医療保険では、「国民健康保険」が37.1%、「健康保険組合」が36.3%とこの2つの医療保険に加入している人が多くなっています。

図 現在加入している医療保険－性別



性別にみると、大きな差異はみられず、「国民健康保険」や「健康保険組合」に加入している人が多くを占めています。

図 現在加入している医療保険一年齢別

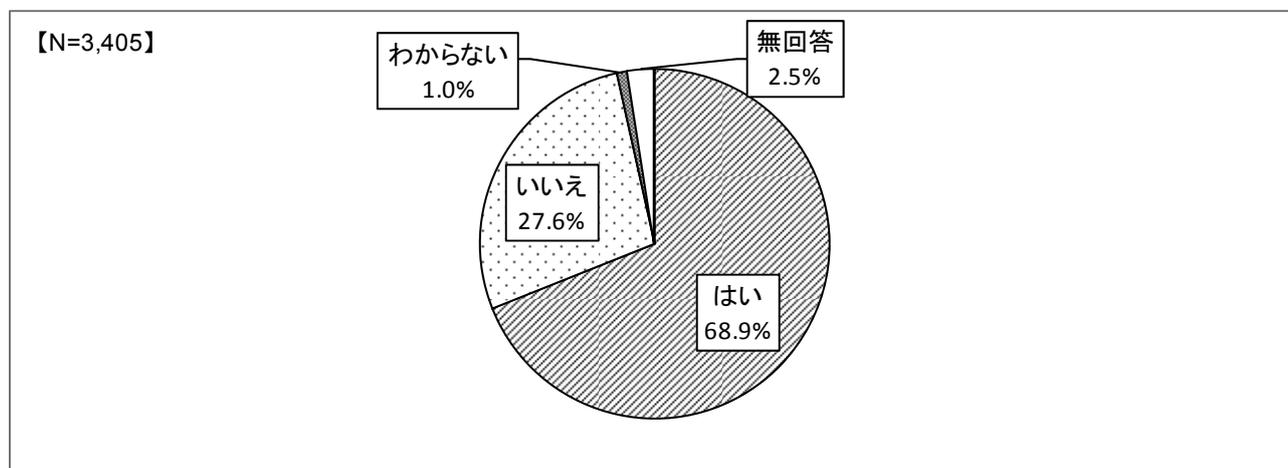


年齢別にみると、50歳代までは「健康保険組合」に加入している人が最も多くなっています。60歳代や70歳以上では「国民健康保険」に加入している人が多くなっています。また、70歳以上では、「後期高齢者医療」も39.6%と多くなっています。

### (3) 昨年の健診等の受診状況

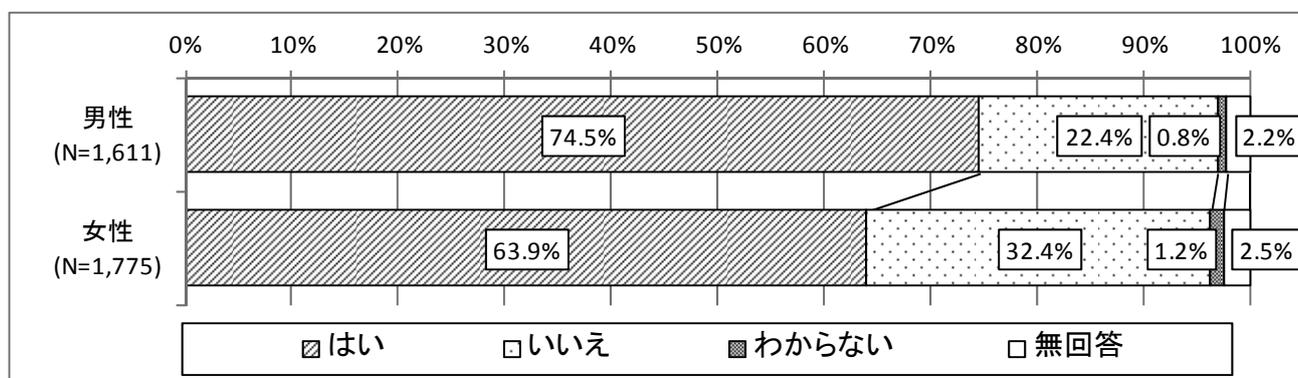
問 53 あなたは昨年、健診等（健康診断、健康診査および人間ドック）を受けましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

図 昨年の健診等の受診状況



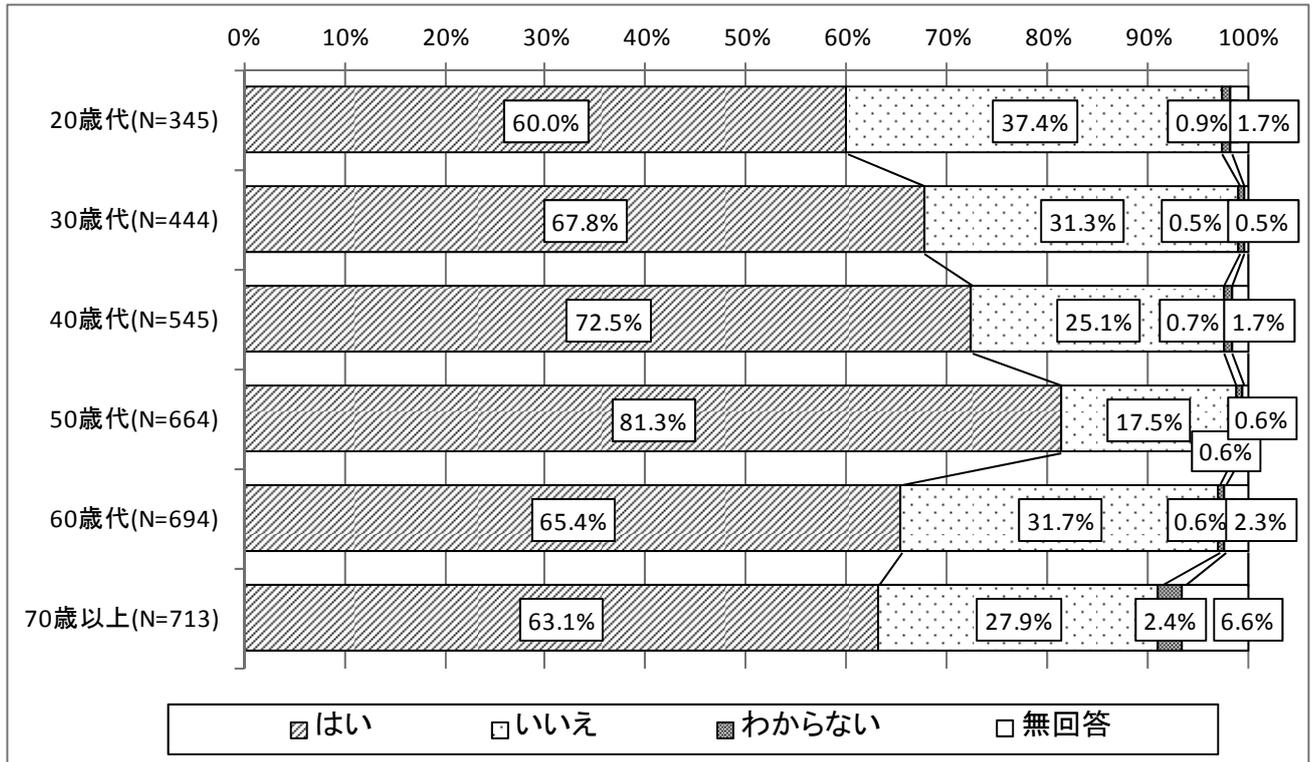
昨年の健診等の受診状況では、「はい」が 68.9%で、「いいえ」の 27.6%を大きく上回っています。

図 昨年の健診等の受診状況－性別



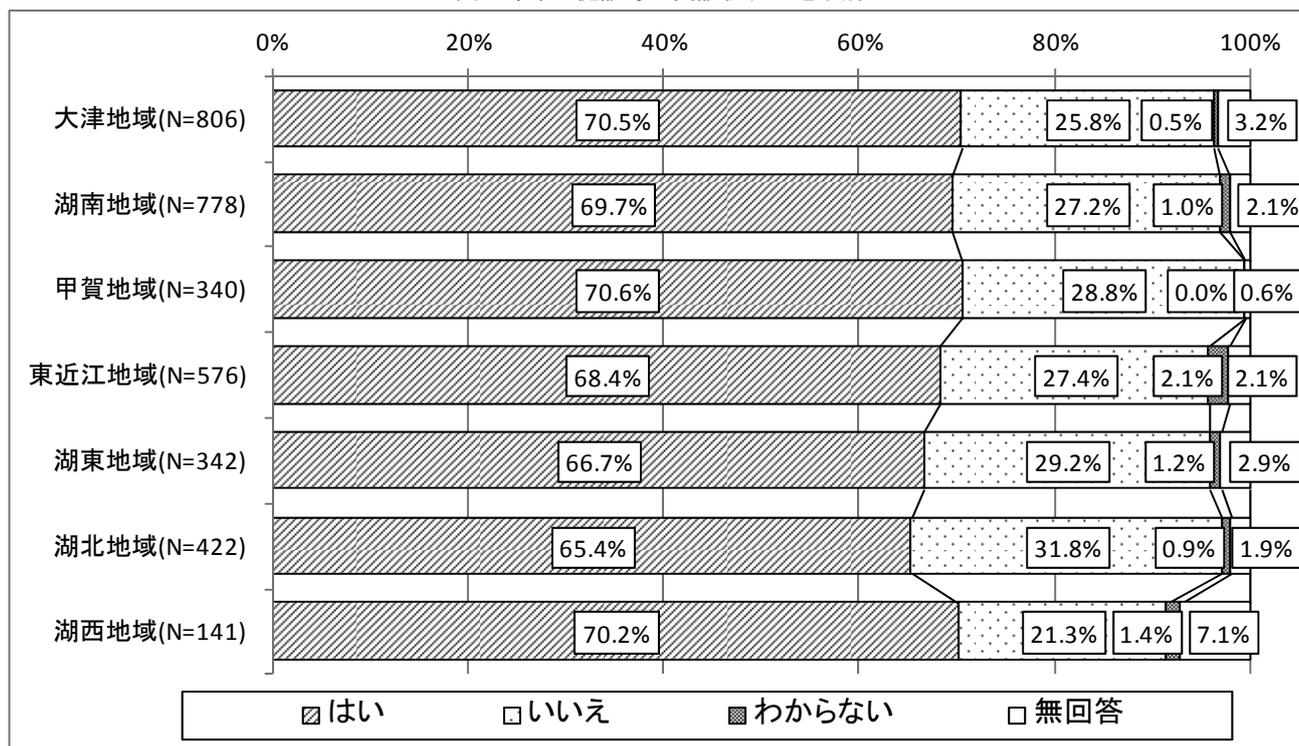
性別にみると、男性のほうが女性に比べて「はい」が多くなっています。

図 昨年の健診等の受診状況一年齢別



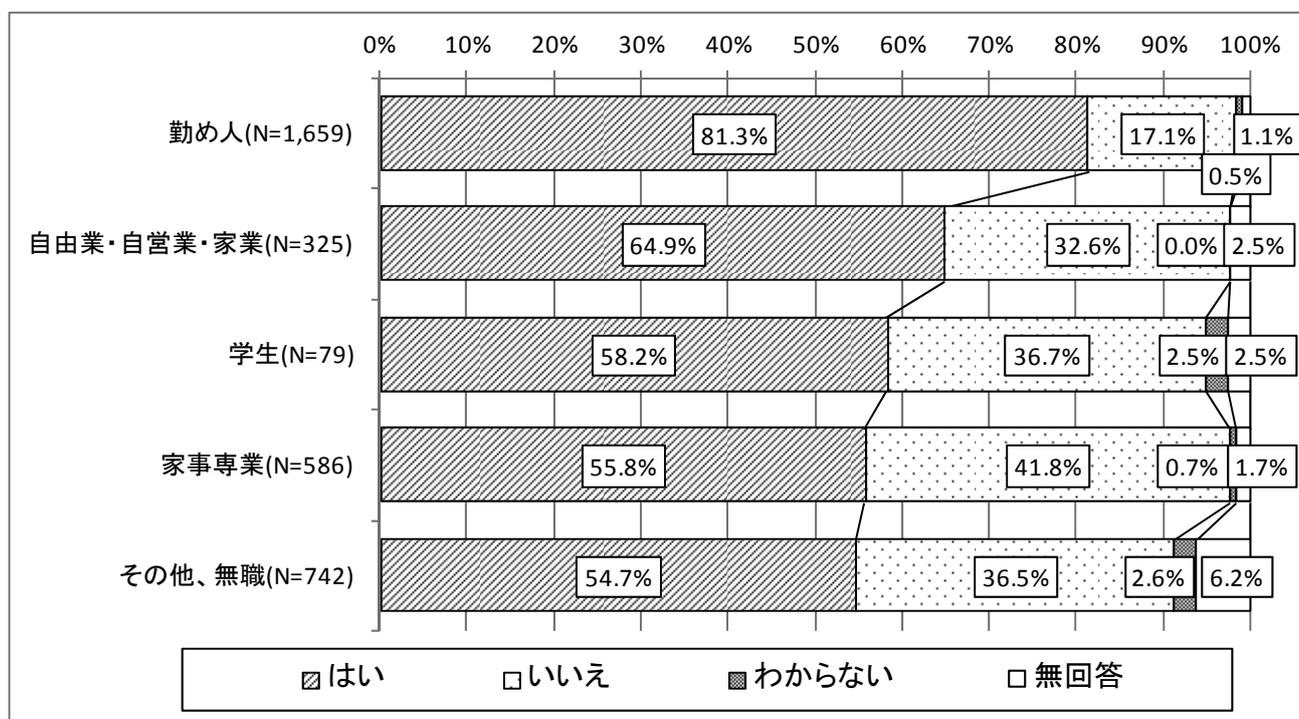
年齢別にみると、「はい」は50歳代の81.3%が最も多くなっています。20歳代や60歳代以上ではやや受診率が低くなっています。

図 昨年の健診等の受診状況—地域別



地域別にみると、大きな差異はみられず、いずれの地域においても「はい」が7割前後となっています。

図 昨年の健診等の受診状況—職業別

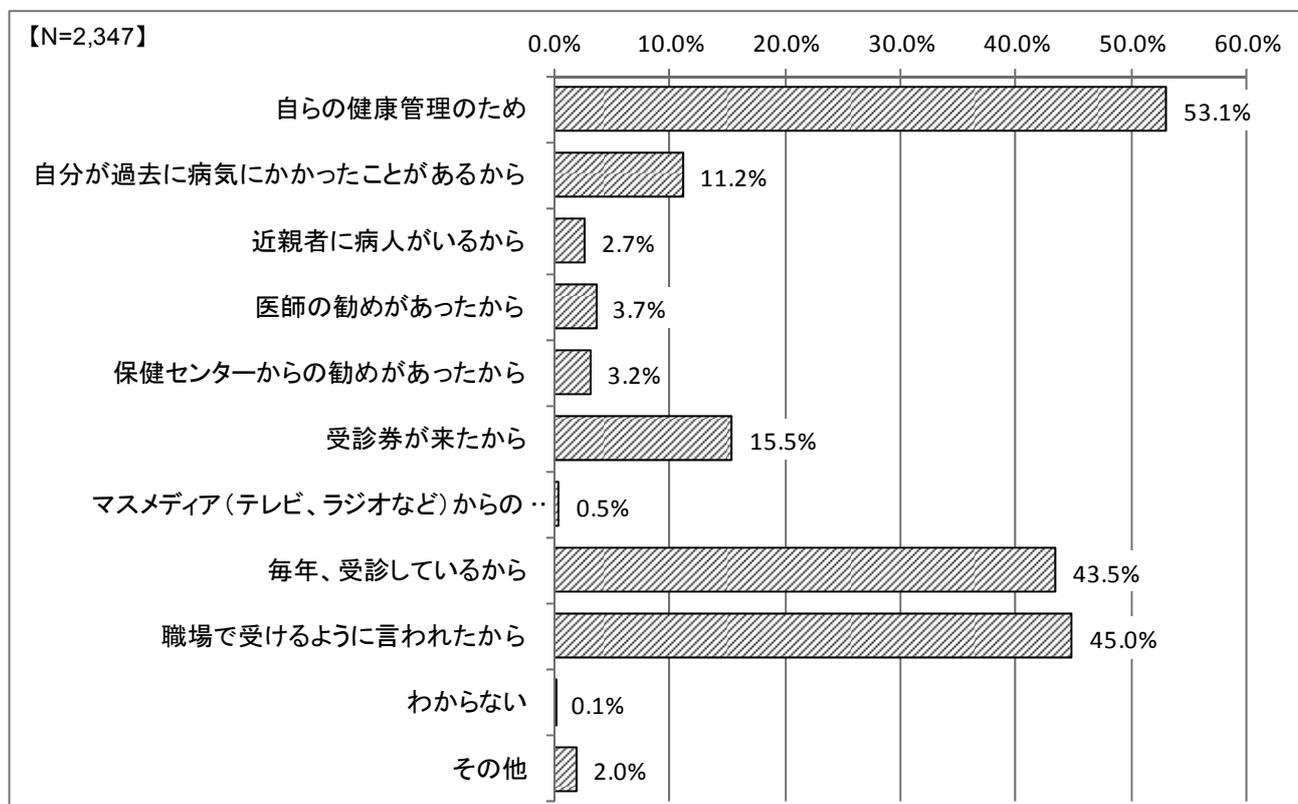


職業別に見ると、「はい」は勤め人が81.3%と最も多くなっています。

#### (4) 健診を受診した理由

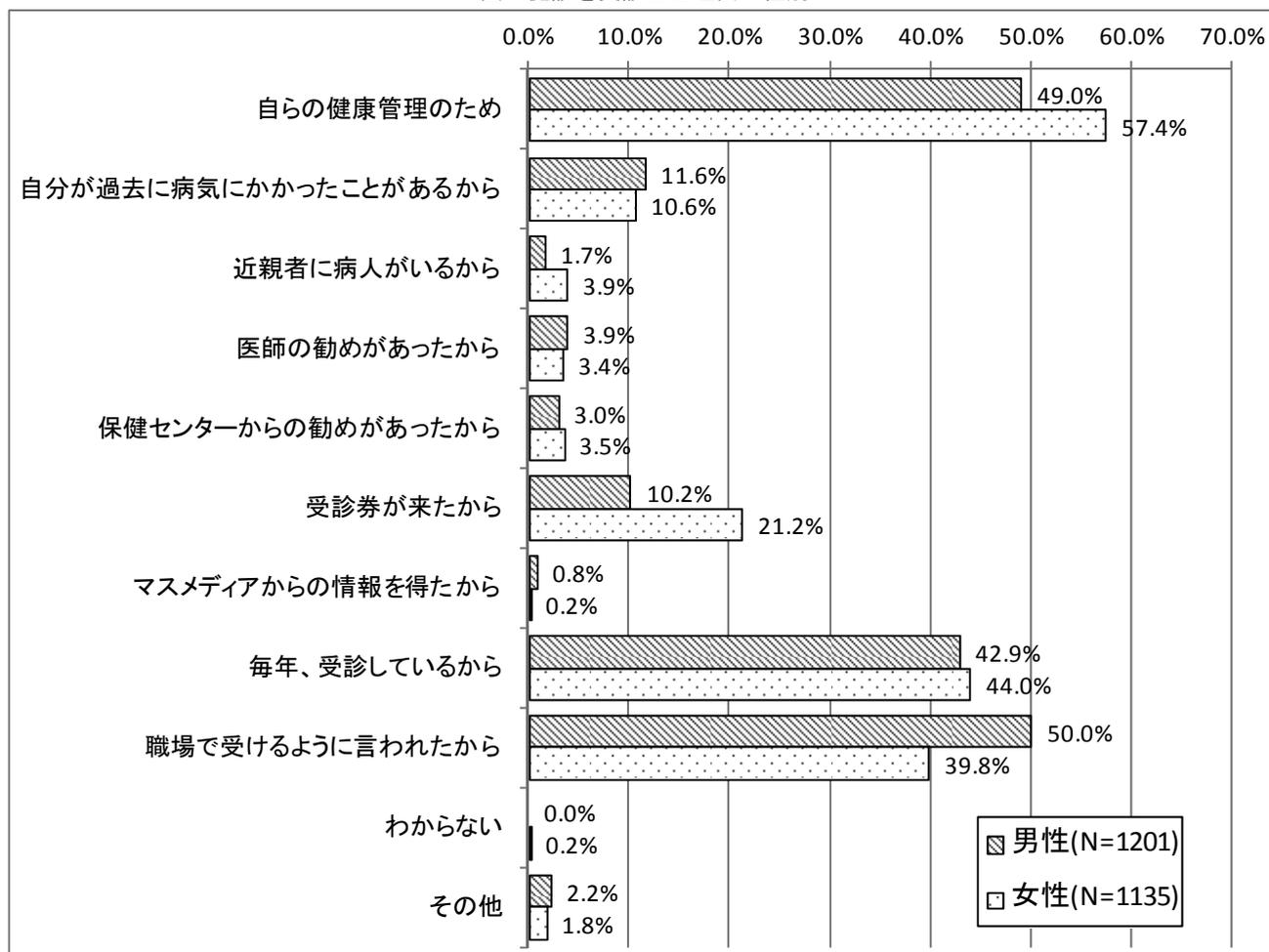
問 53-1 問 53 で「1. はい」とお答えの方におたずねします。あなたが昨年、健診を受診した理由を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 健診を受診した理由



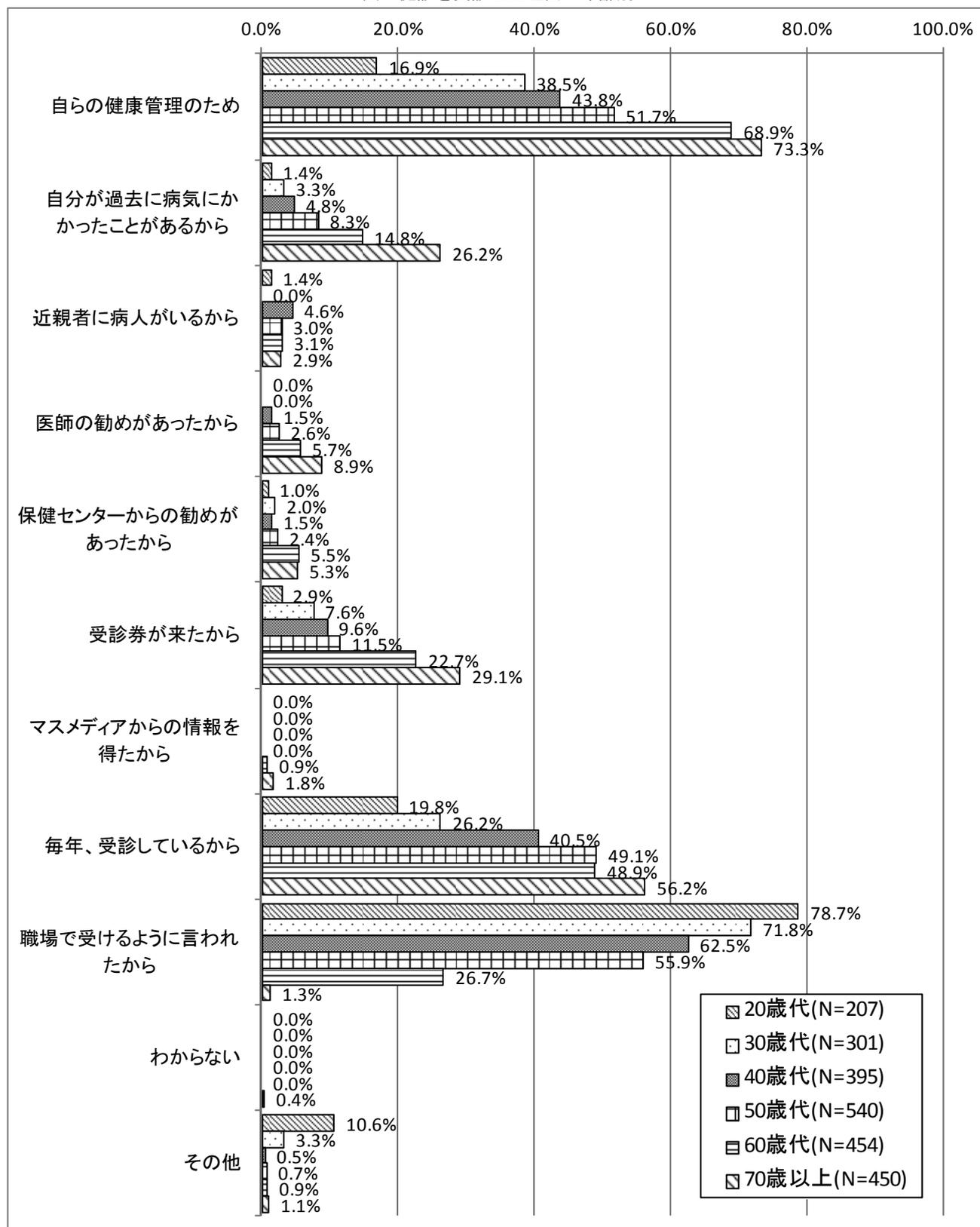
健診等の受診状況で「はい」と回答した人について、受診した理由をたずねたところ、「自らの健康管理のため」が 53.1%、「職場で受けるように言われたから」が 45.0%、「毎年、受診しているから」が 43.5%といった理由が多くなっています。

図 健診を受診した理由—性別



性別にみると、女性は男性に比べて「自らの健康管理のため」が多く、男性は「職場で受けるように言われたから」が多くなっています。

図 健診を受診した理由一年齢別



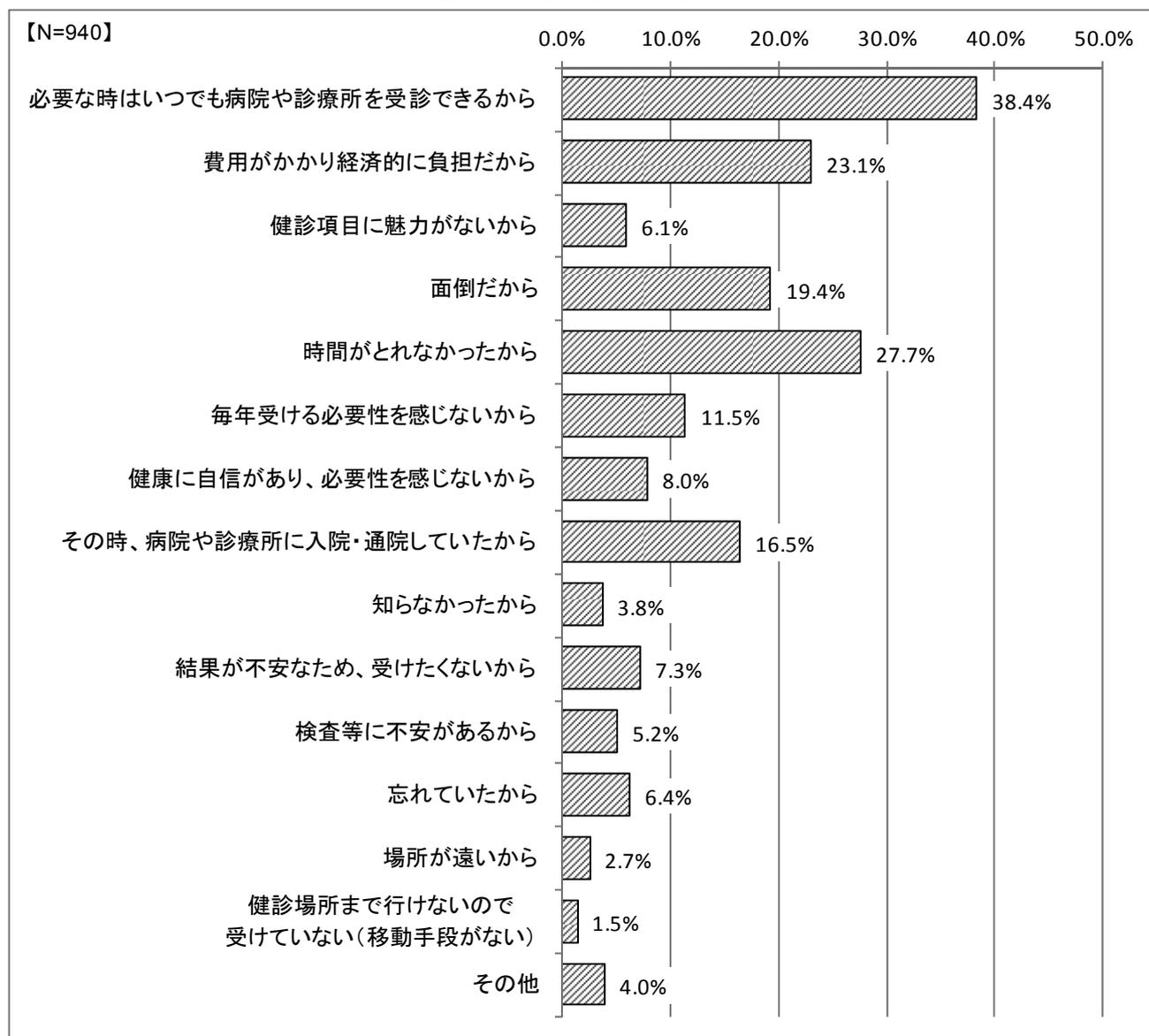
年齢別にみると、「自らの健康管理のため」や「毎年、受診しているから」「受診券が来たから」などは、年齢とともに増加しています。逆に「職場で受けるように言われたから」は若年者のほうが多くなっています。



## (5) 健診を受診しなかった理由

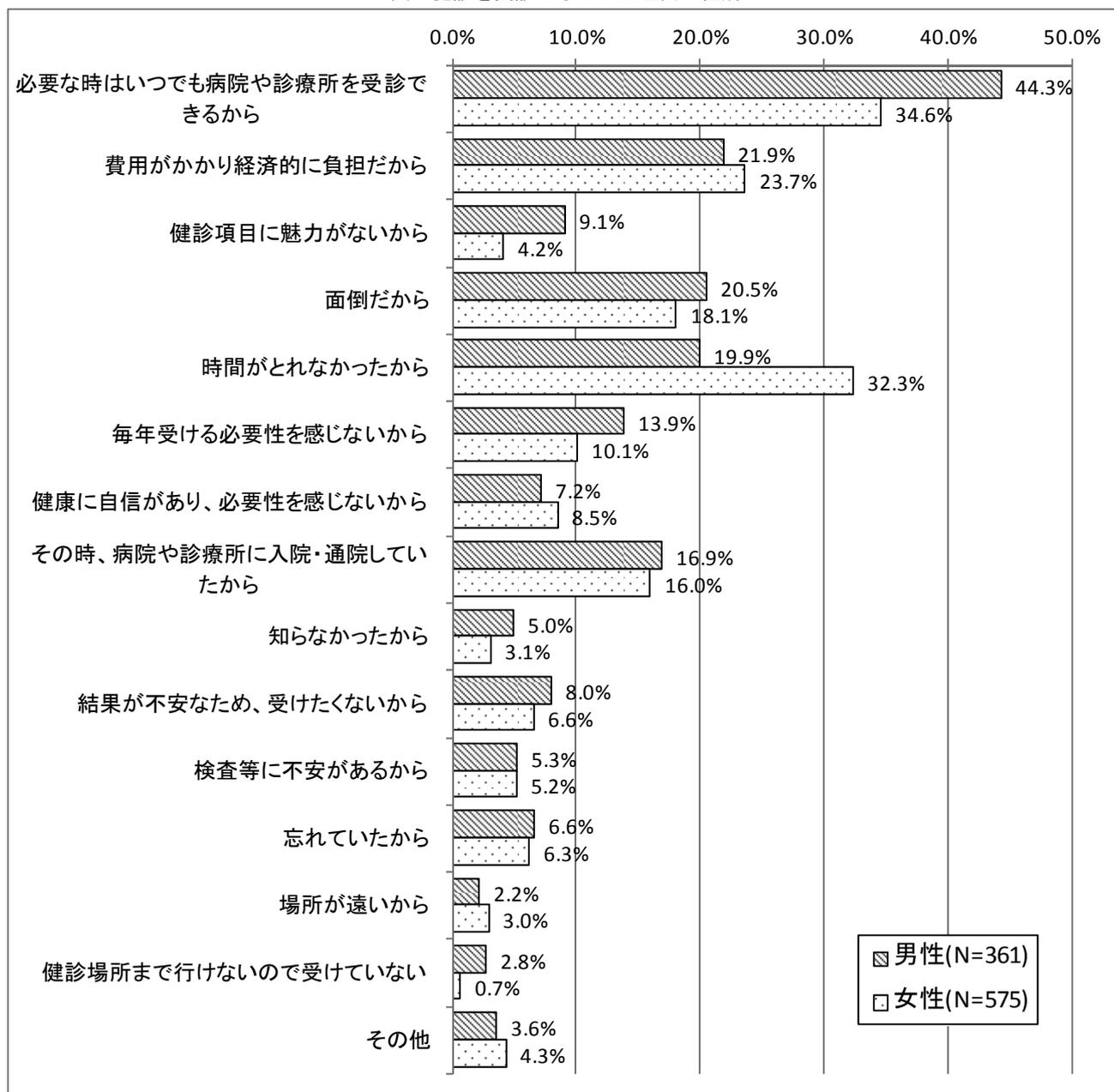
問 53-2 問 53 で「2. いいえ」とお答えの方におたずねします。あなたが昨年、健診を受診しなかった理由を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 健診を受診しなかった理由



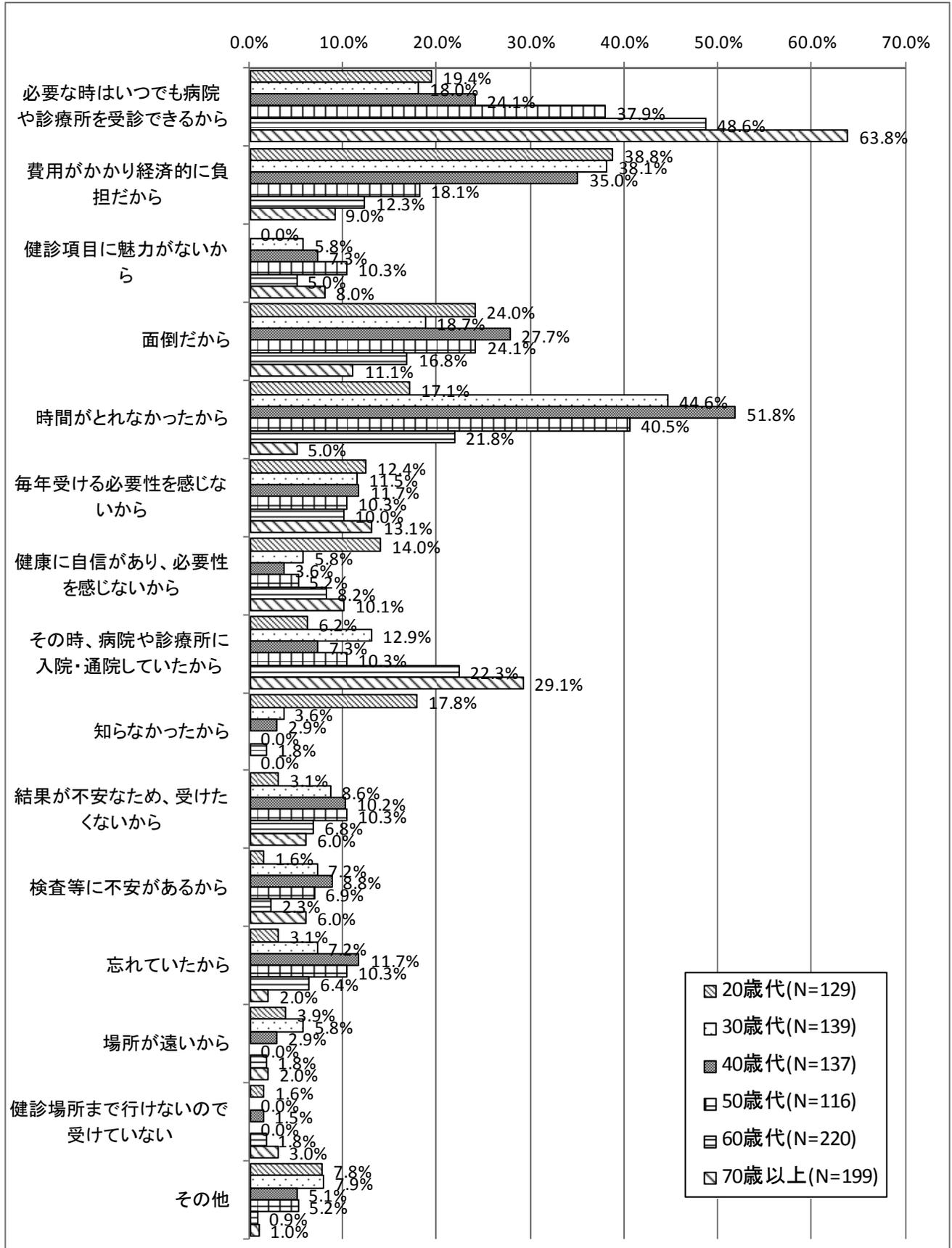
健診等の受診状況で「いいえ」と回答した人について、受診しなかった理由をたずねたところ、「必要な時はいつでも病院や診療所を受診できるから」が 38.4%、「時間がとれなかったから」が 27.7%、「費用がかかり経済的に負担だから」が 23.1%などとなっています。

図 健診を受診しなかった理由—性別



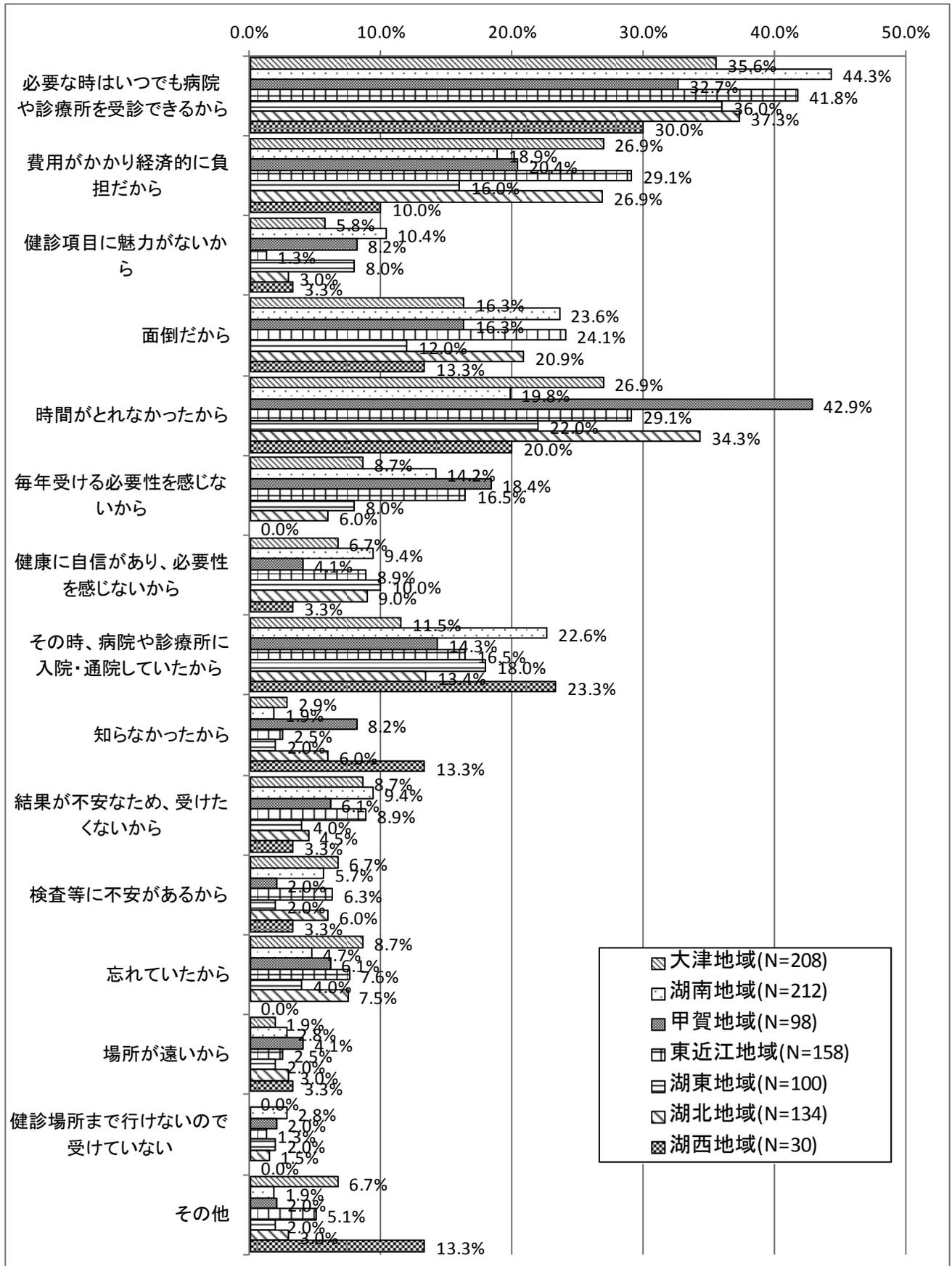
性別にみると、男性は「必要な時はいつでも病院や診療所を受診できるから」が多く、女性は「時間がとれなかったから」との理由で受診していない人が多くなっています。

図 健診を受診しなかった理由—年齢別



年齢別にみると、「必要な時はいつでも病院や診療所を受診できるから」は年齢とともに増加していく傾向がみられ、「時間がとれなかったから」は30歳代から50歳代が多くなっています。

図 健診を受診しなかった理由—地域別

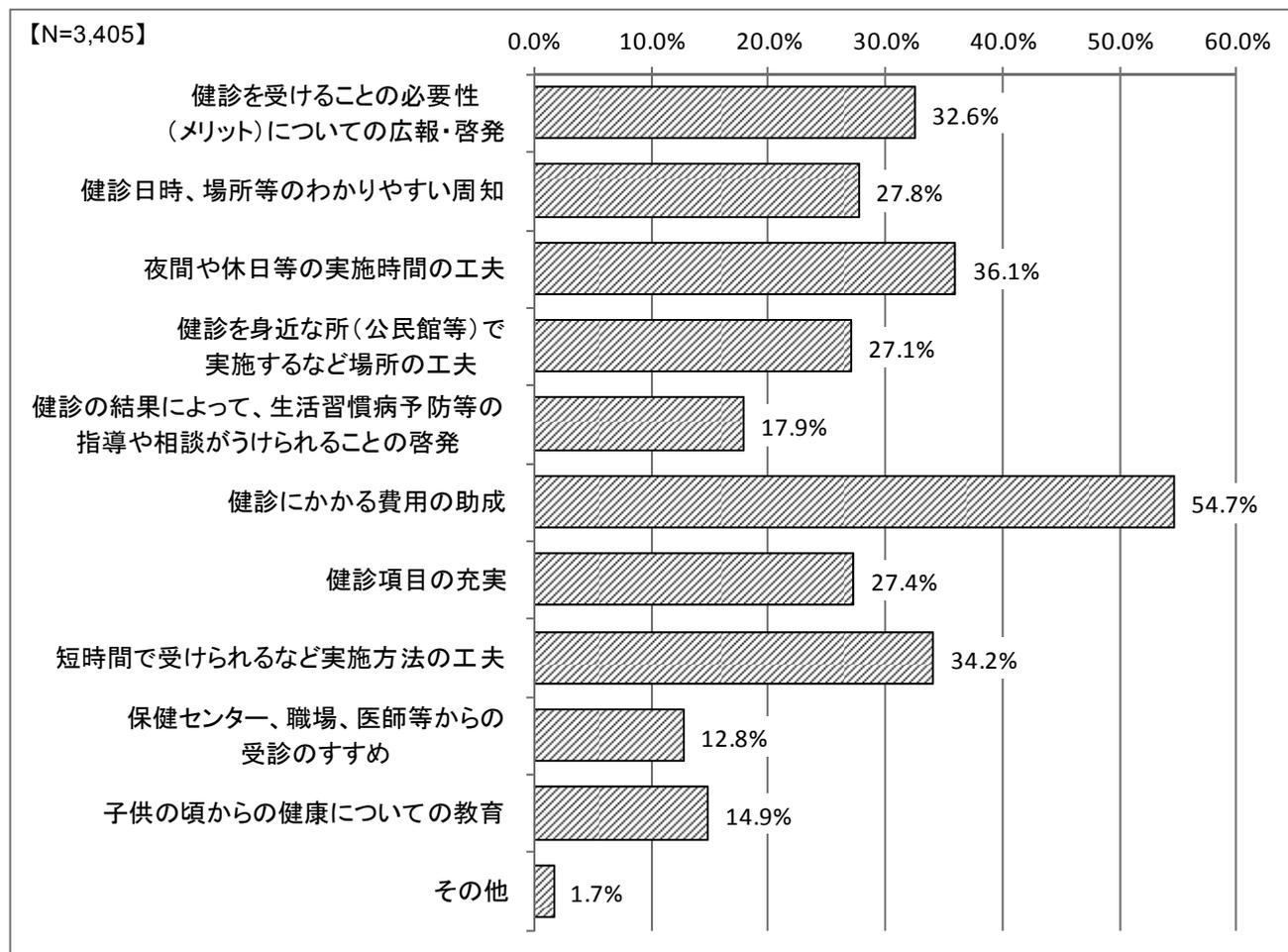


地域別にみると、大きな差異はみられませんが、「毎年受ける必要性を感じないから」は湖南地域や甲賀地域、東近江地域で多くなっています。

## (6) 健診を受けやすくするために必要なこと

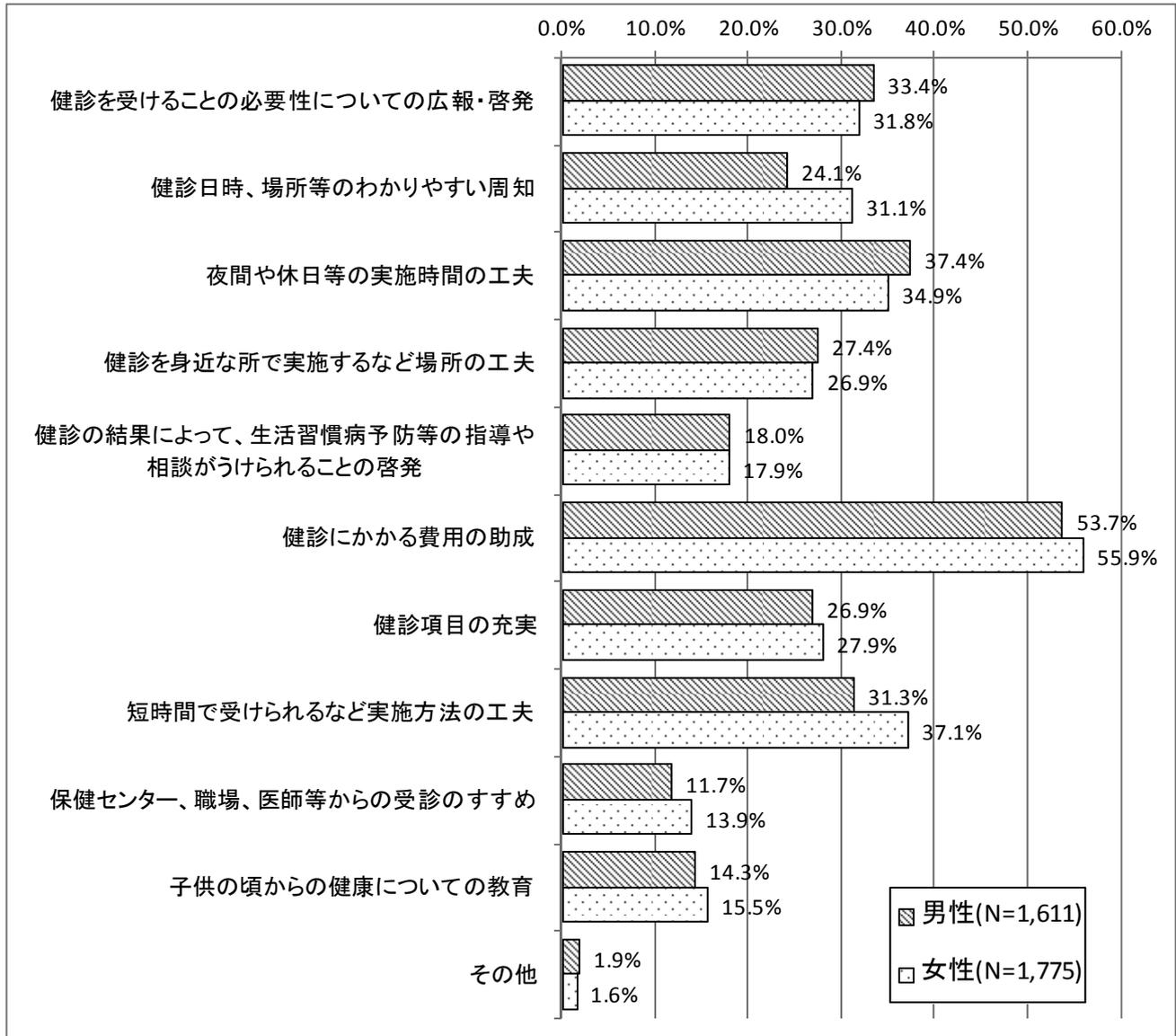
問54 健診を受けやすくするために必要だと思われることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 健診を受けやすくするために必要なこと



健診を受けやすくするために必要なことでは、「健診にかかる費用の助成」が 54.7%、「夜間や休日等の実施時間の工夫」が 36.1%、「短時間で受けられるなど実施方法の工夫」が 34.2%、「健診を受けることの必要性 (メリット) についての広報・啓発」が 32.6%などとなっています。

図 健診を受けやすくするために必要なこと－性別



性別にみると、女性は「健診日時、場所等のわかりやすい周知」や「短時間で受けられるなど実施方法の工夫」が多くなっています。

図 健診を受けやすくするために必要なこと一年齢別

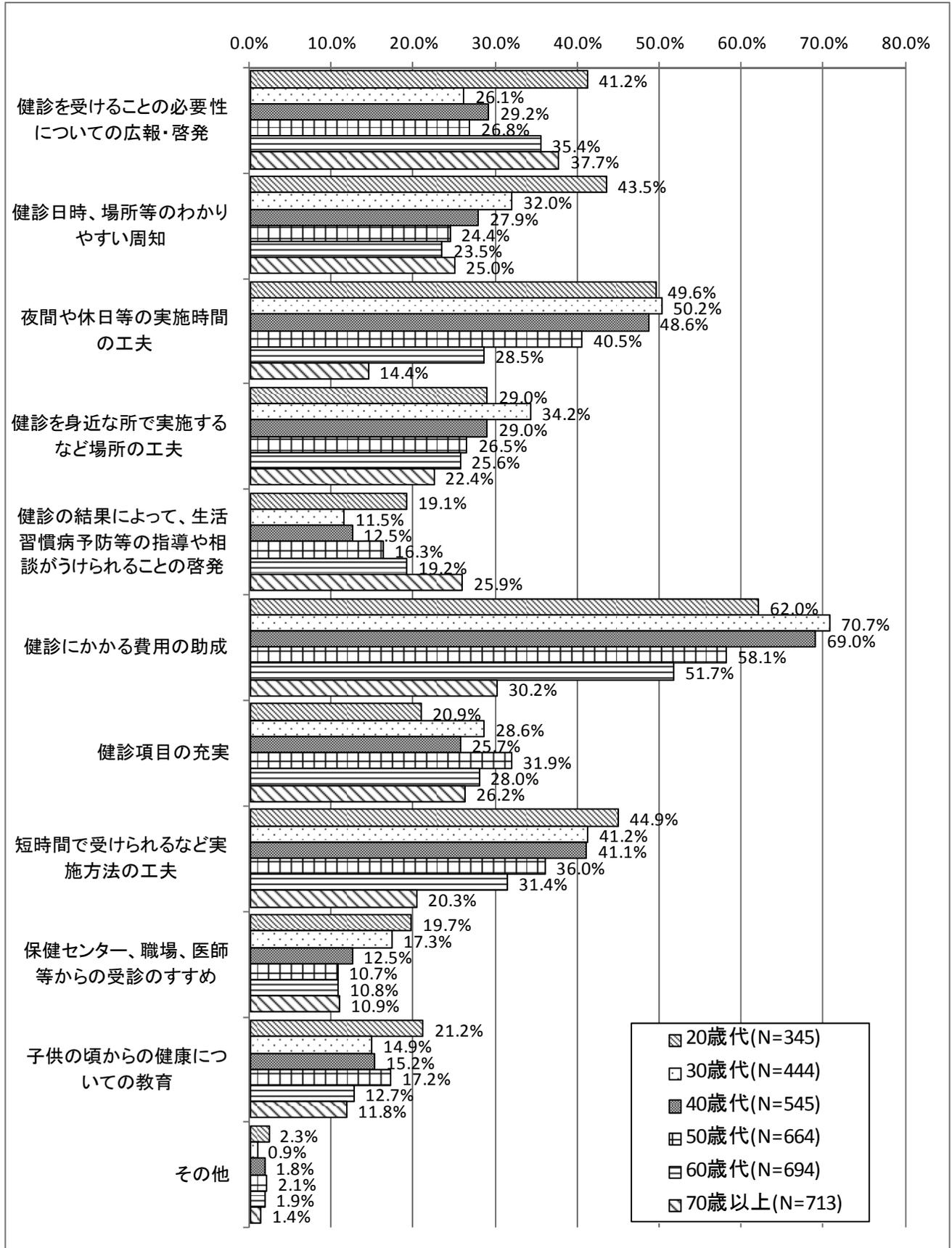


表 健診を受けやすくするために必要なこと一年齢別

	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	健診にかかる費用の助成 62.0%	夜間や休日等、実施時間の工夫 49.6%	短時間受診等実施方法の工夫 44.9%	日時、場所のわかりやすい周知 43.5%	健診の必要性の広報・啓発 41.2%
30歳代	健診にかかる費用の助成 70.7%	夜間や休日等、実施時間の工夫 50.2%	短時間受診等実施方法の工夫 41.2%	身近で実施する場所の工夫 34.2%	日時、場所のわかりやすい周知 32.0%
40歳代	健診にかかる費用の助成 69.0%	夜間や休日等、実施時間の工夫 48.6%	短時間受診等実施方法の工夫 41.1%	健診の必要性の広報・啓発 37.7%	健診の必要性の広報・啓発 29.2%
50歳代	健診にかかる費用の助成 58.1%	夜間や休日等、実施時間の工夫 40.5%	短時間受診等実施方法の工夫 36.0%	健診項目の充実 31.9%	健診の必要性の広報・啓発 26.8%
60歳代	健診にかかる費用の助成 51.7%	健診の必要性の広報・啓発 35.4%	短時間受診等実施方法の工夫 31.4%	夜間や休日等、実施時間の工夫 28.5%	健診項目の充実 28.0%
70歳以上	健診の必要性の広報・啓発 37.7%	健診にかかる費用の助成 30.2%	健診項目の充実 26.2%	指導や相談が受けられる啓発 25.9%	日時、場所のわかりやすい周知 25.0%

年齢別にみると、上位にあげられている項目は、大きな違いはみられず、70歳以上を除くと「健診にかかる費用の助成」が最も多くなっています。次いで20歳代から50歳代では「夜間や休日等の実施時間の工夫」となっています。また、第3位には、「短時間で受けられるなど実施方法の工夫」があげられるなど20歳代から50歳代は同様の傾向がみられます。

60歳代や70歳以上では、「健診項目の充実」や「検診の結果によって、生活習慣病予防等の指導や相談が受けられることの啓発」があがってきています。



# IV 資 料

使用した調査票





■ 滋賀県の医療についておたずねします。

問7 あなたが住んでいる地域の医療施設（病院・診療所）について、どのように感じていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 医療施設はたくさんあるので十分 → 問8へお進みください  
2. 医療施設はかなりあるので特に不便はない → 問8へお進みください  
3. 医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くして不便 → 問7-1にお進みください  
4. 医療施設が少なくて（無くて）困っている → 問7-1にお進みください

問7-1 問7で「3. 医療施設はあるが、自分の受けたい診療科が無くして不便」または、「4. 医療施設が少なくて（無くて）困っている」とお答えの方におたずねします。  
あなたが住んでいる地域に、「無くて困っている診療科」はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                  |                |           |
|------------------|----------------|-----------|
| 1. 内科            | 2. 小児科         | 3. 外科     |
| 4. 整形外科          | 5. 産婦人科        | 6. 耳鼻咽喉科  |
| 7. 眼科            | 8. 皮膚科         | 9. 泌尿器科   |
| 10. 精神科・神経科・心療内科 | 11. アレルギー科     | 12. 脳神経外科 |
| 13. 心臓血管外科       | 14. リハビリテーション科 | 15. 歯科    |
| 16. その他          | 17. 特になし       |           |

問8 あなたは日常生活の中で、医師不足と感じたことがありますか。

1. ある  
2. ない  
3. わからない

問9 あなたは、例えば、“熱が出たり”、“お腹が痛かったりするとき”医者にいかるとしたらどのようなしますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. はじめから大きな病院に行く → 問10へお進みください  
2. まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く → 問9-1にお進みください

問9-1 問9で「2. まず、家や職場の近くの診療所（医院）に行く」とお答えの方にお尋ねします。  
このような場合、かかる診療所（医院）を決めていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 決めている  
2. 特に決めていない

問10 軽度な病気でも救急医療を利用するなどの、いわゆる「コンビニ受診」と言われる受診行動について、どのようにお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 問題だと思ふし、行わないように心がけている。  
2. 問題だと思ふが、やむを得ないと思ふ。→理由をお聞かせください。  
3. 問題だとは思わない。→理由をお聞かせください。

問11 あなたは、「比較的軽い病気やけがは、患者の近くの診療所・医院が治療を受け持ち、比較的大きな病院は、病状が進んだ患者の治療や難しい病気の治療に専念すべきである」という考えについてどう思われますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 大いに賛成  
2. どちらかといえば賛成  
3. どちらかといえば反対  
4. 全く反対

問12 あなたが今後充実して欲しいと思う医療分野は何ですか。あてはまるもの3つに○をしてください。

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1. がん対策         | 2. 脳卒中対策   |
| 3. 急性心筋梗塞対策     | 4. 糖尿病対策   |
| 5. 精神疾患対策       | 6. 救急医療    |
| 7. 小児救急を含む小児医療  | 8. 産前産後医療  |
| 9. 難病医療         | 10. 在宅医療   |
| 11. 感染症医療       | 12. 災害医療   |
| 13. リハビリテーション医療 | 14. 認知症対策  |
| 15. 緩和ケア        | 16. その他（ ） |

\*緩和ケア：がん等と診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛を和らげるための医療

このまま続けて  
回答をお願いします！

■在宅医療・終末期医療についておたずねします

問 13 通院できなくなってきた場合などに、医師や看護師などの訪問を受けながら自宅で治療・療養する医療のあり方を「在宅医療」といいます。あなたは、このような「在宅医療」という方法があることを知っていましたか。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問 14 (すべての方におたずねします。)

在宅医療を支える仕組みの中で、あなたは下記のようなサービスがあることを知っていますか。それぞれサービスの利用について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

サービスの内容	1. 実際に利用したことがある	2. 利用したことは無いが、内容を知っている	3. 聞いたことはあるが、内容は知らない	4. 全く知らない
記入例 1. 訪問診療 (往診)	1	2	3	4
1. 訪問診療 (往診)	1	2	3	4
2. 訪問看護 (看護師の訪問)	1	2	3	4
3. 訪問歯科診療	1	2	3	4
4. 薬剤師の訪問指導	1	2	3	4
5. 管理栄養士の訪問指導	1	2	3	4
6. 歯科衛生士の訪問指導	1	2	3	4
7. 訪問リハビリテーション (リハビリスタッフの訪問)	1	2	3	4
8. 訪問介護 (ヘルパーの訪問)	1	2	3	4

問 15 仮に、あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく6ヶ月以内に死期が迫っている状態だった場合、どのようにしたいかと思われませんか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. なるべく今まで通っていた (または現在入院中の) 医療機関に入院したい	
2. なるべく早く緩和ケア病棟 (終末期における症状を和らげることを目的とした病棟) に入院したい	
3. 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	
4. 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい	
5. 自宅で最期まで療養したい	
6. 専門的医療機関 (がん専門医療機関など) で積極的に治療を受けたい	
7. 老人ホームに入所したい	
8. その他 ( )	

問 16 あなたは自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 実現可能である → 問 17 へお進みください
2. 実現困難である → 問 16-1 へお進みください
3. わからない → 問 17 へお進みください

問 16-1 問 16 で「2. 実現困難である」とお答えの方におたずねします。

実現困難であるとお考えになる具体的な理由は何でしょうか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 往診してくれるかかりつけの医師がいない	
2. 訪問看護 (看護師の訪問) 体制が整っていない	
3. 訪問介護 (ホームヘルパーの訪問) 体制が整っていない	
4. 24時間相談のついでにしてくれるところがない	
5. 介護してくれる家族がいない	
6. 介護してくれる家族に負担がかかると感じる	
7. 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である	
8. 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である	
9. 居住環境が整っていない	
10. 経済的に負担が大きい	
11. その他 ( )	

問 17 あなたは、人生の最期 (看取り) をどこで迎えたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自宅	
2. 病院	
3. 介護老人保健施設 * 1	
4. 特別養護老人ホーム * 2	
5. その他 (有料老人ホーム、ケアハウスなど)	
6. わからない	

\* 1: 状態が安定している人が在宅療養できるよう、リハビリテーションを中心としたケアを行う施設

\* 2: 常時介護が必要で住居等での生活が困難な人が入所して、日常生活上の支援や介護を受ける施設

問 18 あなたは、もし自分の病気が治る見込みがなく死期が迫っている (6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定) と告げられた場合、延命医療を望みますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 延命医療を望む	
2. どちらかという延命医療は望まない	
3. 延命医療は望まない	
4. わからない	

\* ここでいう延命医療は、治る見込みがなく死期が迫っている方に対し、人工呼吸器や中心静脈栄養、胃ろう等、生命の維持のためのみに行うものを指します。

・ 中心静脈栄養とは、口から食べることが長期間困難な方に、血管から栄養を補給する方法。

・ 胃ろうとは、人工的に胃壁に作られた穴を指し、口から食べることが困難な際に、この穴を介し胃に栄養分を注入する。

問19 あなたは、今までに身近な人の死を経験したこと（病院や施設、自宅などでの看取り）がありますか。

1. ある  
2. ない

問20 あなたは自分自身の万が一に備えて治療や介護、葬儀方法などの希望を予め書いておくエンディングノート（遺言ノート、マイライフノート等ともいう）を知っていますか。

1. よく知っている → 問20-1へお進みください  
2. なんとなく知っている → 問20-1へお進みください  
3. 名前は聞いたことがある → 問21へお進みください  
4. 知らない → 問21へお進みください

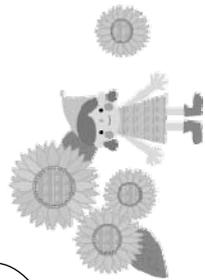
問20-1 問20で「1. よく知っている」「2. 何となく知っている」とお答えの方におたずねします。エンディングノート作成の経験や作成意向について、あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. すでに書いている → 問20-2へお進みください  
2. いずれ書くつもりである → 問21へお進みください  
3. 書くつもりはない → 問21へお進みください  
4. 考えていない → 問21へお進みください

問20-2 問20-1で「1. すでに書いている」とお答えの方におたずねします。エンディングノート作成のきっかけについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 家族の死去や病気、それに伴う相続  
2. 身近な事故や災害等  
3. 病気等で自身の健康に不安を感じたから  
4. 家族や知人からの勧め  
5. 書籍や雑誌、テレビなどで存在を知って  
6. その他 ( )  
7. 特に理由はない

次のページにも質問があります。  
で、ご回答をお願いします。



■ 介護に関することについておたずねします

問21 あなたは、自分の高齢期（概ね65歳以上）の生活に不安を感じていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. おおおいに感じている → 問21-1へお進みください  
2. 多少感じている → 問21-1へお進みください  
3. あまり感じていない → 問22へお進みください  
4. 全く感じていない → 問22へお進みください

問21-1 問21で「1. おおおいに感じている」または「2. 多少感じている」とお答えの方におたずねします。それはどのようなことに関する不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分の健康  
2. 家族の健康  
3. 家族との人間関係  
4. 地域など家族以外の人間関係  
5. 配偶者との死別  
6. 雇用不安  
7. 税金や社会保険料の負担  
8. 年金・介護・医療など社会保障  
9. その他 ( )

問22 高齢期にあなたの身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、食事や排泄等の介護が必要な状態になった場合どこで介護を受けたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自宅で介護してほしい（訪問介護等各種在宅サービスを活用）  
2. 子どもの家で介護してほしい（同上）  
3. 兄弟姉妹など親族の家で介護してほしい（同上）  
4. 特別養護老人ホームなどの施設に入所したい  
5. 病院などの医療機関に入院したい  
6. 介護付き有料老人ホームなどを利用したい  
7. 見守りや介護サービスが受けられる高齢者住宅を利用したい  
8. その他 ( )

問23 あなたは、介護保険サービスについて、どのようなことか力を入れるべきとお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき  
2. 特別養護老人ホームなどの介護保険施設を充実すべき  
3. グループホームなどの身近で小規模な施設を充実すべき  
4. 介護サービスだけでなく、地域の見守りや支え合いの取り組みを広げるべき  
5. 介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき  
6. その他 ( )

■介護予防についておたずねします

問24 「介護予防」とは高齢になった場合に、「介護を必要とする状態を防ぐ」「介護が必要でも、できるだけ改善していく」ことを言います。あなたの望む「介護予防」のイメージに、より近いものは何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自宅で訪問リハビリを受ける
2. 地域の介護施設などに出かけて行き、体操やお口の運動をする
3. 地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する
4. ボランティアやNPOなどに参加する
5. 趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する

問25 上記の生活を実現される手助けとして、あなたがお住まいの市町や介護施設などで、「介護予防」として、次のような取り組みがされていることをご存じですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 足の筋力を保ったり、転ばないようにするための体操
2. 自宅内で（段差や浴槽のふちにつまずかず）生活できるようにするための練習
3. 口の中や入れ歯の手入れ方法や、むせ防止のためのお口の運動
4. 閉じこもりを防ぐための、集まる場所や教室（例；男の料理教室等）づくり
5. 認知症予防の取り組みや、活動の場（例；老人大学やボランティア等）づくり

問26 あなたは地域活動等に参加していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 祭り・行事
2. 自治会・町内会
3. サークル・自主グループ（住民グループ）
4. 老人クラブ
5. ボランティア活動
6. その他（ ）
7. 参加していない

問27 あなたにとって、ご自分と地域の人たちのつながりは強いほうだと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 強いほうだと思う
2. どちらかといえば強いほうだと思う
3. どちらかといえば弱いほうだと思う
4. 弱いほうだと思う
5. わからない

■健康づくりに関することについておたずねします

問28 あなたは、現在の自分の体重をふつうの体重に近づけたり維持するように心がけていますか。

1. はい → 問28-1へ
2. いいえ → 問29へ

参考：ふつうの体重とは以下の式で求めたBMIが18.5以上25.0未満となる体重のことです。

$$\text{※BMI} = \text{体重(kg)} \div [\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}]$$

問28-1 問28で「1. はい」とお答えの方におたずねします。心がけている理由は何ですか。もともとあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 体重が変化してきたから
2. 健康のため
3. 病気を指摘されたから
4. きれいで（かつこよく）ありたいから
5. 体調の不調を感じるようになったから
6. その他（ ）
7. 理由は特にない

問29 自分の健康や体重を管理するための適切な食事内容や量を知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問30 徒歩10分で行けるところへ出かけるとしたら、主によどのような方法で行くことが多いですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 徒歩
2. 自転車
3. 自動車やバイク（バスやタクシーを含む）

問31 日頃、自分の健康づくりのため意識的に身体を動かさずなどの運動を実行していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（学校の授業等で行っているものは除きます。）

1. 継続して実行している
2. 時々している
3. 以前はしていたが現在はしていない
4. まったくしていない

問32 1回30分以上の運動を週2回以上のペースで、1年以上続けているものがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. ある
2. ない
3. 以前はあったが現在ははない

問33 この1ヶ月に、不満、悩み、ストレスなどがありましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 大いにある
2. 多少ある
3. あまりない
4. まったくない

問34 あなたは、いつもと違ってしている睡眠で体養が充分とれていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 充分とれている
2. まあまあとれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない
5. わからない

問35 あなたはアルコール類（酒類）を飲みますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日飲む → 問35-1へお進みください
2. 週に5～6回飲む → 問35-1へお進みください
3. 週に3～4回飲む → 問35-1へお進みください
4. 週に1～2回飲む → 問35-1へお進みください
5. 時々飲む → 問36へお進みください
6. 以前は飲んでいたがやめた → 問36へお進みください
7. 飲まない → 問36へお進みください

問35-1 1日あたり平均するとおおよそどれくらい飲みますか。最も近いもの1つに○をつけてください。

1. 1合未満
2. 1合
3. 2合
4. 3合
5. 4合
6. 5合以上

問36 これまでにたばこを吸ったことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている（吸っていた） → 問36-1へお進みください
2. 吸っている（吸ったことがある）が、合計100本未満で6ヶ月未満である → 問37へお進みください
3. まったく吸ったことがない → 問38へお進みください

問36-1 問36で「1. 合計100本以上、または6ヶ月以上吸っている」とお答えの方におたずねします。1日に何本たばこを吸いますか（吸っていましたか）。「ときどき吸う方」は吸うときの1日の本数をお答えください。

- ( ) 本/日

問37 問36で「2. 吸っている（吸ったことがある）」が、合計100本未満で6ヶ月未満である」とお答えの方におたずねします。

現在（この1ヶ月間）あなたはたばこを吸っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日吸う → 問37-1へお進みください
2. ときどき吸う → 問37-1へお進みください
3. 今は（この1ヶ月間）吸っていない → 問38へお進みください

問37-1 問37で「1. 毎日吸う」または「2. ときどき吸う」とお答えの方におたずねします。今後はどのようにしたいかと思っていますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 本数を減らしたい
2. やめたい
3. 特に考えていない

問38 あなたは「食育」に関心がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない
5. わからない（食育という言葉を知らない）

問39 あなたは、噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない
5. わからない

問40 定期的に歯科健診を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 受けている
2. 受けたり受けなかったりする
3. 受けていない

問41 現在自分の歯は何本ありますか。

- ( ) 本

\* 親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯は含みます。

問42 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）とは「内臓脂肪が蓄積することによって、血糖、血圧、血糖が高くなくなり、血中脂質異常を起したりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことです。あなたは、この内容を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 内容を知っている
2. 言葉を知ったことはあるが内容は知らない
3. 知らない

問43 あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. どんな病気かよく知っている
2. 名前はきいたことがある
3. 知らない

問44 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）ということばを知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. どんな状態をあらわすかよく知っている
2. 言葉を知ったことがある
3. 知らない

問45 たばこが健康に与える影響について、どのように思っていますか。それぞれの病気についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

(1) 肺がん	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. たばこを吸うとかかりやすくなる</li> <li>2. たばこ関係ない</li> <li>3. どちらともいえない</li> <li>4. 病気を知らない</li> </ol>
(2) 喉頭がん（こうとうがん）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. たばこを吸うとかかりやすくなる</li> <li>2. たばこ関係ない</li> <li>3. どちらともいえない</li> <li>4. 病気を知らない</li> </ol>

問46 「がん」についてどんなイメージをもっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 予防できない
2. 遺伝する
3. 治らない
4. 治療を受けても通学や進学が難しい
5. 治療を受けても仕事を続けられない、就職できない
6. 自分や家族がかかったら周りに言えない

問47 「インフォームド・コンセント」が患者の権利として重視されていますが、あなたがこれまでに受けた医療機関の対応は、次のうちどれに近いですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 本人または家族に対して十分な説明を受けた
2. 本人または家族への説明がやや不十分であった
3. 本人または家族への説明に対して不満を感じた
4. 特に説明を受けたことがない
5. その他 ( )
6. わからない、覚えていない

\*インフォームド・コンセント：治療の目的や内容を納得できるように患者に説明し、了承を得て治療をすることをいいます

問48 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」という方法があることを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. よく知っている
2. 言葉だけはよく知っている
3. 知らない
4. わからない

\*セカンド・オピニオン：担当医師より治療法などの説明を受ける他、判断材料として主治医以外の医師の意見を聞く方法を「セカンド・オピニオン」といいます

問49 あなたは、もしもがんと診断され治療を行う場合、「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 必要と思う
2. どちらかといえば、必要と思う
3. どちらかといえば、必要ではない
4. 必要ではない
5. わからない

問50 「緩和ケア」について、この中からあてはまることすべてに○をつけてください。

1. 「緩和ケア」の意味を十分知っている
2. 痛みなどの身体症状のみを対象とすると思っていた
3. 終末期の患者だけを対象と思っていた
4. 治療と並行でなく、単独で行われるもの（他の治療と合わせて受けられないもの）と思っていた
5. 病院・緩和ケア病棟などの限られた場所で行われないと思っていた
6. よく知らないが聞いたことはある
7. その他 ( )
8. 知らなかった
9. わからない

■健診（健康診断、健康診査、人間ドック）等に関することについておたずねします

問51 あなたは健診等（健康診断、健康診査および人間ドック）を受けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. はい
2. いいえ
3. どちらでもない

問52 あなたが現在加入している医療保険は次のどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 国民健康保険
2. 健康保険組合
3. 協会けんぽ
4. 共済組合
5. 後期高齢者医療
6. その他
7. わからない

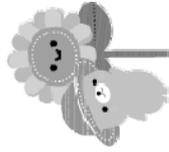
問53 あなたは昨年、健診等（健康診断、健康診査および人間ドック）を受けましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. はい → 問53-1へお進みください
2. いいえ → 問53-2へお進みください
3. わからない → 問54へお進みください

問53-1 問53で「1. はい」とお答えの方におたずねします。  
あなたが昨年、健診を受診した理由を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自らの健康管理のため
2. 自分が過去に病気にかかったことがあるから
3. 近親者に病人がいるから
4. 医師の勧めがあったから
5. 保健センターからの勧めがあったから
6. 受診券が来たから
7. マスメディア（テレビ、ラジオなど）からの情報を得たから
8. 毎年、受診しているから
9. 職場で受けるように言われたから
10. わからない
11. その他 ( )

あと少しです！  
そのまき回答をお願いします。



問 53-2 問 53 で「2. いいえ」とお答えの方におたずねします。  
 あなたが昨年、健診を受診しなかった理由を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

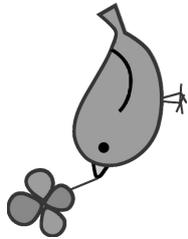
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な時はいつでも病院や診療所を受診できるから</li> <li>2. 費用がかかり経済的に負担だから</li> <li>3. 健診項目に魅力がないから</li> <li>4. 面倒だから</li> <li>5. 時間がとれなかったから</li> <li>6. 毎年受ける必要性を感じないから</li> <li>7. 健康に自信があり、必要性を感じないから</li> <li>8. その時、病院や診療所に入院・通院していたから</li> <li>9. 知らなかったから</li> <li>10. 結果が不安なため、受けたくないから</li> <li>11. 検査等に不安があるから</li> <li>12. 忘れていたから</li> <li>13. 場所が遠いから</li> <li>14. 健診場所まで行けないので受けていない (移動手段がない)</li> <li>15. その他 ( )</li> </ol>
--

問 54 健診を受けやすくするために必要だと思われることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健診を受けることの必要性 (メリット) についての広報・啓発</li> <li>2. 健診日時、場所等のわかりやすい周知</li> <li>3. 夜間や休日等の実施時間の工夫</li> <li>4. 健診を身近な所 (公民館等) で実施するなど場所の工夫</li> <li>5. 健診の結果によって、生活習慣病予防等の指導や相談がうけられることへの啓発</li> <li>6. 健診にかかる費用の助成</li> <li>7. 健診項目の充実</li> <li>8. 短時間で受けられるなど実施方法の工夫</li> <li>9. 保健センター、職場、医師等からの受診のすすめ</li> <li>10. 子供の頃からの健康についての教育</li> <li>11. その他 ( )</li> </ol>
--

たくさん質問にお答えいただき、誠にありがとうございました。  
 調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**8月13日(月)までにご投函ください。**

よろしくお願ひします。



滋賀県の医療福祉に関する県民意識調査報告書

平成 24 年(2012 年)10 月

発行 滋賀県 健康福祉部 医療福祉推進課  
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号  
TEL (077) 528-3520  
FAX (077) 528-4851





